

SI101 地盤土質調査表(2)

部位	層位	土色	土性	備考
カマド袖	8	IOYR5/4	にじ・黄褐色	船上鏡シルト 北壁に灰褐色シルト層を多く含む。灰を含む。
	9	IOYR4/1	褐色	船上鏡シルト 径5～10mmの石質ブロックを少額含む。
	10a	IOYR4/2	灰褐色	シルト 径5～10mmの石質ブロックを多額に含む。
脚の方	10a	IOYR4/2	灰褐色	シルト 径5～30mmの石質ブロックを多額に含む。
	11	IOYR4/2	灰褐色	船上鏡シルト 径5～10mmの石質ブロックを少額含む。
	12a	IOYR5/4	にじ・黄褐色	船上鏡シルト 径5～10mmの褐色シルト層を少額含む。炭化物を微量に含む。
	12b	IOYR5/5	にじ・黄褐色	船上鏡シルト 径5～10mmの褐色シルト層を少額含む。炭化物を微量に含む。

SI101 地盤地質調査表(3)

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	IOYR4/2	にじ・黄褐色	シルト 径5mmの石質ブロックを多額に含む。(柱地脚)
	2	IOYR4/3	にじ・黄褐色	シルト 石質ブロックを少額に含む。
	3	IOYR5/4	にじ・黄褐色	船上鏡シルト 石質ブロックを多額に含む。炭化物を微量に含む。(柱地脚)
P2	1	IOYR3/4	褐色	シルト 径5mmの石質ブロックを多額に含む。炭化物を微量に含む。
	2	IOYR4/2	灰褐色	シルト 径5～10mmの石質ブロックを多額に含む。炭化物を微量に含む。
	3	IOYR4/3	にじ・黄褐色	船上鏡シルト 径5～20mmの石質ブロックを多額に含む。
	4	IOYR5/2	灰褐色	船上鏡シルト 径10～20mmの黒褐色シルトブロックを少額含む。
P3	1	IOYR4/2	灰褐色	シルト 石質ブロックを含む。灰褐色シルトを微量に含む。
	2	IOYR4/4	褐色	シルト 石質ブロックを少額含む。
	3	IOYR2/2	褐色	シルト 径5～10mmの石質ブロックを少額含む。

SI101 地盤地質調査表

地盤名	平面形	規模(m)	深さ(cm)	備考
P1	不整円形	54×48	33	
P2	円形	(54)×39	54	
P3	円形	33×30	36	

SI102 積穴住居跡(第144図)

【位置・確認】 17街区中央、X-7・8グリッドに位置する。住居北半2/3は、擾乱により失われている。

【重複】 SI103と重複関係にあり、これより新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北132cm、東西405cmを測る。平面形状は、方形ないし長方形と推定される。

【方向】 南壁基準でN-76°-Wである。

【堆積上】 大別9層、細別14層に分層された。1～5層は住居堆積土で、暗褐色シルト・黒褐色粘土質シルトを主体とする層が多く、焼土粒・炭化物を含む。6層は、周溝堆積土である。7～9層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大12cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦で、中央がわずかに高くなる。7・8層上面を床面としている。

【柱穴】 検出していない。

【周溝】 検出した範囲においては、壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅9～18cm、深さ11～14cmを測る。

【カマド】 検出していない。

【その他の施設】 検出していない。

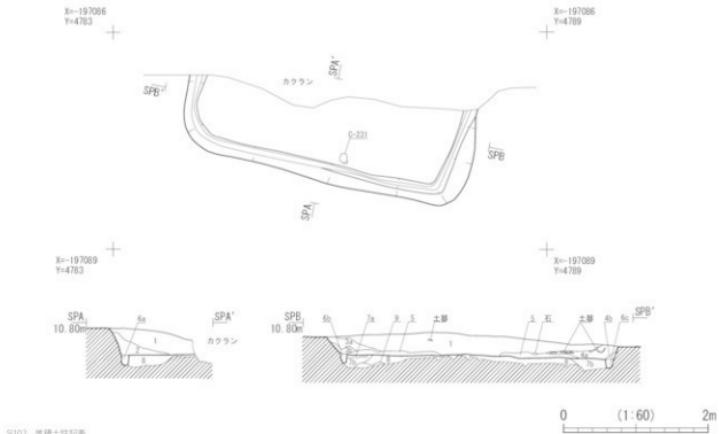
【掘り方】 全面に掘り込まれる。深さは、2～18cmを測る。

【出土遺物】 土師器壺1点、瓦1点を掲載した(第144図)。

土師器壺は、床面上から出土である。平底の底部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と底部の境は、外面に段を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。

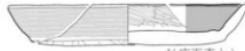
瓦は、住居堆積土から出土した丸瓦である。

【時期】 上記の遺物のうち、床面上から出土した土師器壺(1)は、本堅穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では、5b II期(8世紀前葉)の土器であり、本堅穴住居跡の時期を示している。



SI102 地積土跡剖面

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1 10YR3/3	暗褐色	シルト	(径5mm)古層ブロック・礫上和・炭化物類を少額に含む。
	2 10YR4/3	にじみ・黃褐色	シルト	(径5mm)古層ブロックを少額・礫上和・炭化物類を微量に含む。
	3a 10YR3/4	暗褐色	シルト	(径5～10mm)古層ブロックを少額・礫上和を微量に含む。
	3b 10YR3/3	黒褐色	粘土質シルト	(径10～30mm)古層ブロックを少額・炭化物類を微量に含む。
	4a 10YR3/2	黒褐色	シルト	(径5～20mm)古層ブロックを少額含む。
	4b 10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	(径5mm)古層ブロックを少額・炭化物類を微量に含む。
	5 10YR3/2	黒褐色	シルト	(径5～20mm)古層ブロックを多量に含む。
	6a 10YR3/2	黒褐色	シルト	(径5～10mm)古層ブロックを多量に含む。
	6b 10YR3/2	黒褐色	シルト	(径5～10mm)古層ブロックを多量に含む。
側の方	7a 10YR5/3	にじみ・黃褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロックを多量に含む。
	7b 10YR5/2	黒褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロックを多量に含む。
	8 10YR3/1	黒褐色	シルト	(径5～50mm)古層ブロックを多量・炭化物類を微量に含む。
	9 10YR5/4	にじみ・黃褐色	粘土質シルト	炭高褐色シルトブロックを多量に含む。



1(床面直下)



2(住居堆積土)



0 (1:3) 10cm

図版 番号	標高 基高	調査IC	出土地	層位	種別	高程	部位	法量(cm)			外面調整	内部調整	備考	写真 写真 番号
								柱	梁	板				
1	C-231	17面6	SI102	床面直上	上部層	柱	1.14	(1.05)	(13.4)	2.8	柱端 227°, 18.493°	柱端	内面黒色処理	77
2	F-001	17面6	SI102	構造上・小柱	底	丸柱	(8.4)	(5.2)	2.0	調溝1号	柱端	内面黒色処理	77	

第144図 SI102 穴室住居跡・出土遺物

SI103 竪穴住居跡(第145・146図)

【位置・確認】 17街区中央、X-8グリッドに位置する。住居南東部を除き、重複遺構(SI102)と擾乱により失われている。

【重複】 SI102と重複関係にあり、これより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北198cm、東西288cmを測る。平面形状は、方形ないし長方形と推定される。

【方向】 南壁基準でN-71°-Eである。

【堆積土】 4層に分層された。1～3層は住居堆積土で、黒褐色粘土質シルトを主体とし、IV層ブロックを多量に含む。4層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大18cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦である。4層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から1基検出した。

【周溝】 検出していない。

【カマド】 検出していない。

【その他の施設】 検出していない。

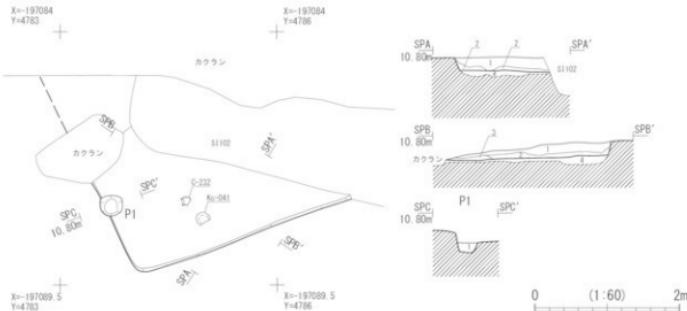
【掘り方】 全面が掘り込まれる。深さ3～12cmを測る。

【出土遺物】 土師器甕1点、礫石器1点を掲載した(第146図)。

土師器甕は、床面直上からの出土である。やや胴長に内湾する胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は中位に持つ。口縁部と胴部の境は、段を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケメ、胴部内面ヘラナデが施される。

礫石器は、床面直上から出土した、扁平礫を素材とした台石である。表面裏面に敲打痕と線条痕を作らう磨面が形成されている。表面の敲打痕は、磨面よりも新しい。裏面の敲打痕の一部は、凹痕を形成している。側縁にも、剥離を作らう敲打痕が確認された。

【時期】 上記の遺物はいずれも床面直上からの出土で、本竪穴住居跡に伴うと考えられるが、明確な時期は導き出せない。しかし、本書の時期区分5b ii期(8世紀前葉)と考えられるSI102より古いくことから、本竪穴住居跡の時期は、5b ii期以前と考えられる。

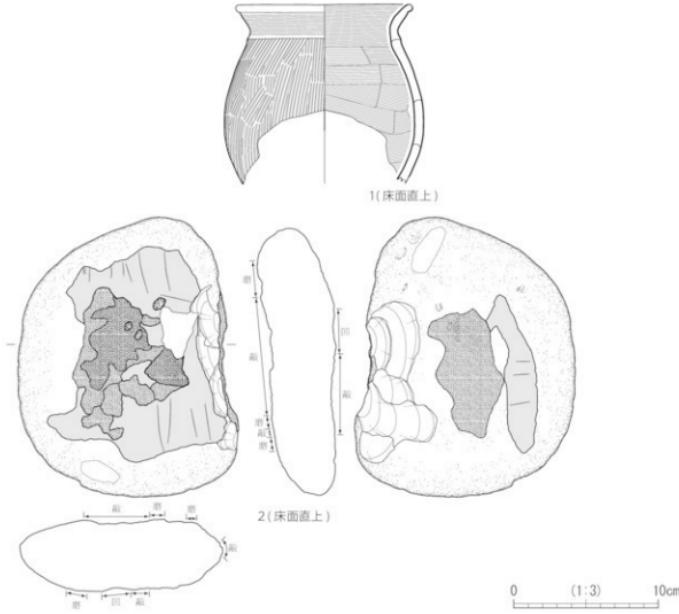


第145図 SI103竪穴住居跡

SI103 墓跡±25cm				備考
部位	層位	土色	土性	
住居構上	1 10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	径5mmの石ブロックを多量、細土粒・炭化物類を微量に含む。
	2 10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	一部に径3~20mmの石ブロックを多量に含む。
	3 10YR4/4	黒褐色	粘土質シルト	径5mmの石ブロックを多量の黒褐色シルトブロックを多量に含む。
掘り方	4 10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	石ブロックを多量に含む。

SI103 墓跡±25cm				備考
部位	層位	土色	土性	
P1	1 10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	径5~10mmの石ブロックを多量に含む。

SI103 墓跡調査表				備考
遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	
P1	圓形	33×30	12	



固有番号	登録番号	調査区	出土施	層位	種別	遺物	測定	法量(cm)	外品調査	内品調査	備考	写真
1 C-232	17街4	SI103	床面直上	上部層	焼	土器	全径 幅 厚	(1.12) (0.22) -	(1.12) (0.22) (0.22)	(1.12) (0.22) (0.22)	外品保存箱	177
2 Kc-041	17街4	SI103	床面直上	漂石層	台石		全径 幅 厚	19.3 15.3 5.0	1286.12	石英安山岩質	小物形扁平盤、焼(2面)、前庭箇所(軽度施)、凹(1箇所)深さ深、鉢条出おり、石材出あり	177

第146図 SI103竪穴住居跡出土遺物

SI104 竪穴住居跡(第147~149図)

【位置・確認】 17街区西半、V-8グリッドに位置する。検出したのは床面の一部と掘り方で、壁面・カマドと床面の多くは上面からの削平により失われ、北東コーナーと東・南・西壁周溝の一部は重複遺構(SK 115・122、Pit 60・61)と

擾乱により失われている。主柱穴の重複関係から、3回の建て替えが行われたと考えられる。

【重複】 SK115・122、Pit60・61と重複関係にあり、これらより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北420cm、東西366cmを測る。残存する周溝から推定される平面形状は、方形である。

【方向】 カマド基準でN-53°-Wである。

【堆積土】 大別6層、細別10層に分層された。1層は、周溝堆積土である。2層はカマド関連層位で、灰褐色シルトを主体とし、焼土ブロック・炭化物を含む。3・4層は、カマド袖芯材の掘り方と考えられる堆積土である。5・6層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 削平により失われている。

【床面】 削平により多くは失われており、中央から西壁の一部の範囲が残存する。残存する範囲では、5・6層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から1基、掘り方底面から6基検出した。規模と位置関係から、P1～6は主柱穴に相当すると考えられる。床面検出のP1と掘り方検出のP5、掘り方検出のP2とP6は重複関係にあることから、3回の住居の建て替えが行われたものと考えられる。

【周溝】 検出した範囲においては、カマド直下と北西コーナーを除き全周する。検出時に確認した周溝の規模は、幅6～15cm、深さ6～7cmを測る。

【カマド】 北壁のやや西側で、燃焼部底面を検出した。袖と煙道部は、削平により失われており検出していない。燃焼部の両脇では、袖芯材の掘り方と考えられるピット状の落ち込みを2基検出した。

残存する燃焼部の規模は、奥行き69cm、幅48cm、奥壁高15cmを測る。奥壁は、外傾して立ち上がる。

【その他の施設】 床面から土坑2基を検出した。SK1はカマド燃焼部の東側に位置することから貯蔵穴と考えられる。P1と重複関係にありP1より古い。SK2は、西壁際のほぼ中央に位置する。平面形状はいずれも不整円形で、堆積土は焼土・炭化物を含む。SK2は規模・形状がSK1と類似することから、同様に貯蔵穴の可能性が考えられる。

【掘り方】 全面が掘り込まれ、中央が島状に高まる。深さは5～18cmを測る。

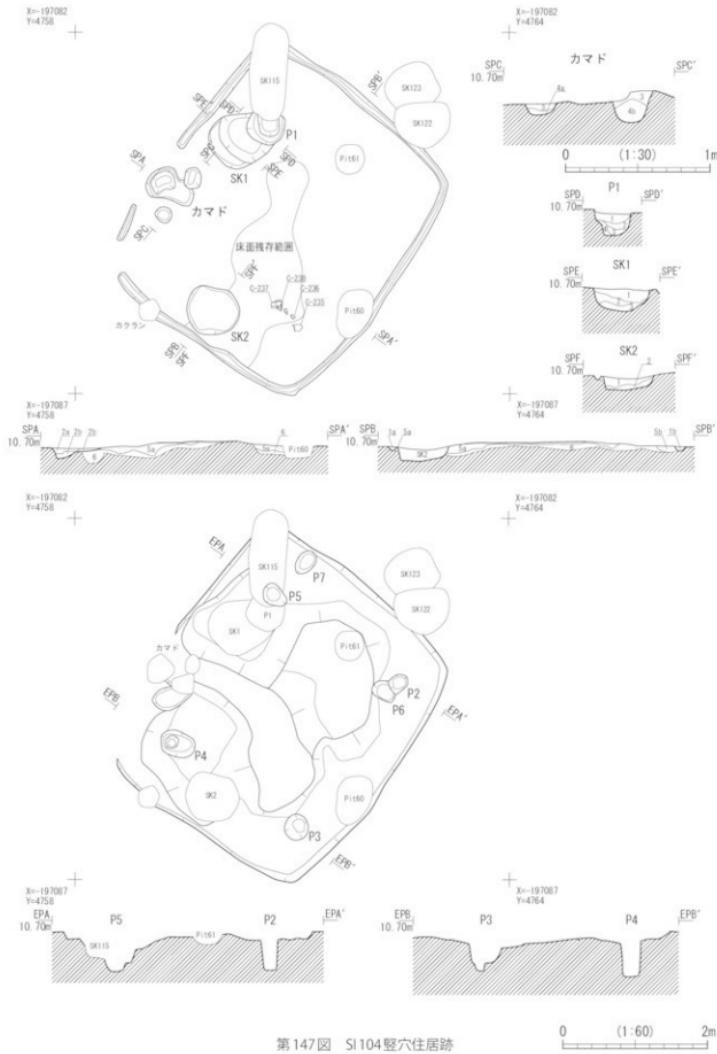
【出土遺物】 土師器環1点・高环1点・壺4点を掲載した(第148・149図)。

土師器環(第148図-1)は、床面施設(SK1)堆積土からの出土である。底部は平底で、緩やかに内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、段・稜を持たず弱く屈曲する。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ハケメのち一部へラナデ、内面へラミガキが施される。内面には、漆の付着がみられた。

土師器高环(第148図-2)は、床面施設(SK2)堆積土からの出土である。脚部は柱状で、环部と脚部の境は屈曲する。調整は、外面へラケズリ、环部内部へラミガキ、脚部内部へラナデが施される。环部内部は、黒色処理される。

土師器甕(第148図-3・4、第149図-1・2)は、いずれも床面直上からの出土である。第148図-3・4は、長胴の胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は、上位に持つ。口縁部と胴部の境は、第148図-3は段・稜を持たず、第148図-4は不明瞭な段を持つ。第149図-1・2は、球胴の胴部から短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は中位に持ち、口縁部と胴部の境は段を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、胴部外面は第148図-3がヘラナデ、第148図-4、第149図-1はヘラケズリ、第149図-2はヘラケズリのちへラミガキが施される。胴部内面は、ヘラナデが施される。

【時期】 上記の遺物のうち床面直上から出土した土師器甕(第148図-3・4、第149図-1・2)は本竪穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では5b 1期(7世紀末葉～8世紀初頭)の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。

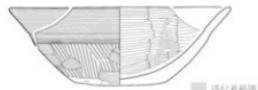


第 147 図 SI 104 竪穴住居跡

SI104 地盤土質剖面				編考	
部位	層位	土色	土性		
同溝	1a 1b	10YR5/2 10YR4/3	灰褐色 褐色	シルト シルト	径5mm/石質ブロック多量に含む。 径1mm/石質ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
カマド	2a 2b	7.5YR4/2 7.5YR5/2	灰褐色 灰褐色	シルト シルト	径5mm/石質ブロックを多量、炭化物を微量に含む。 径1mm/石質ブロックを多量、碳上ブロック少量に含む。
カマド側の方	3	7.5YR5/3	灰褐色	シルト	径5mm/石質ブロックを多量、碳上ブロック少量に含む。
カマド側の方	4a 4b	10YR6/3 10YR6/3	灰褐色 灰褐色	粘土質シルト 粘土質シルト	径5mm/石質ブロックを多量、炭化物を微量に含む。 径10～30mm/石質ブロック多量、白色土を微量に含む。
側の方	5a 5b 6	10YR6/3 10YR6/3 10YR6/3	灰褐色 灰褐色 灰褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	下部(径10～30mm/石質ブロックを多量、炭化物を微量に含む)白色土を少量含む。 上部(径5mm/石質ブロックを多量、炭化物を微量に含む)白色土を微量に含む。

SI104 地盤変遷と付加層				編考	
部位	層位	土色	土性		
P1	1	10YR5/3	褐色	シルト	径5mm/石質ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
	2	10YR5/2	灰褐色	粘土質シルト	径1mm/石質ブロックを多量に含む。
	3	10YR4/3	褐色	粘土質シルト	径5mm/石質シルトブロックを多量に含む。
	4	2.5Y7.5/3	深褐色	粘土質シルト	径5mm/褐色シルトブロックを多量に含む。
P2	-	-	-	新出現なし。	
P3	-	-	-	新出現なし。	
P4	-	-	-	新出現なし。	
P5	-	-	-	新出現なし。	
P6	-	-	-	新出現なし。	
P7	-	-	-	新出現なし。	
SK1	1	10YR5/3	灰褐色	シルト	下部(径5～20mm/石質ブロックを多量、炭化物・碳上ブロック少量含む)。
	2	7.5YR5/2	灰褐色	シルト	径5～20mm/石質ブロックを多量、炭化物・碳上ブロック少量含む。
	3	10YR4/4	灰褐色	粘土質シルト	径5～20mm/石質ブロックを多量、炭化物・碳上ブロック少量含む。
SK2	1	5Y4/2	褐オレンジ色	シルト	径5～10mm/石質ブロックを多量、碳上ブロック・炭化物を少量含む。
	2	10YR4/2	灰褐色	シルト	径5～10mm/石質ブロックを多量、碳上ブロック・炭化物を少量含む。

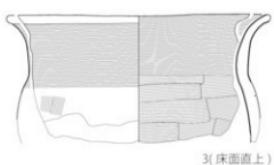
地盤變遷と付加層				編考
地盤名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	
P1	楕円形	54×42	30	
P2	不規則形	30×24	42	
P3	円形	36×33	36	
P4	楕円形	51×36	48	
P5	楕円形	36×27	30	
P6	楕円形	33×27	33	
P7	楕円形	36×24	8	
SK1	不規則形	90×78	30	
SK2	不規則形	72×72	18	



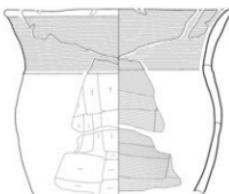
1(SK1 堆積土)



2(SK2 堆積土)



3(床面上)

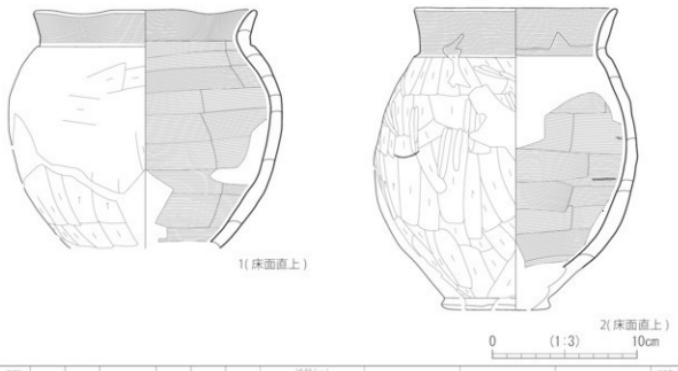


4(床面上)

0 (1:3) 10cm

回数 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	階級	部位	法面(1m)			外側調整	内側調整	備考	写真 番号	
								上段	致仕	標高					
1	C-234	17面4	SI104	SK1堆積土	上脚部	II	上脚部	1.0m	一級	(15.3)	5.4	上脚部、 体積1.0m ³ 、 標高15.3m	0.01M±	内面剥離有	77
2	C-233	17面4	SI104	SK2堆積土	上脚部	III	上脚部	1.0m	一級	(3.5)	0.01M±	上脚部、 体積1.0m ³ 、 標高3.5m	0.01M±	外工具取扱、削内 面剥離有	77
3	C-235	17面4	SI104	床面直上	上脚部	IV	上脚部	1.0m	一級	(18.2)	0.01M±	上脚部、 体積1.0m ³ 、 標高18.2m	0.01M±	外工具剥離有、削落	77
4	C-236	17面4	SI104	床面直上	上脚部	V	上脚部	1.0m	一級	(15.6)	0.01M±	上脚部、 体積1.0m ³ 、 標高15.6m	0.01M±	内面剥離有	77

第148図 SI104豊穴住居跡出土遺物(1)



第149図 SI104 積穴住跡出土遺物(2)

SI105 積穴住跡(第150～152図)

【位置・確認】 17街区中央、X-7・8グリッドに位置する。住居北側と南側は重複遺構(SI 102)と擾乱により失われている。

【重複】 SI 102と重複関係にあり、これより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北450cm、東西1032cmを測る。平面形状は、方形ないし長方形と推定される。推定規模では一辺10m以上となり、あすと長町事業地内でも最大級の積穴住跡である。

【方向】 東壁基準でN-18°-Eである。

【堆積土】 大別11層、細別25層に分層された。1～6層は住居堆積土で、にぶい黄褐色砂質シルト・シルトを主体とし、IV層ブロック・焼土・炭化物を含む層が多くみられる。7・8層は、周溝および間仕切り溝の堆積土である。9～11層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 上半がやや内湾して立ち上がる。残存する壁高は、最大30cmを測る。

【床面】 平坦である。9～11層上面を床面としている。

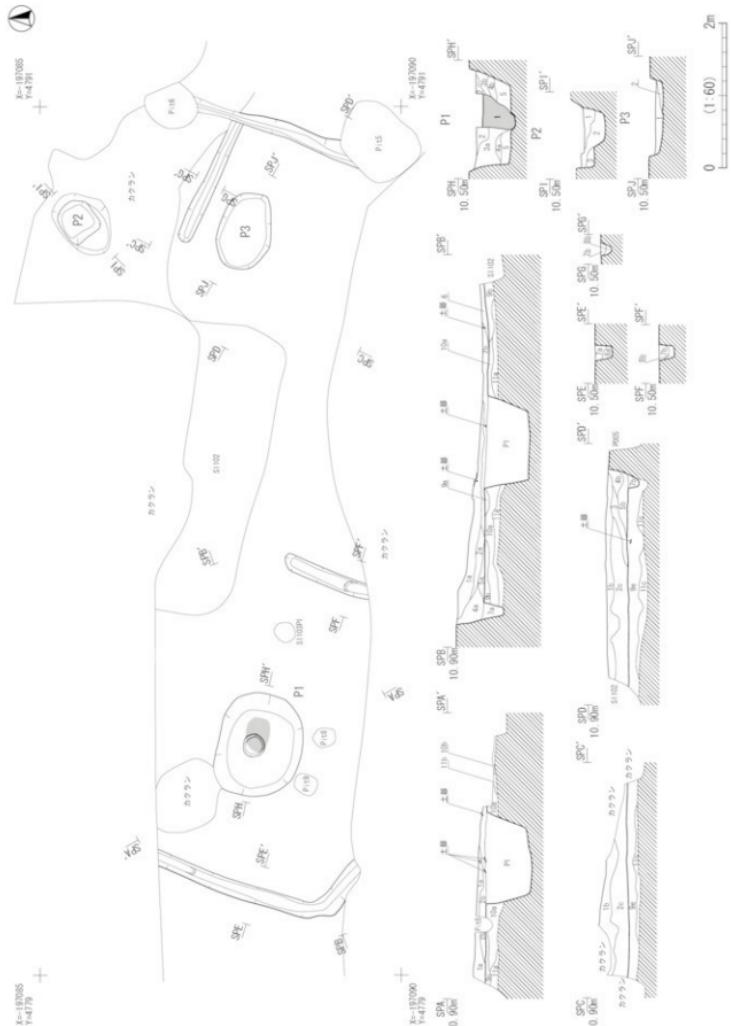
【柱穴】 床面から3基、掘り方から1基検出した。P 1は、規模と位置関係および柱痕跡が確認されたことから、主柱穴に相当すると考えられる。P 2～4の性格は、不明である。

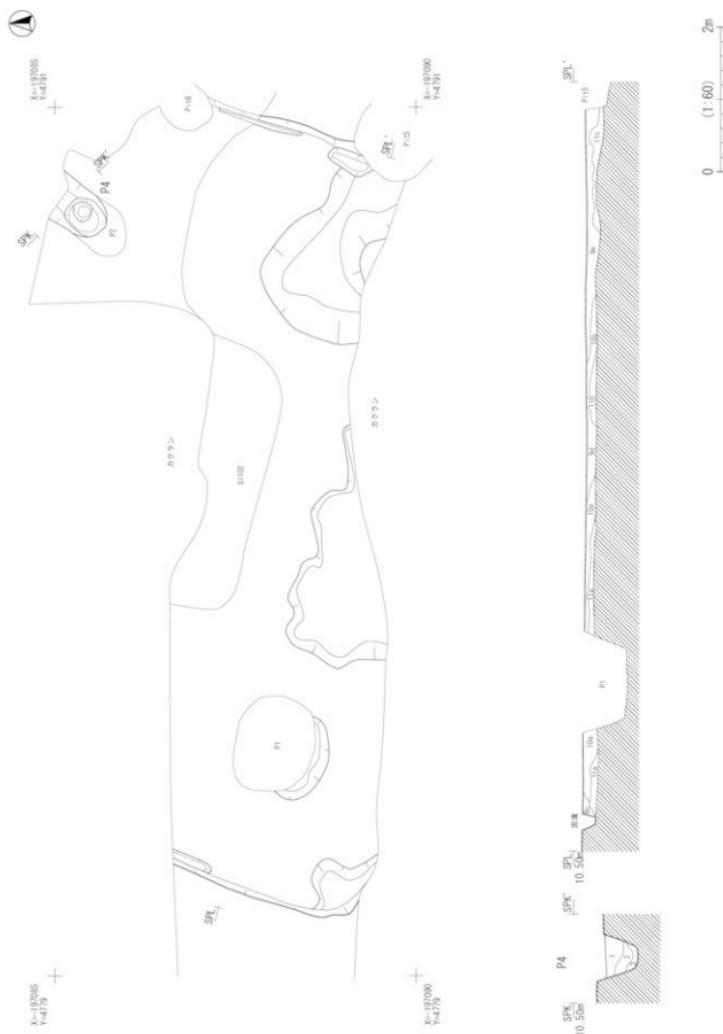
【周溝】 検出した範囲においては、西・東壁とも壁際に沿って周る。また、間仕切り溝と考えられる、東壁・南壁と直交する溝跡を2条検出した。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅12～27cm、深さ27cmを測る。間仕切り溝の規模は、東壁際で、長さ210cm、幅9～24cm、深さ15cm、南壁際で長さ126cm、幅23～25cm、深さ22cmを測る。

【カマド】 検出していない。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 全面が掘り込まれる。深さは3～24cmを測る。





第151図 SI105竪穴住居跡(2)-掘り方完掘時施設様状況

【出土遺物】 土師器壺5点・甕2点を掲載した(第152図)。

土師器壺は、1は住居堆積土、2～5は床面直上からの出土である。1は、頸部は緩やかに外傾し、口縁端部は外縫に段、内面に稜を持ち、受け口状の器形を呈する。調整は、内外面ハケメのちヨコナデが施される。2は、頸部は外傾し、口縁端部は緩やかに内湾する器形を呈する。調整は、口縁部外面ヨコナデ、肩部ハケメが施されたち頸部下半にヘラケズリが施される。口縁部内面はヨコナデのちヘラミガキ、体部内面ヘラナデが施される。3は、球胴の体部である。体部の最大径は中位に持つ。底部は平底で、若干上げ底状になる。調整は、外面ヘラミガキ、内面ヘラナデのち上半にヘラケズリが施される。4・5は、底部は平底で体部は大きく開く。調整は、体部外面ヘラミガキ、体部内面はヘラナデのちヘラミガキが施される。

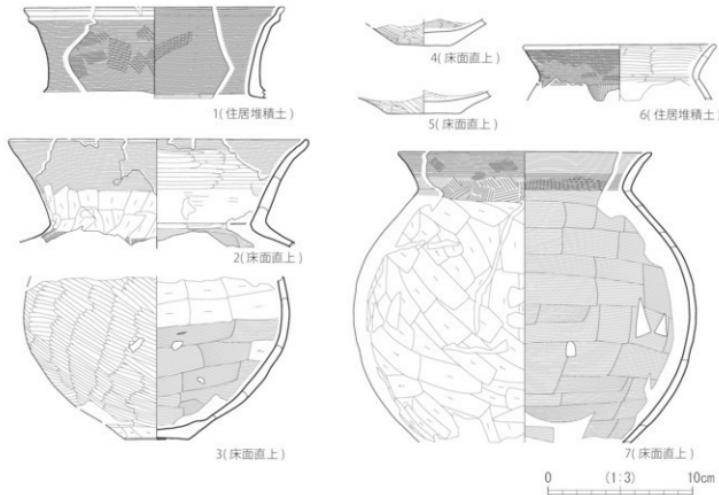
土師器甕は、6は住居堆積土、7は床面直上からの出土である。6は、球形と推定される体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、口縁部外面ハケメのちヨコナデ、胴部外面ハケメ、口縁部内面ヘラミガキが施される。7は、球胴の胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は中位に持つ。調整は口縁部外面ヨコナデのち頸部下半ハケメ、胴部ヘラケズリ、口縁部内面ハケスのちヨコナデ、胴部内面ヘラナデが施される。

【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器壺(2～5)、土師器甕(7)は、本堅穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では、3期(古墳時代前期)の土器であり、本堅穴住居跡の時期を示している。

5015 陶器土器目録				
部位	層位	色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR4/3	にじ・黄褐色	砂質シルト 炭化物を微量、一部に瓦片・石ブロックを夾むに含む。
	1b	10YR5/3	にじ・黄褐色	粘土質シルト 径5～10mmの黒褐色シルトブロックを少量、炭化物を微量に含む。
	2a	10YR4/2	黄褐色	砂質シルト 瓦片・石ブロックを微量に含む。
	2b	10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量、一部に瓦片・石ブロックを微量に含む。
	3	10YR2/3	黒褐色	シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを少量、炭化物を微量に含む。
	4a	10YR4/3	にじ・黄褐色	砂質シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを径1～10mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。
床面直上からの出土	4b	10YR4/3	にじ・黄褐色	砂質シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量に含む。
	5a	10YR5/3	にじ・黄褐色	シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを少量含む。
	5b	10YR4/2	にじ・黄褐色	シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを少量含む。
	6	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
	7b	10YR4/2	灰褐色	シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
	8a	10YR3/2	灰褐色	砂質シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量、一部に瓦片・石ブロックを微量に含む。
側の方	9a	10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量、一部に瓦片・石ブロックを微量に含む。
	9b	10YR4/3	にじ・黄褐色	砂質シルト 瓦片・石ブロックを多量、一部に瓦片・石ブロックを多量に含む。
	9c	10YR3/3	黒褐色	シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量に含む。
	9e	10YR4/4	黒褐色	砂質シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量、一部に瓦片・石ブロックを多量に含む。
	9d	10YR4/4	黒褐色	シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量、一部に瓦片・石ブロックを多量に含む。
	9f	10YR4/2	灰褐色	砂質シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量、一部に瓦片・石ブロックを多量に含む。
	10a	10YR4/2	灰褐色	砂質シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量、一部に瓦片・石ブロックを多量に含む。
	10b	10YR4/3	にじ・黄褐色	粘土質シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量、径5～10mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。
	11a	10YR5/3	にじ・黄褐色	粘土質シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量、一部に瓦片・石ブロックを多量に含む。
	11b	10YR5/3	にじ・黄褐色	粘土質シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量、径5～10mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。
	11c	10YR4/4	黒褐色	砂質シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量、径5～10mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。

5015 陶器土器目録				
部位	層位	色	土性	備考
P1	1	10YR4/2	灰褐色	シルト 径5mmの瓦片・石ブロックを多量、粘土質・炭化物を微量に含む。(柱跡跡)
	2	10YR4/3	にじ・黄褐色	砂質シルト 瓦片・石ブロックを多量に含む。
	3	10YR4/4	灰褐色	砂質シルト 瓦片・石ブロックを多量、一部に瓦片・石ブロックを微量に含む。
	3b	10YR4/4	にじ・黄褐色	粘土質シルト 径10mmの瓦片・石ブロックを多量、径10～30mmの黒褐色シルトブロックを少量含む。
P2	4a	10YR6/4	にじ・黄褐色	砂質シルト 炭化物を微量に含む。
	4b	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト 瓦片・石ブロックを多量に含む。
	5	10YR4/4	黒褐色	シルト 瓦片・石ブロックを微量に含む、炭化物を微量に含む。
	6	10YR3/2	黒褐色	シルト 径5mmの瓦片・石ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
P3	2	10YR3/3	細褐色	シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量に含む、炭化物を微量に含む。
	3	10YR3/1	細褐色	粘土質シルト 径10～30mmの瓦片・石ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
	4	10YR4/2	灰褐色	シルト 径5mmの瓦片・石ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
P4	1	10YR4/2	灰褐色	シルト 瓦片・石ブロックを多量に含む。
P5	2	10YR3/3	細褐色	粘土質シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを多量に含む、炭化物を微量に含む。
	3	10YR3/1	細褐色	粘土質シルト 径5～10mmの瓦片・石ブロックを少量、炭化物を微量に含む。

5015 陶器軽量器				
遺物名	平面形	周囲(m)	深さ(cm)	備考
P3	椭円形	150×126	48	
P4	楕円形	90×142	30	



図版 番号	登録 番号	調査区	丘陵地	壁位	種別	基層	部位	法面 (cm)			外側調整	内側調整	備考	写真 回数
								(1)壁	(2)底	(3)底				
1	C-243	17街4K	SI105	住居堆積土	上部壁	砂	上端	(18.0)	-	(6.3)	上端: 0.9 → 12.9°, 底: 5.4°	上端: 3.9 → -0.9°, 底: 5.4°		77
2	C-244	17街4K	SI105	床面直上	上部壁	砂	上端	(20.7)	-	(7.5)	上端: 12.2 → -0.9°, 底: 5.4°	上端: 3.2 → -0.9°, 底: 5.4°		77
3	C-245	17街4K	SI105	床面直上	上部壁	砂	体・底	-	(4.6)	(11.2)	体: 5.1 → -0.9°, 底: 5.4°	5.0 → -0.9°	外側削付	78
4	C-239	17街4K	SI105	床面直上	上部壁	砂	体・底	-	3.7	(1.8)	体: 5.3 → 0°, 底: 5.4°	5.0 → -0.9°		78
5	C-240	17街4K	SI105	床面直上	上部壁	砂	体・底	-	5.0	(1.8)	体: 5.1 → -0.9°, 底: 5.4°	5.0 → -0.9°		78
6	C-242	17街4K	住居堆積土	上部壁	砂	上端	上端	(13.4)	-	(3.8)	上端: 9.4 → -0.9°, 底: 5.4°	上端: 3.0 → -0.9°, 底: 5.4°		78
7	C-241	17街4K	SI105	床面直上	上部壁	砂	上端	(17.4)	-	(20.0)	上端: 9.4 → -0.9°, 底: 5.4°	上端: 3.0 → -0.9°, 底: 5.4°		78

第152図 SI105 積穴住居跡(第153図)

【位置・確認】 17街区西半、V-8グリッドに位置する。上面は削平により失われ、掘り方のみを検出した。南東コーナーを除く大半は重複横構(SD72、SK104)・擾乱により失われている。

【重複】 SD72・SK104と重複関係にあり、これらより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北285cm、東西132cmを測る。平面形状は、不明である。

【方向】 南壁基準でN-85°-Eである。

【堆積土】 大別4層、細別6層に分層された。1～4層は掘り方堆積土で、褐色・にぶい黄褐色シルトを主体とし、IV層ブロック・焼土ブロック・炭化物粒を含む。

【壁面】 残存する掘り方の壁面は、外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大15cmを測る。

【床面】 削平により失われている。

【柱穴】 掘り方底面で1基検出した。

【周溝】 検出していない。

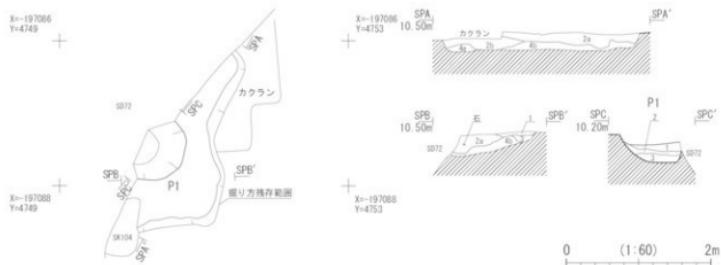
【カマド】 検出していない。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 全面が掘り込まれる。深さは、3～12cmを測る。

【出土遺物】 堆積土から、土師器の破片が極少量出土しているが、図化できる遺物はなかった。

【時期】 伴う土器や時期の判る遺構との重複がなく、本竪穴住居跡の細別時期は不明である。



SI106 住居跡平面図

部位	層位	土色	土性	備考
掘り方	1	10YR5/2	灰褐色	シルト 径10～30mmの瓦礫ブロックを多量、径5mmの地上ブロックを少量、炭化物を微量に含む。
	2a	10YR6/1	褐色	シルト 径10～30mmの瓦礫ブロックを多量、炭化物・焼土粒子を微量に含む。
	2b	10YR6/1	褐色	シルト 径10～30mmの瓦礫ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
	3	10YR5/3	にじみ・黄褐色	シルト 径10～50mmの瓦礫ブロックを多量、焼土粒子を微量に含む。
4a	10YR6/3	にじみ・黄褐色	シルト 径10～50mmの瓦礫ブロックを多量に含む。	
	4b	10YR6/3	にじみ・黄褐色	シルト 瓦礫ブロックと褐色シルトブロックを含む。

SI106 住居跡堆積土層別表

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2	灰褐色	シルト 径5～10mmの瓦礫ブロックを少量、炭化物を微量に含む。
	2	10YR4/1	褐色	シルト 径10～20mmの瓦礫ブロックを多量、焼土粒子を微量に含む。
	3	10YR4/2	灰褐色	シルト 径10～50mmの瓦礫ブロックを多量、炭化物を少量含む。

SI106 住居跡堆積土層別表

部位名	平面形	周囲(m)	深さ(cm)	備考
P1	不規	96.0(60)	27	

第153図 SI106竪穴住居跡

SI109 竪穴住居跡(第154～158図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-8グリッドに位置する。西側は、搅乱により失われている。

【重複】 SI111・113・118と重複関係にあり、これらより新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北519cm、東西410cmを測る。平面形状は、西側は搅乱により失われているが、主柱穴と考えられる柱穴の配置から、方形と推定される。

【方向】 カマド煙道部基準でN-104°-Eである。

【堆積土】 大別13層、細別16層に分層された。1～4層は住居堆積土で、黒褐色・暗褐色・にじみ黄褐色・褐色シルトを主体とし、焼土粒・炭化物を含む。5層は、周溝堆積土である。6～9層はカマド廻連層位で、7・8層は天井崩落土と考えられる。10層は、カマド抽構築土である。11～13層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大45cmを測る。

【床面】 平坦である。カマド前面とP1・4の周辺で炭化物の拡がりを確認した。11～13層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から6基検出した。全ての柱穴から、柱痕跡を確認した。P1～4は、規模と位置関係から主柱穴に相当すると考えられる。P5・6は、共に壁際に位置し規模も似ているが、性格は不明である。また、周溝底面から壁柱穴

と考えられる42基の小ビットを検出した。

【周溝】 検出した範囲においては、カマド直下と北東コーナーを除き壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅15～42cm、深さ9cmを測る。

【カマド】 東壁中央に位置し、壁面に対して直交して付設される。袖の規模は、北袖が長さ99cm、幅45cm、南袖が長さ84cm、幅48cmを測る。東壁に対して両袖とも直交する。北袖は、暗褐色シルトを構築土として使用しているのに対し、南袖は住居構築時に掘り残された基本層IV層が直接使用されている。

燃焼部の規模は、奥行き87cm、幅51cm、奥壁高18cmを測り、奥壁は住居内に収まる。底面は平坦で、奥壁に向かって緩やかに下がる。奥壁は外傾して立ち上がる。

煙道部の規模は、長さ132cm、幅51cm、深さ33cmを測り、先端に向かって緩やかに上がる。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 全面が掘り込まれる。深さは1～11cmを測る。

【出土遺物】 土師器環4点・鉢1点・甕3点、須恵器蓋1点・壺3点・壺1点・円面鏡1点、土製品4点、石製品3点、礫石器1点を掲載した(第156～158図)。

土師器環4点(第156図-1～4)は、いずれも住居堆積土からの出土である。1は、北武蔵型土師器(清水型関東系土器)の特徴を有する。底部は丸底と推定され、半球形に内湾する体部から、「S」字状に緩やかに外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に棱を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内部ヘラナデが施される。2は、底部は丸底で、半球形に内湾する体部から短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に棱を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキが施される。外面とも、黒色処理される。3は、底部は丸底で、緩やかに内湾する体部から緩やかに外反する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に棱を持つ。調整は口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。4は、底部は不明だが、内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に棱を持つ。調整は口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。

土師器鉢(第156図-5)は、掘り方堆積土からの出土である。底部は上げ底状の平底で、球形の体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、口縁部内外面ヘラミガキ、体部外面は上半ハケメ、下半ヘラケズリのちヘラミガキ、体部内面はヘラナデのちヘラミガキが施される。口縁部外面と体部外面は、赤彩される。

土師器甕(第156図-6～8)は、6・8は住居堆積土、7は掘り方堆積土からの出土である。6は、膨らみを持たない長胴の胴部から、短く外傾する口縁部に至る器形を呈する。口縁部と胴部の境は、棱を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、胴部内面ヘラナデが施される。7は、やや胴長の球胴の胴部から、短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は中位に持ち、口縁部と胴部の境は段・棱を持たない。底部周縁には粘土が貼り付けられる。調整は、口縁部外面ヨコナデ、胴部外面ハケメのち上半ヘラミガキ、下半ヘラケズリ、胴部内面ハケメのちヘラナデが施される。8は、球胴と推定される胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と胴部の境は段・棱を持たない。調整は、胴部外面と口縁部内面にヘラミガキが施される。

須恵器蓋(第157図-1)は、カマド堆積土からの出土である。カエリを持たず、天井部は平坦で、体部は直線的に外傾し、口縁部は短く垂下する器形を呈する。

須恵器環(第157図-2～4)は、2は床面直上、3はカマド堆積土、4は住居堆積土からの出土である。2・3は、底部は平底で、体部から口縁部は直線的に外傾する器形を呈する。底部の切り離し技法は、ともに回転ヘラ切りである。12は、高台付环である。底部切り離し技法は回転ヘラ切りで、回転ヘラケズリが施されたのち高台が貼り付けられる。

須恵器壺(第157図-5)は、住居堆積土からの出土である。球胴の体部から極短く外傾する口縁部にいたる器形を

呈する。

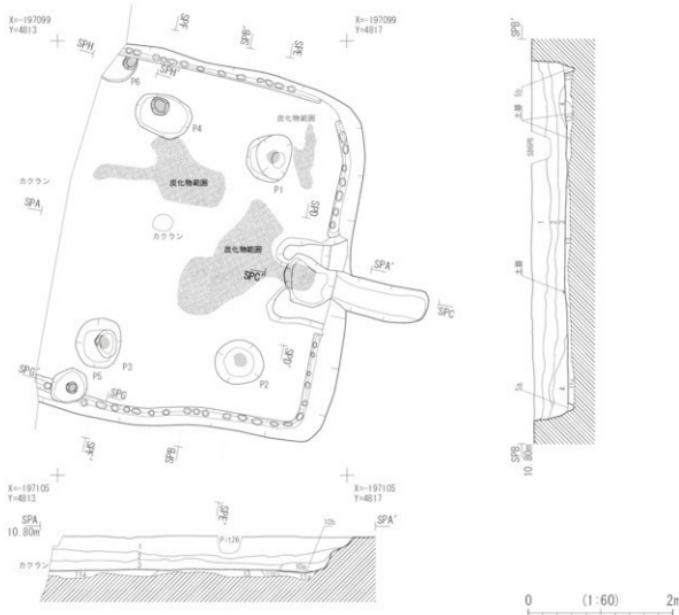
須恵器円面硯(第157図-6)は、床面施設(P 1)堆積土からの出土である。硯部の1/5程が残存する。脚部は失われているが、硯部との接合面に透かしが4窓残存する。堤部と縁・硯側の凸帯の断面形は箱型で、硯側は端部が肥厚する。また、海部の断面形も箱形である。硯面は中央に向かってわずかに隆む。

土製品(第157図-7～10)は、7・8は住居堆積土から、9は掘り方堆積土から出土した管状の土鉢である。10は、床面施設(P 4)から出土した不明土製品である。11は住居堆積土から出土した土製円體である。

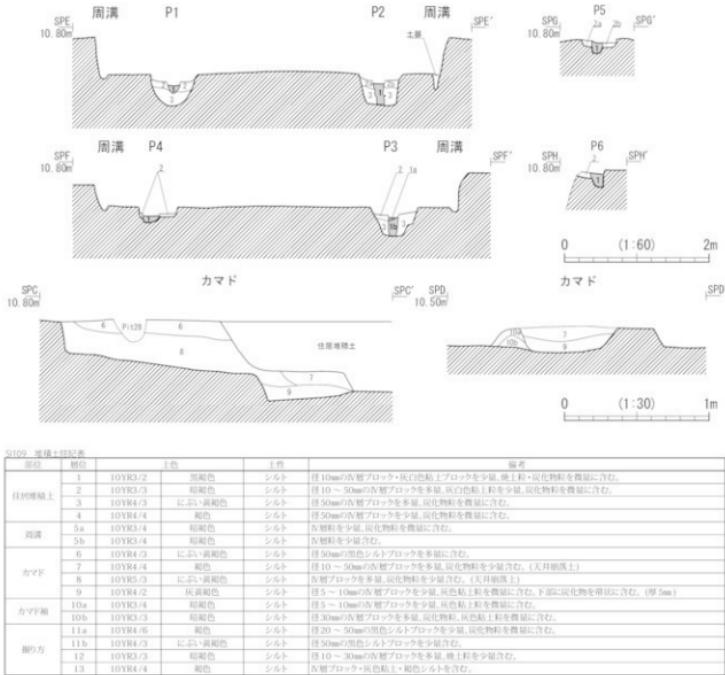
石製品(第158図-1～3)は、1・3は住居堆積土、2は床面直上からの出土である。1は剥片の周縁に剥離を施した不明石製品である。石材は軟質な石英安山岩質凝灰岩を使用している。2・3は砾石である。2は長方体状の形状を呈する。粒の粗い砂岩を使用しており荒砥に相当する。3は柳葉形を呈すると考えられる。下端欠損面には再利用による研痕が確認される。石材は凝灰岩で中仕上げ砥石に相当する。

礫打器(第158図-4)は、住居堆積土上層から出土した棒状礫を素材とする敲石である。側縁及び下端部に剥離を伴う敲打痕が確認される。

【時期】 上記の遺物のうち、床面上から出土した須恵器杯(第157図-2)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では5b II期(8世紀前葉)の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。



第154図 SI109竪穴住居跡(1)



S1109 施工箇所・付近

部位	総積	土色	土性	備考
住居槽上	1	10YR3/2	黒褐色	シルト 往 10mm/小植ブロック・灰白色粘土ブロックを少量、炭化物を微量に含む。
	2	10YR3/3	黄褐色	シルト 往 10 ~ 50mm/小植ブロック多量、灰白色粘土を少量、炭化物を微量に含む。
	3	10YR4/3	にじみ・黄褐色	シルト 往 50mm/小植ブロックを少量、炭化物を微量に含む。
	4	10YR4/4	褐色	シルト 往 50mm/小植ブロックを少量、炭化物を微量に含む。
周溝	5a	10YR3/2	黒褐色	シルト 往 10mm/小植ブロックを微量、炭化物を微量に含む。
	5b	10YR3/3	黒褐色	シルト 往 10mm/小植ブロックを微量。
カマド	6	10YR4/3	灰褐色	シルト 往 50mm/黒褐色・シルトブロックを多量に含む。
	7	10YR4/4	褐色	シルト 往 10 ~ 50mm/小植ブロックを多量、炭化物を少額含む。(天井側壁上)
	8	10YR5/3	にじみ・黄褐色	シルト 小植ブロックを多量、炭化物を少量含む。(天井側壁下)
	9	10YR4/2	灰褐色	シルト 往 5 ~ 10mm/小植ブロックを少量、灰白色粘土を微量に含む。下部に炭化物を微量に含む。(厚 5mm)
カマド下	10a	10YR3/4	褐色	シルト 往 5 ~ 10mm/灰褐色ブロックを少量、灰白色粘土を微量に含む。
	10b	10YR3/3	黄褐色	シルト 往 30mm/小植ブロックを少量、炭化物粘土を微量に含む。
掘り方	11a	10YR4/6	褐色	シルト 往 20 ~ 50mm/黒褐色・シルトブロックを少量、炭化物粘土を微量に含む。
	11b	10YR4/3	にじみ・黄褐色	シルト 往 50mm/黒褐色シルトブロックを少量。
	12	10YR3/3	褐色	シルト 往 10 ~ 30mm/小植ブロック多量、砂・粘土を少量含む。
	13	10YR4/4	褐色	シルト 小植ブロック・灰褐色・シルト粘土を含む。

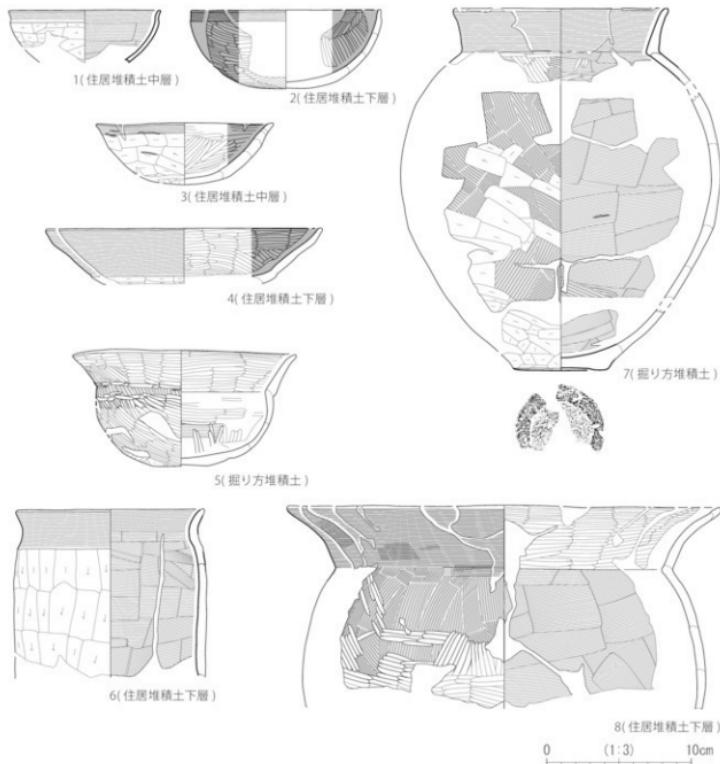
S1109 施工箇所・付近

部位	総積	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2	黒褐色	シルト 往 10mm/小植ブロックを少量含む。(柱直跡)
	2	10YR4/2	灰褐色	シルト 往 10mm/黒褐色・ループブロックを少量含む。下部に炭化物を微量に含む。(厚 20 ~ 30mm)
	3	10YR3/2	黒褐色	シルト 往 10mm/黒褐色・ループブロックを少量含む。下部に炭化物を微量に含む。
P2	1	10YR3/4	褐色	シルト 往 10mm/黒褐色・シルトブロックを多量に含む。(柱直跡)
	2a	10YR4/3	褐色	シルト 往 10mm/黒褐色・シルトブロックを多量に含む。(柱直跡)
	2b	10YR3/3	褐色	シルト 往 10mm/黒褐色・ループブロックを少量含む。炭化物粘土を微量に含む。
P3	3	10YR2/3	黒褐色	シルト 往 30 ~ 40mm/灰褐色・ループブロックを少量含む。炭化物粘土を微量に含む。
	1a	10YR4/3	にじみ・黄褐色	シルト 往 10mm/黒褐色・ループブロックを少量含む。下部に炭化物を微量に含む。1厚 20 ~ 30mm(柱直跡)
	1b	10YR3/2	黒褐色	シルト 灰褐色粘土、炭化物粘土を微量に含む。(柱直跡)
P4	2	10YR4/4	褐色	シルト 灰褐色粘土、炭化物粘土を微量に含む。
	1	10YR4/3	にじみ・黄褐色	シルト 往 10 ~ 30mm/小植ブロック多量、灰白色粘土を微量に含む。(柱直跡)
P5	1	10YR4/2	褐色	シルト 往 10mm/小植ブロックを多量に含む。
	2a	10YR4/3	にじみ・黄褐色	シルト 往 10mm/小植ブロックを多量に含む。
P6	2	10YR3/3	黒褐色	シルト 往 10mm/小植ブロックを多量に含む。
	1	10YR3/4	褐色	シルト 往 10mm/小植ブロックを多量に含む。

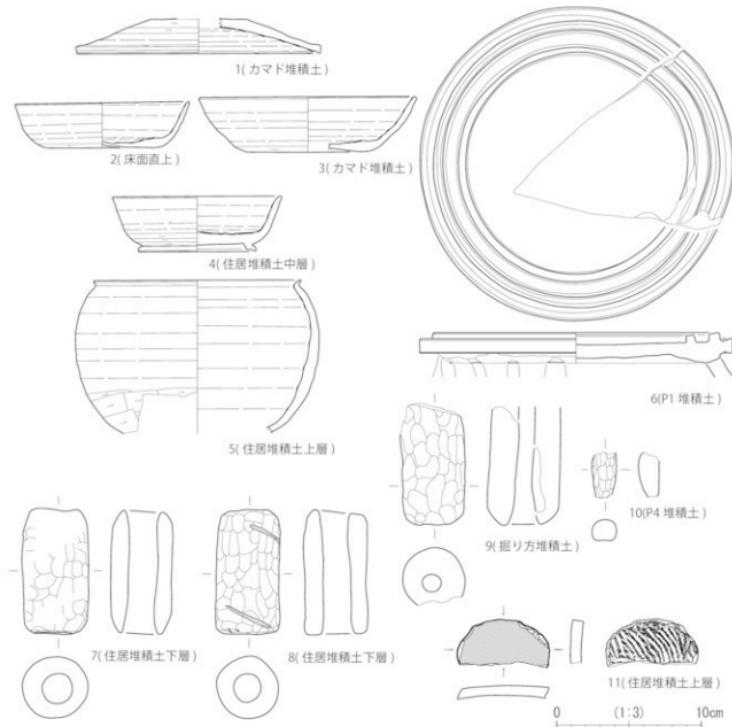
S1109 施工範囲

測線名	平均幅	幅(± 1m)	深さ(± 1m)	備考
P1	横円形	72 × 63	30	
P2	円形	69 × 63	33	
P3	横円形	72 × 63	30	
P4	横円形	78 × 57	6	
P5	不整形	54 × 45	18	
P6	不整形	(54) × (36)	18	

第155図 S1109 穴穴住居跡(2)



第156図 S109竪穴住居跡出土遺物(1)



探査番号	井戸番号	調査区分	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm)			外周調整	内面調整	備考	写真回数
								全長	幅	厚				
1	E-064	17番区	S1109	カマド堆積土	泥走面	蓋	天井一帯	(16.9)	-	(2.4)	0%調整、天井・脇面削減 工具痕あり	0%調整		78
2	E-066	17番区	S1109	床面直上	泥走面	环	略定形	12.0	8.0	3.2	0%調整	0%調整	施成丸圭	78
3	E-065	17番区	S1109	分マツ堆積土	泥走面	环	口縁一帯	(15.0)	(8.4)	3.8	0%調整	0%調整		79
4	E-067	17番区	S1109	日焼堆積土 小嘴	泥走面	环	口縁一帯 横沿	(11.7)	(8.1)	3.8	0%調整	0%調整	工具痕あり、内面削減 工具痕あり	79
5	E-069	17番区	S1109	日焼堆積土 上層	泥走面	盖	口縁一帯	(14.3)	-	(10.5)	0%調整	0%調整	外周自然削付有 内面削減	79
6	E-068	17番区	S1109	P1堆積土	泥走面	被覆	(21.6)	-	(2.1)	0%調整	0%調整	透かしA型現存	79	

探査番号	井戸番号	調査区分	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm)			重量(g)	特徴・備考	写真回数
								全長	幅	厚			
7	P-025	17番区	S1109	日焼堆積土 下層	上製品	土器	上縁	8.6	4.6	4.2	166.0 #7	直径2.1cm、全面削除跡、背仄、変形	79
8	P-024	17番区	S1109	日焼堆積土 下層	上製品	土器	上縁	8.6	4.3	4.2	179.0 #7	直径1.9cm、側面に工具痕あり、背仄、変形	79
9	P-026	17番区	S1109	脚P4堆積土	上製品	土器	上縁	(8.4)	4.5	(4.0)	149.0 #7	直径1.9cm、背仄、全面削除	79
10	P-027	17番区	S1109	P4堆積土	上製品	不明	不明	3.1	1.7	1.4	8.3 #7	全面削除	79
11	P-028	17番区	S1109	日焼堆積土 上層	上製品	土器内側	(0.0)	0.3	0.8	(29.2)	全面削除、内面・背面吹文、頭底部側削取部転用、外周自然 削付有	79	

第157図 S1109豎穴住居跡出土遺物(2)



第158図 SI109竪穴住居跡出土遺物(3)

SI110 竪穴住居跡(第159～162図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-8・9グリッドに位置する。煙出し部と西・東壁の一部は重複遺構(SB8-P3、Pit 16)と搅乱により失われている。

【重複】 SI111・114・116と重複関係にあり、これらより新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北405cm、東西396cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部基準でN-109°Eである。

【堆積土】 大別17層、細別21層に分層された。1～4層は住居堆積土で、黒褐色シルトを主体とし、焼土粒・炭化物粒を含む。5層は、周溝堆積土である。6～12層はカマド間連層位で、このうち8・10層は天井崩落土である。13・14層は、カマド袖構築土である。15～17層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大42cmを測る。

【床面】 平坦である。15～17層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から6基、掘り方から1基検出した。P1～4は、規模と位置関係およびP2～4では柱痕跡が検出されたことから、主柱穴に相当すると考えられる。P5～7の性格は、不明である。

【周溝】 検出した範囲においては、カマド直下を除き壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅30cm、深さ10～12cmを測る。

【カマド】 東壁のやや南寄りに位置し、壁面に対して直交して付設される。煙出し部の一部は、搅乱により失われている。袖の規模は、北袖が長さ63cm、幅27cm、南袖が長さ63cm、幅27cmを測る。東壁に対して、北袖は直交し南袖はやや南傾する。北袖の内面は、被熱の痕跡が残る。

燃焼部の規模は、奥行き75cm、幅57cm、奥壁高6cmを測り。奥壁は住居から張り出す。底面はほぼ平坦で、奥壁に向かって緩やかに下がる。壁面は、外傾して立ち上がる。

煙道部の規模は、長さ129cm、幅48cm、深さ15～27cmを測る。底面は平坦で、煙出し部に向かってわずかに上がる。

煙出し部の規模は、上端径31cm、煙道部からの深さ10cmを測り、ピット状に窪む。

【その他の施設】 床面から土坑3基を検出した。規模は異なるが、平面形状は不整円形ないし不整橢円形を呈し、SK1は住居中央やや北寄りに位置しSK2・3は南壁際に位置する。深さは12～15cmを測る。

【掘り方】 全面が掘り込まれる。壁際を深く掘り込み、中央が鳥状に高まる。深さは3～27cmを測る。掘り方底面全体で工具痕を検出した。

【出土遺物】 土師器環5点・鉢1点・壺1点、須恵器環6点・壺1点・鉢1点、金属製品1点、礫石器3点を掲載した(第161・162図)。

土師器環5点(第161図-1～5)は、1～3・5は住居堆積土、4は床面上直から出土である。1は、底部は丸底で、扁平に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜を持つ。2～5は、底部は平底で、内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、段・稜を持たない。1～4の調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。5は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、底部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデが施される。

土師器鉢(第161図-6)は、住居堆積土からの出土である。半球形の体部から短く内傾する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施される。

土師器壺(第161図-7)は、住居堆積土出土のロクロ使用の土師器壺である。長胴の胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、胴部内面ヘラナデのちヘラミガキが施される。

須恵器環6点(第161図-8～13)は、8・12は床面上直、11はカマド燃焼部底面、9・10・13は住居堆積土からの出土である。8は、扁平に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、段を持つ。9は、体部から口縁部が直立気味に外傾する器形を呈する。底部は平底状の丸底と推定されるが、高环の环部の可能性もある。10～13は、底部は平底で、体部から口縁部が直線的に外傾する器形を呈する。10～12の底部切り離し技法は、回転ヘラ切りである。13の底部切り離し技法は不明だが、体部下端から底部に回転ヘラケズリが施される。12の底部は、満巻状の線刻が施される。

須恵器壺(第161図-14)は、住居堆積土からの出土である。体部は直線的に外傾し、肩部との境は強く屈曲し、肩部は丸みを持って内傾する。底部は、高台が貼り付けられる。

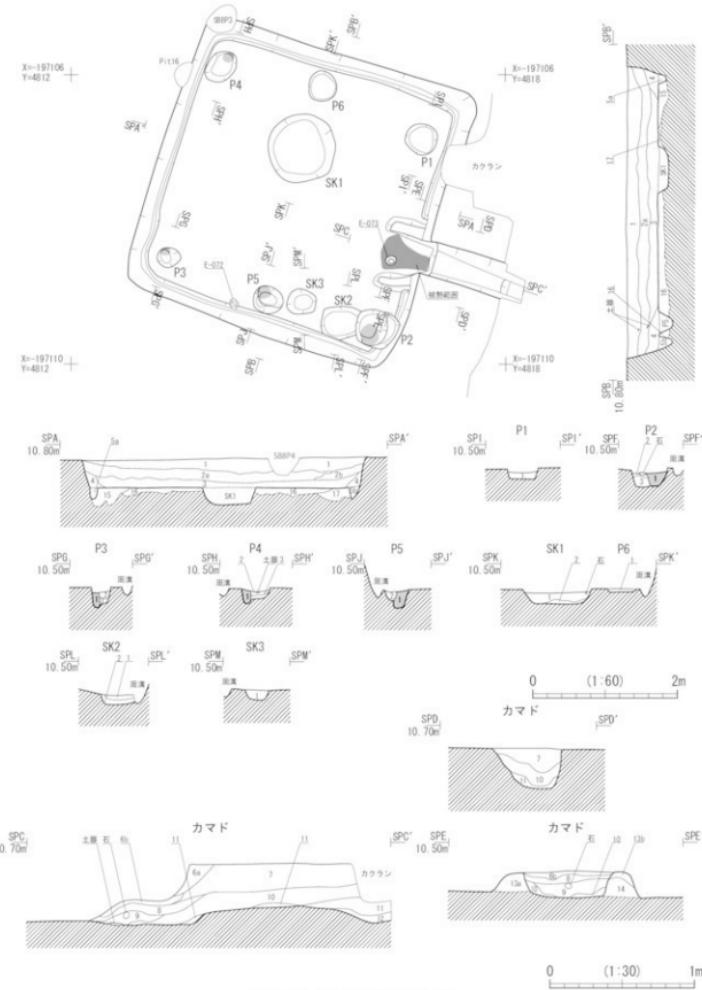
須恵器鉢(第162図-1)は、住居堆積土からの出土である。底部は平底状の丸底で、内湾する体部から短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境に1条、体部に2条の沈線が施される。

金属製品(第162図-2)は、火打ち金で、住居堆積土からの出土である。

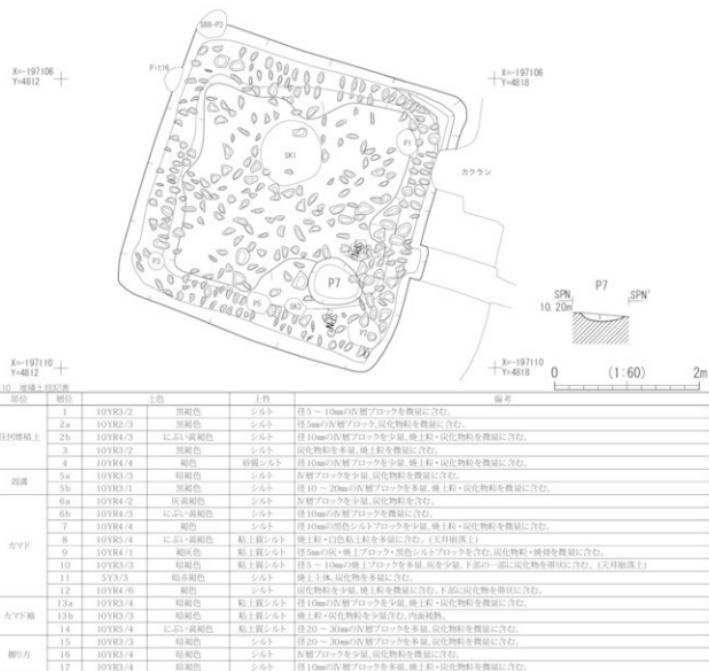
礫石器2点(第162図-3・4)は、3は掘り方堆積土、4は住居堆積土からの出土である。3は、橢円礫を素材とする敲石である。器體側面に剥離を伴う敲打痕が確認される。4は、橢円礫を素材とし表面に凹痕、裏面に磨面、上下端に敲打痕が確認される。石材は軟質な石英安山岩質凝灰岩を使用している。

石製品(第162図-5)は、住居堆積土から出土した玉飼製の不明石製品である。上部を除く全面が剥離されており、稜線上に微細剥離痕が確認される。使用石材や剥離痕跡の状況及び、同住居内から火打ち金が出土しており、火打石の可能性がある。

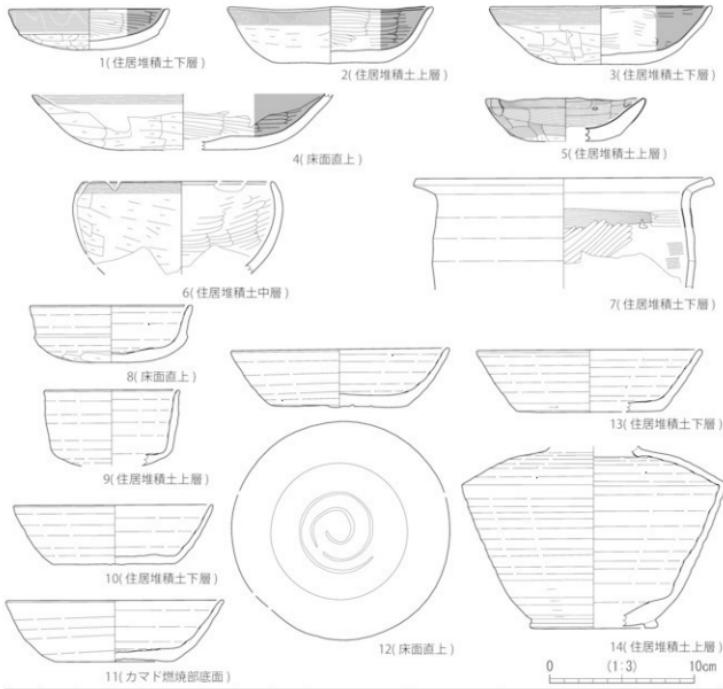
【時期】 上記の遺物のうち、床面上直から出土した土師器環(第161図-4)、須恵器環(第161図-8・12)、カマド燃焼部底面から出土した須恵器環(第161図-11)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では、5bⅡ期(8世紀前葉)の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。



第159図 SI110竪穴住居跡(1)

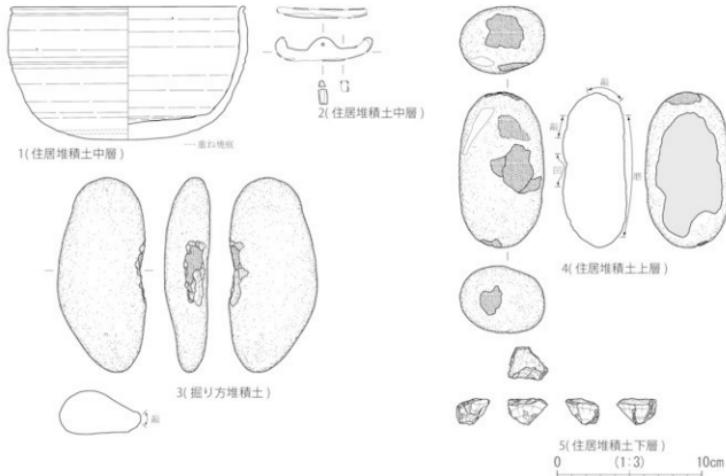


第160図 SI110竪穴住居跡(2)-掘り方実施時施設検出状況



回数 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法寸(㎝)			外面調整	内面調整	備考	写真 番号
								(1)径	(2)幅	(3)高さ				
1	C-255	17面K	SII10	住居堆積土 下層	土師器	碗	口縁	11.0	(11.0)	-	1面, 直付, 体-底付X, 底-底付X	手彫り	内面黒色包理	79
2	C-257	17面K	SII10	住居堆積土 上層	土師器	碗	口縁	14.2	7.4	3.9	1面, 直付, 体-底付X, 底-底付X	手彫り	内面黒色包理, 内面修理	79
3	C-258	17面K	SII10	住居堆積土 上層	土師器	碗	口縁	15.4	(6.1)	4.0	1面, 直付, 体-底付X, 底-底付X	手彫り	内面黒色包理, 内面修理	79
4	C-259	17面K	SII10	床面直上	土師器	碗	口縁	-	-	(3.9)	1面, 直付, 体-底付X, 底-底付X	手彫り	内面黒色包理, 外面摩耳	79
5	C-260	17面K	SII10	住居堆積土 上層	土師器	碗	口縁	(11.0)	(5.1)	(3.1)	1面, 直付, 体-底付X, 底-底付X	1面, 直付, 体-底付X, 底-底付X	内面休目-凹目, 内外面 休目-凹目-直付	79
6	C-256	17面K	SII10	住居堆積土 中層	土師器	碗	口縁	13.3	-	(6.4)	1面, 直付, 体-底付X, 底-底付X	手彫り	内外面面修理机	79
7	D-003	17面K	SII10	住居堆積土 上層	土師器	盤	口縁	20.8	-	(7.6)	手彫り	手彫り	外面部被熱	79
8	E-070	17面K	SII10	床面直上	須志器	碗	口縁	11.2	-	(4.0)	2面調整, 底下平~底, 手 彫り休目X	手彫り	79	
9	E-075	17面K	SII10	住居堆積土 上層	須志器	碗	口縁	9.4	-	(5.2)	2面調整	手彫り	79	
10	E-071	17面K	SII10	住居堆積土 下層	須志器	碗	口縁	(14.4)	(8.4)	4.3	2面調整, 底-底付X, 底-底付X-直付	手彫り	79	
11	E-073	17面K	SII10	カマド燃焼部 底面	須志器	碗	断定形	15.0	8.2	4.3	2面調整, 底-底付X-直付	手彫り	79	
12	E-072	17面K	SII10	床面直上	須志器	碗	断定形	15.1	9.5	4.3	2面調整, 底-底付X-直付	手彫り	該部外面上に調査印の痕 跡	79
13	E-074	17面K	SII10	住居堆積土 下層	須志器	碗	口縁	(15.6)	(10.1)	4.3	2面調整, 底-底付X-直付	手彫り	79	
14	E-077	17面K	SII10	住居堆積土 上層	須志器	碗	口縁	-	(8.9)	(12.6)	2面下平-底付X-直付	手彫り	79	

第161図 SII10豎穴住居跡出土遺物(1)



第162図 SI 110 穴穴住居跡出土遺物(2)

SI 111 穴穴住居跡(第163～166図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-8グリッドに位置する。煙道部と北西部・南部の上面は重複遺構(SI 109・110)により失われている。

【重複】 SI 109・110・118・126、SB 8、SK 134・137と重複関係にあり、SI 118・126、SK 134・137より新しく、SI 109・110より古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北364cm、東西384cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部基準でN-3°-Eである。

【堆積土】 大別17層、細別22層に分層された。1～7層は住居堆積土で、にぶい黄褐色・黄褐色・暗褐色シルトを主体とする層が多く、焼土粒・炭化物を含む。8・9層は、周囲堆積土である。10～14層はカマド間連層位で、暗褐色シルトを主体とする。このうち、12層は炭化物層、10・13層は天井崩落土である。15層は、カマド袖構築土である。16・17層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大35cmを測る。

【床面】 平坦である。16・17層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から3基検出した。全ての柱穴から柱痕跡を確認したが、性格は不明である。また、周溝底面から、壁柱穴と考えられる45基の小ピットを検出した。

【周溝】 検出した範囲においては、カマド直下と南西コーナーを除き、壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅24cm、深さ6～21cmを測る。

【カマド】 北壁中央に位置し、壁面に対し直交して付設される。煙道部上面と東袖の一部は、上層遺構により失われている。袖の規模は、西袖が長さ54cm、幅27cm、東袖が長さ60cm、幅39cmを測る。北壁に対し、両袖とも直交する。

燃焼部の規模は、奥行き57cm、幅27cm、奥壁高15cmを測り、奥壁は住居内に収まる。底面は平坦で、奥壁は外傾して立ち上がる。底面では、炭化物の括りを検出した。また、燃焼部中央や西侧から、支脚と考えられる自然礫を直立した状態で検出した。

煙道部の規模は、長さ174cm、幅42cm、深さ3～9cmを測る。底面は緩やかに起伏し、先端に向かって下がる。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 全面が掘り込まれる。深さは2～24cmを測る。

【出土遺物】 土師器環7点・鉢1点・甕5点・ミニチュア1点・須恵器蓋1点・壺3点・壺1点・金属製品1点・礫石器1点を掲載した(第164～166図)。

土師器環7点(第164図-1～7)は、2・7は床面上、6はカマド袖構築上、5は掘り方堆積土、1・3・4は住居堆積土からの出土である。1は、北武藏型土師器(清水型閑東系土器)の特徴を有する。底部は丸底で、半球形に内湾する体部から、「S」字状に緩やかに外傾する器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面稜を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内面ヘラナダが施される。2～7は、底部は丸底もしくは平底の丸底で、扁平に内湾する体部から、外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、3～5は外面に段、内面に稜を持ち、6は外面に不明瞭な段を持つ。7は外面に稜を持ち、内面は段・稜を持たない。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキを基調とし、5の体部外面はヘラミガキが施される。3・4・6の内面は、黒色処理される。

土師器鉢(第165図-1)は、住居堆積土からの出土である。半球形に内湾する体部から、直立する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、不明瞭な段を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施される。内面は、黒色処理される。

土師器甕(第165図-2～6)は、2・3・6は床面上、4・5は住居堆積土からの出土である。2は、やや胴長の長い脇の脛部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。3・4は長脇の脛部から、3は外傾、4は短く外反する口縁部にいたる器形を呈する。5・6は、膨らみを持たない長い脇の脛部から、5は外傾する口縁部にいたる器形を呈する。脛部の最大径は、いずれも中位に持つ。口縁部と脛部の境は、2・4は段、5は不明瞭な段、3は稜を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、脛部内面ヘラナダが共通し、脛部外面はハケヌ・ヘラナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリが施される。

土師器ミニチュア(第165図-7)は、住居堆積土からの出土である。体部から口縁部は直線的に外傾する器形を呈し、内外面ともヘラナダが施される。

須恵器蓋(第166図-1)は、住居堆積土からの出土である。カエリを持たず、天井部は平坦で、体部は直線的に外傾し、口縁部は短く垂下する器形を呈する。

須恵器環(第166図-2～4)は、いずれも住居堆積土からの出土である。底部は、2は平底、3・4は平底と推定され、体部から口縁部が直線的に外傾する器形を呈する。2の底部切り離し技法は、回転ヘラ切りである。3の底部切り離し技法は不明だが、底部は回転ヘラケズリが施される。

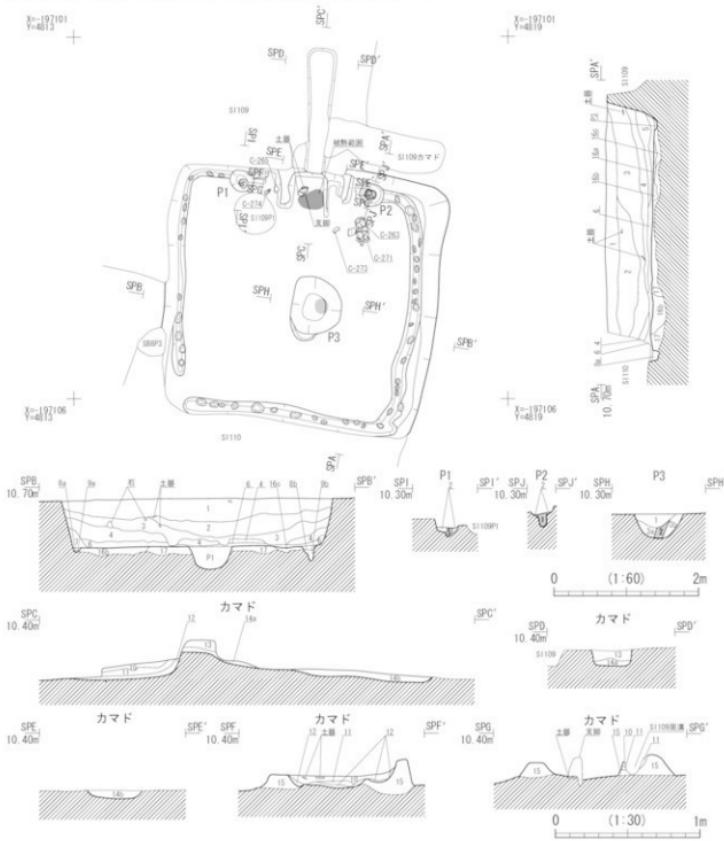
須恵器壺(第166図-5)は、住居堆積土からの出土である。球形の体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈し、

口唇部は短く内傾する。外面の一部と内面全面に、漆の付着がみられた。

金属製品(第166図-6)は、住居堆積土から出土した釘である。

礫石器(第166図-7)は、楕円礫を用いた大型の敲石である。側縁部に敲打痕が確認され、敲打により平坦面を形成する。石材は軟質な石英安山岩質凝灰岩を使用している。

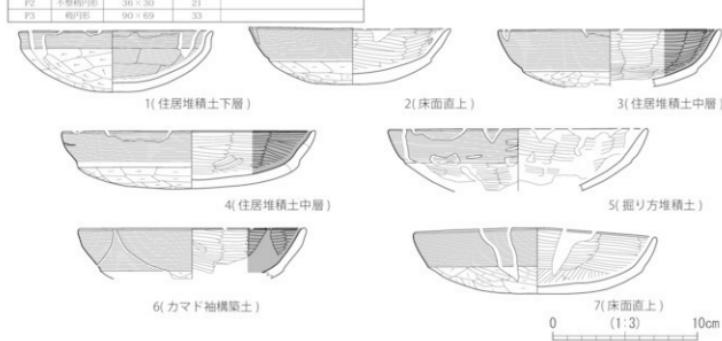
【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器环(第164図-2・7)、土師器甕(第165図-2・3・7)、カマド袖構築土から出土した土師器环(第164図-6)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では、5a期(7世紀中葉～後葉)の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。



第163図 SI111竪穴住居跡

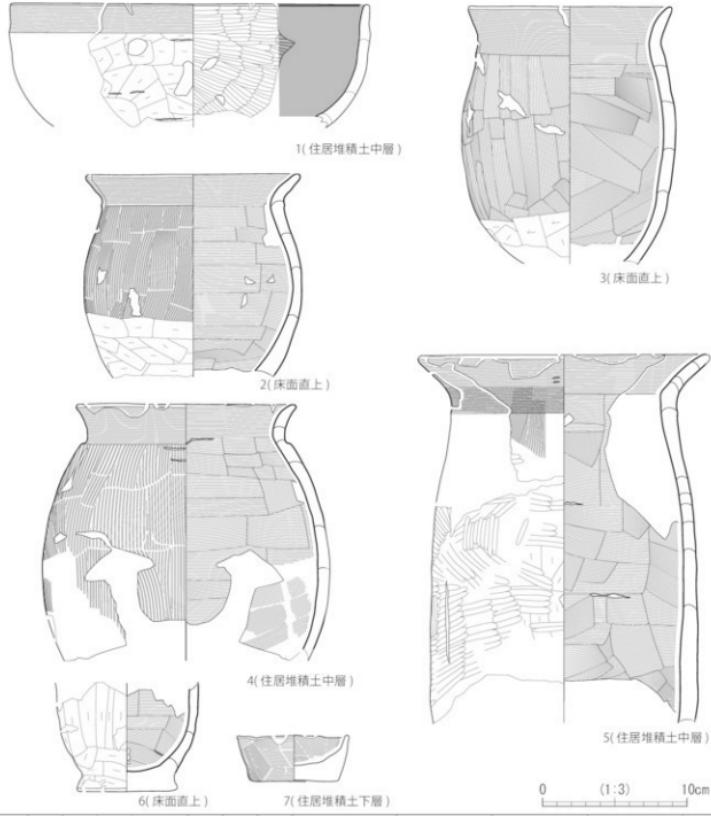
S111 住居堆積土				参考
部位	層位	土色	土性	
住居堆積土	1	10YR4/3 にふ・黄褐色	シルト	灰白色(赤)、薄土と、炭化物を微量に含む。
	2	10YR3/2 暗褐色	粘土質シルト	径10~20mmの赤色ブロック、細色粘土、フックを多量、礁土、炭化物を微量に含む。
	3	10YR3/1 褐褐色	シルト	径20~50mmの赤色ブロックを多量、炭化物を微量、礁土、利を微量に含む。
	4	10YR4/3 にふ・黄褐色	シルト	径10~20mmの赤色ブロックを多量、泥土、礁土、炭化物を微量に含む。
	5	10YR3/2 暗褐色	シルト	径2~10mmの赤色ブロックを少量、炭化物を微量に含む。
	6	10YR4/3 暗褐色	シルト	赤色粘土を多く含む。泥土、礁土、炭化物を微量に含む。
	7	10YR5/6 黃褐色	砂質シルト	径10mmの黄色シルトブロックを少量含む。
周溝	8a	10YR4/3 褐褐色	シルト	径10mmの赤色粘土ブロックを含む。
	8b	10YR5/6 黃褐色	シルト	径10mmの黄色シルトブロックを含む。
	9a	10YR4/3 にふ・黄褐色	シルト	径5~10mmの赤色粘土ブロックを少量含む。
カマド	9b	10YR4/2 灰褐色	シルト	径10~20mmの赤色粘土ブロックを少量含む。
	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	径20mmの赤色粘土ブロックを多量、礁土、白色粘土、炭化物を微量に含む。(天井崩落)
カマド	11	10YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	白色粘土ブロック、礁土粉、炭化物を微量に含む。
	12	10YR1/7/1 黑色	シルト	炭化物。
火打方	13	2YR5/4 にふ・黄褐色	砂質シルト	白色粘土ブロックを微量に含む。(天井崩落)
	14a	5YR3/0 暗褐色	シルト	径10~20mmの赤色粘土ブロックを多量、礁土、炭化物を微量に含む。
	14b	7.5YR5/4 灰褐色	シルト	白色粘土ブロックを微量に含む。(天井崩落)
火打方	15	10YR4/2 灰褐色	シルト	白質ブロックを多量、白色土ブロック、炭化物を微量に含む。
	16a	5YR1/1 黑色	粘土質シルト	炭化物を微量、白色粘土ブロックを微量含む。
掘り方	16b	10YR4/3 暗褐色	シルト	径10~20mmの赤色粘土ブロックを微量、炭化物を微量に含む。
	17	10YR5/4 にふ・黄褐色	粘土質シルト	径10~20mmの黑色シルトブロックを多量、炭化物を微量に含む。

S111 住居堆積土				参考
部位	層位	土色	土性	
P1	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	灰褐色ブロックを少量含む。(柱頭跡)
	2	10YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	白色粘土ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	灰褐色ブロックを少量含む。
	2	10YR2/3 暗褐色	粘土質シルト	白色粘土ブロックを少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	灰褐色ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
	2	10YR4/3 にふ・黄褐色	粘土質シルト	径10mmの赤色粘土ブロックを多量、炭化物を微量に含む。(柱頭跡)
	3a	10YR5/4 にふ・黄褐色	粘土質シルト	白色粘土ブロックを微量含む。
	3b	10YR5/6 黃褐色	粘土質シルト	黄褐色シルトを微量に含む。



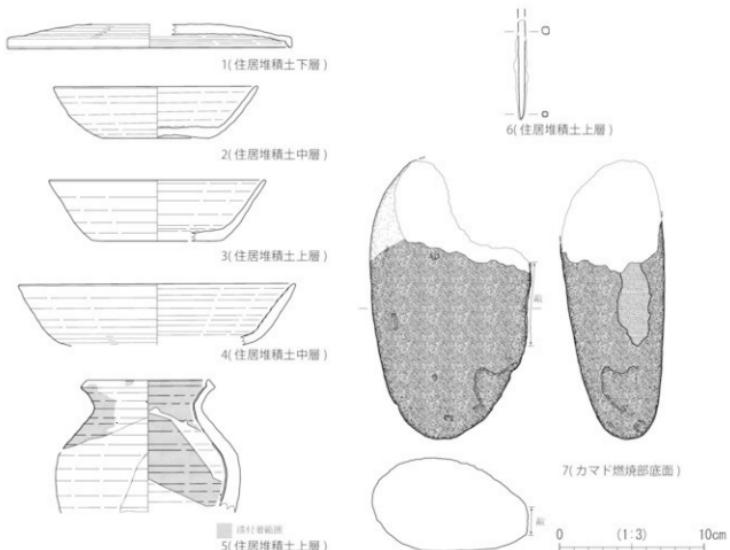
測定番号	登録番号	測定区	出土地	層位	種別	断面	部位	深度(m)			外観調整	内部調整	参考	写真
								(上段)	(中段)	(下段)				
1	C-262	17番区	SII11	住居堆積土 下層	土師板	II	上部	1.34m (13.4)	-	4.2	I.縦・横アリ、 体・横アリ	I.縦・横アリ、 体・横アリ		80
2	C-263	17番区	SII11	床面直上	土師板	II	全面	14.0	-	4.0	I.縦・横アリ、 体・横アリ	II.縦アリ	内面(漏出部)に柱状工 具の跡があり、内面 に無色物質付着	80
3	C-267	17番区	SII11	住居堆積土 中層	土師板	II	上部	1.34m (15.4)	-	(0.9)	I.縦・横アリ、 体・横アリ	II.縦アリ	内面黒色化理	80
4	C-269	17番区	SII11	住居堆積土 上層	土師板	II	確定形	17.5	-	4.0	I.縦・横アリ、 体・横アリ	II.縦アリ	内面黒色化理	80
5	C-264	17番区	SII11	土の方塊堆積土	土師板	II	上部	(17.9)	-	(4.3)	I.縦・横アリ、 体・横アリ	II.縦アリ	内面摩耗	80
6	C-268	17番区	SII11	ガラスと 礁土上	土師板	II	上部	(16.0)	-	(3.5)	I.縦・横アリ、 体・横アリ	II.縦アリ	内面黒色化理	80
7	C-265	17番区	SII11	床面直上	土師板	II	確定形	16.8	4.5	4.0	I.縦・横アリ、 体・横アリ	II.縦アリ		80

第164図 S111豎穴住居跡出土遺物(1)



图号 番号	登錄 番号	調査区	出土地	種類	種別	部位	正規 (cm)	直径	高さ	外面部形	内部調整	参考	写真 範囲	
1	C-266	17街区	S1111	住居堆積土 下層	土師器	鉢	1.14m 1体	(24.4)	—	(8.5)	口縁:2.27cm, 底:5.53cm	内面V字	内面黒色修理	80
2	C-273	17街区	S1111	床面直上	土師器	甕	1.14m 1個	(14.9)	—	(13.8)	口縁:2.27cm, 底:5.53cm	—	—	80
3	C-271	17街区	S1111	床面直上	土師器	甕	1.14m 1個	14.1	—	(17.7)	口縁:2.27cm, 底:5.53cm	—	外面燒熱修理	80
4	C-272	17街区	S1111	住居堆積土 下層	土師器	甕	1.14m 1個	(15.2)	—	(17.7)	口縁:2.27cm, 底:5.53cm	—	外面燒熱, 外面一部修理	80
5	C-270	17街区	S1111	住居堆積土 下層	土師器	甕	1.14m 1個	(20.2)	—	(25.4)	口縁:2.27cm, 底:5.53cm	—	外面燒熱修理	81
6	C-274	17街区	S1111	床面直上	土師器	甕	1.14m 1個	—	(6.7)	(7.5)	口縁:2.27cm, 底:5.53cm	内面修理	外面焼熱	80
7	C-377	17街区	S1111	住居堆積土 下層	土師器	二升器	1.14m 1個	(7.8)	6.5	3.2	口縁:2.27cm, 底:5.53cm	—	—	80

第165図 S1111竪穴住居跡出土遺物(2)



国際番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	断面	部位	法面 (cm)	外周調整	内面調整	備考	写真	
								(上段) (中段) (下段)				回数	
1	E-078	17街区	SH111	住居堆積土下層	須恵器	縦	天井	19.6	-	0.7	0%調整	外表面自然軸付石 80	
2	E-079	17街区	SH111	住居堆積土中層	須恵器	縦	19.6	14.1	7.3	3.6	0%調整	80	
3	E-081	17街区	SH111	住居堆積土上層	須恵器	縦	19	13.8	(15.0)	0.2	4.2	0%調整	80
4	E-080	17街区	SH111	住居堆積土中層	須恵器	縦	19	19.0	-	0.2	0%調整	81	
5	E-082	17街区	SH111	住居堆積土上層	須恵器	縦	19	8.2	-	0.1	0%調整	81	
国際番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	断面	部位	法面 (cm)	重量 (kg)	特徴・備考	写真	回数	
6	N-014	17街区	SH111	住居堆積土上層	金屬	鋳		6.9	0.9	0.65	(5.7)	81	
国際番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	断面	部位	法面 (cm)	重量 (kg)	石材	備考	写真	
7	Ke-033	17街区	SH111	カマド燃焼部底面	磚石	縦	19.2	11.2	7.2	(967.6)	石英岩の直質焼成 柱穴壁、底(筒瓦)程度強、 燃熱あり、火相あり	81	

第166図 SI 111豊穴住跡出土遺物(3)

SI 112 豊穴住跡(第167図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-7・8グリッドに位置する。南東部の1/4を検出した。カマドは大半が失われており、燃焼部の一部のみ検出した。北・西側は重複構造(SD 61・74、SB 7、Pit 25・32・33・36・37・80・83)と擾乱により失われている。

【重複】 SI 117、SB 7、SD 61・74、Pit 113・115・121・123・124・144・147と重複関係にあり、SD 61・74、SB 7より古く、SI 117、Pit 113・115・121・123・124・144・147より新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北261cm、東西252cmを測る。平面形状は、主柱穴と考えられるP 1～4

の位置関係から方形と推定される。

【方向】 東壁基準でN. 171° Eである。

【堆積土】 7層に分層された。1・2層は住居堆積土で、褐色・暗褐色シルトを主体とし、IV層ブロック・灰白色シルトブロックを含む。3～5層はカマド関連層位で、3・5層は焼土ブロックと炭化物を含む。6・7層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大6cmを測る。

【床面】 おおむね平坦である。6・7層上面を床面としている。

【柱穴】 4基検出した。規模と位置関係およびP2以外の柱穴では柱痕跡を確認したことから、これら4基は主柱穴に相当すると考えられる。

【周溝】 検出していない。

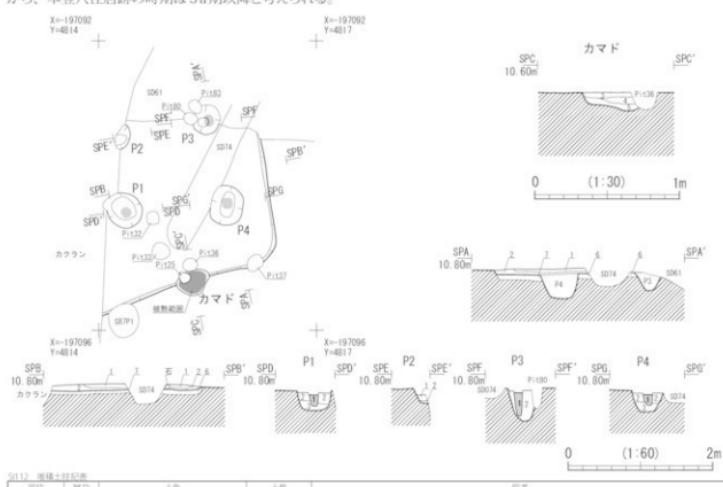
【カマド】 燃焼部の一部を検出した。残存する規模は、奥行き36cm、幅48cm、深さ26cmを測る。奥壁は、住居から張り出していたと考えられる。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 検出した範囲では、全面が掘り込まれる。深さは9cmを測る。

【出土遺物】 堆積土中より土師器・須恵器の破片が少量出土しているが、図化できるような遺物はなかった。

【時期】 伴う土器はないが、本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)以前と考えられるSI 117より新しい。のことから、本竪穴住居跡の時期は5a期以降と考えられる。



第167図 SI 1112竪穴住居跡

SI112 陶質堆積土柱跡査					
部位	層位	土色	土性	参考	
P1	1 10YR3/1	黒褐色	シルト	古層ブロックを少量含む。(柱頭部)	
	2 10YR3/2	暗褐色	シルト	径10mmの陶器ブロックを少量含む。	
	3 10YR5/2	にごく・暗褐色	シルト	径10mmの陶器ブロック・黑色・ループロックを少量含む。	
P2	1 10YR4/3	にごく・暗褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック・灰白色シルトブロックを多量に含む。	
	2 10YR5/4	にごく・暗褐色	砂質シルト	灰白色シルトブロックを多量に含む。	
	3 10YR4/4	褐色	シルト	径5mmの陶器ブロックを少量含む。	
P3	1 10YR3/3	暗褐色	シルト	古層ブロックを少量・炭化物粒を多量に含む。(柱頭部)	
	2 10YR3/2	黒褐色	シルト	灰白色シルトブロックを少量・炭化物粒を微量に含む。	
	3 10YR3/3	暗褐色	シルト	径30mmの陶器ブロックを少量含む。	

SI113 竪穴住居跡(第168～173図)				
遺構名	平面形	周囲(m)	深さ(cm)	参考
P1	不整円形	57.7 × 48	24	
P2	不明	36 × (18)	12	

SI113 竪穴住居跡(第168～173図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-8グリッドに位置する。西側と南側は重複遺構(SI109、SK101)と擾乱により失われている。

【重複】 SI109・117、SM3と重複関係にあり、SI117、SM3より新しく、SI109より古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北179cm、東西336cmを測る。平面形状は、方形ないし長方形と推定される。

【方向】 カマド煙道部基準でN-8°をとる。

【堆積土】 大別20層、細別31層に分層された。1～4層は住居堆積土で、暗褐色シルト・粘土質シルトを主体とし、IV層ブロック・焼土粒・炭化物粒を含む。5層は、周溝堆積土である。6～11層はカマド関連層位で、暗褐色・黒褐色・にごい黄褐色シルトなし粘土質シルトを主体とし、IV層ブロック・焼土粒・炭化物粒を含む。12・13層は、カマド袖構築土である。14～17層は、カマド掘り方堆積土である。18～20層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大33cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦である。18～20層上面を床面としている。

【柱穴】 1基検出した。規模と位置関係から、主柱穴に相当すると考えられる。

【周溝】 検出した範囲においては、カマド直下を除き壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅36cm、深さ15cmを測る。

【カマド】 北壁中央に位置すると考えられ、壁面に直交して付設される。燃焼部と煙道部の境で、炭化物の折がりを検出した。袖の規模は、西袖が長さ51cm、幅27cm、東袖が長さ60cm、幅45cmを測る。北壁に対し、西袖は西傾し、東袖はわずかに東傾する。

燃焼部の規模は、奥行き51cm、幅39cm、奥壁高21cmを測り、奥壁は住居から張り出す。底面は奥壁に向かって緩やかに上がり、奥壁は外傾して立ち上がる。

煙道部の規模は、長さ102cm、幅42cm、深さ12～26cmを測る。底面はほぼ平坦で、先端に向かって緩やかに上がる。

【その他の施設】 北東コーナーで、土坑1基を検出した。平面形状は隅丸長方形で、深さ30cmを測る。堆積土下層から、土師器表が横倒しの状態で2個体出土している。規模と位置関係、遺物の出土状況から、SK1は貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 検出した範囲では、全面に掘り込まれる。深さは11cmを測る。

【出土遺物】 土師器環1点・高杯1点・壺1点・甕2点、須恵器高杯1点・壺1点・平瓦4点、礫石器1点を掲載した(第170～173図)。

土師器環(第170図-1)は、住居堆積土からの出土である。底部は丸底と推定され、半球形に内湾する体部から内傾する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、口縁部外側ヨコナデのち一部ヘラミガキ、体部外側と内面はヘラミガキ

が施される。内面は、黒色処理される。

土師器高环(第170図-2)は、床面直上からの出土である。环部は、緩やかに内湾する体部から外傾する口縁部にいたる。口縁部と体部の境は、外面に稜を持つ。脚部は「ハ」字状に外傾し、裾部はラッパ状に外傾する。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部・脚部外面ヘラケズリ、裾部内外面ヨコナデ、环部内面ヘラミガキ、脚部内面ヘラナデが施される。环部内面は、黒色処理される。

土師器壺(第170図-3)は、カマド煙道部堆積土からの出土である。底部は平底で、球形に内湾する体部から、短く外反する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内面ヘラナデが施される。口縁部～体部内外面に漆の付着がみられ、体部外下半と体部内面の一部には布目状に漆の付着がみられる。

土師器甕2点(第170図-4・5)は、床面施設(SK 1)堆積土から横倒しの状態で出土している。4は、底部は底径の大きい平底で、球胴の胸部を持つ。胸部の最大径は中位に持つ。口縁部は、使用時に輪積み部分を境に剥落したと考えられ、剥落した部分を再調整して口縁部としている。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胸部外面ヘラケズリ、胸部内面ヘラナデが施される。5は、長胴の胸部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胸部の最大径は中位に持つ。口縁部と胸部の境は、不明瞭な段を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胸部外面ハケメのち下半ヘラケズリ、胸部内面ヘラナデが施される。

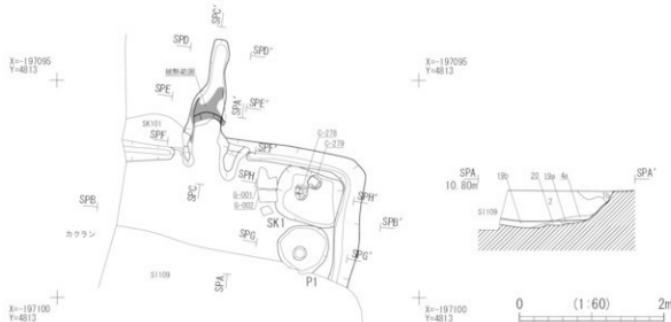
須恵器高环(第170図-6)は、住居堆積土からの出土である。底部と体部の境は屈曲し、体部から口縁部は直線的に外傾する器形を呈する。体部外面下半は、回転ヘラケズリのちヘラナデが施される。

須恵器壺(第170図-7)は、カマド煙道部堆積土からの出土である。底部切り離し技法は回転ヘラ切りで、その後、高台が貼り付けられる。体部は内湾して立ち上がる。体部外面・内面底部に自然釉、高台には焼台が付着する。

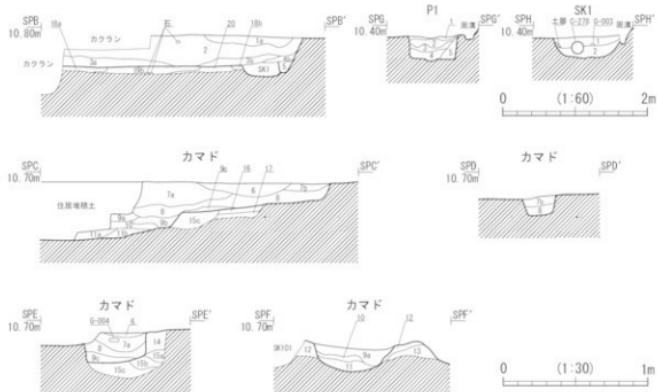
平瓦(第171図-1～3、第172図-1)は、第171図-2はカマド煙道部堆積土、第171図-3は床面施設(SK 1)、第171図-1・第172図-1は住居堆積土からの出土である。いずれも周縁はヘラケズリが施される。凹面には、糸切り痕・模骨痕・布目痕、凸面には繩韁タキモノのち一部の瓦にナデが観察される。

礫石器(第173図-1)は、住居堆積土からの出土である。棒状砾を素材とする敲石で、下端部に敲打痕が確認される。上部は欠損している。

【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器高环(第170図-2)、床面施設(SK 1)から出土した土師器甕(第170図-4・5)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では、5a期(7世紀中葉～後葉)の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。



第168図 SI 113 竪穴住居跡(1)

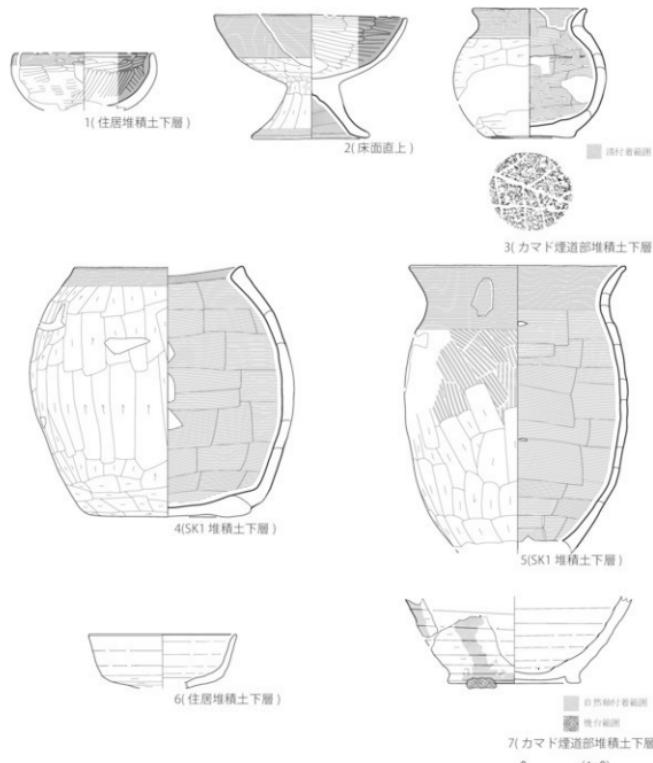


SII13 地質+土質剖面					備考
部位	層位	土色	土性		
柱状地質上	1 a	10YR3/3	暗褐色	シルト	径5mmの瓦礫ブロックを含む。地上部・炭化物を微量に含む。
	1 b	10YR3/3	暗褐色	シルト	瓦礫ブロック・礫・炭化物を少額含む。
	2	10YR3/4	暗褐色	シルト	礫・粘土・炭化物を微量に含む。前面・瓦礫ブロックを帯域に含む。(厚20mm程度)
	3 a	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	径5mmの瓦礫ブロックを多量に含む。
	3 b	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	径5mmの瓦礫ブロックを多量に含む。地上部・炭化物を微量に含む。
	4 a	10YR3/3	にじみ・暗褐色	粘土質シルト	瓦礫・粘土・炭化物を微量に含む。
河溝	4 b	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	瓦礫・粘土・炭化物を微量に含む。
	5	10YR4/3	褐色灰	シルト	径10~20mmの瓦礫ブロックを多量に含む。
カマド	6	10YR4/3	暗褐色	シルト	径10mmの瓦礫ブロックを多量、地・上部・炭化物を微量に含む。
	7 a	10YR4/2	灰褐色	シルト	瓦礫を多量、地・上部・炭化物を微量に含む。
	7 b	10YR3/1	黒褐色	シルト	径10mmの瓦礫ブロック・炭化物を多量、地・上部・炭化物を少額含む。
	8	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	径10mmの瓦礫ブロック・炭化物を多量、地・上部・炭化物を少額含む。
	9 a	7.5YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	径5mmの瓦礫ブロック・炭化物を多量、地・上部・炭化物を少額含む。
	9 b	10YR4/3	にじみ・暗褐色	粘土質シルト	径10mmの瓦礫ブロック・炭化物を多量に含む。
カマド側方	9 c	5YR4/4	にじみ・赤褐色	砂質シルト	砂質・炭化物を多量、地・上部・炭化物を微量に含む。
	10	2.5YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	瓦礫・粘土・炭化物を多量、地・上部・炭化物を少額含む。
カマド下部	10 a	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	瓦礫・粘土・炭化物を多量、地・上部・炭化物を少額含む。
	11 b	10YR4/3	にじみ・暗褐色	シルト	径10mmの瓦礫ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
	12	10YR3/4	暗褐色	シルト	径5mmの瓦礫ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
	13	10YR4/4	褐色	シルト	径5mmの瓦礫ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
カマド側方	14	10YR4/3	にじみ・暗褐色	粘土質シルト	瓦礫・粘土・炭化物を多量、地・上部・炭化物を少額含む。
	15 a	5YR4/3	暗褐色	粘土質シルト	径10~20mmの瓦礫ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
	15 b	10YR5/3	にじみ・暗褐色	粘土質シルト	瓦・瓦質・瓦質ブロックを多量、炭化物を少額含む。
	15 c	5YR5/3	明るい褐色	シルト	瓦質・瓦質ブロックを少額、炭化物を含む。
	16	10YR3/2	黒褐色	瓦質・瓦質ブロック	瓦質・瓦質ブロックを多量に含む。
側方	17	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	瓦質・瓦質ブロック・炭化物を微量に含む。
	18 a	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	径5~10mmの瓦質ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
	18 b	10YR5/4	にじみ・暗褐色	粘土質シルト	径10~20mmの瓦質シルトを多量、炭化物を微量に含む。
	19 a	10YR4/2	灰褐色	シルト	瓦質・瓦質ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
	19 b	10YR4/2	灰褐色	シルト	瓦質・瓦質ブロックを少額、炭化物を微量に含む。
SK1	20	10YR5/3	にじみ・暗褐色	砂質シルト	径10mmの暗褐色シルトブロック・(C)色シルトブロックを少額含む。

SII13 地質+土質剖面表					備考
部位	層位	土色	土性	備考	
P1	1	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	瓦質ブロック・礫・炭化物を少額含む。
	2	10YR5/4	にじみ・暗褐色	シルト	瓦質ブロックを多量、暗褐色シルトを少額に含む。
	3	10YR3/2	黒褐色	シルト	径5mmの瓦質ブロックを少額、炭化物を微量に含む。
	4	10YR3/3	暗褐色	シルト	径5~10mmの瓦質ブロックを多量、炭化物を微量に含む。
	5	7.5YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	径5~10mmの暗褐色シルトブロックを多量、炭化物を微量に含む。
SK1	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	径5~10mmの瓦質ブロックを少額、地上部・炭化物を微量に含む。
	2	10YR3/2	黒褐色	シルト	径5~20mmの瓦質ブロックを多量、炭化物を微量に含む。

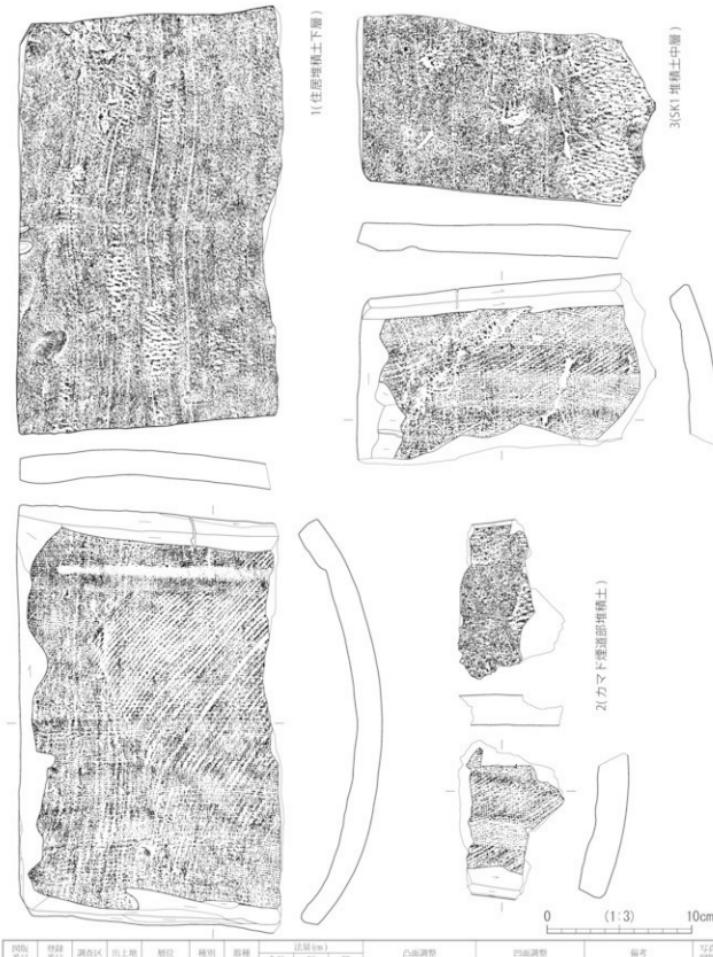
SII13 地質剖面表				
透視名	平面形	規模(m)	深度(m)	備考
P1	円柱	(72) × 66	33	
SK1	鏡丸孔方形	102 × 87	30	

第169図 SII13 穴式住居跡(2)



回数 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	断面	法面 (cm)	外表面			内面調整	備考	写真 写真 場所
								上段	中段	底段			
1	C-275	17面K	SI113	住居堆積土下層	上部断面	壁	1.04	(9.7)	-	(3.9)	1面~27面 底~53面(1~10)底 側~53面(1~10)底	内面黒色塗装	81
2	C-276	17面K	SI113	床面直上	上部断面	高杯	断面形	13.4	8.2	8.6	1面~27面 底~53面(1~10)底 側~53面(1~10)底	内面黒色塗装,外 面断面黒色塗装,外 面側~53面(1~10)底	81
3	C-277	17面K	SI113	カマド煙道部 堆積土下層	上部断面	直	断面形	8.0	5.9	8.9	1面~27面 底~53面(1~10)底 側~53面(1~10)底	内面~床~底漆付 着,外曲体下平と内面 底漆付と11面~底漆付	81
4	C-279	17面K	SI113	SK1堆積土 下層	上部断面	壁	断面~底	-	11.5	(17.3)	1面~27面 底~53面(1~10)底 側~53面(1~10)底	内面~床~底漆付 着,外曲体下平と内面 底漆付と11面~底漆付	81
5	C-278	17面K	SI113	SK1堆積土 下層	上部断面	壁	断面~底	15.0	-	(19.8)	1面~27面 底~53面(1~10)底 側~53面(1~10)底	内面~床~底漆付 着,外曲体下平と内面 底漆付と11面~底漆付	81
6	E-083	17面K	SI113	住居堆積土 下層	底部断面	高杯	断面	(10.2)	-	(3.7)	1面~27面 底~53面(1~10)底 側~53面(1~10)底	内面調整	81
7	E-084	17面K	SI113	カマド煙道部 堆積土下層	底部断面	直	断面~ 高台	-	9.0	(6.0)	1面~27面 底~53面(1~10)底 側~53面(1~10)底	内面調整	81

第170図 SI113竪穴住跡出土遺物(1)



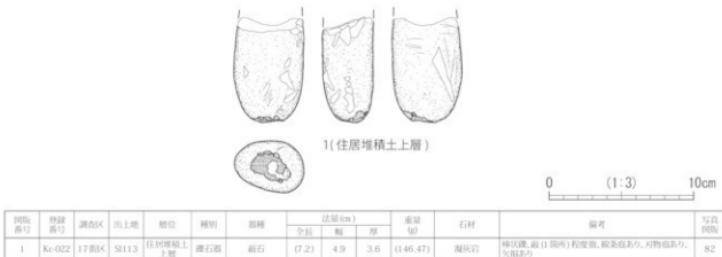
第171図 S1113竪穴住居跡出土遺物(2)

回数 番号	登録 番号	調査区	出土地	施位	種別	器種	(正規cm)			凸面調整	凹面調整	偏考	写真 回数
							全長	幅	厚				
1	G-002	17面6	S1113	住居跡埴土 下層	瓦	平瓦	(18.3)	29.6	1.7	調査日→打→底端面注意 側縁八角?	無切口→一段階傾・布目版, 側縁八角?		82
2	G-004	17面6	S1113	カマド 煙道上	瓦	平瓦	(7.3)	(11.0)	2.1	調査日→打	無切口→一段階傾・布目版 +一部? 側縁八角?		82
3	G-003	17面6	S1113	SK1 墓塚上	瓦	平瓦	(19.6)	(13.2)	2.1	調査日→打	無切口→一段階傾・布目版, 側縁八角?	底端面開縫・側縁に工具痕	81



第172図 S1113竪穴住居跡出土遺物(3)

固有 番号	登録 番号	調査区	出土地	部位	種別	断面 形	法規(cm)			凸面調整	凹面調整	備考	写真 回数
							全長	幅	厚				
1	G001	17街区	S1113	住居跡上 部	直	平瓦	(29.4)	29.9	2.0	調査日 未記載→ 2022年1月15日	調査日 未記載→ 2022年1月15日		82



第173図 SI113竪穴住居出土遺物(4)

SI114 竪穴住居跡(第174・175図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-8・9グリッドに位置する。西壁・北壁と東半は重複遺構(SI110)と擾乱により失われている。

【重複】 SI110・116と重複関係にあり、SI116より新しく、SI110より古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北405cm、東西189cmを測る。平面形状は、方形ないし長方形と推定される。

【方向】 南壁基準でN-80°-Wである。

【堆積土】 8層に分層された。1～4層は住居堆積土で、黒褐色シルトを主体とする層が多く、炭化物粒・焼土粒を含む。5層は、周溝堆積土である。6～8層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大39cmを測る。

【床面】 平坦である。6～7層上面を床面としている。

【柱穴】 掘り方から2基検出した。P1は、規模と位置関係、柱材が確認されたことから主柱穴に相当すると考えられる。P2の性格は、不明である。

【周溝】 検出した範囲では、壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅33cm、深さ15cmを測る。

【カマド】 検出されなかった。元より付設されなかつたのか、重複遺構、擾乱により失われたのか不明である。

【その他の施設】 床面から土坑1基を検出した。住居南東側に位置し、平面形状は楕円形を呈する。

【掘り方】 検出した範囲では、全面に掘り込まれる。深さは6～21cmを測る。南壁際の底面で、工具痕を検出した。

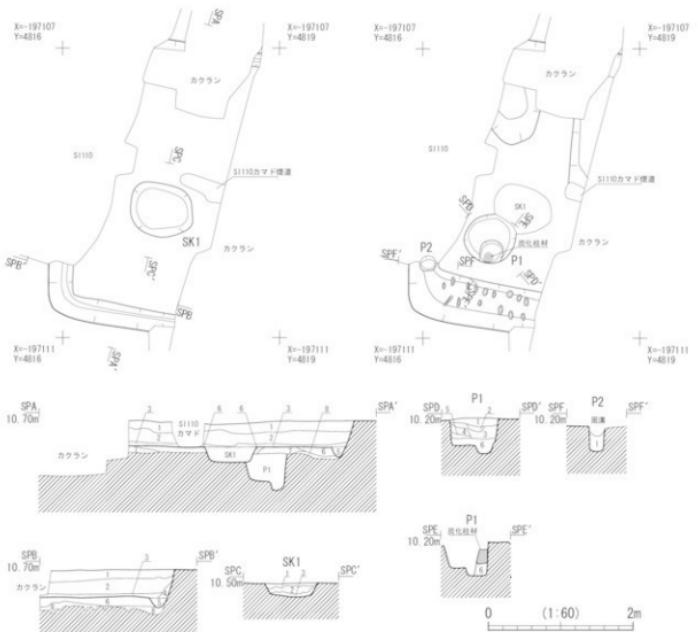
【出土遺物】 土師器壺1点、金属製品1点、石製品1点を掲載した(第175図)。

土師器壺は、住居堆積土からの出土である。北武藏型土師器(清水型関東系土器)の特徴を有する。扁平に内湾する部体から、「S」字状に緩やかに外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、内外面とも棱を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、部体外面ヘラケズリ、部体内部ヘラナデが施される。

金属製品は、住居堆積土から出土した鉄鏃である。

石製品は、住居堆積土からの出土である。凝灰岩製の砥石である。表面裏面・両侧面・下端面に砥面が確認され、線条痕・溝状痕が多数観察される。側面形は、使用により彎曲している。石質は緻密で、仕上砥に相当する。

【時期】 伴う土器はないが、本書の時期区分5b II期(8世紀前葉)の土器を伴うSI110より古いことから、本竪穴住居跡の時期は5b II期以前と考えられる。



SI 114 地質図(1/200)			
部位	層位	土色	土性
住居層上	1 10YR3/4	暗褐色	シルト
	2 10YR3/1	黒褐色	シルト
	3 10YR5/6	黄褐色	砂質シルト
	4 10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト
	5 10YR3/3	暗褐色	シルト
雨滴	6 10YR3/3	暗褐色	シルト
	7 10YR4/3	にじみ・黃褐色	シルト
	8 10YR2/1	黒色	シルト

SI 114 地質図(1/200)			
部位	層位	土色	土性
P1	1 10YR3/3	暗褐色	シルト
	2 10YR4/4	褐色	シルト
	3 10YR4/3	にじみ・暗褐色	シルト
	4 10YR5/4	にじみ・黃褐色	粘土質シルト
	5 10YR2/1	黒色	粘土質シルト
P2	1 10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト
	2 10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト
	3 10YR3/1	暗褐色	シルト
SK1	1 10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト
	2 10YR3/1	暗褐色	シルト

部位	平面形	周縁(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	72 × 69	48	
P2	円形	24 × 21	21	
SK1	楕円形	93 × 75	18	

第174図 SI 114 積穴住居跡



第175図 SII114 積穴住跡出土遺物

SII115 積穴住跡(第176～178図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-7・8グリッドに位置する。南東部の1/4を検出した。北側と東側は、重複遺構(SII107・SD76)と搅乱により失われている。

【重複】 SD76・SM3と重複関係にあり、SM3より新しく、SD76より古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北372cm、東西306cmを測る。平面形状は、不明である。

【方向】 西壁基準でN-11°-Eである。

【堆積土】 大別8層、細別9層に分層された。1～4層は住居堆積土で、灰黃褐色・褐色・暗褐色・黒褐色シルトを主体とし、焼土粒・炭化物粒を含む。5・6層は、周溝堆積土である。7・8層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 わずかに外反して立ち上がる。残存する壁高は、最大39cmを測る。

【床面】 おむね平坦である。7・8層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から2基、掘り方から3基検出した。P1・2は、規模と位置関係および柱痕跡が確認されたことから、主柱穴に相当すると考えられる。P2の住居堆積土上層では、複数の円窪を検出した。また、堆積土中からは須恵器環(第177図-3)が出土している。この須恵器環は、SD 61出土の破片資料との接合関係が認められた。のことから、円窪および須恵器環は、柱の抜き取り後に流入したものと考えられる。掘り方で検出したP4・5のうち、P5では柱痕跡を確認したが、性格は不明である。

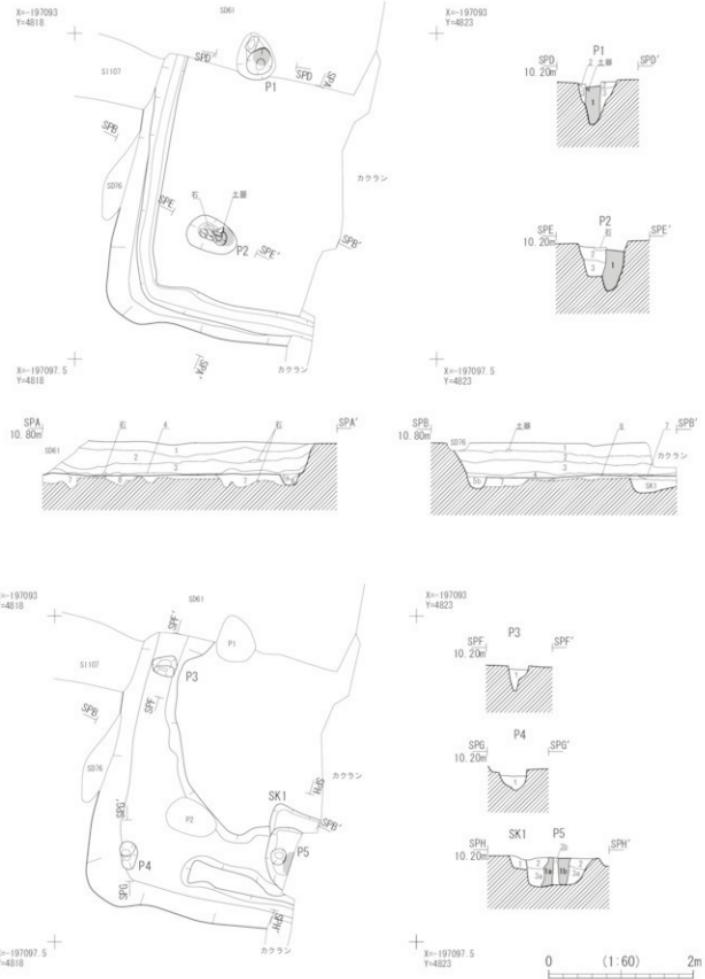
【周溝】 検出した範囲においては、南壁と西壁では壁際に沿って周り、南西コーナーでは壁面からやや離れた位置を周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅36cm、深さ21cmを測る。

【カマド】 検出していない。

【その他の施設】 掘り方から土坑1基を検出した。P5と重複関係にあり、P5より古い。平面形状は不明である。

【掘り方】 全面が掘り込まれ、中央が島状に高まる。深さは1～21cmを測る。

【出土遺物】 土師器鉢1点・甕1点・須恵器環1点・壺2点・甕1点・瓦2点、金属製品3点、石製品1点、礫石器1点を掲載した(第177・178図)。



第176図 SI115 積穴住居跡

土師器鉢(第177図-1)は、住居堆積土からの出土である。底部は平底で、半球形に内湾する体部からわずかに外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に棱を持つ。調整は口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施される。内面は、黒色処理される。

土師器甕(第177図-2)は、住居堆積土からの出土である。内湾する胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は中位に持つ。口縁部と胴部の境は、段を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケメのち下端ヘラケズリ、胴部内面ヘラナダが施される。

須恵器環(第177図-3)は、床面施設(P2)堆積土からの出土であるが、前述の通り本竪穴住居跡には伴ないと考えられる。底部は丸底で、扁平に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、ロクロ調整ののち体部外面は全面に手持ちヘラケズリが施される。

須恵器壺2点(第177図-4・5)は、住居堆積土からの出土である。4は、肩部と体部の境は強く屈曲し、肩部は丸みを持って内湾する。5は、体部は内湾して立ち上がる。底部は、回転ヘラケズリが施されたのち、高台が貼り付けられる。

須恵器甕(第177図-6)は、住居堆積土からの出土である。球胴と推定される胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁端部は、肥厚する。

瓦(第177図-7、第178図-1)は、住居堆積土から出土した丸瓦(第178図-1)と平瓦(第177図-7)である。第178図-1は、側縁はヘラケズリが施され、凸面は繩タキ目、凹面は布目痕が観察される。第177図-7は、側縁はヘラケズリが施され、凹面は糸切目痕・模骨痕・布目痕、凸面は繩タキ目の中ナダが観察される。

金属製品(第178図-2～4)は、いずれも住居堆積土からの出土である。2は鎌、3は刀子、4は鉄鍔である。

石製品(第178図-5)は不明石製品で、住居堆積土からの出土である。剥片の縁辺に剥離を施している。石材は軟質な石英安山岩質凝灰岩を使用している。

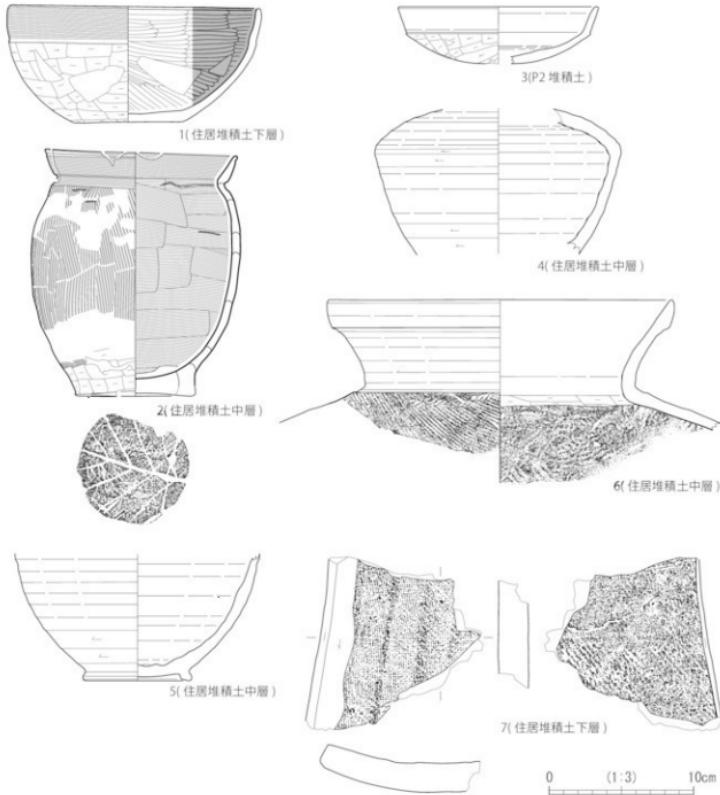
礫石器(第178図-6)は、床面直上からの出土である。梢円礫を素材とする敲石である。上端部及び側縁部敲打痕が確認される。

【時期】 伴う土器や、時期の判る遺構との重複関係がなく、本竪穴住居跡の細別時期は不明である。

5115. 陶器+埴跡表				編考
部位	部位	土色	上性	
住居堆積土	1	10YR4/2	灰褐色	シルト 灰白色丸山状を幾筋に少量、径10～20mmの黑色シートブロックを微量に含む。
	2	10YR4/4	褐色	シルト 白色シートブロックと化物類を微量、上面に少量かつ薄く埋め戻す10mm
	3	10YR3/3	暗褐色	シルト 径20mmの白色シートブロック・径10～50mmの黑色シートブロック・糊土和・化物類を微量に含む。
	4	10YR2/2	黒褐色	シルト 化物類を少し含む。
周溝	5a	10YR3/3	暗褐色	シルト 瓦觸を少し、底付砂利を微量に含む。
	5b	10YR3/2	黒褐色	シルト 径10～20mmの瓦觸ブロックを少量、底付物類を微量に含む。
縫隙	6	10YR4/3	にじく・黄褐色	シルト 黒色シートブロックと化物類を微量に含む。
	7	10YR2/1	黒褐色	シルト 径10～20mmの瓦觸ブロックを多量、底付砂利と糊土を微量に含む。
縫隙	8	10YR2/1	黒色	シルト 径10～20mmの瓦觸ブロックを多量、糊土和・化物類を微量に含む。

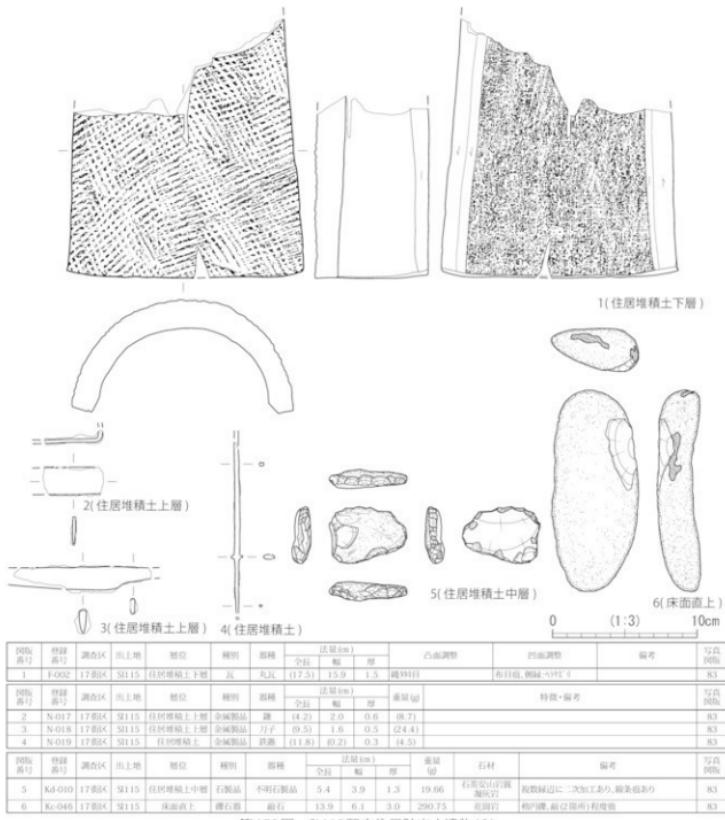
5115. 陶器+埴跡+竹籠表				編考
部位	部位	土色	上性	
P1	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト 瓦觸ブロックを少し含む。(板根跡)
	2	10YR4/6	褐色	粘土質シルト 白色シートブロック・暗色シートブロックを少し含む。
	3	2.5YR4.6b	モーリー層	粘土質シルト 瓦觸ブロックを少し、底付物類を微量に含む。
P2	1	5Y4/1	灰色	粘土質シルト (注)20mmの瓦觸ブロックを微量、底付物類を含む。(板根跡)
	2	10YR4/6	褐色	粘土質シルト 瓦觸シートブロックを微量、底付物類を微量に含む。
	3	10YR4/4	褐色	粘土質シルト (注)10～20mmの瓦觸ブロックを少量、底付物類を微量に含む。
P3	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト (注)～20mmの瓦觸ブロックを多量、黑色シートブロックを少し含む。
	2	5Y4/1	灰色	粘土質シルト (注)10～20mmの瓦觸ブロックを微量、底付物類を微量に含む。
P4	1	10YR4/3	にじく・黄褐色	粘土質シルト (注)10～20mmの瓦觸ブロックを微量、底付物類を微量に含む。
P5	1a	2.5YR4.6b	モーリー層	粘土質シルト 瓦觸シートブロックを微量、底付物類を微量に含む、全体がグライ化。(板根跡)
	1b	3Y4/2	黒褐色	粘土質シルト 瓦觸シートブロックを微量、底付物類を微量に含む、全体がグライ化。(板根跡)
	2	3Y4/1	灰色	粘土質シルト 瓦觸シートブロックを微量、底付物類を微量に含む、全体がグライ化。(板根跡)
	3a	10YR2/2	黒褐色	シルト (注)10mmの瓦觸ブロックを微量含む、一部グライ化。
SK1	3b	5Y5/1	黒色	粘土質シルト 酸化鉄斑を多く含む、径10～20mmの灰褐色シートブロックを少し含む、全体がグライ化。
	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト (注)10mmの瓦觸ブロックを多量に含む。

5115. 地盤調査表				編考
測線	平面形	距離(m)	深度(m)	
P1	不規則形状	100.7～154	30	
P2	不規則形状	72.6	30	
P3	不規則形状	36～30	30	
SK1	不規則形状	69	48	15



图版 番号	登錄 番号	調査区	出土地	層位	種別	基種	基形	法量 (cm)	内面調整	外面調整	内面調整	参考	写真 番号		
									直径	底径	高さ				
1	C-281	17街区	S115	日焼灰灰土 中型	上部断面	鉢	上縁	17.3	7.4	8.0	上縁・内面 底・底内面	3(P1)	内部黑色纹理，芯みあり	82	
2	C-282	17街区	S115	日焼灰灰土 中型	上部断面	鉢	上縁	17.4	(13.3)	8.0	(17.1)	上縁・内面 底・底内面	3(P2)	外部褐色带瓦 底木炭化	82
3	E-085	17街区	S115	F2堆積土 中型	底部断面	鉢	上縁	(13.8)	-	(0.9)	内面調整	S001(市上廻田資料館接合)	82		
4	E-087	17街区	S115	日焼灰灰土 中型	底部断面	鉢	上縁	(10.1)	-	(0.9)	内面調整・回転内火口	3(P3)	82		
5	E-086	17街区	S115	日焼灰灰土 中型	底部断面	鉢	上縁	(7.1)	(8.8)	体下下内側内火口	内面調整	内面底部自然釉付着	82		
6	E-088	17街区	S115	日焼灰灰土 中型	底部断面	鉢	上縁	(24.0)	-	(9.0)	内面調整	内面底部自然釉付着	82		
图版 番号	登錄 番号	調査区	出土地	層位	種別	基種	基形	法量 (cm)	内面調整	外面調整	内面調整	参考	写真 番号		
7	G-005	17街区	S115	日焼灰灰土 下層	底平	平底	空段	(12.1) (12.2)	2.0	總(9.0) - 1.4	内面・外側 内面・外側	3(P4)	内面・外側・布目	83	

第177図 S115竪穴住居跡出土遺物(1)



第178図 SI 115整穴住居跡出土遺物(2)

SI116 穴穴住居跡(第179・180図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-9グリッドに位置する。西壁の一部と北側・東側は、重複造構(SI 110・114・119)と擬乱により失われている。南側は、調査区外へかかる。

【重複】 SI 110・114・119・127、SK 135と重複関係にあり、SI 127、SK 135より新しく、SI 110・114・119より古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北231cm、東西408cmを測る。平面形状は、不明である。

【方向】 西壁基準でN-26°-Eである。

【堆積土】 大別6層、細別8層に分層された。1～3層は住居堆積土で、にぶい黄褐色シルトを主体とし、IV層プロックを含む。4層は、周溝堆積土である。5・6層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 やや内湾して立ち上がる。残存する壁高は、最大18cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦である。5・6層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から3基、掘り方から3基検出した。規模、平面形状はさまざまで、P1・2・4・5では柱痕跡を確認したが、性格は不明である。

【周溝】 検出した範囲においては、壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅31cm、深さ6cmを測る。

【カマド】 検出していない。

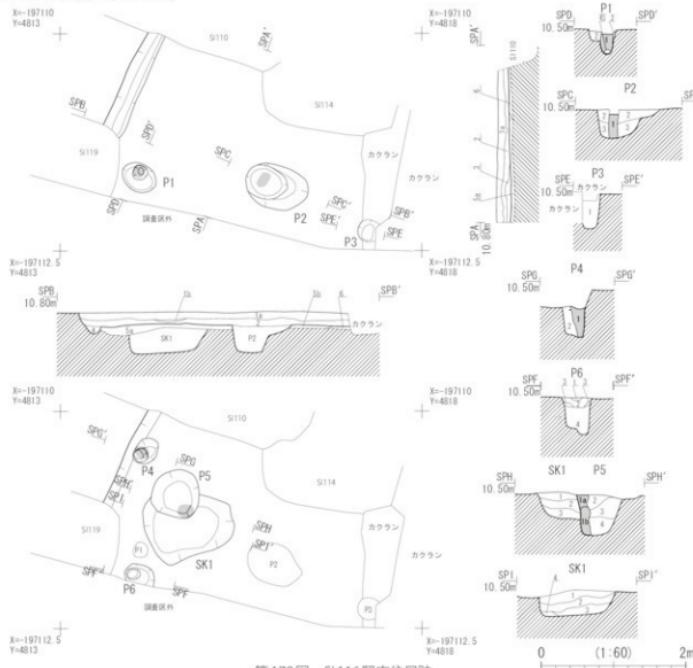
【その他の施設】 掘り方から土坑1基を検出した。SK1はP5と重複関係にあり、P5より古い。性格は不明である。

【掘り方】 検出した範囲では、全面に掘り込まれる。深さは12cmを測る。

【出土遺物】 石製品1点を掲載した(第180図)。この他に、堆積土中から土師器・須恵器片が出土しているが、図化できるような遺物はなかった。

石製品は、掘り方堆積土から出土した不明石製品である。素材の縁辺に剥離を施し円形に加工している。石材は軟質な石英安山岩質凝灰岩を使用している。

【時期】 伴う土器はないが、本書の時期区分5b ii期(8世紀前葉)の土器を伴うSI110より古いことから、本竪穴住跡は5b ii期以前と考えられる。



第179図 SI116竪穴住跡

SI116 地盤上付記表					
部位	層位	土色	土性	備考	
住居跡上	1a	10YR3/3	暗褐色	シルト	径10~50mmの粗ブロックを多量、炭化物粒を微量に含む。
	1b	10YR4/6	にじく・黃褐色	シルト	粗ブロックを多量、径10mmの粗シルトブロックを少量含む。
	2	10YR3/3	にじく・黃褐色	シルト	粗ブロックを少量、炭化物粒を微量に含む。
辺溝	3	10YR4/3	にじく・黃褐色	シルト	径10~20mmの黒色・ルビーブロックを多量に含む。
掘方	4	10YR3/4	暗褐色	シルト	粗ブロックを微量で含む。
	5a	10YR5/4	にじく・黃褐色	シルト	粗ブロックを微量で含む。
	5b	10YR5/2	灰褐色	シルト	粗ブロックを少量、炭化物粒を微量に含む。
	6	10YR6/3	にじく・黃褐色	粘土質シルト	粗ブロック・径10mmの黒色・ルビーブロックを少量含む。

SI116 地盤堆積土付記表					
部位	層位	土色	土性	備考	
P1	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	粗ブロックを細・細・炭化物粒を微量に含む。(村頭跡)
	2	10YR4/2	灰褐色	シルト	粗ブロックを炭化物粒・砂上鉢を微量に含む。
P2	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	粗ブロックを微量に含む。(村頭跡)
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト	径30mmの粗ブロックを少量、炭化物粒を微量に含む。一部グライ化。
P3	3	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	径30mmの褐色・ルビーブロックを少量、炭化物粒を微量に含む。
P4	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	塊状・炭化物粒を含む。
	2	10YR4/4	褐色	シルト	粗ブロックを少量、炭化物粒を微量に含む。(村頭跡)
P5	1a	10YR4/3	にじく・黃褐色	シルト	炭化物粒を多量、块上鉢を微量に含む。(村頭跡)
	1b	10YR2/2	暗褐色	粘土質シルト	粗・細・炭化物粒を微量、炭化物粒を微量に含む。
P6	2	10YR3/2	にじく・黃褐色	シルト	径30mmの粗ブロックを微量、炭化物粒を微量に含む。
	3	10YR3/2	黃褐色	シルト	径30mmの粗ブロックを微量、炭化物粒を微量に含む。
	4	10YR4/3	にじく・黃褐色	シルト	粗ブロックを微量、褐色シルトを微量に含む。塊状の小石を多量に含む。
	1	10YR5/6	黃褐色	シルト	粗・細・炭化物粒を微量、炭化物粒を微量に含む。
SK1	2	10YR3/2	黒褐色	シルト	粗・細・炭化物粒を微量、炭化物粒を微量に含む。
	3	10YR5/6	黃褐色	シルト	粗ブロックを多量、褐色シルトを微量に含む。
	1	10YR4/1	暗褐色	シルト	径20mmの粗ブロックを微量、炭化物粒を微量に含む。一部グライ化。
	2	10YR5/4	にじく・黃褐色	シルト	粗ブロックを少量、黑色・ルビーブロックを微量に含む。
	3	10YR5/6	黃褐色	粘土質シルト	黒シルトを微量に多量に含む。
	4	10YR4/4	褐色	シルト	粗・細ブロックを微量に多量に含む。

SI116 地盤観察表			
遺跡名	平面形	周囲(m)	深さ(cm)
P1	円形	51 × 39	36
P2	楕円形	90 × 60	39
P3	円形	(33) × 33	45
P4	不規則形	39 × 30	39



遺跡名	平面形	周囲(m)	深さ(cm)	石材	備考	写真 回数
1	Kd-014 17街区 S116	楕円形	69 × 69	37		
	1	116	116	石英安山岩質風化	表面風化に二次加工あり	83

第180図 SI116 穴式住居跡出土遺物

SI117 穴式住居跡(第181～183図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-8グリッドに位置する。西半と南半は重複遺構(SI112・113、SD74、SB6・7、Pit37・94・95・104・108・111・112・114・115・121～131)と擾乱により失われている。

【重複】 SI112・113、SD74・75、Pit37・94・95・104・108・111・112・114・115・121～131と重複関係にあり、これらより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北480cm、東西416cmを測る。平面形状は、方形ないし長方形と推定される。

【方向】 東壁基準でN-17°Wである。

【堆積土】 大別8層、細別11層に分層された。1～3層は住居堆積土で、上層は灰黄褐色シルト、下層は褐色・暗褐色・黒褐色シルトを主体とし、炭化物粒を含む。4・5層は、周溝堆積土である。6～8層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 直線的に立ち上がる。残存する壁高は、最大9cmを測る。

【床面】 平坦である。6～8層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から3基、掘り方から6基検出した。床面から検出したP1～3のうち、P1は規模と位置関係および柱痕跡が確認されたことから主柱穴に相当すると考えられる。P2・3は、P2では柱痕跡が確認されたが性格は不明である。掘り方から検出したP4～9は、P7とP9で新旧関係が認められ、P5～8で柱痕跡を確認したが性格は不明である。

【周溝】 検出した範囲においては、北壁と東壁の北半は壁際に沿って周り、東壁の南半は壁からやや離れた位置を周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅9～24cm、深さ18cmを測る。

【カマド】 検出していない。元より付設されなかったのか、重複遺構・発乱により失われたのか不明である。

【その他の施設】 検出していない。

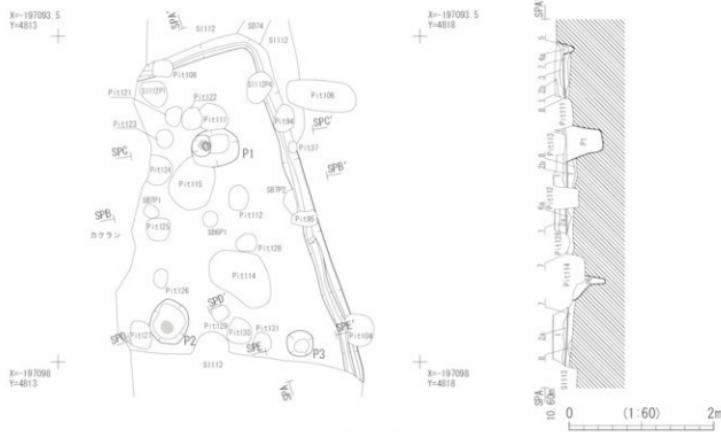
【掘り方】 全面が掘り込まれ、中央が島状に高まる。深さは5～12cmを測る。

【出土遺物】 土師器2点、礫石器2点を掲載した(第183図)。

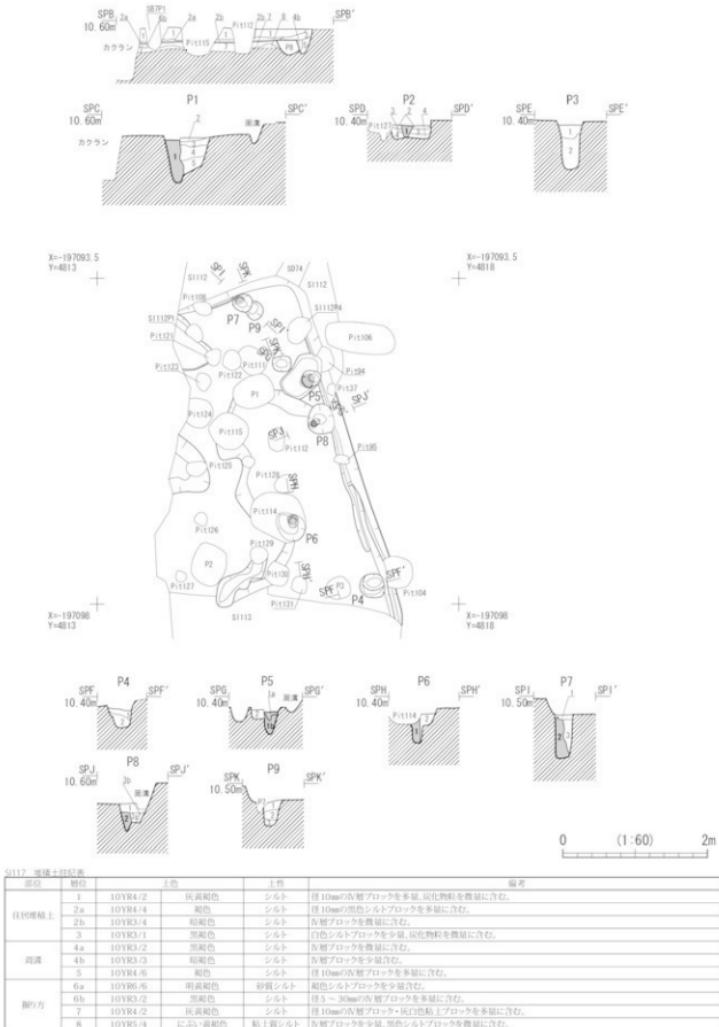
土師器2点は、1は住居堆積土、2は掘り方堆積土からの出土である。1は、鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を有する。底部は丸底と推定され、扁平に内湾する体部から短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に剥い稜を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデのち一部ヘラミガキ、体部外面および内面ヘラミガキが施される。2は、底部は丸底で、扁平に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施される。内面は、黒色処理される。

礫石器2点は、3は床面直上、4は床面施設(P8)から出土した梢円礫を素材とする礫石器である。3は、表面に線条痕を伴う磨面と下端部に敲打痕が確認される。4は、表裏面・側縁部・下端部に敲打痕が確認される。表面器体中央には、凹痕が確認される。

【時期】 伴う土器はないが、本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)の土器を伴うSI113より古いことから、本竪穴住居跡の時期は、5a期以前と考えられる。



第181図 SI117竪穴住居跡(1)



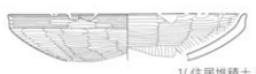
第182図 SII117竪穴住居跡(2)-掘り方完掘時施設棟出状況

50117 住設堆積土付跡遺

部位	層位	土色	土性	参考
P1	1	10YR3/3 灰褐色	シルト	古層ブロック多量、炭化物類を少量含む。(柱直跡)
	2	10YR5/2 灰褐色	シルト	古層ブロック多量、礫上・泥炭物類を微量に含む。
	3	10YR6/4 にじみ・黃褐色	シルト	古層ブロック多量、礫上・泥炭物類を微量に含む。
	4	10YR4/2 灰褐色	シルト	注 10m/古層ブロックを多量、径 2 ~ 20cm のブロック・炭化物類を少量含む。
	5	10YR3/2 灰褐色	粘土質シルト	注 1 ~ 5m/古層ブロックを少量、炭化物類を微量含む。
P2	1	10YR5/2 灰褐色	シルト	古層ブロックを微量に含む。
	2	10YR5/2 灰褐色	シルト	古層ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。(柱直跡)
	3	10YR4/2 褐色	粘土質シルト	古層ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。
	4	10YR3/3 灰褐色	シルト	古層ブロックを少量含む。
P3	1	10YR3/3 灰褐色	シルト	古層ブロック・炭化物類を少量、礫上・泥炭物に含む。
P4	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	径 10 ~ 30cm の古層ブロック・炭化物類を微量に含む。
P5	1a	10YR3/3 灰褐色	シルト	古色粘土・砂・礫上・炭化物類を微量に含む。(柱直跡)
	1b	10YR5/2 灰褐色	粘土質シルト	注 3 ~ 40cm の古層ブロックを少量、礫上・泥炭物に含む。(柱直跡)
P6	1	10YR3/2 灰褐色	シルト	古層シルト・砂・礫上・炭化物類を微量に含む。(柱直跡)
P7	1	10YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	古層ブロックを微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	古色粘土・砂・礫上・古層ブロックを微量に含む。(柱直跡)
	3	10YR4/4 褐色	シルト	地盤シルトブロックを微量含む。
P8	1	10YR2/3 灰褐色	シルト	地盤シルトブロックを少量、礫上・炭化物類を微量に含む。
	2	10YR2/3 灰褐色	シルト	古層ブロック・炭化物類を微量に含む。(柱直跡)
	3a	10YR3/1 灰褐色	シルト	径 30 ~ 50cm の古層ブロックを多量に含む。
P9	1b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	古層ブロックを微量含む。
	1	10YR5/3 にじみ・黃褐色	砂質シルト	注 3m/古色粘土・砂・礫上・炭化物類を微量含む。
	2	10YR4/1 褐色	シルト	古層ブロックを多量に含む。
	3	10YR4/2 灰褐色	シルト	古層ブロックを少量含む。

50117 住設堆積土

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	参考
P1	不規則形	66 × 54	63	
P2	不規則形	63 × 54	21	
P3	不規則形	39 × 60	60	
P4	円形	36 × 26	24	
P5	不規則円形	69H × 45	36	



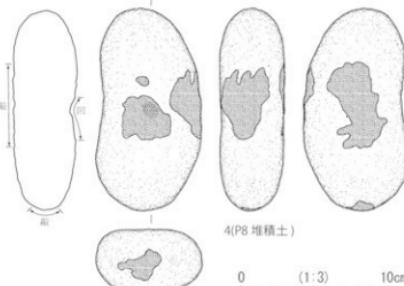
1(住居堆積土上層)



2(掘り方堆積土)



3(床面直上)

4(P8 堆積土)
0 (1:3) 10cm

回数 番号	付番 番号	調査区	出土地	層位	種別	断面	部位	法線(cm)			外面調整	内面調整	参考	写真 回数
								上段	中段	下段				
1	C-283	17番区	S1117	住設堆積土 上層	土被層	H-	上層	(16.4)	-	(3.2)	1層、2層、3層の付随土	3層付随土		83
2	C-284	17番区	S1117	脚力方塊堆積土	土被層	H-	堅定期	16.6	-	5.1	1層、2層、3層の付隨土	3層付隨土	内面黒色處理、外面摩耗	83
回数 番号	付番 番号	調査区	出土地	層位	種別	断面	部位	法線(cm)	上段	中段	外面調整	内面調整	参考	写真 回数
3	K-013	17番区	S1117	床面直上	磚石層	壁・面	10.9	4.3	2.8	161.85	右斜面	極少隙隙、壁面の程度度、人物頭部	83	
4	K-045	17番区	S1117	P8堆積土	磚石層	門・土	14.0	7.4	4.5	676.80	右斜面	右斜面の頭部、壁(4段階)の程度度	83	

第183図 S1117 穴室住跡出土遺物

SI118 穫穴住居跡(第184～187図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-8グリッドに位置する。南西コーナー付近と東半は、重複遺構(SI109・111、SB7)と擾乱により失われている。

【重複】 SI109・111・126と重複関係にあり、SI126より新しくSI109・111より古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北462cm、東西222cmを測る。平面形状は、方形ないし長方形と推定される。

【方向】 西壁基準でN-18°-Eである。

【堆積土】 大別7層、細別10層に分層された。1～5層は住居堆積土で、褐色・黒褐色シルトを主体とし、焼土粒・炭化物粒を含む。6・7層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大39cmを測る。

【床面】 平坦である。6・7層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から9基、掘り方から1基検出した。床面から検出したP1～3と掘り方から検出したP10は、規模と位置関係から主柱穴に相当すると考えられ、P2からは柱痕跡を確認した。このうち、P1とP10、P2と3は重複関係が認められることから、建て替えが行われたと考えられる。床面から検出したP4～9は、壁際に規則的に並ぶことから壁柱穴と考えられる。また、P4～9の間からは、補助柱穴と考えられる小ピットを13基検出した。

【周溝】 検出していない。

【カマド】 検出していない。元から付設されなかったのか、擾乱により失われたのか不明である。

【その他の施設】 掘り方から土坑2基を検出した。SK1・2とも平面形状は楕円形、テラス状の段を持ち、底面は平坦である。

【掘り方】 西壁と北壁は壁のやや内側から掘り込まれ、南壁際は壁直下から掘り込まれる。深さは6～18cmを測る。底面から、多数の工具痕を検出した。

【出土遺物】 土師器環2点・鉢1点・甕3点、須恵器環3点・碗1点、石製品1点を掲載した(第186・187図)。

土師器環2点(第186図-1・2)は、1は掘り方堆積土、2は床面施設(SK1)堆積土からの出土である。1は、底部は丸底と推定され、扁平に内湾する体部から短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、段・稜を持たない。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施される。内面は、黒色処理される。2は、底部は丸底で、扁平に内湾する体部から外反する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施される。内面は、黒色処理される。

土師器鉢(第186図-3)は、住居堆積土からの出土である。底部は平底で、半球形に内湾する体部から短く直立する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、段・稜を持たない。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面および内面はヘラミガキが施される。内面は、黒色処理される。

土師器甕(第186図-4～6)は、4・5は住居堆積土、6は床面上からの出土である。いずれも長胴の胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。4の口縁端部内面は折り返され、5の口縁部外面は若干肥厚する。口縁部と胴部の境は、4・5は段・稜を持たず、6は段を持つ。胴部の最大径は、4・5は上位、6は中位に持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデは共通するが、胴部の調整は異なり、4は内外面ヘラナデ、5は外面ハケメ、内面下半ハケメのち上半ヘラナデ、6は外面ヘラケズリのち一部ヘラミガキ、内面ヘラケズリが施される。

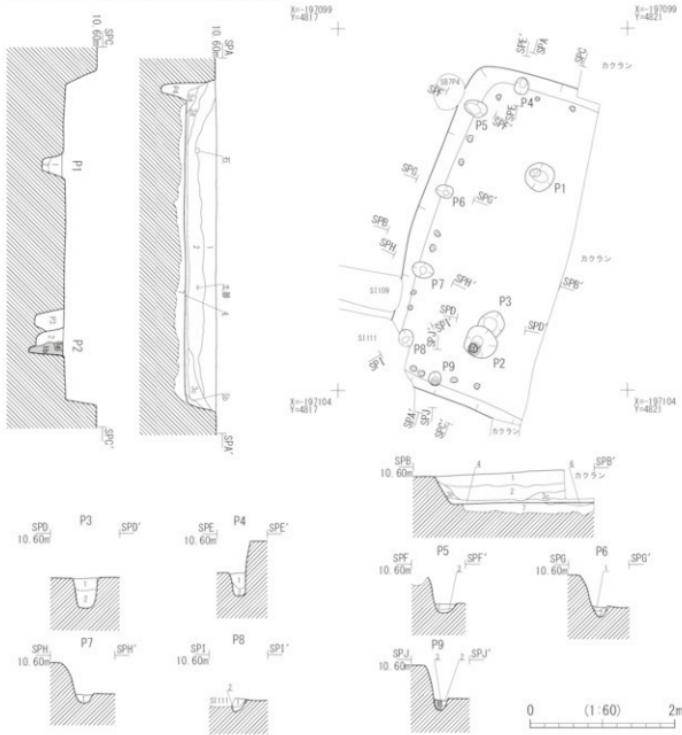
須恵器環3点(第186図-7・8、第187図-1)は、住居堆積土からの出土である。第186図-7は底部と体部の境は緩やかに屈曲し、体部から口縁部は直線的に外傾する器形を呈する。体部下半に沈線が1条施される。底部切り離し

技法は不明だが、回転ヘラケズリのち手持ちヘラケズリが施される。第186図-8・第187図-1は、底部と体部の境は強く屈曲し、第186図-8は緩やかに内湾する体部から外傾する口縁部にいたり、第187図-1は体部から口縁部は直線的に外傾する器形を呈する。第186図-8の底部切り離し技法は回転ヘラ切り、第187図-1の底部切り離し技法は不明だが手持ちヘラケズリが施される。第186図-8の底部には「T」字状、第187図-1の底部には「×」字状の線刻が施される。

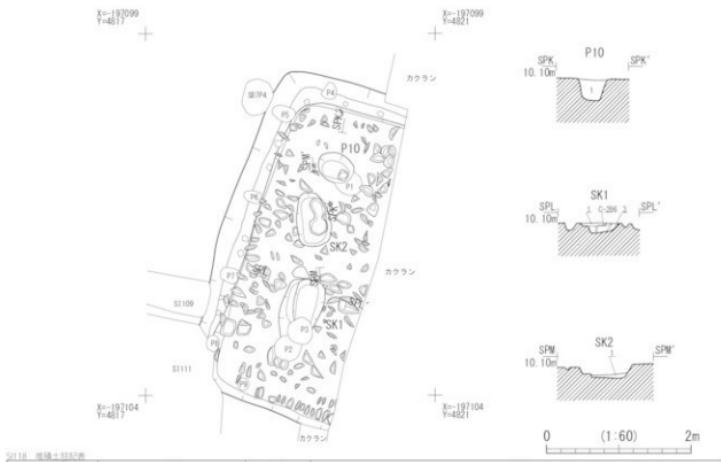
須恵器碗(第187図-2)は、住居堆積土からの出土である。体部から口縁部は直線的に外傾する。

石製品(第187図-3)は、住居堆積土から出土した凝灰岩製の砥石である。全面に砥面が形成され、顕著な線条痕・溝状痕を伴う。使用により形状は大きく変形している。石質は、緻密で仕上砥に相当する。

【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器甕(第186図-6)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられるが、明確な時期は不明である。しかし、本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)の土器を伴うSI 111より古いくことから、本竪穴住居跡の時期は5a期以前と考えられる。



第184図 SI 118 竪穴住居跡(1)



SI118 住居跡(2)平面

部位	層位	土色	土性	備考
住民堆積上	1 10YR4/4	褐色	シルト	瓦礫ブロックを少量、埴土・炭化物を微量に含む。
	2 10YR5/1	黒褐色	シルト	瓦礫ブロックを少量、埴土を微量に含む。上部に炭化物を微量(厚5mm)に含む。
	3 10YR4/1	褐色	シルト	瓦礫ブロックを少量、埴土・炭化物を微量に含む。
	3b 10YR5/4	灰褐色	砂質シルト	瓦礫シルトブロックを多量に含む。
	3c 10YR4/4	灰褐色	粘土質シルト	瓦礫シルトブロックを多量に含む。
	4 10YR3/3	褐色	シルト	白粘土・シロコロク多量、炭化物を少額含む。
	5 10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト	瓦礫シルトブロックを少量含む。
掘り方	5b 10YR3/2	褐色	シルト	瓦礫ブロックを極微量に含む。
	6 10YR3/1	黒褐色	シルト	瓦礫ブロックを少量含む。
	7 10YR3/2	褐色	シルト	瓦礫シルトブロックを多量に含む。

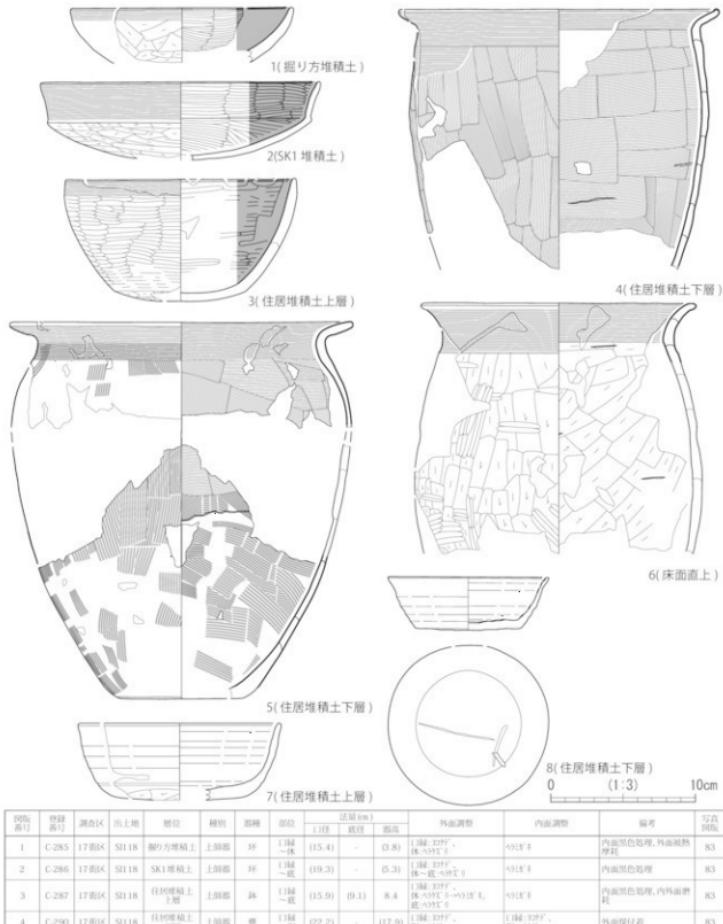
SI118 住居跡(2)柱

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1 10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト	瓦礫ブロックを幾量に含む。
	2 10YR4/3	褐色	粘土質シルト	瓦礫シルトブロックを少量、炭化物を微量に含む。
P2	1 10YR4/3	褐色	粘土質シルト	瓦礫シルトブロックを微量に含む。
	2 10YR3/3	褐色	粘土質シルト	瓦礫シルトブロックを微量に含む。(柱頭跡)
P3	1 10YR4/2	灰褐色	シルト	瓦礫ブロックを多量、埴土を微量に含む。
	2 10YR3/1	褐色	粘土質シルト	瓦礫シルトブロックを少量、炭化物を微量に含む。
P4	1 10YR3/4	褐色	粘土質シルト	瓦礫シルトブロックを少量含む。
	2 10YR2/3	褐色	粘土質シルト	瓦礫ブロックを微量に含む。
P5	1 10YR4/3	灰褐色	粘土質シルト	瓦礫シルトブロックを少量、炭化物を微量に含む。
	2 10YR3/3	褐色	粘土質シルト	瓦礫シルトブロックを微量に含む。
P6	1 10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト	瓦礫・炭化物を微量に含む。
	2 10YR4/3	灰褐色	粘土質シルト	瓦礫シルトブロックを微量に含む。
P7	1 10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト	瓦礫ブロックを少量、炭化物を微量に含む。
	2 10YR4/3	灰褐色	粘土質シルト	瓦礫ブロックを多量、白色のシロコロクを微量に含む。
P8	1 10YR3/3	褐色	粘土質シルト	瓦礫ブロックを微量に含む。
	2 10YR3/3	褐色	粘土質シルト	瓦礫ブロックを微量に含む。
P9	1 10YR3/3	褐色	粘土質シルト	瓦礫シルトブロックを微量に含む。(柱頭跡)
	2 10YR4/3	灰褐色	粘土質シルト	瓦礫ブロックを極微量に含む。
	3 10YR2/1	黑色	粘土質シルト	瓦礫シルト・黒色シルトを含む。
P10	1 10YR3/3	褐色	シルト	瓦礫シルトブロックを微量に含む。
	2 10YR5/6	褐色	粘土質シルト	瓦礫シルト・白粘土・シロコロクを微量に含む。
SK1	2 2.5Y5/2	暗褐色	粘土	瓦礫シルトブロックを微量に含む。
	3 10YR8/2	灰褐色	粘土	瓦礫シルトブロックを微量に含む。
	3 10YR9/2	黑色	粘土質シルト	瓦礫シルトブロックを微量に含む。
SK2	1 7.5YR9/2	黑色	粘土質シルト	瓦礫シルトブロックを少量含む。

SI118 他の剖面

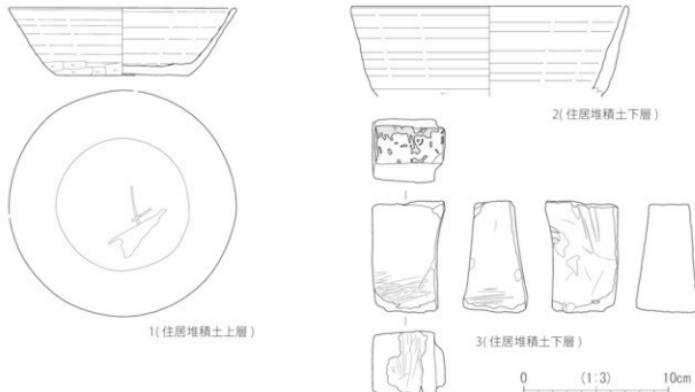
透視名	平面形	幅締(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	42×39	27	
P2	不規則形	45×45	48	
P3	不規則形	39×39	39	
P4	不規則形	24×18	33	
P5	不規則形	33×21	12	
P6	不規則形	24×18	12	
P7	楕円形	30×21	9	
P8	円形	24×21	18	
P9	円形	24×21	12	
P10	楕円形	(51)×43	23	
SK1	楕円形	(60)×57	15	
SK2	楕円形	75×48	6	

第185図 SI118竪穴(住居跡(2))・掘り方実施時施設棲出状況



第186図 S1118竪穴住跡出土遺物(1)

番号 番号	器種 器種	調査区 調査区	出土地 出土地	層位 層位	種別 種別	部位 部位	法面 (cm) 法面 (cm)	外側調整 外側調整	内側調整 内側調整	備考 備考	写真 写真		
1 C-285	17面(4)	SI118	掘方堆積土	上部	土師器	H	1.04 -一体 (15.4)	-	(3.8)	丁目付、 脚、内面付	SI118-4	内面黒色處理、外側被熱 厚接	83
2 C-286	17面(4)	SI118	SK1堆積土	上部	土師器	H	1.04 -一張 (19.3)	-	(5.3)	丁目付、 脚、内面付	SI118-4	内面黒色處理	83
3 C-287	17面(4)	SI118	日焼堆積土 下層	上部	土師器	H	1.04 -脚 (15.9)	(9.1)	8.4	丁目付、 脚、内面付、内面被熱 厚接	SI118-4	内面黒色處理、内面被熱 厚接	83
4 C-290	17面(4)	SI118	日焼堆積土 上層	上部	土師器	裏	1.04 -脚 (22.2)	-	(17.9)	丁目付、 脚、内面付	SI118-4	外側埋行者	83
5 C-288	17面(4)	SI118	日焼堆積土 下層	上部	土師器	裏	1.04 -脚 (23.6)	(8.5)	(26.0)	丁目付、 脚、内面付	SI118-4	外側被熱厚接、外側脚～ 底深埋行者	84
6 C-289	17面(4)	SI118	床面直上	上部	土師器	裏	1.04 -脚 (19.0)	-	(17.4)	丁目付、 脚、内面付	SI118-4	丁目付、 脚、内面付	84
7 E-090	17面(4)	SI118	日焼堆積土 上層	須志器	H	1.04 -脚 (14.0)	-	5.3	内面被熱、内面付 脚、内面付、内面付	SI118-4	内面被熱	84	
8 E-091	17面(4)	SI118	日焼堆積土 下層	須志器	H	1.04 -脚 (11.1)	7.3	3.6	内面被熱、 脚、内面付	SI118-4	外側底部にT字状縫隙	84	



国際 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量(cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	外周調整	内面調整	備考	写真 回数
1	E-089	17街区	SI118	住居堆積土 上層	泥炭層	灰	上縁	1.74 (15.8)	4.7	0%調節、床下端一箇所、手 持りつかえ	0%調節	外周部に「×」で状況 記	84	
2	E-092	17街区	SI118	住居堆積土 下層	泥炭層	灰	上縫 -18	1.74 (19.2)	-	0%調節	0%調節		84	
								法量(cm)	底径 (cm)	高さ (cm)				
3	Kd-004	17街区	SI118	住居堆積土 上層	石製品	砾石	全長	7.7	5.1	4.5	244.63	断面石	備考	写真 回数
												断面6面、溝状痕あり、縫合痕あり、刃物痕あり		84

第187図 SI118 穴竪住跡出土遺物(2)

SI119 穴竪住跡(第188～190図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-9グリッドに位置する。カマドから北東コーナーにかけてを検出した。西侧は搅乱により失われ、南側は調査区外にかかる。

【重複】 SI116・127と重複関係にあり、これより新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北100cm、東西330cmを測る。平面形状は不明である。

【方向】 カマド煙道部標準でN-13°-Eである。

【堆積土】 大別16層、細別24層に分層された。1～5層は住居堆積土で、黒褐色シルトを主体とする層が多く、焼土粒・炭化物粒を含む。6層は、周溝堆積土である。7～13層はカマド関連層位で、このうち10層は天井崩落土である。煙道部底面直上の12b層は焼土層、13層は炭化物層である。14・15層は、カマド袖構築土である。16層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 やや内湾して立ち上がる。残存する壁高は、最大45cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦である。16層上面を床面としている。

【柱穴】 検出していない。

【周溝】 検出した範囲においては、カマド直下を除き壁際に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅30cm、深さ12cmを測る。

【カマド】 北壁に位置し、壁面に対して直交して付設される。西袖の半分は搅乱により失われている。袖の規模は、西袖は残存する長さ42cm、幅12cm、東袖は長さ57cm、幅33cmを測る。壁面に対し、東袖は直交する。

燃焼部の規模は、奥行き57cm、幅48cm、奥壁高12cmを測り、奥壁は住居から若干張り出す。底面は平坦で、奥

壁は直線的に外傾して立ち上がる。燃焼部前面の床面は被熱を受ける。

煙道部の規模は、長さ168cm、幅39cm、深さ15～48cmを測る。底面は、燃焼部側から先端に向かって大きく下がる。底面直上に堆積する焼土層(12b層)と炭化物層(13層)の上面に天井崩落土(10b層)が堆積している。このことから、本堅穴住居跡が廃絶されるまで、焼土層と炭化物層が厚く堆積した状態で使用されていたと考えられる。

【その他の施設】 床面から1基、掘り方から1基の土坑を検出した。いずれも位置関係から貯蔵穴と考えられるが、SK1は底面にピット状の落ち込みがみられる事から、主柱穴の可能性も考えられる。

【掘り方】 全面が掘り込まれる。深さは2～14cmを測る。

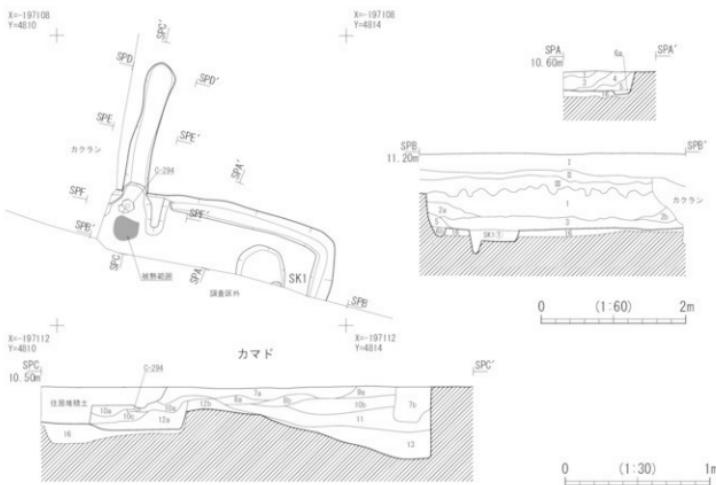
【出土遺物】 土師器環2点・鉢1点・甕1点を掲載した(第190図)。

土師器環2点は、ともに住居堆積土からの出土である。1は、底部は平底で、底部と体部の境は緩やかに屈曲し、内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。2は、底部は底径の大きい平底で、底部と体部の境は屈曲し、内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。1・2とも、口縁部と体部の境は、段・棱を持たない。調整は、口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラミガキは共通で、体部外面は1がヘラミガキ、2はヘラケズリが施される。内面は、黒色処理される。外面は、被熱による摩耗がみられ、特に底部は顕著である。

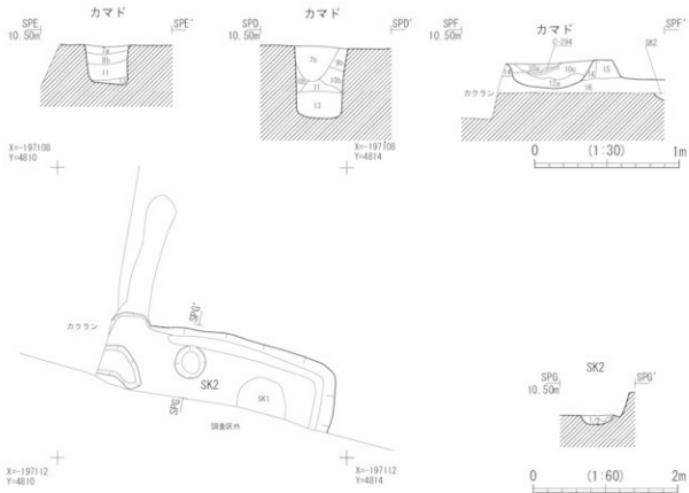
土師器鉢は、住居堆積土からの出土である。底部は平底の丸底で、内湾する体部から短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキが施される。内面は黒色処理される。外面は、被熱による摩耗がみられ、特に底部は顕著である。

土師器甕は、カマド堆積土からの出土である。胴部は長胴で、胴部の最大径は中位に持つと考えられる。底部と胴部の境は強く屈曲し、底部は突出する。調整は、胴部外面ヘラケズリ、胴部内面ハケメが施される。

【時期】 作る上器はないが、本書の時期区分5b ii期(8世紀前葉)以前と考えられるSI 116より新しいことから、本堅穴住居跡の時期は、5b ii期以降と考えられる。



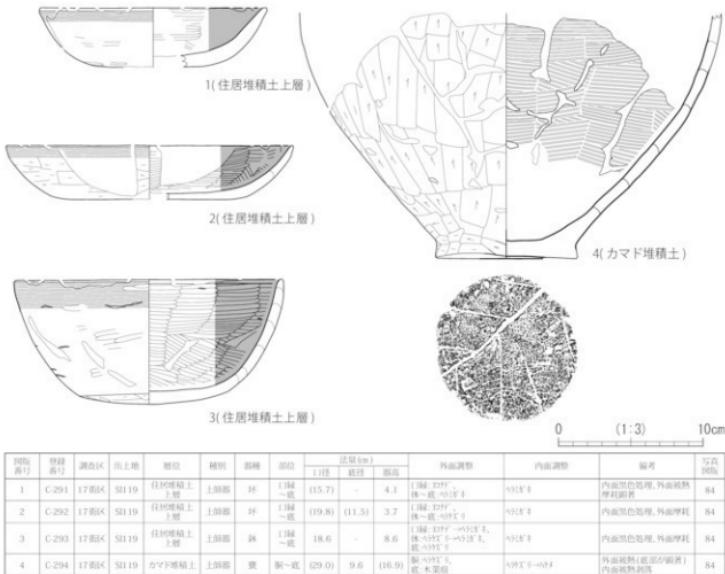
第188図 SI 119堅穴住居跡(1)



SI119 住居跡2断面図				備考
地層	層位	土色	土性	備考
住居構造上	1 10YR3/2	黒褐色	シルト	径10~50mmの石塊ブロックを多量、下部に炭化物を帶びに含む。(厚10~20mm)
	2a 10YR4/2	灰褐色	シルト	径10mmの灰色シルトブロックを多量、褐色シルトブロックを少量含む。
	2b 10YR2/2	黒褐色	シルト	径10mmの石塊ブロックを少量含む。
	3 10YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物+ルートロック(褐色)・炭化物を少量含む。
	4 10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物+ルートロック(褐色)・炭化物を少量含む。
	5 10YR2/1	褐色	シルト	炭化物+ルートロック(褐色)・炭化物を少量含む。
周溝	6a 10YR3/3	暗褐色	シルト	径5~10mmの石塊ブロックを少量、礫上砂・炭化物を微量に含む。
	6b 10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量、炭化物を微量に含む。
カマド	7a 10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物を少量、炭化物を微量に含む。
	7b 10YR4/2	灰褐色	シルト	炭化物を少量、炭化物を微量に含む。
	7a 10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト	径5mmの石塊ブロックを少量、炭化物を微量に含む。
	8b 10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	径5mmの石塊ブロックを少量、礫上砂・炭化物を微量に含む。
	9a 10YR6/4	に赤い黄褐色	シルト	石塊ブロックを多量、礫上砂を微量に含む。
	9b 10YR4/2	灰褐色	シルト	径10mmの石塊ブロックを多量、炭化物を少量含む。
	10a 10YR5/3	に赤い黄褐色	粘土質シルト	炭化物を少量、礫上砂を微量に含む。(天井剥落上)
	10b 10YR5/3	に赤い黄褐色	粘土質シルト	炭化物+ルートロック(褐色)を多量、下部に炭化物を带びに含む。(天井剥落上)
	10c 10YR5/2	灰褐色	粘土質シルト	径5~10mmの石塊ブロックを多量、炭化物を少量含む。(天井剥落上)
カマド鉢	11 10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト	炭化物を多量、に赤い黄褐色粘土質シルトを帶び少量含む。
	12a 10YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物を微量、径5~20mmの石塊ブロックを多量に含む。
掘方	13 N1 5/0	赤褐色	シルト	炭化物、径10~30mmの石塊ブロックを少量、礫上砂を微量に含む。
	14 2,5YR4/2	灰褐色	シルト	石塊ブロックを微量、炭化物を少量含む。
掘方	15 2,5YR6/3	に赤い黄褐色	粘土質シルト	炭化物、礫上砂を微量に含む。
	16 10YR4/2	灰褐色	シルト	径10~20mmの石塊ブロックを多量、礫上砂・炭化物を微量に含む。

SI119 住居跡2土質表				備考
地層	層位	土色	土性	備考
SK1	1	7,5YR3/2	黒褐色	シルト 石塊ブロック・褐色シルトを含む。
SK2	1	7,5YR3/2	黒褐色	粘土質シルト 石塊ブロック・褐色シルトを含む。
	2	10YR6/4	に赤い黄褐色	粘土質シルト 径5~10mmの石塊ブロックを多量、径10mmの礫上砂を微量に含む。

第189図 SI119竪穴(住居跡2)-掘方実施段階出狀況



第190図 SI119竪穴住居跡出土遺物

SI120 竪穴住居跡(第191～193図)

【位置・確認】 17街区西半、W-8グリッドに位置する。北壁の一部と東壁は、撲乱により失われている。本竪穴住居跡は、カマドの造り替えが行われたと考えられ、カマド燃焼部が2基検出された。新しいものをカマド1、古いものをカマド2とした。

【重複】 SI121・122と重複関係にあり、これより新しい。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北355cm、東西489cmを測る。平面形状は、主柱穴と考えられるP1～4の位置関係から方形と推定される。

【方向】 カマド1煙道部基準でN-7°-Eである。

【堆積土】 大別25層、細別29層に分層された。1～4層は住居堆積土で、にぶい黄褐色・暗灰黄色シルト、黒褐色粘土質シルトを主体とし、焼土粒・炭化物粒を含む。5層は、周溝堆積土である。6～15層はカマド1の関連層位で、にぶい黄褐色・にぶい黄橙色・灰黃褐色シルトを主体とし、灰白色粘土ブロック・焼土粒・炭化物粒を含む。このうち、6・7層は天井崩落土である。16・17層は、カマド1の袖構築土である。18～22層はカマド2の関連層位で、22層は掘り方である。21層は、支脚掘り方と考えられるピット状の落ち込みの堆積土である。23～25層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 緩やかに内湾して立ち上がる。残存する壁高は、最大27cmを測る。

【床面】 若干起伏する。23～25層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から4基検出した。P1～4は、規模と位置関係およびP1～3では柱痕跡が確認されたことから、主柱穴に相当すると考えられる。

【周溝】 検出した範囲においては、カマド付近と東壁南半を除き、壁際に沿って固る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅18～45cm、深さ24cmを測る。

【カマド】 カマドの造り替えが行われたと考えられ、カマド燃焼部が2基検出された。新しいものをカマド1、古いものをカマド2とした。カマド2は、燃焼部の一部を除き撲滅により失われている。カマド1は北壁のやや東側に位置し、壁面に対して直交して付設される。袖の規模は、西袖が長さ54cm、幅18cm、東袖が長さ75cm、幅36cmを測る。北壁に対し、西袖は直交し、東袖は西傾する。カマド2は北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設されたと考えられる。袖は、残存していない。

カマド1の燃焼部の規模は、奥行き72cm、幅54cm、奥壁高11cmを測り、奥壁は住居内に収まる。底面は平坦で、奥壁は緩やかに外傾して立ち上がる。燃焼部の奥壁よりやや西側から、支脚として使用されたと考えられる円錐が直立した状態で検出された。また、底面直上から外面に被熱を受けた土師器壺(第193図-4)が出土した。

カマド2の燃焼部の規模は、奥行き63cm、幅60cm、奥壁高11cmを測り、奥壁は住居から大きく張り出す。底面は奥壁に向かって緩やかに上がる。底面からは、支脚の掘り方と考えられるピット状の落ち込みが2ヶ所検出された。

カマド1の煙道部の規模は、長さ222cm、幅42cm、深さ27～33cmを測る。底面は、おおむね平坦である。

カマド1の煙出し部の規模は、長軸81cm、短軸48cm、煙道部からの深さ20cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

【その他の施設】 床面から3基、掘り方から2基の土坑を検出した。床面から検出したSK1と2は、カマド1の東袖に隣接し、住居北東隅に位置することから、貯蔵穴と考えられる。

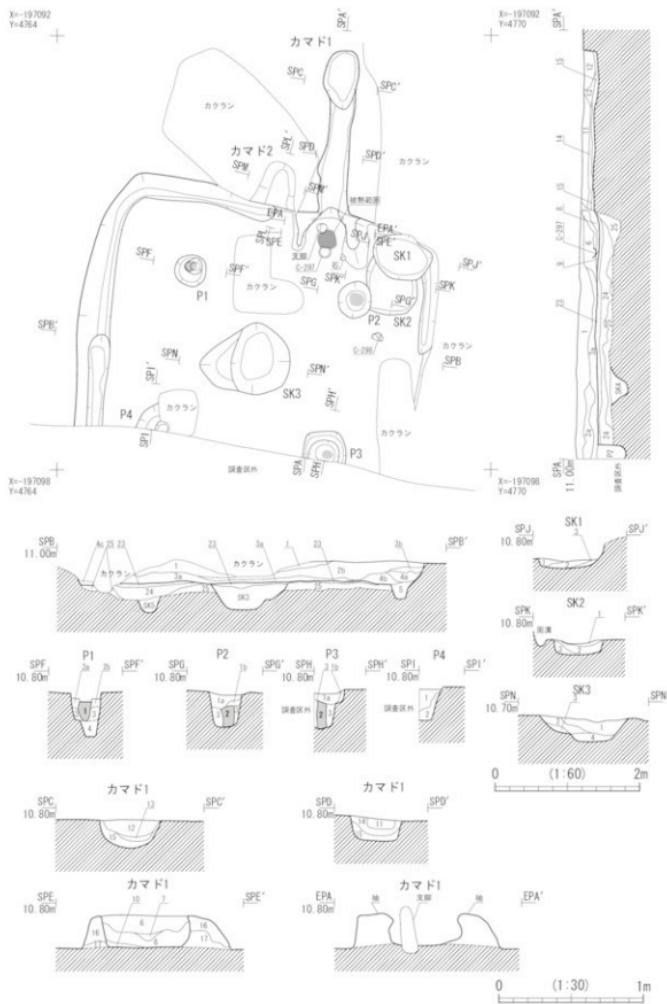
【掘り方】 不規則に全面が掘り込まれるとともに、土坑状の掘り込みが多数みられる。深さは、25～47cmを測る。

【出土遺物】 土師器壺4点、須恵器壺1点を掲載した(第193図)。

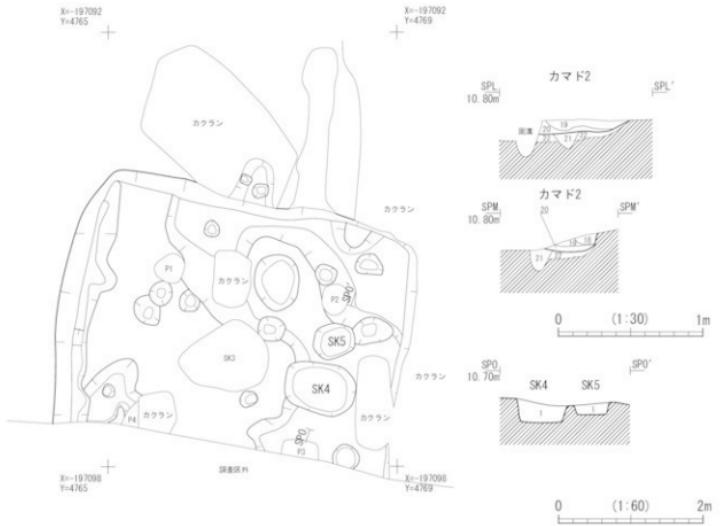
土師器壺4点は、1は住居堆積土、2はカマド2堆積土、3は床面直上、4はカマド1燃焼部底面直上からの出土である。1は、鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を有する。底部は丸底と推定され、扁平に内湾する体部から直線的に内傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、内外面とも棱を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面へラケズリ、体部内面へラナデが施される。2～4は、底部は丸底で、扁平に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に棱を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、内面へラミガキは共通で、体部外面は2・3がヘラケズリ、4はヘラミガキが施される。内面はいずれも、黒色処理される。

須恵器壺は、住居堆積土からの出土である。肩部に1条、胴部に2条の沈線で区画された範囲に、刺突文が施文される。

【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器壺(3)とカマド1燃焼部底面直上から出土した土師器壺(4)は、本竪穴住居跡に作られたと考えられる。本書の時期区分では、5a期(7世紀中葉～後葉)の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。



第191図 SI120竪穴住居跡(1)



SI120 延跡+付帯施設			
部位	部位	土色	土性
住居構造上	1	10YR4/3	にじみ・黄褐色
	2	10YR3/3	稍黃褐色
	3	10YR3/3	褐色
	3a	10YR3/2	暗褐色
	3b	10YR3/1	黑色
	4a	10YR5/3	にじみ・黃褐色
雨溝	4b	10YR3/1	黑色
	4c	10YR4/3	にじみ・黃褐色
カマド1	5	10YR5/2	灰褐色
	6	10YR6/3	にじみ・黃褐色
	7	10YR5/3	にじみ・黃褐色
	8	2.5YR4/2	灰褐色
	9	10YR5/2	灰褐色
	10	10YR5/2	灰褐色
カマド1地	11	10YR6/4	にじみ・黃褐色
	12	10YR5/4	にじみ・黃褐色
	13	10YR5/3	にじみ・黃褐色
	14	10YR5/2	灰褐色
	15	10YR6/4	にじみ・黃褐色
カマド1地	16	10YR6/4	にじみ・黃褐色
	17	10YR6/4	にじみ・黃褐色
	18	10YR6/4	にじみ・黃褐色
カマド2	19	10YR6/6	明褐色
	20	10YR3/1	黑色
	21	10YR4/1	褐色
	22	10YR5/3	にじみ・黃褐色
掘り方	23	10YR6/3	にじみ・黃褐色
	24	10YR5/3	にじみ・黃褐色
	25	10YR6/4	にじみ・黃褐色

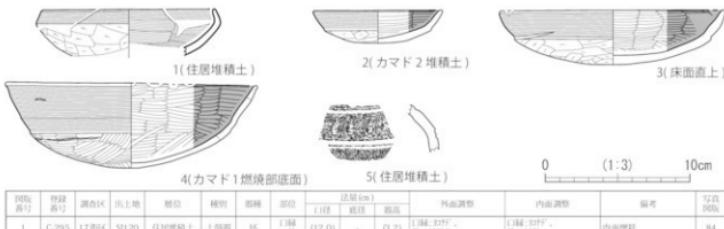
備考

- 1～5: 5～10mmの白いブロックを少額、焼土粒・炭化物を微量に含む。
- 6～10: 5～10mmの白いブロックを多量、焼土粒・炭化物を微量に含む。(天井剥落)
- 11～15: 5～10mmの白いブロックを少額、焼土粒・炭化物を微量に含む。下部に褐色色のシートブロックを多量に含む。
- 16～20: 5～10mmの白いブロックを多量、焼土粒・炭化物を微量に含む。
- 21～25: 5～10mmの白いブロックを少額、白色色のシートブロックを多量に含む。

第192図 SI120竪穴住居跡(2) -堀方完掘時施設検出状況

SI120 堆積土柱剖面			
部位	層位	土色	土性
P1	1 10YR4/1	褐灰色	シルト 径10mmの白色粘土質ブロック多量含む。(柱粗部)
	2a 10YR4/2	灰褐色	シルト 表面ブロック表面に少く、斑状色粘土ブロックを微量に含む。
	2b 10YR5/2	灰褐色	シルト 径10~20mmの白色粘土ブロック多量含む。
	3 10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト 径10~20mmの白色粘土ブロック多量含む。(柱粗部)
P2	4 10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト 径10~20mmの白色粘土ブロック多量含む。(柱粗部)
	5 10YR5/2	灰褐色	粘土質シルト 径10~20mmの白色粘土ブロック多量含む。(柱粗部)
	6 10YR5/3	灰褐色	粘土質シルト 径10~20mmの白色粘土ブロック多量含む。(柱粗部)
	7 10YR5/3	灰褐色	粘土質シルト 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。径10mmの白色粘土ブロックを微量に含む。
P3	8 10YR5/2	灰褐色	粘土質シルト 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。径10mmの白色粘土ブロックを微量に含む。(柱粗部)
	9 10YR5/3	灰褐色	粘土質シルト 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。(柱粗部)
	10 10YR5/3	灰褐色	粘土質シルト 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。(柱粗部)
P4	11 10YR5/2	灰褐色	粘土質シルト 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。(柱粗部)
	12 10YR6/3	灰褐色	粘土質シルト 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。径10mmの白色粘土ブロックを微量に含む。
SK1	13 10YR4/3	灰褐色	シルト 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。径10~20mmの白色粘土ブロックを微量に含む。(柱粗部)
	14 10YR4/3	灰褐色	シルト 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。(柱粗部)
SK2	15 10YR5/2	灰褐色	シルト 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。表面は20mmの白色粘土ブロック多量含む。燒土粒を微量に含む。
	16 10YR5/2	灰褐色	シルト 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。表面は20mmの白色粘土ブロック多量含む。燒土粒を微量に含む。
SK3	17 2.5YR6/3	灰褐色	粘土 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。表面は20mmの白色粘土ブロック多量含む。
	18 2.5Y5/2	暗灰褐色	粘土質シルト 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。表面は20mmの白色粘土ブロック多量含む。燒土粒を微量に含む。
	19 2.5Y5/2	暗灰褐色	粘土質シルト 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。表面は20mmの白色粘土ブロック多量含む。燒土粒を微量に含む。
	20 10YR6/4	灰褐色	粘土質シルト 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。
SK4	21 10YR6/4	灰褐色	シルト 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。
SK5	22 10YR6/4	灰褐色	シルト 表面は白色 表面ブロックを微量に含む。

SI120 地盤調査表				SI120 地盤調査表			
地盤名	平面形	幅約(m)	深さ(m)	地盤名	平面形	幅約(cm)	深さ(m)
P1	51 × 45	54		SK1	不整地(凹)	87 (63)	12
P2	48 × 42	45		SK2	傾斜丘陵形	(69) × 78	18
P3	傾斜方	(66) × 48	48	SK3	傾斜丘陵形	126 × 60	30
P4	小町	(42) × (39)	42	SK4	傾斜丘陵形	102 × 75	20
				SK5	不整地(凸)	60 × 48	15



第193図 SI120豎穴住居跡出土遺物

SI121 豊穴住居跡(第194・195図)

【位置・確認】 17街区西半、W-8グリッドに位置する。南東部と西壁の一帯、カマドの大半は、重複遺構(SI 120、SK 105、Pit 82)と擾乱により失われている。

【重複】 SI 120・122・123と重複関係にあり、SI 122・123より新しく、SI 120より古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北762cm、東西738cmを測る。平面形状は、方形を呈する。

【方向】 カマド基準でN-33°Wである。

【堆積土】 大別12層、細別20層に分層された。1~6層は住居堆積土で、にぶい黄褐色・灰黃褐色シルトを主体とし、灰白色粘土ブロック・焼土粒・炭化物粒を含む。7層は、周溝堆積土である。8層は、間仕切り溝堆積土である。

9・10層はカマド関連層位で、9層は天井崩落である。11・12層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大30cmを測る。

【床面】 おむね平坦である。11・12層上面を床面としている。

【柱穴】 5基検出した。すべての柱穴で、柱痕跡が確認された。P1～3は、規模と位置関係から主柱穴に相当すると考えられ、P4・5は、壁柱穴と考えられる。

【周溝】 検出した範囲においては、壁際に沿って全周する。カマド付近に関しては、擾乱により失われているため不明である。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅12～48cm、深さ9～18cmを測る。

【カマド】 北壁中央に位置し、壁面に対して直交して付設されたと考えられる。燃焼部と袖の一部を除き、擾乱により失われている。残存する袖の規模は、西袖は長さ18cm、幅15cm、東袖は長さ60cm、幅24cmを測る。袖の先端は、燃焼部に向かって屈曲する。

残存する燃焼部の規模は、奥行き60cm、幅42cmを測り、底面は掘り込まれない。堆積土中から、芯材と考えられる自然縛を検出した。

【その他の施設】 土坑5基と間仕切り溝4条を検出した。SK2・5は住居北東コーナーに位置し、重複関係が認められる。平面形状は、ともに不整橿円形を呈し、底面は平坦である。これらのことから、SK2・5は貯蔵穴と考えられる。SK1・3・4は、規模・形状は似ているが性格は不明である。間仕切り溝の規模は、長さ43～128cm、幅12～17cm、深さ5～18cmを測る。間仕切り溝は、西壁から2条、東壁と南壁から1条が壁面に直交して伸びる。西壁から伸びる間仕切り溝の位置関係から、擾乱により失われているが、本来は東壁と南壁もそれぞれ2条の間仕切り溝が掘り込まれていたと考えられる。

【掘り方】 全面が掘り込まれる。深さは4～27cmを測る。

【出土遺物】 土師器環3点・鉢1点・甕5点・甑1点を掲載した(第196・197図)。

土師器環3点(第196図-1～3)は、1はSK2堆積土、2・3は住居堆積土からの出土である。1は、底部は丸底で、半球形に内湾する体部から短く内傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に稜を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデのち一部ヘラミガキ、体部外面ヘラミガキ、体部内部ヘラナデが施される。2は、底部は丸底で、扁平に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、内外面に弱い稜を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内部ヘラナデが施される。3は、底部は丸底で、扁平に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部境は、外面に段、内面に稜を持つ。調整は口縁部外面ヘラミガキ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。

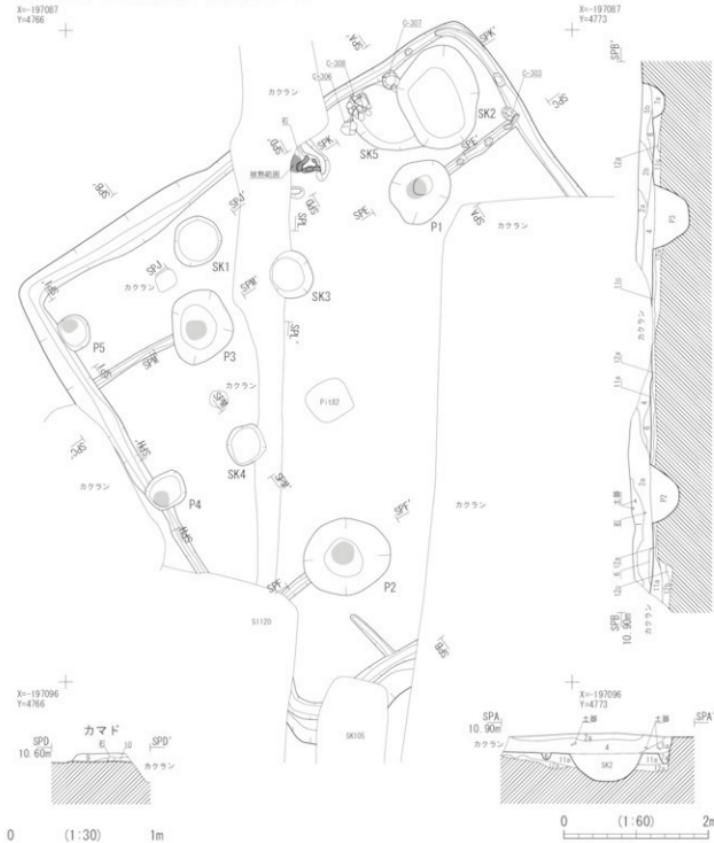
土師器鉢(第196図-4)は、住居堆積土からの出土である。半球形に内湾する体部から短く内傾する口縁部にいたる器形を呈する。底部と体部の境は緩やかに屈曲し、底部は突出する。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケメのち下半ヘラケズリ、体部内部ヘラナデが施される。

土師器甕5点(第196図-5～8、第197図-1)は、第196図-5・6・8、第197図-1は床面直上、第196図-7は床面施設(SK2)堆積土からの出土である。第196図-5・6は、球胴の胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。第196図-5の口縁端部は強く外傾し、口唇部は肥厚する。口縁部と胴部の境は、第196図-5は段を持ち、第196図-6は段・稜を持たない。第196図-5の調整は、口縁部・肩部外面ハケメのち一部ヘラミガキ、口縁部内面ヘラミガキ、肩部内面ヘラケズリが施される。第196図-6の調整は口縁部内外面ヨコナデ、肩部外面ハケメ、肩部内面ヘラナデのち頸部ヘラケズリが施される。第196図-7は、内湾する胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は、上位に持つ。口縁部と胴部の境は段を持つ。第196図-8・第197図-1は、長胴の胴部から外傾・外反する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は、中位に持つ。口縁部と胴部の境は、段を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面ヘラナデが共通で、胴部外面は第196図-8がヘラケズリ、第197図-1はハケメのち下半ヘラ

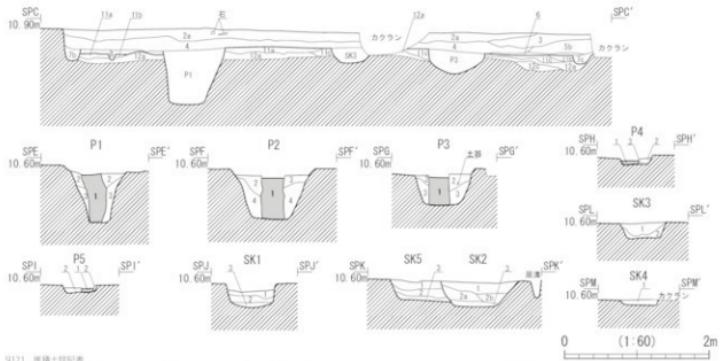
ケズリが施される。

土師器櫃(第197図-2)は、床面直上からの出土である。底部は単孔式で、緩やかに内湾する胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は上位に持つ。口縁部と胴部の境は、段を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケメのち下半ヘラケズリ、胴部内面ヘラナデのち下半ヘラケズリが施される。

【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器櫃(第196図-5・6・8、第197図-1)、土師器櫃(第197図-2)は、本竪穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では、4a期(6世紀末葉)～4b期(7世紀初頭～中葉)の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。



第194図 SI121竪穴住居跡(1)

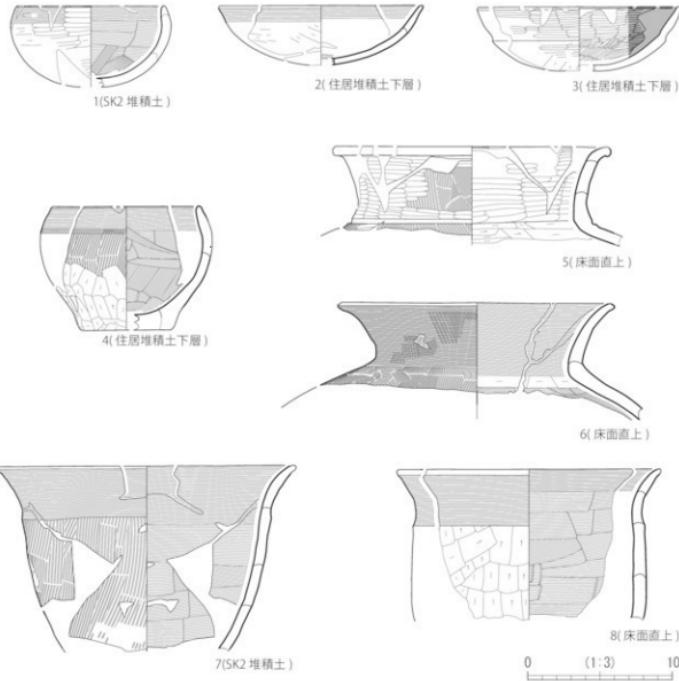


地層	部位	土色	土性	備考
住居標柱上	1	10YR5/2	灰黃褐色	シルト 径10~20mm/白色ブロックを少量、白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	2a	10YR5/3	灰・灰褐色	シルト 径10~20mm/白色ブロックを微量、白色粘土・堆土・炭化物を少量、下部に径10~20mmの灰白色粘土ブロックを少量含む。
	2b	10YR5/3	灰・灰褐色	粘土・シルト 径10~20mm/白色ブロックを微量、白色粘土・堆土・炭化物を微量含む。
	4	10YR5/2	灰褐色	シルト 径10~20mm/白色ブロックを多量、白色粘土・堆土・炭化物を微量、下部に径10mmの灰白色粘土ブロックを少量含む。
	5a	10YR4/2	灰褐色	シルト 白色粘土・炭化物を微量に含む。一部チャコ。
	5b	10YR4/2	灰褐色	シルト 白色粘土・炭化物を微量に含む。白色粘土ブロックを多量含む。
溝	6	10YR6/2	灰褐色	シルト 径10~20mm/白色ブロックを多量、白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	7a	10YR5/2	灰褐色	シルト 径10~30mm/白色ブロックを微量、白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	7b	10YR5/3	灰褐色	粘土・シルト 径10~20mm/白色ブロックを微量、白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
住居跡の溝	8	10YR5/2	灰褐色	粘土・シルト 径10~30mm/白色ブロックを微量、白色粘土・堆土・炭化物を微量含む。
	9	10YR5/3	灰褐色	シルト 径10~30mm/白色ブロックを微量、白色粘土・堆土・炭化物を微量含む。下部に白色粘土ブロックを多量含む。(大井戸落)
	10	10YR4/3	灰褐色	粘土・シルト 径10~30mm/白色ブロックを微量、白色粘土・堆土・炭化物を微量含む。
掘り方	11a	10YR5/1	灰褐色	シルト 径10~50mm/白色ブロックを多量、白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	11b	10YR4/2	灰褐色	シルト 径10~30mm/白色ブロックを多量含む。
	11c	10YR5/1	細褐色	シルト 径10~50mm/白色ブロックを多量、白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
掘り方	12b	10YR5/1	細褐色	シルト 径10~30mm/白色ブロックを微量、白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	12c	10YR6/4	灰褐色	粘土・シルト 白色ブロックを多量、径10mmの灰褐色粘土ブロックを少量含む。

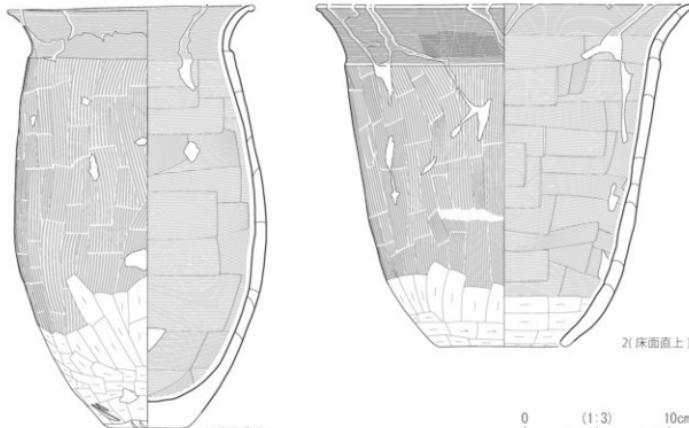
地層	部位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3	灰・灰褐色	粘土・シルト 径30mmの白粘土ブロックを径10mmの白色粘土ブロックを少量含む。(粗粘)
	2	10YR4/2	灰褐色	粘土・シルト 径30mmの白粘土ブロックを少量含む。
	3	10YR5/2	灰褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	4	10YR5/2	灰褐色	シルト 径10~20mm/白色ブロックを微量、白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	5	10YR5/3	灰褐色	シルト 径10~20mm/白色ブロックを微量、白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	6	10YR5/4	灰褐色	シルト 径10~20mm/白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
P2	1	10YR5/2	灰褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	2	10YR5/3	灰褐色	シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	3	10YR5/3	灰褐色	シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
P3	4	10YR5/4	灰褐色	粘土 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	5	10YR5/2	灰褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	6	10YR5/4	灰褐色	シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
P4	1	10YR6/2	灰褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	2	10YR4/2	灰褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	3	10YR6/2	灰褐色	シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
P5	1	10YR6/2	灰褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	2	10YR5/2	灰褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	3	10YR4/2	灰褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
SK1	4	10YR5/4	灰褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	5	10YR4/2	灰褐色	シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	6	7.5YR5/2	褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
SK2	1	7.5YR5/2	褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	2a	10YR5/2	灰褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	2b	10YR5/4	灰褐色	シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
SK3	3	10YR6/4	灰褐色	粘土 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	4	10YR5/3	灰褐色	シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	5	10YR4/2	灰褐色	シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
SK4	1	10YR4/2	灰褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	2	10YR6/4	灰褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	3	10YR5/3	灰褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
SK5	1	7.5YR5/2	褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	2	10YR5/4	灰褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。
	3	10YR5/3	灰褐色	粘土・シルト 白色粘土・堆土・炭化物を微量に含む。

第195図 S1121堅穴住居跡(2)

S121 窑穴剖面表			
造模名	平面形	周長(cm)	深さ(cm)
P1 不整円形	96×78	66	
P2 楕円形	123×105	60	
P3 不整円形	105×87	42	
P4 圆丸方形	60×51	9	
P5 圆丸方形	48×(42)	6	
SK1 内円形	72×66	21	
SK2 不整椭圆形	144×114	33	
SK3 内円形	66×60	21	
SK4 不整椭圆形	54×61	9	
SK5 不整椭圆形	120×84	24	



第196図 S121竪穴住居出土遺物(1)



1(床面直上)

0 (1:3) 10cm

調査 番号	井筒 番号	調査区	測量点	層位	種別	那場	部位	法面 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 回数
								上段	中段	下段				
1	C-303	17街区	SI121	床面直上	土師器	陶	略定形	17.1	5.1	29.2	1面・1柱・側・壁・底 削下下部付近、底付近付近	1面・2柱・側・壁・底付近	外曲面熱、外曲面削下端 に工具痕	85
2	C-308	17街区	SI121	床面直上	土師器	陶	略定形	8.8	-	23.6	1面・1柱・側・壁・底付近 削下下部付近、底付近付近	1面・2柱・側・壁・底付近	単孔	85

第197図 SI121 穴穴住居跡出土遺物(2)

SI122 穴穴住居跡(第198～201図)

【位置・確認】 17街区西半、V-V'・W-W'グリッドに位置する。東壁の一部と南壁は、重複遺構(SI120・121、SB9、SK106、Pit 84)と搅乱により失われている。南西部は調査区外へかかる。本竪穴住居跡は、カマドを伴わず地床が検出され、古墳時代前期(塙釜式)の土師器が多数出土した。このことから、本竪穴住居跡の時期は、古墳時代前期と考えられる。

【重複】 SI120・121・124と重複関係にあり、SI124より新しく、SI120・121より古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北594cm、東西642cmを測る。平面形状は、長方形と推定される。

【方向】 西壁基準でN-43°-Wである。

【堆積土】 大別6層、細別7層に分層された。1・2層は住居堆積土で、にびい黄褐色シルトを主体とし、炭化物粒を含む。3・4層は地床が堆積土で、3層は多量の燒土粒と少量の炭化物粒を含む。4層は、地床がの掘り方堆積土である。5・6層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 垂直に近い角度で立ち上がる。残存する壁高は、最大12cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦である。5・6層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から4基、掘り方から1基検出した。規模と位置関係からP1～4は、いずれも主柱穴に相当すると考えられ、P1・4・5では、柱痕跡が確認された。

【周溝】 検出していない。

【地床】 主柱穴と考えられるP4のやや東で検出した。平面形状は円形で、規模は57×51cmを測り、深さ9cmの掘り方を伴う。掘り方堆積土の4層上面には被熱の痕跡がみられた。また、本地床がの東側にも、床面が被熱した範囲

を検出しており、同様に地床がであった可能性が考えられる。

【その他の施設】 床面から土坑1基を検出した。

【掘り方】 全面が掘り込まれ、中央が島状に高まる。深さは4～15cmを測る。

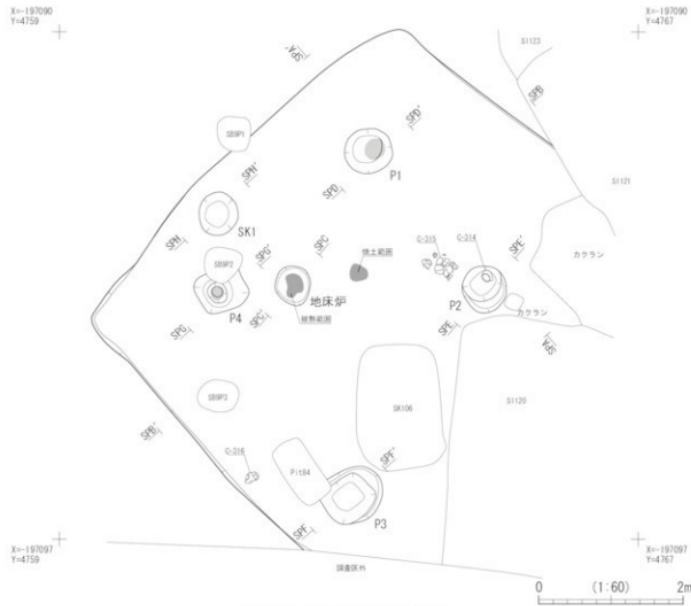
【出土遺物】 土師器高环1点・器台1点・壺2点・鉢1点・甕3点を掲載した(第200・201図)。

土師器高环(第200図-1)は、床面施設(P2)堆積土上層から、土師器甕(第201図-3)と重なった状態で出土した。环部は接合面から剥落しており、脚部から裾部は直線的に外傾して開く。調整は、脚部外面～裾部ハケメのちへラミガキ、脚部内面へラナデのちへラミガキ、裾部ヨコナデが施され、脚部内面上部にしづり痕が観察される。

土師器器台(第200図-2)は、床面施設(P1)堆積土からの出土である。受け部はやや内湾して立ち上がり口縁部は外傾し、台部は緩やかに内湾して開く器形を呈する。調整は、口縁部外面と裾部内外面ヨコナデ、外面へラケズリ、内面ハケメのち届曲部にへラケズリが施される。

土師器壺2点(第201図-1・2)は、1は床面施設(SK1)堆積土、2は床面上土からの出土である。1は二重口縁壺の口縁部である。口縁部は大きく外反する。調整は、外面ハケメ・へラミガキ、内面へラミガキが施される。内面は、赤彩される。2は、体部は球形で、体部の最大径は中位に持つ。調整は、外面へラケズリのちへラミガキ、内面へラナデが施される。

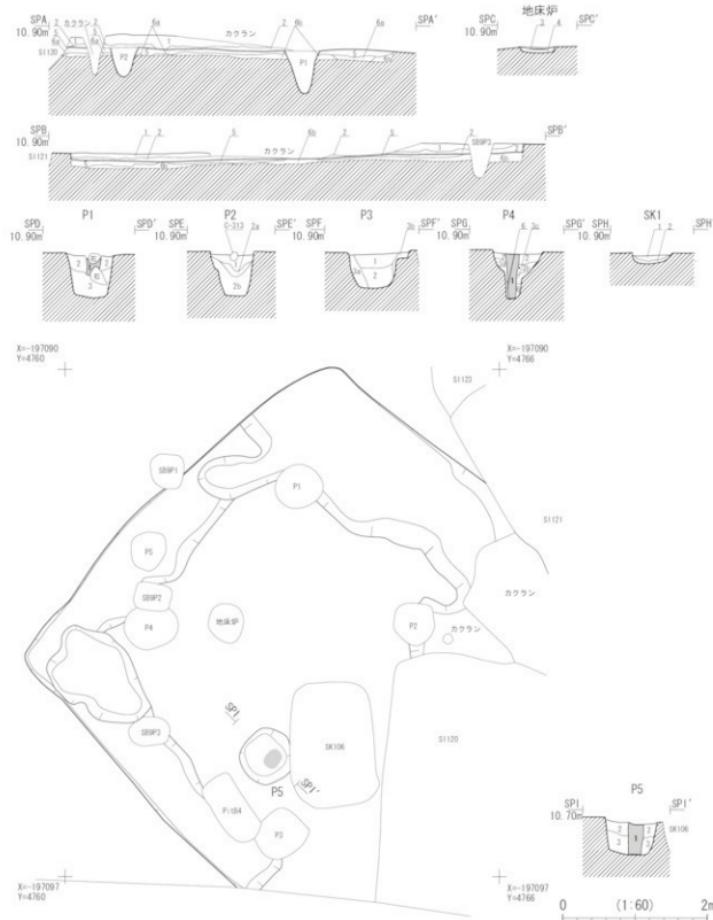
土師器鉢(第200図-3)は、床面施設(P2)住居堆積土からの出土である。球形の体部から、短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。底部と体部の境は屈曲し、底部は突出する。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面へラケズ



第198図 S1122竪穴住居跡(1)

り、体部内面へラナデ、底部外面は周縁に粘土が貼り付けられたちへラナデが施される。

土師器裏3点(第201図-3～5)は、3は床面施設(P2)堆積土上層、4は床面施設(P2)底面直上、5は床面直上からの出土である。3～5は、球胴の胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。いずれも、胴部の最大径は、中位に持つ。3の調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケメのち下半へラケズリ、胴部内面へラナデが施される。



4の調整は、口縁部外面ヨコナデのちハケメ、脇部外面ハケメのち一部ヘラナデ、口縁部内面ヨコナデ、脇部内面ヘラナデが施される。5の調整は、口縁部外面ヨコナデ、脇部外面ハケメのち下半ヘラケズリ、口縁部内面ハケメ、脇部内面ヘラナデが施される。ハケメ工具は、2種使用されており、口縁部内面のハケメは非常に粗いものである。

【時期】 上記の遺物のうち、床面直上から出土した土師器壺(第201図-1)・甕(第201図-5)、床面施設(P2)底面直上から出土した土師器甕(第201図-4)は、本堅穴住居跡に伴うと考えられる。本書の時期区分では、3期(古墳時代前期)の土器であり、本堅穴住居跡の時期を示している。

5072 順次±日付表

部位	順位	土色	土性	備考
住居跡上	1	10YR5/3	に赤い黄褐色	シルト 径10~30mmの灰白色土ブロックを多量、径10~20mmの灰褐色ブロック・炭化物類を微量に含む。
	2	10YR5/4	に赤い黄褐色	シルト 径10~30mmの灰褐色ブロックを少量、炭化物類を微量に含む。
	3	7.5YR5/1	褐褐色	シルト 径10mmの小層ブロックを多量、炭化物類を微量含む。下層に粘土層を多量に含む。
地床跡	4	7.5YR5/3	に赤い黄褐色	シルト 径10~20mmの灰褐色ブロックを多量、砂土層を少量、炭化物類を微量に含む。
	5	10YR5/4	に赤い黄褐色	シルト 径10~100mmの灰白色土ブロックを微量、径10~30mmの小層ブロックを微量含む。
	6a	10YR5/4	に赤い黄褐色	粘土質シルト 径10~30mmの灰褐色ブロックを多量、径10mmの灰白色土ブロックを微量含む。
糊の方	6b	10YR5/4	に赤い黄褐色	粘土質シルト 径10~20mmの細粒粘土ブロックを少量含む。

5072 順次±日付表

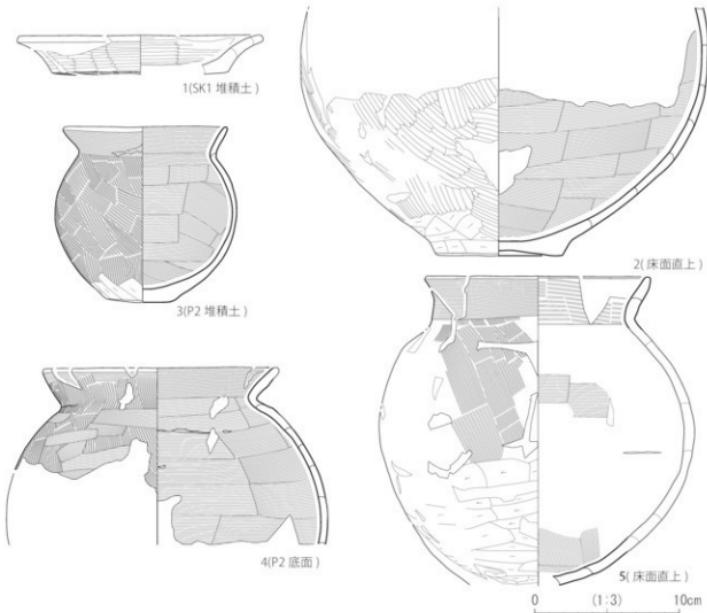
部位	順位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/4	に赤い黄褐色	シルト 硫酸液を少量、径10~20mmの灰褐色土ブロックを微量に含む。(柱軸跡)
	2	10YR5/4	に赤い黄褐色	粘土質シルト 硫酸液を微量、粘土層を多量に含む。
	3	10YR5/4	に赤い黄褐色	シルト 径10~20mmの灰褐色土ブロックを微量、炭化物類を微量に含む。
P2	1	10YR5/3	に赤い黄褐色	シルト 径10~20mmの灰褐色ブロックを多量、砂土層を少量、炭化物類を微量に含む。
	2a	10YR5/3	に赤い黄褐色	砂質シルト 径10~30mmの小層ブロックを多量に含む。
P3	1	10YR5/4	に赤い黄褐色	砂質シルト 径10~30mmの灰褐色土ブロックを微量に含む。
	2	10YR5/4	に赤い黄褐色	砂質シルト 径10~50mmの小層ブロックを少量、径50mmの灰白色土ブロックを微量に含む。
	3a	10YR5/3	に赤い黄褐色	シルト 径10~20mmの灰褐色土ブロックを微量に含む。
P4	1	10YR5/4	に赤い黄褐色	砂質シルト 上部に径10~30mmの灰褐色土ブロックを多量に含む。
	2	10YR4/1	褐褐色	シルト 径10~20mmの灰褐色土ブロックを多量、砂土・炭化物類を微量に含む。
	3	10YR4/2	灰褐色	シルト 径10~20mmの灰褐色土ブロックを微量に含む。
P5	1	10YR4/2	灰褐色	シルト 径10~20mmの灰褐色土ブロックを微量に含む。
	2	10YR4/2	灰褐色	シルト 径10~20mmの灰褐色土ブロックを微量に含む。
	3	10YR4/2	灰褐色	シルト 径10~50mmの灰褐色土ブロックを多量、径10mmの灰褐色土ブロックを微量に含む。
	4	10YR5/2	灰褐色	シルト 径10~20mmの灰褐色土ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。
SK1	1	10YR4/1	褐褐色	シルト 径10~20mmの灰褐色土ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。
	2	10YR5/1	褐褐色	シルト 径10~50mmの灰褐色土ブロックを多量に含む。

5072 他の調査表

遺構名	平面形	規模(cm)	深度(cm)	備考
P1	円形	66 × 63	57	
P2	円形	66 × 63	54	
P3	円形	(90) × 75	48	



第200図 SI122堅穴住居跡出土遺物(1)



第201図 SI 122 穹穴住居跡出土遺物(2)

SI 123 穹穴住居跡(第202図)

【位置・確認】 17街区西半、W-8グリッドに位置する。遺構上面は削平により失われており、掘り方のみを検出した。東側と南側および北西部は、重複遺構(SI 121、SK 108)と搅乱により失われている。

【重複】 SI 121と重複関係にあり、これより古い。

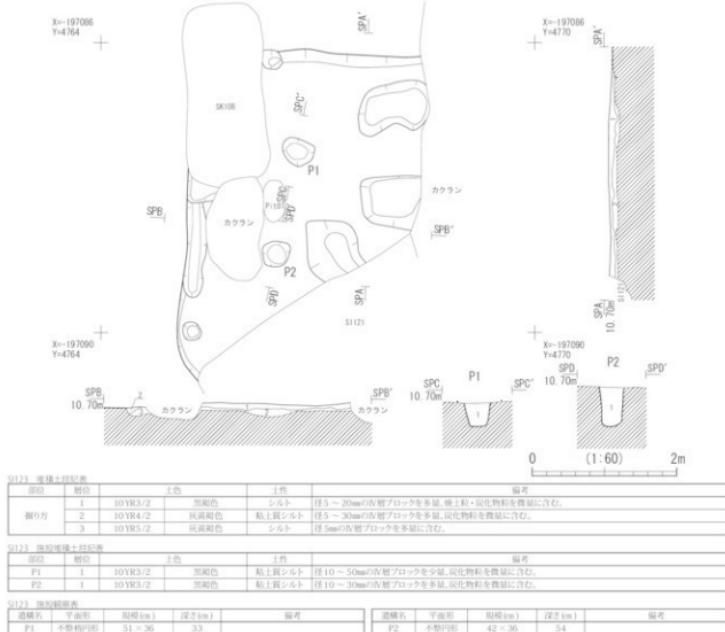
【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北438cm、東西324cmを測る。平面形状は、不明である。

【方向】 西壁基準でN-4°-Eである。

【堆積土】 3層に分層された。いずれも、掘り方堆積土である。

【壁面】 削平により失われており不明である。

- 【床面】 削平により失われており不明である。
- 【柱穴】 2基検出した。2基とも堆積土は単層で、柱痕跡は確認されなかった。
- 【周溝】 検出していない。
- 【カマド】 検出していない。
- 【その他の施設】 検出していない。
- 【掘り方】 全面が掘り込まれる。深さは、6～18cmを測る。
- 【出土遺物】 堆積土から、土師器の破片が少量出土しているが、図化できる遺物はなかった。
- 【時期】 伴う土器はないが、本書の時期区分4a期(6世紀末葉)～4b期(7世紀初頭～前葉)の土器を伴うSI 121より古いことから、本竪穴住居跡の時期は4a～4b期と同時期かそれ以前と考えられる。



第202図 SI 123 竪穴住居跡

SI124 竪穴住居跡(第203図)

【位置・確認】 17街区西半、V-W-8・9グリッドに位置する。遺構上面および西半は削平により失われており、南西部と東壁は、重複遺構(SI 122、SB 9、SK 128、Pit 57・62・78)と擾乱により失われている。南側は、調査区外へかかる。

【重複】 SI 122と重複関係にあり、これより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北414cm、東西336cmを測る。平面形状は、方形ないし長方形と推定される。

【方向】 北壁基準でN-60°-Eである。

【堆積土】 大別3層、細別4層に分層された。1・2層は住居堆積土で、にぶい黄褐色砂質シルト・灰黄褐色粘土質シルトを主体とし、黒褐色土ブロックとIV層ブロックを含む。3層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 残存状況が悪く明確ではないが、外傾して立ち上ると推定される。残存する壁高は、最大3cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦で、北壁付近が若干下がる。3層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から2基検出した。性格は、不明である。

【周溝】 検出していない。

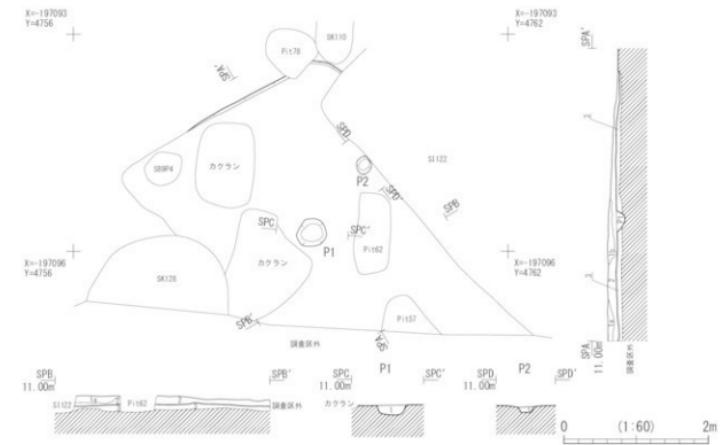
【カマド】 検出していない。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 検出した範囲においては、全面が掘り込まれる。深さは、2~11cmを測る。

【出土遺物】 堆積土から土師器の破片が極少量出土しているが、図化できる遺物はなかった。

【時期】 伴う土器はないが、本書の時期区分3期(占墳時代前期)の土器を作うSI 122より古いことから、本竪穴住居跡の時期は3期の範囲に収まると考えられる。



SI 124 住居跡平面図

部位	標号	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	IOYR8/4	にぶい黃褐色	砂質シルト 径5~10mmの黒褐色土ブロックを少量含む。
	1b	IOYR8/4	にぶい黃褐色	砂質シルト 径5~20mmの黒褐色土ブロックを少量、径5~10mmの白い土ブロック、白色土を微量に含む。
	2	IOYR5/2	灰黃褐色	粘土質シルト 径20~50mmの白い土ブロックを多量、径10~20mmの白色土ブロックを微量に含む。
掘り方	3	IOYR5/3	にぶい黃褐色	シルト 径10~30mmの白い土ブロックを多量、径5~20mmの灰褐色粘土ブロックを少量含む。

SI 124 住居跡堆積土

部位	標号	土色	土性	備考
P1	1	IOYR4/2	灰黃褐色	シルト 下部に径10mmの白い土ブロックを多量、灰白色物を微量に含む。
P2	1	IOYR4/2	灰黃褐色	シルト 径10~20mmの白い土ブロックを多量、白色土を微量に含む。

SI 124 住居跡堆積土

道幅名	平面形	周囲(cm)	深さ(cm)	備考
P1	不規則形	42=39	12	

第203図 SI 124 竪穴住居跡

SI125 竪穴住居跡(第204～206図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-8グリッドに位置する。住居の大半は、重複遺構(SI109・111・113、SK132・134、Pit 110・120)と複雑により失われている。床面を検出したのは北西・北東・南東コーナー付近のみで、住居中央は掘り方検出面で床面施設を検出した。また、カマドは検出されず、地床が検出した。

【重複】 SI109・111・113と重複関係にあり、これらより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北570cm、東西474cmを測る。平面形状は、方形と推定される。

【方向】 北壁基準でN-49°Wである。

【堆積土】 大別8層、細別9層に分層された。1～3層は住居堆積土で、暗褐色・灰黄褐色シルトを主体とし、焼土粒・炭化物粒を含む。4・5層は地床が堆積土で、4層は焼土粒を多量、炭化物粒を微量に含み、5層は焼土を少量、炭化物粒を微量に含む。6層は、周溝堆積土である。7・8層は、掘り方堆積土である。

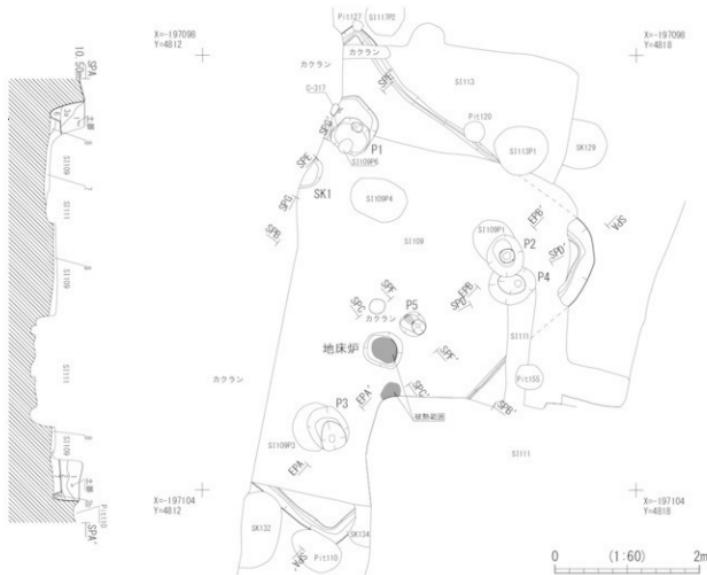
【壁面】 北壁はやや内湾して立ち上がり、南壁はほぼ垂直に立ち上がる。残存する壁高は、最大30cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦である。7・8層上面を床面としている。

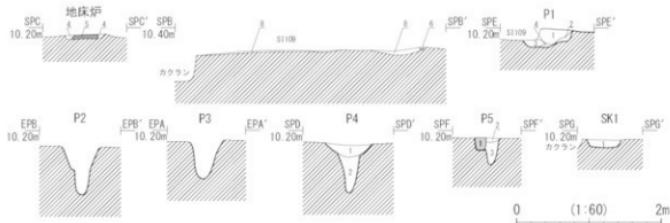
【柱穴】 床面から1基、掘り方検出面で4基検出した。P1～3は、規模と位置関係から主柱穴に相当すると考えられる。P2と重複関係にあるP4も、同様に主柱穴に相当すると考えられる。

【周溝】 床面上で検出した周溝は、壁際に沿って周る。検出した周溝の規模は、幅7～30cm、深さ15cmを測る。

【地床が】 住居中央のやや北東側、P5に近接した位置で検出した。平面形状は不整円形で、規模は57×54cm、深



第204図 SI125竪穴住居跡(1)



SI 125 墓地土跡の状況				参考
部位	部位	土色	土性	
住居構造上	1 10YR3/4	暗褐色	シルト	古層ブロックを多量、既上部・炭化物を少量含む。
	2 10YR4/2	灰褐色	シルト	古層ブロックを少量、炭化物を微量に含む。
	3a 10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	古層ブロックを少量、既上部を微量に含む。
	3b 10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	古層ブロックを少量、既上部を微量に含む。
地床炉	4 7 SYR3/3	暗褐色	シルト	既上部を多く、既10cmの既上部ブロックを少量、古層ブロック・炭化物を微量に含む。
	5 5 YR5/8	明赤褐色	シルト	既10cmの既上部ブロックを少量、既上部を微量に含む。
周溝	6 10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	古層ブロックを微量、既上部を微量に含む。
掘り方	7 10YR3/3	暗褐色	シルト	既10cmの既上部ブロックを少量に含む。
	8 10YR5/3	灰・黄褐色	シルト	既10cmの既上部ブロックを多量、既10cmの既上部シルトブロックを少量に含む。

SI 125 穴室埋蔵土跡の状況				参考
部位	部位	土色	土性	
P1	1 10YR4/2	灰褐色	シルト	古層ブロックを多量、既上部物を少量含む。
	2 10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	既10cmの既上部ブロックを多量、既10~20cmの既上部ブロック・炭化物を少量含む。
	3 にぶ・黄褐色	粘土質シルト	粘土質シルト	古層ブロックを多量含む。
	4 10YR4/1	暗褐色	シルト	既5cmの既上部ブロックを多量に含む。
P2	-	-	-	計量なし。
P3	-	-	-	計量なし。
P4	1 10YR4/2	灰褐色	シルト	既10~20cmの既上部ブロックを多量、既10cmの既上部シルトブロックを多量に含む。
	2 10YR4/3	暗褐色	粘土質シルト	既10cmの既上部シルトブロックを少量に含む。
	3 10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	既5cmの既上部ブロックを多量に含む。(相模原)
P5	2 10YR4/3	にぶ・黄褐色	粘土質シルト	古層ブロックを少量に含む。
	3 10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	古層ブロックを少量、炭化物を微量に含む。
SKI	1 5YR3/3	明赤褐色	粘土質シルト	既5~10cmの既上部ブロックを多量、既10cmの既上部ブロック・炭化物を少量含む。

SI 125 穴室埋蔵土跡の寸法				参考
遺物名	平面形	周囲(1)	深さ(2)	
P1 不整円形	96.1×45.5	66.		
P2 相模形	103.5×51.1	51		
P3 不整円形	98.4×66.6	24		
SKI	不明			

第205図 SI 125 穴室住居跡(2)

さは6cmを測る。底面では、被熱の痕跡が確認された。また、本地床がの南側にも、床面が被熱した範囲を検出しており、同様に地床がであった可能性が考えられる。

【その他の施設】 挖り方検出面で、土坑1基を検出した。

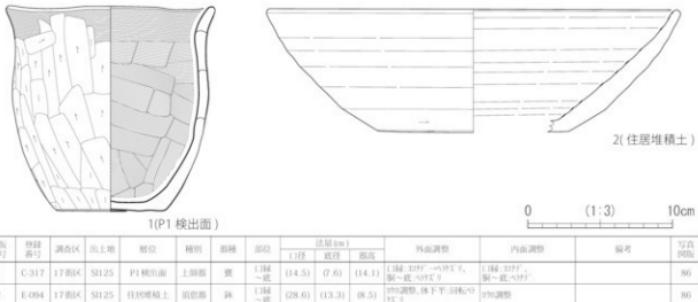
【掘り方】 検出した範囲では、全面が掘り込まれる。深さは15cmを測る。

【出土遺物】 土師器費1点、須恵器鉢1点を掲載した(第206図)。

土師器費は、床面施設(P1)西側の検出面と複数との境で、大半が壊乱に露出した状態で出土した。緩やかに内湾する脇部から、短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、口縁部内外ヨコナデ、脇部外面ヘラケズ、脇部内面ヘラナデが施される。

須恵器鉢は、住居堆積土からの出土である。わずかに内湾する脇部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。

【時期】 上記の遺物のうち、土師器費(1)は5a～5b期に属すると考えられる。しかし1は、出土状況から混入の可能性があり、本穴室住居跡に伴わない可能性が考えられる。重複関係では、本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)の土器を伴うSI 111・113、5b II期(8世紀前葉)の土器を伴うSI 109より古い。また、本穴室住居跡からはカマドは検出されず、地床が検出された。同様に地床が検出されたSI 122は、3期(古墳時代前期)の土器を伴う。このことから、本穴室住居跡の時期は重複関係からは5a期以前と考えられ、また、地床が伴うSI 122と同様に3期に遡る可能性が考えられる。



第206図 SI125 穴穴住居跡出土遺物

SI126 穴穴住居跡(第207・208図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-8グリッドに位置する。検出したのはカマド燃焼部から南壁の一部で、西壁・北壁と南壁の一部は重複遺構(SI110・111・118)と擾乱により失われている。

【重複】 SI110・111・118と重複関係にあり、これより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北279cm、東西165cmを測る。平面形状は、不明である。

【方向】 カマド基準でN-69°Wである。

【堆積土】 大別13層、細別18層に分層された。1～5層は住居堆積土で、オーピー黒色・黒褐色シルトを主体とし、IV層ブロックと灰白色粘土ブロックを含む。6層は、周溝堆積土である。7～11層はカマド関連層位で、7c層は天井崩落土、11a層は掘り方堆積土である。11a層上面が火床面となる。12層は、カマド袖構築土である。13層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 直線的にわずかに外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大42cmを測る。

【床面】 カマドと壁周辺が、わずかに下がる。13層上面を、床面としている。

【柱穴】 掘り方から1基検出した。P1からは、柱痕跡が確認された。

【周溝】 検出した範囲においては、壁に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅18cm、深さ12cmを測る。

【カマド】 住居壁面は重複遺構により失われているが、西壁に付設されていたと考えられる。煙道部と北袖の一部は、重複遺構により失われている。袖の規模は、北袖が長さ21cm、幅7cm、南袖は長さ36cm、幅15cmを測る。北袖は、竪穴住居構築時に掘り残した基本層IV層が直接使用されている。

燃焼部の規模は、奥行き39cm、幅54cm、奥壁高9cmを測る。奥壁は、緩やかに外傾して立ち上がる。底面には明瞭な被熱範囲が確認され、底面から燃焼部の前方にかけて、炭化物の折がりが確認された。

【その他の施設】 検出していない。

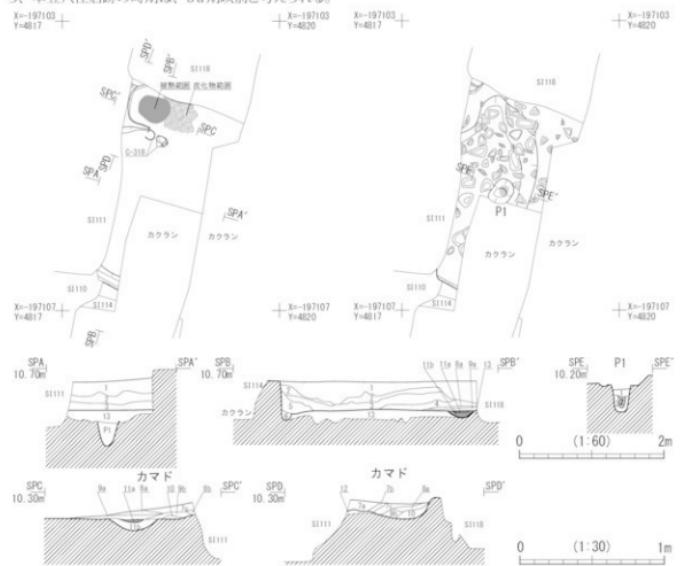
【掘り方】 全面が掘り込まれ、検出範囲の中央が窪む。深さは、6～18cmを測る。底面からは、多数の工具痕を検出した。

【出土遺物】 土師器甕1点を掲載した(第208図)。

土師器甕は、カマド南袖先端に隣接した床面直上からの出土である。胴部は長胴で、胴部の最大径は中位に持つ。調整は、外面向けケズリ、内面向けナダゲが施される。胴部下半には、粘土が帶状に貼り付けられており、粘土剥落部

の観察では外面調整と同様にヘラケズりが施されていた。

【時期】 土師器甕(1)は、床面上から出土であり本堅穴住居跡に伴うと考えられるが、副部資料であり明確な時期は不明である。しかし、重複関係では、本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)の土器を伴うSI 111より古いことから、本堅穴住居跡の時期は、5a期以前と考えられる。



部位	層位	土色	土性	備考
住居構成土	1	7 SYR1/2	オリーブ褐色	シルト ほくろい 10mmの白色粘土ブロックを数層、ほくろいの白色粘土ブロックを幾層に含む。
	2	7 SYR1/2	黒褐色	シルト ほくろい 10mmの白色粘土ブロックを少層、ほくろいの白色粘土ブロックを幾層に含む。
	3	7 SYR4/3	灰褐色	シルト ほくろい 10mmの白色粘土ブロックを少層、ほくろいの白色粘土ブロックを幾層に含む。
	4	7 SYR3/1	黒褐色	シルト ほくろい 5mm～30mmの赤褐色粘土ブロックを多く含む。
	5	7 SYR2/2	黒褐色	シルト ほくろい 5mm～30mmの赤褐色粘土ブロックを少層に含む。
雨溝	6	7 SYR4/3	灰褐色	シルト ほくろい 5mm～10mmの赤褐色粘土ブロックを幾層に含む。
カマド	7	7 SYR3/3	灰褐色	シルト ほくろい 5mm～10mmの赤褐色粘土ブロックを少層、ほくろいの白色粘土ブロックを幾層に含む。
	7b	5 YKR3/3	粘土褐色	シルト ほくろい 白色粘土ブロックを少層、ほくろいの白色粘土ブロックを多層に含む。
	7c	7 SYR4/2	灰褐色	粘土褐色 シルト ほくろい 10mmの白色粘土ブロックを少層、灰褐色粘土ブロックを1層を幾層に含む。(天井板土)
	8a	10 YR3/3	粘土褐色	シルト ほくろい 10mmの白色粘土ブロックを少層、灰褐色粘土を幾層に含む。
	8b	7 SYR4/4	褐色	シルト ほくろい 10mmの白色粘土ブロックを少層に含む。
カマド附	9a	10 YR2/2	灰褐色	シルト ほくろい 10mmの白色粘土1層、褐色粘土を幾層に含む。
	9b	7 SYR5/2	灰褐色	シルト ほくろい 10mmの白色粘土1層、褐色粘土を幾層に含む。
	10	7 SYR5/4	褐色	シルト ほくろい 10mmの白色粘土1層、褐色粘土を幾層に含む。
	11a	2 SYR5/6	明赤褐色	シルト ほくろい 10mmの白色粘土1層、褐色粘土を幾層に含む。
	11b	2 SYR3/3	暗赤褐色	シルト ほくろい 10mmの白色粘土1層、褐色粘土を幾層に含む。
カマド附	12	10 YR2/1	黑色	シルト ほくろい 10mmの白色粘土1層、褐色粘土を少層、ほくろいの白色粘土ブロックを少層、灰褐色粘土を幾層に含む。
側方	13	10 YR3/2	黑色	シルト ほくろい 10mmの白色粘土1層、褐色粘土を少層、ほくろいの白色粘土ブロックを少層、灰褐色粘土を幾層に含む。

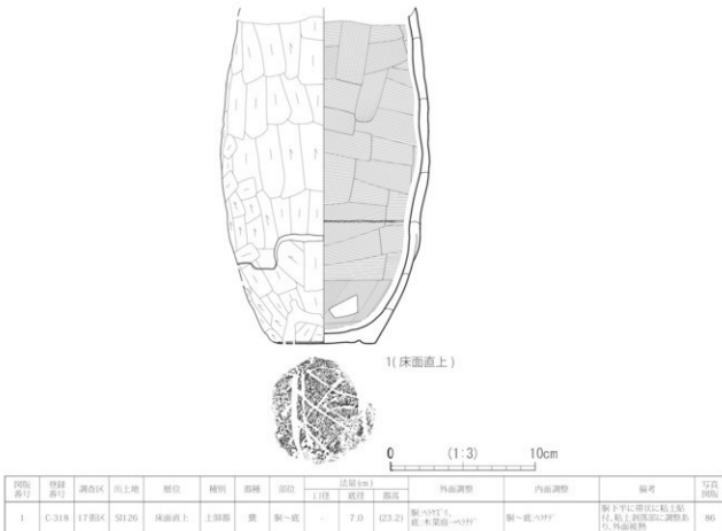
(1)16 周辺遺跡人骨検査表

部位	部位	土色	土性	備考
P1	1	7 YR4/4	褐色	シルト 褐色シルトを灰褐色に少量含む。
	2	10YR2/2	黒褐色	白層ブロックを痕跡に少層含む。(柱頭跡)
	3	10YR3/3	褐色	シルト ほくろい 10mmの白色粘土ブロックを多層含む。

(1)17 地面鉛筆素

遺構名	平面形	規模(m)	深さ(cm)	備考
P1	約円形	(36) × 30	30	

第207図 SI 126堅穴住居跡



第208図 SI126 積穴住居跡出土遺物

SI127 積穴住居跡(第209・210図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-9グリッドに位置する。カマド煙道部と北壁部分の掘り方を検出した。大半は、重複遺構(SI116・119、SK135)により失われている。南側は、調査区外へかかると推定される。

【重複】 SI116・119、SK135と重複関係にあり、これらより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北183cm、東西288cmを測る。平面形状は、不明である。

【方向】 カマド煙道部標準でN-20°-Wである。

【堆積土】 大別6層、細別7層に分層された。1～5層はカマド間連層位で、1・2層は煙道部堆積土、3～5層は煙出し部堆積土である。6層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 削平により失われており不明である。

【床面】 削平により失われており不明である。

【柱穴】 検出していない。

【周溝】 検出していない。

【カマド】 燃焼部は失われており、煙道部を検出した。煙道部西側と煙出し部の一部は、重複遺構により失われている。

残存する煙道部の規模は、長さ162cm、深さ54cmを測る。底面は、平坦である。

残存する煙出し部の規模は、上端径は不明であるが、煙道部からの深さ33cmを測る。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。

【その他の施設】 土坑1基を検出した。

【掘り方】 検出した範囲では、全面が掘り込まれる。深さは9cmを測る。

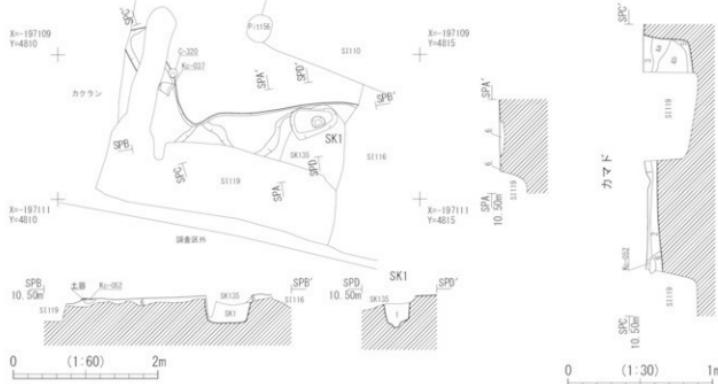
【出土遺物】 土師器環1点・鉢1点、礫石器2点を掲載した(第210図)。

土師器環は、カマド煙道部堆積土からの出土である。底部は丸底で、扁平に内湾する体部から短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に稜、内面に弱い棱を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内面ヘラナデが施される。

土師器鉢は、カマド煙道部検出面からの出土である。底部は平底の丸底で、球形に内湾する体部から内傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内面ヘラナデが施される。

礫石器は、3は掘り方堆積土、4はカマド煙道部検出面からの出土である。3は、梢円礫を素材とする大型の敲石である。側縁及び上下端部に敲打痕が確認される。側縁の使用が顕著で大型の剝離痕を伴う。石材は、石英安山岩質凝灰岩を使用している。4は、扁平礫を素材とする台石である。表裏両面に磨面が形成され、線条痕を伴う。線条痕は、長軸方向が多いが直交方向や斜め方向も確認される。下端部は欠損している。石材は、硬質な安山岩を使用している。

【時期】 伴う土器はないが、本書の時期区分5b ii期(8世紀前葉)と考えられるSI 116・119より古いことから、本堅穴住居跡の時期は5b ii期以前と考えられる。

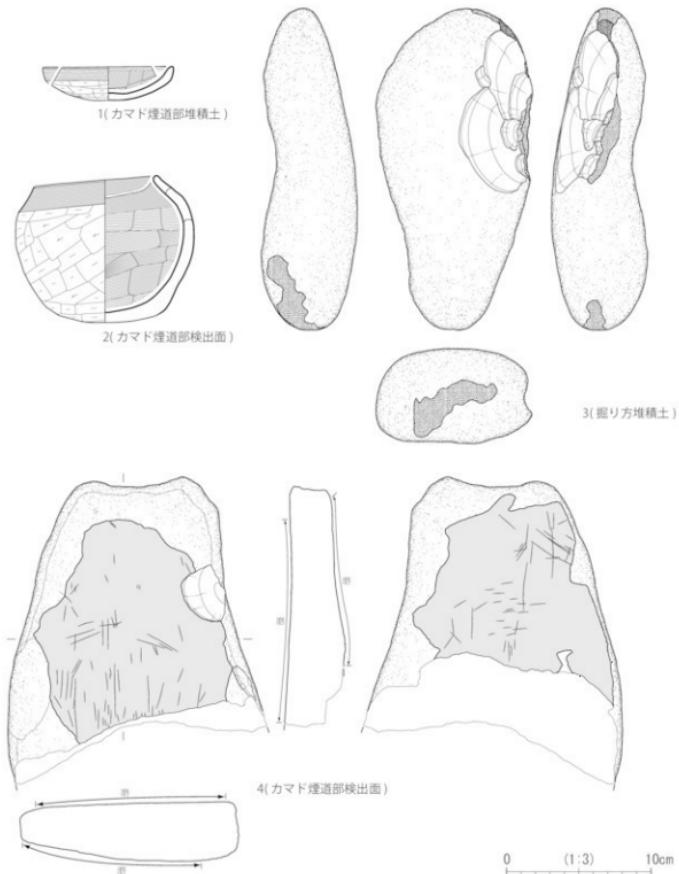


SI 1127 垂直穴住居				備考
部位	部位	土色	土性	
カマド	1	IOYR4/2	灰黃褐色	シルト 径10mmの白い塊ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。
	2	IOYR7/1	灰白色	シルト 焼成跡を多量に含む。
	3	IOYR3/2	黒褐色	シルト 径5～10mmの白い粘土ブロックを少量含む。
	4a	IOYR6/6	明褐色	シルト 黒色シルトブロックを微量に含む。下面に炭化物を微量(?)含む。(厚5mm)。
	4b	IOYR4/1	褐色	シルト 径10mmの白い塊ブロック、黒色シルトを多量、炭化物類を微量に含む。
掘り方	5	IOYR6/3	にじみ褐色	シルト 黒色シルトを微量含む。下面に炭化物を微量(?)含む。(厚10mm)。
	6	IOYR4/2	灰黃褐色	シルト 径10～20mmの塊ブロックを多量、炭化物類を微量に含む。

SI 1127 垂直穴住居				備考
部位	部位	土色	土性	
SK1	1	IOYR3/2	灰褐色	シルト 径10mmの白い塊ブロックを多量、炭化物類・焼土粒を微量に含む。

SI 1127 垂直穴住居				
部位名	平面形	周囲(cm)	深さ(cm)	備考
SK1	不規則形	(69) × (42)	33	

第209図 SI 1127 穴住居跡



固有 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法面 (cm)			外周調整	内面調整	備考	写真 回数
								全長	幅	厚				
1	C-319	17番K	SH127	カマド煙道部 堆積土上	上部断	灰	1.34 1体	0.0	-	(0.3)	1.34(±0.0) 体-底付 底-底付	1.34(±0.0) 体-底付 底-底付		86
2	C-320	17番K	SH127	カマド煙道部 堆積土上	上部断	灰	8.6	-	10.2	1.34(±0.0) 体-底付 底-底付	1.34(±0.0) 体-底付 底-底付		86	
3	Ke-052	17番K	SH127	脚力堆積土 堆積土上	煙道部 堆積土上	磚石	22.3	10.8	6.6	1074.58	右黄安101頭加灰瓦 脚力煙道(2箇所)右側側			86
4	Ke-037	17番K	SH127	カマド煙道部 堆積土上	煙道部 堆積土上	白石	(21.2)	(17.9)	4.2	(1938.91)	安(的)	不整形扁平體、表面2面、縫合面あり、欠損あり		87

第210図 SI127竪穴住居跡出土遺物

SI128 竪穴住居跡(第211・212図)

【位置・確認】 17街区東半、Z-8グリッドに位置する。上面の大半は重複遺構(SI109)により失われ、西側と南東部は重複遺構(SI110・111・119・125、Pit97・117・155・157)と擾乱により失われている。

【重複】 SI109・110・111・125と重複関係にあり、これらより古い。

【規模・形態】 検出した範囲の規模は、南北660cm、東西342cmを測る。平面形状は、方形ないし長方形と推定される。

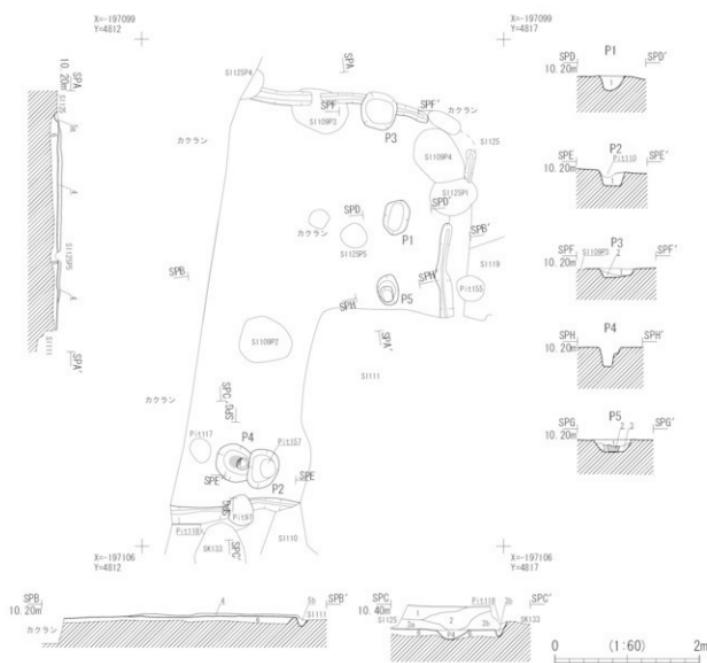
【方向】 北壁基準でN-83°Wである。

【堆積土】 大別6層、細別8層に分層された。1～4層は住居堆積土で、褐色砂質シルトを主体とする層が多く、IV層ブロック・炭化物を含む。5層は、周溝堆積土である。6層は、掘り方堆積土である。

【壁面】 外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大9cmを測る。

【床面】 ほぼ平坦である。6層上面を床面としている。

【柱穴】 床面から5基検出した。P1は、規模と位置関係から、主柱穴に相当すると考えられる。P3は壁柱穴の可能性が考えられるが、P2・4・5の性格は不明である。



第211図 SI128竪穴住居跡

【周溝】 検出した範囲においては、北東コーナーを除き全周する。床面が残存する南壁では、壁面に沿って周る。床面検出時に確認した周溝の規模は、幅24cm、深さ12cmを測る。

【カマド】 検出していない。元より付設されなかったのか、重複遺構、擾乱により失われたのか不明である。

【その他の施設】 検出していない。

【掘り方】 全面が掘り込まれる。深さは、12cmを測る。

【出土遺物】 土師器ミニチュア1点を掲載した(第212図)。

土師器ミニチュアは、床面施設(P 3)堆積土からの出土である。鉢形の器形で、体部から口縁部は直線的に外傾する器形を呈する。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ハケメが施される。

【時期】 伴う土器はないが、本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)の土器を伴うSI 111より古いことから、本竪穴住居跡の時期は、5a期以前と考えられる。

5128 重層土3回発

部位	層位	土色	土性	備考
住居跡上	1 10YR4/3	に赤・黄褐色	砂シルト	径10mmの赤褐色ブロック・径20mmの黒色シルトブロックを少量含む。
	2 10YR3/4	褐色	粘土質シルト	径10mmの褐色ブロック・褐色を少量含む。
	3a 10YR4/6	褐色	砂質シルト	径10mmの白色・褐色ブロックを少量、固化物を微量含む。
	3b 10YR4/3	に赤・黄褐色	砂質シルト	赤・褐色シルトを互層状・黑色シルトブロックを微量に含む。
	4 10YR4/4	褐色	砂質シルト	径10mmの褐色ブロック・白色シルトブロックを多量に含む。下部に固化鉢を含む。
周溝	5a 10YR4/3	に赤・黄褐色	粘土質シルト	灰色シルトを微量に含む。
	5b 10YR4/1	褐色	シルト	杏褐色ブロックを少量含む。
掘り方	6 10YR5/3	に赤・黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト・黑色シルト・褐色シルトを互層状に含む。礁上層・固化物を微量に含む。

5129 重層土4回発

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1 10YR4/3	に赤・黄褐色	粘土質シルト	杏褐色シルトを含む。固化物を微量に含む。
	2 10YR3/2	黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・黒褐色シルトブロックを微量に含む。
P3	1 10YR5/4	に赤・黄褐色	粘土質シルト	径20mmの赤褐色シルトブロック・径5～10mmの褐色ブロックを少額含む。
	2 10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	径10mmの白色シルトブロックを微量含む。礁上層を微量に含む。
P4				計量なし。
P5	1 10YR5/8	褐色	砂質シルト	径10～20mmの褐色ブロック・灰褐色シルトブロックを少額含む。
	2 10YR3/4	褐色	シルト	灰褐色シルト・黑色シルトを混じた少量含む。(柱頭跡)
	3 10YR4/6	褐色	シルト	灰褐色シルトブロックを微量含む。

5128 重層土4回発

部位	層位	土色	土性	備考	遺物名	平地形	距離(m)	(E2.0m)	備考
P1	初期段	51～53	27		P4	稍凹形	37×51	18	
	中期段	37～45	24		P5	稍凹形	42×30	30	
P3	掘れ方形	557×51	12						



0 (E:3) 10cm

開拓番号	登録番号	測量区	出土地	層位	種別	断面	剖面	法面(高さcm)		外側調整	内側調整	備考	写真・図版
								上端	底端				
1	C-378	17B04	SI128	P3堆積上	上部層	に赤	1P3	(0.3)	(4.4)	1.56±1.17m (E:2.0m)	1.84±0.71m (E:2.0m)	内側の小形調整は工具・棒	87 使用

第212図 SI128 穴式住居跡出土遺物

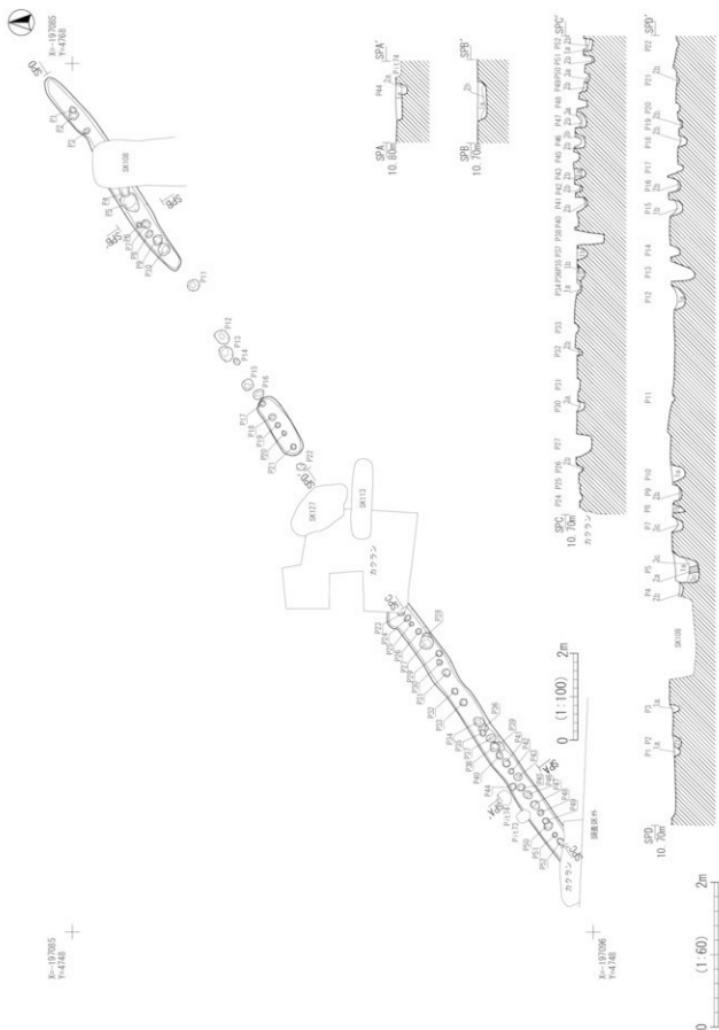
(2)材木列(第213・214図)

17街区西半から1条検出した。

SA1材木列(第213・214図)

17街区西半、N・W・Sグリッドに位置する。北東から南西方向に断続的に延びる溝状の掘り込みで、底面から总数52基のビットを検出した。中央付近の残存状況は悪く、一部ではビットのみを検出した。SK 108・127と重複関係にあり、これらより古い。

溝状の掘り込みの検出規模は、全長1290cm、上端幅40～42cm、下端幅18～24cm、深さ3～36cmを測る。N・56°-Eの方向に延び、南西側は擾乱により失われているが、調査区外へかかると推定され、北東端は調査区内で収束する。断面形状は逆台形を呈し、底面はわずかに起伏し、中央が高くなる。



第213図 材木列

底面で検出したビットは、大半が溝状の掘りこみの中央に位置するが、壁際に掘り込まれるものもみられ、一部のビットでは重複関係がみられた。このうち、P 5からは柱痕跡が確認された。検出したビットの平面形状は、円形ないし梢円形を呈するものが多く、方形を呈するものが小数みられる。断面形状は、「U」字状を呈するものが大半を占める。規模は、上端径 40 ~ 42cm、深さ 3 ~ 36cm を測る。

堆積土からの出土遺物として、土師器环 1 点・高环 1 点・壺 1 点・甕 1 点を掲載した(第 214 図)。

土師器环は、扁平に内湾する体部からわずかに外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に棱を持つ。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内部ヘラナデが施される。

土師器高环は、脚部は柱状中尖で、裾部はラッパ状に開くと推定される。調整は、脚部外面ヘラナデ、裾部外面ヨコナデ、环部内面ヘラミガキ、裾部内面ヘラナデが施される。环部内面は、黒色処理される。

土師器壺は、二重口縁部の口縁部で、外反する頸部から届屈して外傾する口縁部にいたる。頸部と体部の境には、凸帯が貼り付けられる。調整は、口縁部外面ヨコナデ、頸部外面ハケメのちヘラミガキ、頸部内面ヨコナデのちヘラミガキ、肩部内面ヘラケズリが施される。

土師器甕は、屈曲する口縁部を持ち、屈曲部は外面に段、内面に棱を持つ。口唇部内面は、面を持つ。調整は口縁部外面ヨコナデのち一部ハケメ、口縁部内面ヨコナデが施される。

伴う土器や、時期の判る遺構との重複関係がなく、本遺構の時期は不明である。

遺構名	調査区	グリッド	方向	距離(m)	層位	土色	性状	参考										
								全長	上端幅	下端幅	深さ							
SA1	17街区 K N・W・E	(1290)	40 ~ 42	18 ~ 24	3 ~ 36	1a 1b 2a 2b 3a 3b 3c	TOYRS/2 TOYRA/2 TOYRA/6 2.5YT/2 TOYR6/2 TOYRA/4 TOYRA/2	灰褐色 灰褐色 灰褐色 褐色 灰褐色 灰褐色 灰褐色	シルト シルト シルト 粘土 粘土 シルト シルト	付 10 ~ 30mm の白粘土ブロックを多量、一部に黒褐色粘土ブロック・同化物 を微量含む。 付 10 ~ 20mm の白粘土ブロックを多量に含む。 上部付 10 ~ 30mm の白粘土ブロックを多量、灰白色粘土ブロック・同化物 を微量含む。 下部付 10mm の白粘土付。 付 10mm の白粘土付、粘土ブロックを少量、径 5 ~ 10mm の黒褐色粘土ブロック を微量含む。 付 10mm の白粘土付。 付 10mm の白粘土付、白粘土ブロックを微量含む。 付 5 ~ 10mm の白粘土ブロックを多量含む。								

第 214 図 材木列出土遺物

(3) 溝跡(第 215 ~ 235 図)

V 区から 1 条 (SD 61)、V 区下層調査から 1 条 (SD 61)、17 街区から 4 条 (SD 61・74 ~ 76・78)、総数 5 条検出した。このうち SD 61 は、V 区、V 区下層調査、17 街区にまたがって検出しており、堆積土中から極めて多量の遺物が出土した。SD 74 ~ 76・78 は、竪穴住居跡・SD 61 と重複関係にあり、竪穴住居より新しく、SD 61 より古い。これら溝跡の時期は、SD 61 から竪穴住居跡とほぼ同時期の遺物が出土していることから、SD 61 より古く竪穴住居より新しい SD 74 ~ 76・78 も竪穴住居跡と同時期と考えられる。

以下、古墳時代～古代と考えられる 5 条の溝跡について、個別に報告する。

SD61 溝跡(第215～234図)

V区北半、V区下層調査西半、17街区東半において溝跡の一部を検出した。検出範囲が連続しないため堆積土の対比が困難であった。そのため、堆積土・出土遺物については、00年度V区調査範囲をV区東半、01年度V区調査範囲をV区西半、05年度V区下層調査範囲をV区下層、07年度17街区調査範囲を17街区として調査区ごとに個別に報告し、出土遺物に関しても各調査区の層位に準じて報告する。

本溝跡は、A～D・Z・7・8グリッドに位置し、両端は調査区外へかかると推定される。重複関係は、古墳時代～古代の遺構より新しく、古代～中世の遺構より古い。検出した規模は、総長46.5m、上端幅260～450cm、下端幅39～100cm、深さ120～159cmを測る。方向はN-3°-Eである。断面形状は、逆台形を呈し、南壁の立ち上がりは緩やかで、部分的に屈曲ないしテラス状の段を持つ。堆積土は、上層は黒褐色・暗褐色シルトなし粘土質シルトを主体とし、灰白色火山灰を含む層が多くみられる。中層は、にぶい黄褐色・灰黃褐色シルトなし粘土質シルトを主体とする層が多く、17街区では焼土層・炭化物層がみられる。下層は、にぶい黄褐色シルト・褐色粘土質シルトを主体とする層が多く、底面付近はグライ化する。

遺物は、土師器・須恵器を中心に多量に出土したがいずれも堆積土からの出土であり、底面から出土した遺物はない。このうち、土師器環41点・高环3点・器台1点・鉢6点・甕19点・壺2点・ミニチュア3点・須恵器蓋4点・环5点・盤1点・疊1点・鉢2点・甕2点・硯1点・丸瓦1点・土製品7点・金属製品5点・石製品1点・礫石器20点を掲載した(第218～234図)。

土師器環41点(第218図-1～15、第219図-1～15、第220図-1～11)のうち、第218図-1～4は北武藏型土師器(清水型関東系土器)の特徴を有する。底部は丸底と推定され、半球形ないし扁平に内湾する体部から「S」字状に緩やかに外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜を持つ。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内面ヘラナデが施される。第218図-5～10は、底部は丸底で、扁平に内湾する体部から短く外傾しない直立する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内面ヘラナデが施され、9の体部外端と5・6の内面はヘラミガキが施される。第218図-11～15、第219図-1～13は、底部は丸底で、扁平に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、第218図-11～15、第219図-1～5は外面に段、内面に稜を持ち、第219図-6～13は外面に不明瞭な段ないし稜、内面に稜を持つ。第219図-14～15、第220図-1・2は、底部は平底ないし平底状の丸底で、扁平に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段ないし稜を持つ。第218図-11～15、第219図-1～15、第220図-1～3の調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキを基調とし、外面にヘラミガキが施されるもの、内面にヨコナデ・ヘラナデが施されるものがみられる。内面は、黒色処理されるものとされないものがみられる。第220図-4～9は、底部は丸底で、緩やかに内湾する体部からわざかに外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に稜を持つものと持たないものがみられる。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキを基調とし、外面にヘラミガキが施されるものみられる。第220図-5・7の内面は、黒色処理される。第220図-10・11は、ロクロ使用の土師器環である。第220図-10の底部切り離し技法は、回転ヘラ切りのち手持ちヘラケズリ、第220図-11の底部切り離し技法は不明だが、体部下端から底部に回転ヘラケズリが施される。第220図-11の内面は、ヘラミガキが施される。

土師器高环(第220図-12～14)のうち、第220図-12の环部は扁平な体部から外傾する口縁部にいたり、脚部は外傾してラッパ状に開く据部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜を持つ。脚部に二等辺三角形の透かしを3窓持つ。第220図-13の环部は、緩やかに内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を

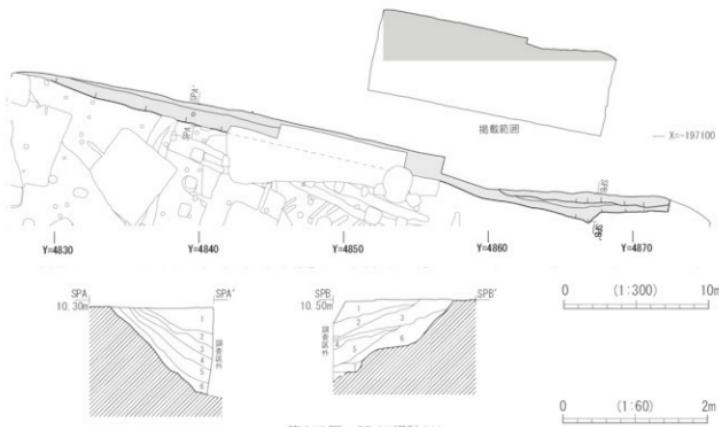
呈する。第220図-12・13の調整は、口縁部外面ヨコナデ、環部外面ヘラケズリ、環部内面ヘラミガキが施され、第220図-12の脚部は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ、裾部内外面ヨコナデが施される。环部内面は、黒色処理される。第220図-14は、内外面にヘラミガキが施され、円形の透かしが5窓残存する。

土師器器台(第220図-15)は、脚部は外傾して開き、透かしを3窓持つ。

土師器鉢(第221図-1～6)のうち、第221図-1～4は半球形に内湾する体部から、外反・外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、第221図-1・2は棱、第221図-3・4は段を持つ。第221図-5は、平底の底部から内湾する体部にいたる。底部と体部の境は屈曲し、底部は突出する。第221図-6は、球形の体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。第221図-2～5の内面はヘラミガキが施され、黒色処理される。

土師器壺(第221図-7～9、第222図-1・2、第223図-1～6、第224図-1～4、第225図-1～3)のうち、第221図-7～9、第222図-1・2、第223図-1は球形の胴部から外傾・外反する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は、第221図-7は上位、第221図-8・9、第222図-1・2、第223図-1は上位を持つ。口縁部と胴部の境は、第221図-7・9、第222図-2、第223図-1は段を持ち、第221図-8、第222図-1は段を持たない。第223図-2～5は、緩やかに内湾する胴部から外傾・内傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は、第223図-2・3は上位、第223図-4・5は中位を持つ。口縁部と胴部の境は、段ないし不明瞭な段を持つ。第223図-6、第224図-1～4、第225図-1・2は、長胴の胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は、いずれも中位を持つ。口縁部と胴部の境は、第223図-6、第224図-1・2・4、第225図-1は段を持ち、第224図-3は段・棱を持たない。第225図-3は、内湾する胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は下位に持つ。口縁部と胴部の境は、段を持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面ヘラナデを基調とし、胴部外面はハケメ、ヘラケズリ(全面・胴部下半)、ヘラナデ、ヘラミガキが施される。

土師器瓶(第225図-4、第226図-1～3)は、いずれも緩やかに内湾する胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。底部が残存する第226図-2・3は単孔式である。胴部の最大径は、第225図-4、第226図-1・2は上位、第226図-3は中位を持つ。口縁部と胴部の境は、第225図-4は不明瞭な段、第226図-3は段・棱を持たず、第



226図-1・2は段を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、胴部外面ハケメのち下半ヘラケズリ、胴部内面ヘラナデ、孔周辺ヘラケズリが施される。

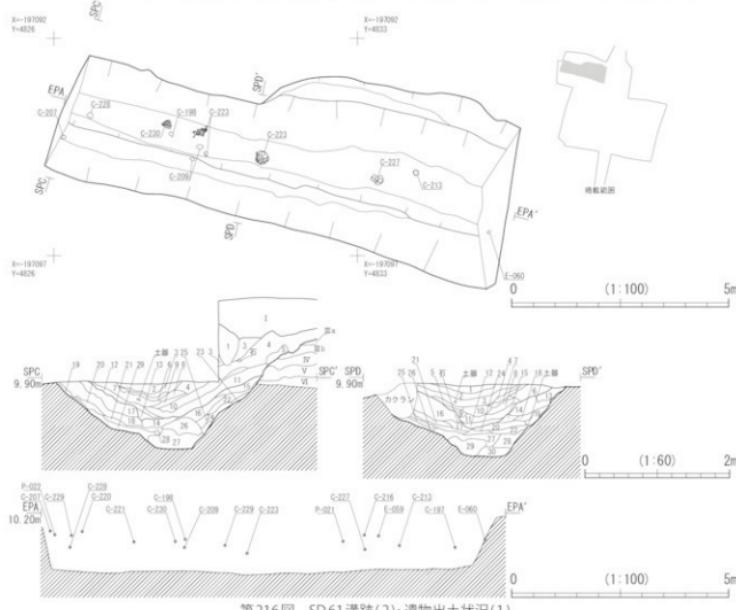
土器器ミニチュア(第226図-4～6)は、いずれも鉢形で、第226図-4・5は手捏ねである。

須恵器蓋(第226図-7～10)は、第226図-7は内湾する天井部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。天井部と口縁部の境に段を持つ。第226図-8～10は、カエリを持つ。天井部から口縁部へ緩やかに内湾する器形を呈し、口唇部は第226図-8・9が斜め下方を向き、第226図-10は垂下する。第226図-8・9はボタン状のつまみが付く。

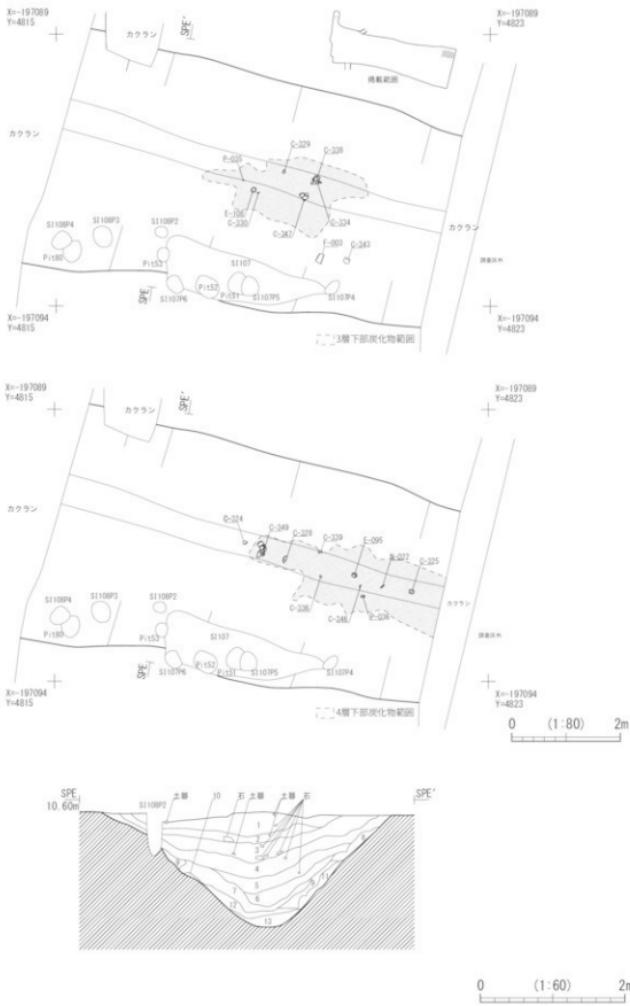
須恵器環(第227図-1～5)のうち、第227図-1・2は扁平に内湾する体部からほぼ直立する口縁部にいたる器形を呈する。第227図-1の体部～底部は手持ちヘラケズリ、第227図-2は回転ヘラケズリが施される。第227図-3は、扁平に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、段を持つ。体部外面は、手持ちヘラケズリが施される。第227図-4・5は、底部と体部の境は屈曲し、体部から口縁部は外傾する器形を呈する。第227図-5は、高台が貼り付けられる。

須恵器盤(第227図-6)は、体部・口縁部とも短く外傾し、口縁部と体部の境は段を持つ。体部内面に青海波文が施される。

須恵器底(第227図-7)は、口縁部の一部が欠損するがほぼ完形で、V区東半の堆積土からの出土である。体部は球形で、外反する頸部から屈曲して外傾する口縁部にいたる器形を呈する。調整はロクロ調整のち体部下半に手持ちヘラケズリが施される。口縁部外面に櫛描き波状文、頸部に2条の沈線が施され、体部には2条の沈線で区画した



第216図 SD61溝跡(2)-遺物出土状況(1)



第217図 SD 61溝跡(3)-遺物出土状況(2)

SD61(V区)IA本上塗装表面			
部位	部位	上色	上色
SD61(V区) AA	1	10YR3/2	黒褐色
	2	10YR3/3	暗褐色
	3	10YR3/1	黑褐色
	4	10YR4/1	暗灰色
	5	10YR4/2	灰暗褐色
	6	10YR3/3	暗褐色
	7	10YR3/2	黑褐色

SD61(V区)B反復上塗装表面			
部位	部位	上色	上色
SD61(V区) B部	1	10YR3/2	暗褐色
	2	10YR3/3	暗褐色
	3	10YR2/2	暗褐色
	4	10YR4/3	にじく・暗褐色
	5	10YR4/3	にじく・暗褐色
	6	10YR2/3	暗褐色

SD61(V区)C反復上塗装表面			
部位	部位	上色	上色
SD61(V区) C部 CC	1	10YR4/2	黄褐色
	2	10YR5/3	にじく・黄褐色
	3	10YR4/2	灰暗褐色
	4	10YR5/6	暗褐色
	5	10YR5/3	にじく・暗褐色
	6	10YR4/1	暗灰色
	7	2.5YF7/2	灰暗褐色
	8	2.5YF7/2	灰暗褐色
	9	2.5YF7/2	灰暗褐色
	10	10YR5/3	にじく・暗褐色
	11	10YR4/2	暗褐色
	12	10YR4/2	灰暗褐色
	13	10YR5/3	にじく・暗褐色
	14	10YR6/3	にじく・暗褐色
	15	10YR5/2	暗褐色
	16	10YR5/2	暗褐色
	17	10YR5/3	にじく・暗褐色
	18	10YR5/4	にじく・暗褐色
	19	10YR5/4	にじく・暗褐色
	20	10YR5/4	にじく・暗褐色
	21	5G5/1	暗灰色
	22	5BG5/1	青灰色
	23	10YR6/4	にじく・暗褐色
	24	10YR5/3	にじく・暗褐色

SD61(V区)下塗装面ひびき・土塗装表面			
部位	部位	上色	上色
SD61(V区) D部 DD	1	2.5YR7/1	灰白色
	2	2.5Y6/3	にじく・灰白色
	3	10YR5/1	暗褐色
	4	10YR5/1	暗褐色
	5	10YR5/1	暗褐色
	6	10YR5/2	灰暗褐色
	7	10YR5/2	灰暗褐色
	8	10YR5/3	にじく・暗褐色
	9	2.5YF6/1	灰暗褐色
	10	5YR5/4	にじく・暗褐色
	11	2.5YF6/2	灰暗褐色
	12	5Y5/1	暗灰色
	13	10YR5/2	暗褐色
	14	10YR4/1	暗褐色
	15	10YR5/1	暗褐色
	16	10YR6/3	にじく・暗褐色
	17	5Y5/1	暗灰色
	18	10YR5/2	暗褐色
	19	10Y5/2	灰暗褐色
	20	5BG4/1	暗灰色
	21	10YR6/3	にじく・暗褐色
	22	5BG4/1	青灰色
	23	5GY7/1	明るいグレー
	24	5GY7/1	明るいグレー
	25	10YR4/1	灰暗褐色
	26	5GY5/1	暗灰色
	27	5GY5/1	暗灰色
	28	7.5Y5/2	灰オーラー
	29	7.5Y5/1	暗灰色
	30	10YR5/3	にじく・暗褐色

SDG17街区手足・土蔵調査表					備考
部位	部位	土色	土性	地質	
SDG1 (17街区) 手足	1	10YR3/4	暗褐色	砂質レシト	径20~30mmの赤褐色プロックを多量、径10mmの黒色・トルブロック・赤色丸石が少額含む。
	2	10YR4/2	灰褐色	シルト	上部は灰褐色の粘土を多く含む。下部に瓦礫物を多く含む(厚20mm)。
	3	10YR4/3	にごる灰褐色	シルト	上部は灰褐色の粘土を多く含む。下部に瓦礫物を多く含む(厚20mm)。
	4	10YR3/4	暗褐色	シルト	上部は灰褐色の粘土を多く含む(厚5mm)。下部に目盛10mmの赤色プロックを多量、瓦礫物を多く含む(厚20mm)。
	5	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	上部は灰褐色の粘土を多く含む。下部に目盛10mmの赤色プロックを多量、瓦礫物を多く含む(厚20mm)。
	6	10YR3/4	にごる暗褐色	粘土質シルト	上部は灰褐色の粘土を多く含む。下部に目盛10mmの赤色プロックを多量含む。
	7	10YR3/2	暗褐色	シルト	径10~40mmの赤褐色・トルブロックを多量含む。
	8	10YR5/6	黄褐色	シルト	径10~30mmの赤褐色・トルブロックを多量含む。
	9	10YR5/6	黄褐色	粘土	径10mmの赤色シルトプロックを多量含む。
	10	10YR3/2	黒褐色	粘土	灰褐色シルト上に黒色粘土を多く含む。
	11	10YR5/6	黄褐色	シルト	
	12	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	黒色シルト粘土を多く含む。一部グライ化。
	13	10YR6/6	明褐色	粘土	N層プロック(灰褐色粘土・黒色粘土プロックを含む)

SDG1調査結果表					備考	
遺構名	調査区	グリッド	方向	範囲(km)		
SDG1	V18* 17街区	A ~ D2 7~8	N 78° ~ W 98°	146501 450	260 ~ 30 ~ 100 ~ 150	

ち刺突文が施文される。注口部は、施文後に貼り付けられている。

須恵器鉢(第227図-8・9)は、直線的に外傾して体部から口縁部にいたる器形を呈する。第227図-9の口縁端部は肥厚し、口縁部に1条、体部に2条の沈線が施される。8は、横態の可能性がある。

須恵器甕(第227図-10・11、第228図-1)のうち、第227図-10・11の口縁部は外傾して開き、口唇部は垂下する。第227図-10の頭部には、櫛描き波状文が施される。第228図-1は、歪みの大きい大型の甕の胸部である。

須恵器甕(第229図-1)は、V区下層調査・堆積土中層からの出土で、把手付中空内面鏡に分類される。底部はやや上げ底で、体部はわずかに膨らみを持って外傾し、外堤部にいたる器形を呈する。海部から硯面へは、外傾して立ち上がる。硯面の中央は、使用によるものか不明だが、円形に凹む。把手剥落部には、径5mmの孔が斜め上方に向て穿孔される。調整は、ロクロ調整のち体部下半回転ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリが施される。

丸瓦(第229図-2)は、側縁はヘラケズリが施され、凸面は繩タタキ目、凹面は糸切り痕のち布目痕のち一部ナデが観察される。

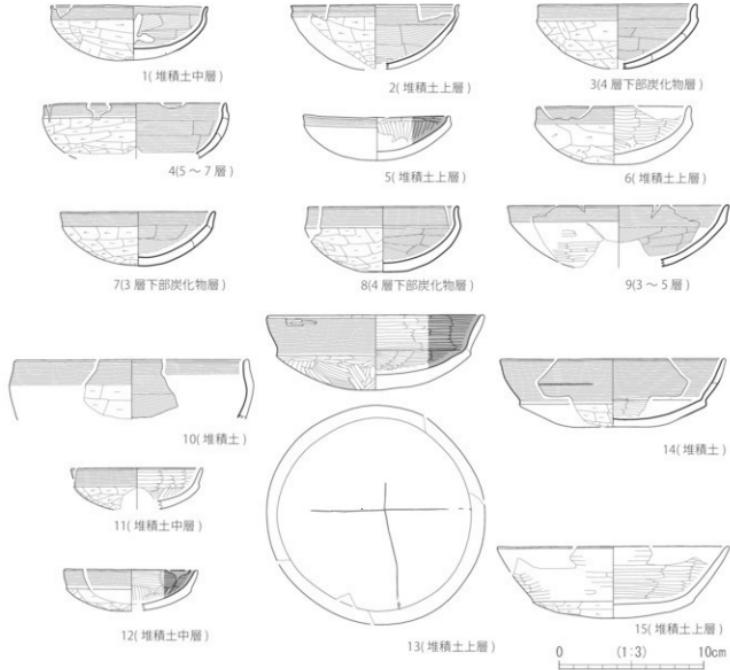
土製品(第229図-3～6、第230図-1～3)は、第229図-3は支脚、第229図-4～6は管状の土錐、第230図-1は筋錐形の土錐、第230図-2・3は土製円盤である。第230図-1の外面には、斜め方向に貫通孔が穿孔される。

金属製品(第230図-4～8)は、第230図-4～6は刀子、第230図-7は鎌、第230図-8は鉄鎌である。

石製品(第230図-9～11)は、第230図-9は磨面や敲打の使用痕跡は確認されないが、風化した刃物痕が確認される礫である。第230図-11は横長削片の末端に剥離を施した不明石製品である。形状は削片石器に似るが、石材に軟質な石英安山岩質凝灰岩を使用している。

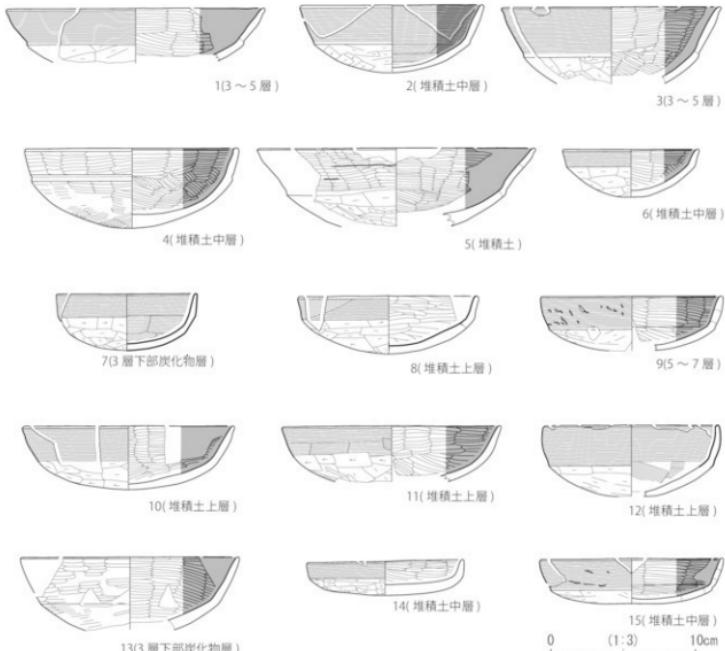
礫石器(第230図-12、第231図-1～6、第232図-1～5、第233図-1～5、第234図-1)は、第230図-12、第231図-1・3・4・6、第232図-1・2・4・5、第233図-3・4は器体の一部に敲打痕が確認される礫石である。第233図-1は上半部を欠損するが、欠損面に敲打痕が確認される。第231図-2、第232図-3、第233図-2は敲打痕に加えて磨面が確認される礫石器である。第231図-5、第233図-2では縦條痕及び溝状痕が確認される。第231図-5の表面の縦条痕は敲打痕によって切られる。第231図-2は裏面に円痕が確認される。表裏共に顕著な縦条痕が確認される。裏面の縦条痕は円痕を切っている。第233図-5は台石であるが、側縁部に剥離を伴う敲打痕が発達しており敲石として使用した可能性もある。第234図-1は大型の台石である。表面の磨面には顕著な縦条痕及び溝状痕を伴う。裏面中央には浅い凹痕が確認される。

本溝跡は、その規模から区画施設と考えられるが、出土遺物は全て堆積土からの出土であり、伴う遺物はなく、時期は不明である。しかし、17街区において本書の時期区分5a期(7世紀中葉～後葉)以降と考えられるSI 112と重複関係にあり、SI 112より新しいことから、本溝跡の時期は5a期以降と考えられる。



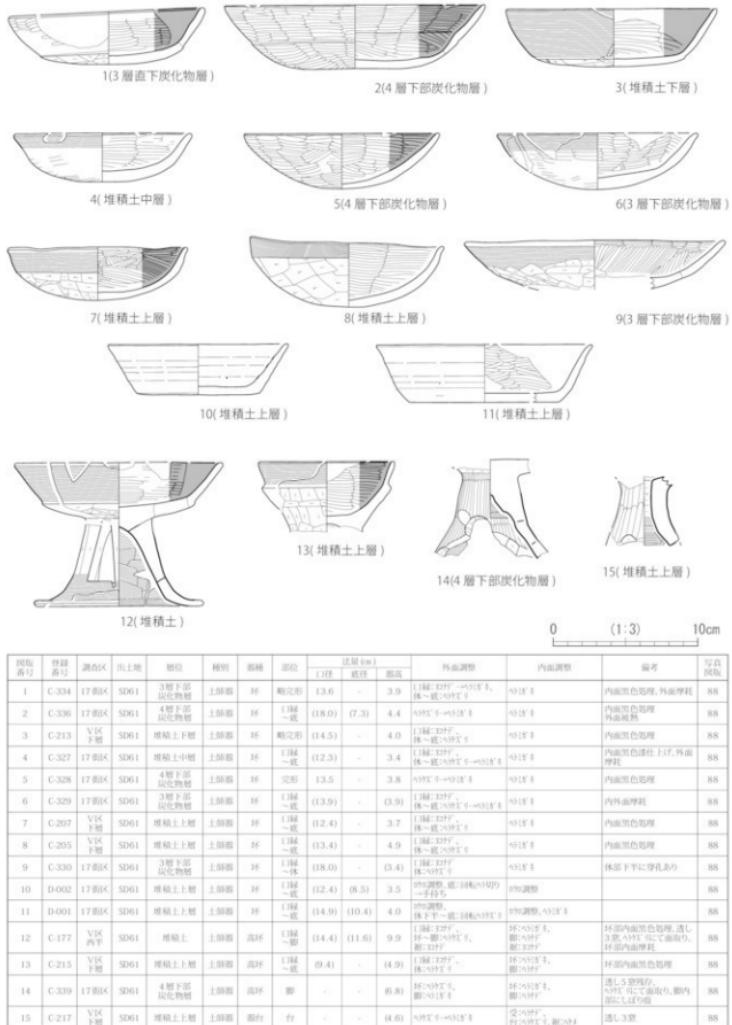
回数 番号	標記 番号	調査区	形上地	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			外曲調査	内曲調査	備考	写真 図版
								(1面) 底洋	(2面) 底高	(3面) 側面				
1	C-158	V区 下層	SD61	堆積土上層	土頭器	环	変形	10.8	-	3.7	1面-底洋10.8 2面-底高3.7 3面-側面3.7	1面-底洋10.8 2面-底高3.7 3面-側面3.7	-	87
2	C-200	V区 下層	SD61	堆積土上層	土頭器	环	1面 ~底	(11.6)	-	(4.4)	1面-底洋11.6 2面-底高4.4 3面-側面4.4	1面-底洋11.6 2面-底高4.4 3面-側面4.4	-	87
3	C-324	17街(4)	SD61	4層下部 炭化物層	土頭器	环	1面 ~底	(11.0)	-	(4.4)	1面-底洋11.0 2面-底高4.4 3面-側面4.4	1面-底洋11.0 2面-底高4.4 3面-側面4.4	-	87
4	C-326	17街(4)	SD61	5~7層	土頭器	环	1面 ~底	12.6	-	(3.8)	1面-底洋12.6 2面-底高3.8 3面-側面3.8	1面-底洋12.6 2面-底高3.8 3面-側面3.8	-	87
5	C-202	V区 下層	SD61	堆積土上層	土頭器	环	1面 ~底	10.2	-	3.2	1面-底洋10.2 2面-底高3.2 3面-側面3.2	1面-底洋10.2 2面-底高3.2 3面-側面3.2	3.2cm	内部黑色化理、外曲圓熟 面質、内部凹凸
6	C-201	V区 下層	SD61	堆積土上層	土頭器	环	1面 ~底	(10.7)	-	(4.0)	1面-底洋10.7 2面-底高4.0 3面-側面4.0	1面-底洋10.7 2面-底高4.0 3面-側面4.0	-	87
7	C-323	17街(4)	SD61	3層下部 炭化物層	土頭器	环	変形	10.7	-	3.7	1面-底洋10.7 2面-底高3.7 3面-側面3.7	1面-底洋10.7 2面-底高3.7 3面-側面3.7	-	87
8	C-325	17街(4)	SD61	4層下部 炭化物層	土頭器	环	1面 ~底	(10.4)	-	(4.3)	1面-底洋10.4 2面-底高4.3 3面-側面4.3	1面-底洋10.4 2面-底高4.3 3面-側面4.3	-	87
9	C-374	V区 下層	SD61	3~5層	土頭器	环	1面 ~底	(15.2)	-	(4.2)	1面-底洋15.2 2面-底高4.2 3面-側面4.2	1面-底洋15.2 2面-底高4.2 3面-側面4.2	内外面摩耗	87
10	C-174	V区 西半	SD61	堆積土	土頭器	环	1面 ~底	(16.2)	-	(4.1)	1面-底洋16.2 2面-底高4.1 3面-側面4.1	1面-底洋16.2 2面-底高4.1 3面-側面4.1	-	87
11	C-321	17街(4)	SD61	堆積土上層	土頭器	环	1面 ~底	(9.1)	-	(2.8)	1面-底洋9.1 2面-底高2.8 3面-側面2.8	1面-底洋9.1 2面-底高2.8 3面-側面2.8	-	87
12	C-211	V区 下層	SD61	堆積土中層	土頭器	环	1面 ~底	(9.2)	-	2.9	1面-底洋9.2 2面-底高2.9 3面-側面2.9	1面-底洋9.2 2面-底高2.9 3面-側面2.9	内部黑色化理	87
13	C-209	V区 下層	SD61	堆積土上層	土頭器	断定形	15.1	-	5.2	1面-底洋15.1 2面-底高5.2 3面-側面5.2	1面-底洋15.1 2面-底高5.2 3面-側面5.2	内部黑色化理、外曲底部 X割面	87	
14	C-176	V区 西半	SD61	堆積土	土頭器	环	1面 ~底	(15.6)	-	(4.7)	1面-底洋15.6 2面-底高4.7 3面-側面4.7	1面-底洋15.6 2面-底高4.7 3面-側面4.7	-	87
15	C-210	V区 下層	SD61	堆積土上層	土頭器	环	1面 ~底	(16.0)	-	5.0	1面-底洋16.0 2面-底高5.0 3面-側面5.0	1面-底洋16.0 2面-底高5.0 3面-側面5.0	-	87

第218図 SD61溝跡出土遺物(1)

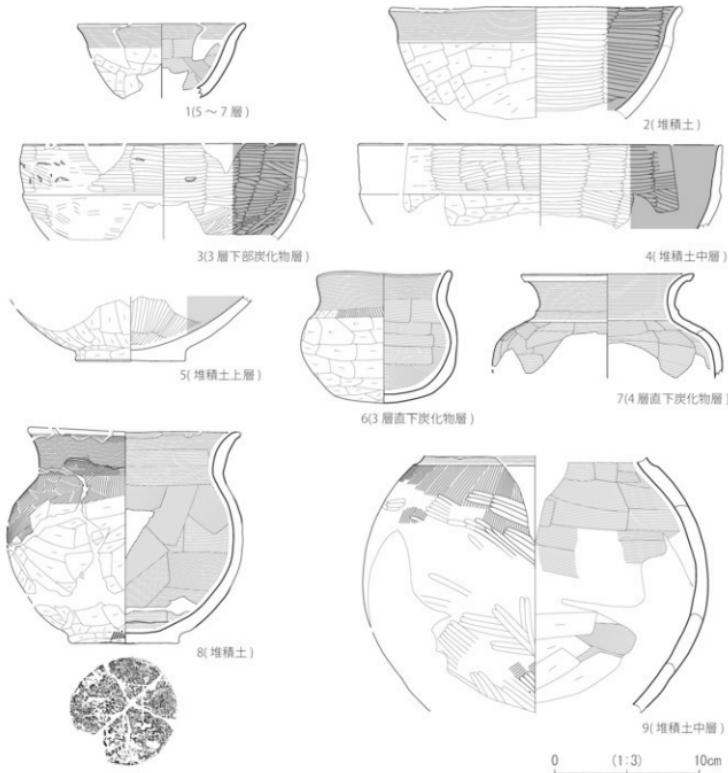


固號 番号	標記 番号	調查区 調査区	采土地 採土地	層位 層位	樹種 樹種	基種 基種	剖面 剖面	法量(t/m)			外面調整 外面調整	内面調整 内面調整	備考 備考	写真 写真
								(1)耕 耕作	(2)熟 熟化	(3)深 深度				
1	C-212	V1K 下層	SD61	3～5層	土耕層	耕	上層 上耕層	(18.0)	-	0.05	土壤(2.27t) 体(底)(5.0t)	0.03t/k	内面黑色處理	87
2	C-332	17剖K 下層	SD61	堆積土中層	土耕層	耕	上層 上耕層	(12.7)	-	4.7	土壤(2.27t) 体(底)(5.0t)	0.03t/k	外表面厚且，内面黑色處理	87
3	C-244	V1K 下層	SD61	3～5層	土耕層	耕	上層 上耕層	(15.2)	-	(5.3)	土壤(2.27t) 体(底)(5.0t)	0.03t/k	内面黑色處理	87
4	C-333	17剖K 下層	SD61	堆積土中層	土耕層	耕	上層 上耕層	(14.8)	-	5.5	土壤(2.27t)→0.05t/k 体(底)(5.0t)→0.05t/k	0.03t/k	内面黑色處理	87
5	C-335	17剖K 下層	SD61	堆積土上層	土耕層	耕	上層 上耕層	(19.2)	-	(5.4)	土壤(2.27t)→0.05t/k 体(底)(5.0t)→0.05t/k	0.03t/k	外表面黑色處理	87
6	C-203	V1K 下層	SD61	堆積土中層	土耕層	耕	上層 上耕層	(9.4)	-	3.3	土壤(2.27t) 体(底)(5.0t)	0.03t/k	内面黑色處理	87
7	C-322	17剖K 下層	SD61	3層下部 炭化物層	土耕層	耕	上層 上耕層	(9.8)	-	3.9	土壤(2.27t) 体(底)(5.0t)	0.03t/k	土壤(2.27t) 体(底)(5.0t)	87
8	C-199	V1K 下層	SD61	堆積土上層	土耕層	耕	上層 上耕層	(12.5)	-	4.0	土壤(2.27t)→0.05t/k 体(底)(5.0t)→0.05t/k	0.03t/k	外表面厚且	87
9	C-331	17剖K 下層	SD61	5～7層	土耕層	耕	上層 上耕層	(12.6)	-	(3.8)	土壤(2.27t) 体(底)(5.0t)	0.03t/k	内面黑色處理，外表面厚且	87
10	C-208	V1K 下層	SD61	堆積土上層	土耕層	耕	上層 上耕層	14.7	-	4.4	土壤(2.27t) 体(底)(5.0t)	0.03t/k	内面黑色處理，外表面厚且	87
11	C-206	V1K 下層	SD61	堆積土上層	土耕層	耕	上層 上耕層	(15.2)	-	(3.8)	土壤(2.27t)→0.05t/k 体(底)(5.0t)	0.03t/k	内面黑色處理	87
12	C-204	V1K 下層	SD61	堆積土上層	土耕層	耕	上層 上耕層	(12.2)	-	(4.9)	土壤(2.27t) 体(底)(5.0t)	0.03t/k	外表面厚且	88
13	C-308	17剖K 下層	SD61	3層下部 炭化物層	土耕層	耕	上層 上耕層	(15.1)	-	(5.0)	土壤(2.27t)→0.05t/k 体(底)(5.0t)→0.05t/k	0.03t/k	内面黑色處理	87
14	C-197	V1K 下層	SD61	堆積土中層	土耕層	耕	完形	10.9	-	2.5	土壤(2.27t) 体(底)(5.0t)	0.03t/k	88	
15	C-348	17剖K 下層	SD61	堆積土中層	土耕層	耕	上層 上耕層	(12.6)	-	3.1	土壤(2.27t) 体(底)(5.0t)	0.03t/k	内面黑色處理，外表面厚且	88

第219図 SD61溝跡出土遺物(2)

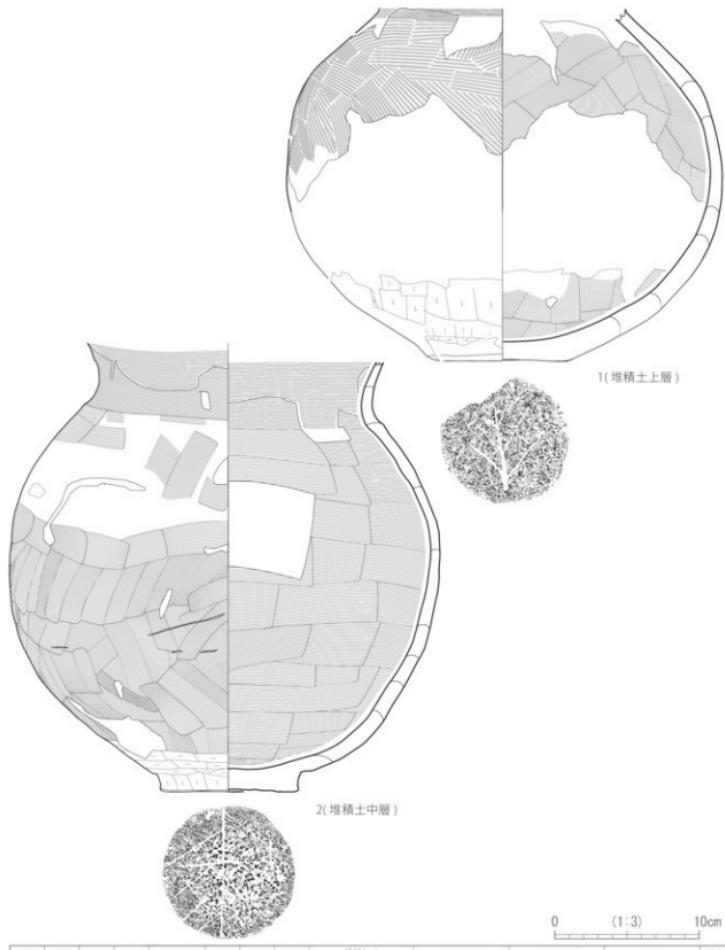


第220図 SD61溝跡出土遺物(3)



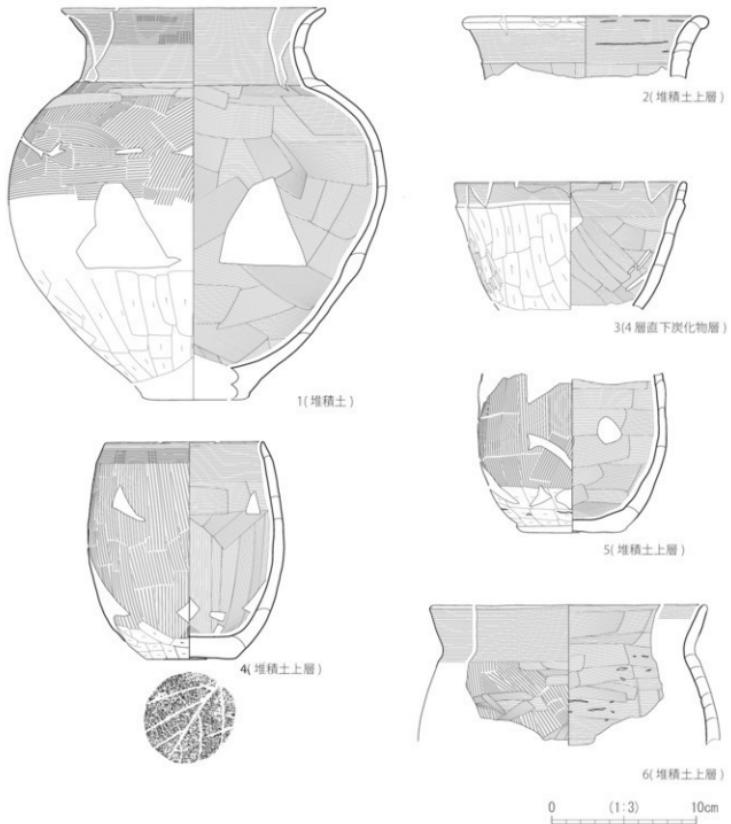
開拓 番号	登録 番号	溝名	出土地	部位	種別	断面	剖面	法面 (cm)			外縫調査	内縫調査	参考	写真 図版	
								上段	中段	底段					
1	C-342	17面C	SD61	5~7層	上部	鉢	鉢	1.04 ~1体	(11.6)	-	(5.1)	1層目: 10cm 底: 5cm 体: 3cm	1層目: 2cm 底: 3cm	88	
2	C-178	V区 西半	SD61	堆積土	上部	鉢	鉢	1.04 ~1体	(20.2)	-	(7.8)	1層目: 2cm 底: 5cm	4cm	内面黒色修理、外面摩耗	88
3	C-340	17面C	SD61	3層下部 炭化物層	上部	鉢	鉢	1.04 ~1体	(9.5)	-	(6.6)	1層目: 2cm 底: 5cm	9cm	内面黒色修理、外面摩耗	88
4	C-341	17面C	SD61	堆積土中層	上部	鉢	鉢	1.04 ~1体	(25.2)	-	(5.8)	1層目: 2cm 底: 5cm	9cm	内面黒色修理	88
5	C-216	V区 東半	SD61	堆積土上層	上部	鉢	鉢	休~直	-	7.5	(4.5)	9cm	9cm	内面黒色修理	88
6	C-343	17面C	SD61	3層下部 炭化物層	上部	鉢	鉢	定形	9.3	-	9.2	1層目: 2cm 底: 5cm	外面剥離、底のみ直	88	
7	C-346	17面C	SD61	4層下部 炭化物層	上部	鉢	鉢	1.04 ~1体	(11.9)	-	7.2	1層目: 2cm 底: 5cm	1層目: 2cm 底: 5cm	外面剥離	88
8	C-180	V区 東半	SD61	堆積土	上部	鉢	鉢	1.04 ~1体	(14.7)	7.4	15.0	1層目: 2cm 底: 5cm 鉢: 5cm	1層目: 2cm 底: 5cm 鉢: 5cm	外面底面に剥離 底: 5cm	89
9	C-228	V区 下層	SD61	堆積土中層	上部	鉢	鉢	直~傾	-	-	(17.6)	1層目: 2cm 底: 5cm 鉢: 5cm	1層目: 2cm 底: 5cm 鉢: 5cm	外面被物修理付近、 内面摩耗	88

第221図 SD61溝跡出土遺物(4)



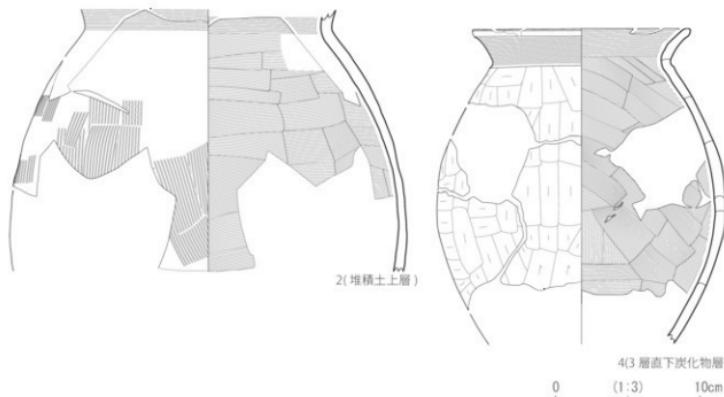
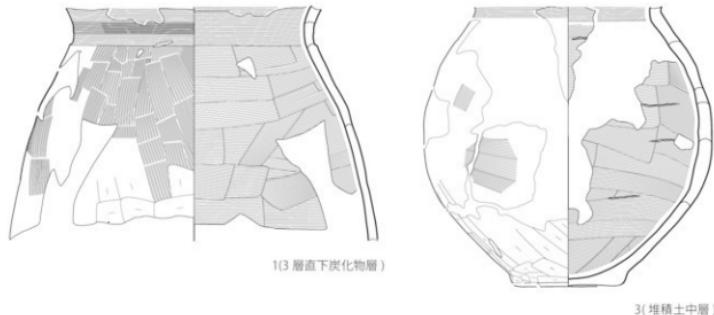
第222圖 SD61溝跡出土遺物(5)

圖號 器號	標記 高さ	調查區 V区	出土地 SD61	層位 堆積土上層	種別 土頭器	器種 甕	部位 口沿	法量(cm)			外曲調整	內曲調整	備考	寫真 回数
								(内径)	(底径)	(高さ)				
1	C-227	V区 下層	SD61	堆積土上層	土頭器	甕	口沿	9.1	(24.3)	9.2	口沿二分打、側一底二分打、 腹下部一底二分打、 底木茎部一一分打	外面摩耗	89	
2	C-223	V区 下層	SD61	堆積土中層	土頭器	甕	口沿	9.0	(30.9)	9.0	口沿二分打、 側一底二分打、 腹下部一底二分打、 底木茎部一一分打	內外面赤彩?外面摩耗	89	



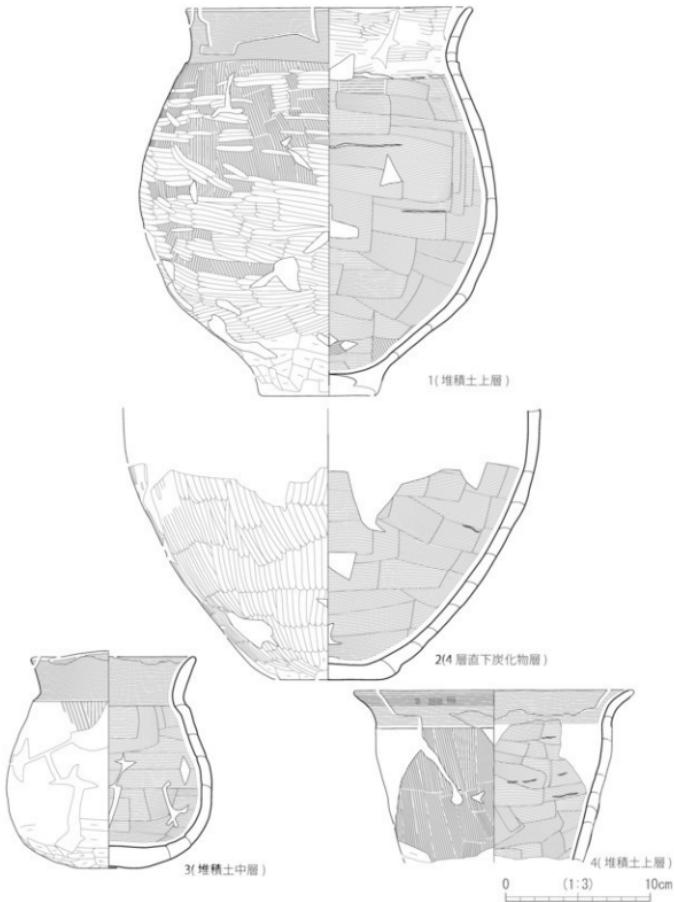
回数 番号	登錄 番号	調査区	出土地	層位	種別	部種	部位	法寸(㎜)			外周調整	内面調整	備考	写真 図版
								(1)径	(2)横径	(3)高さ				
1	C-181	V1K 臺手	SD61	堆積土	上部断面	裏	上縁 一底	18.2	7.4	27.1	上縁:27.9→32.9 腹:左半:27.4→32.7 右半:27.4→32.7 底:27.9→32.9 底:27.9→32.9	上縁:27.7 腹:左半:27.4→32.7 右半:27.4→32.7	89	
2	C-225	V1K 下縁	SD61	堆積土上層	上部断面	裏	上縁	(17.0)	-	(4.3)	上縁:27.7 腹:27.4→32.9 底:27.9→32.9	上縁:27.7 腹:27.4→32.9 底:27.9→32.9	89	
3	C-350	17頭のK	SD61	4層下層 炭化物層	上部断面	裏	上縁 一底	(10.0)	-	(8.8)	上縁:27.9→32.9 腹:27.4→32.9 底:27.9→32.9	上縁:27.7 腹:27.4→32.9 底:27.9→32.9	89	
4	C-221	V1K 下縫	SD61	堆積土上層	上部断面	裏	上縁 一底	(10.9)	6.1	15.0	上縁:27.9→32.9 腹:27.4→32.9 底:27.9→32.9	上縁:27.7 腹:27.4→32.9 底:27.9→32.9	90	
5	C-222	V1K 下縫	SD61	堆積土上層	上部断面	裏	腹:一底	(12.6)	6.9	(11.0)	腹:27.4→32.9 底:27.9→32.9	腹:27.4→32.9 底:27.9→32.9	90	
6	C-220	V1K 下縫	SD61	堆積土上層	上部断面	裏	上縁 一底	(19.2)	-	(9.7)	上縁:27.7→32.9 腹:27.4→32.9	上縁:27.7→32.9 腹:27.4→32.9	90	

第223図 SD61溝跡出土遺物(6)



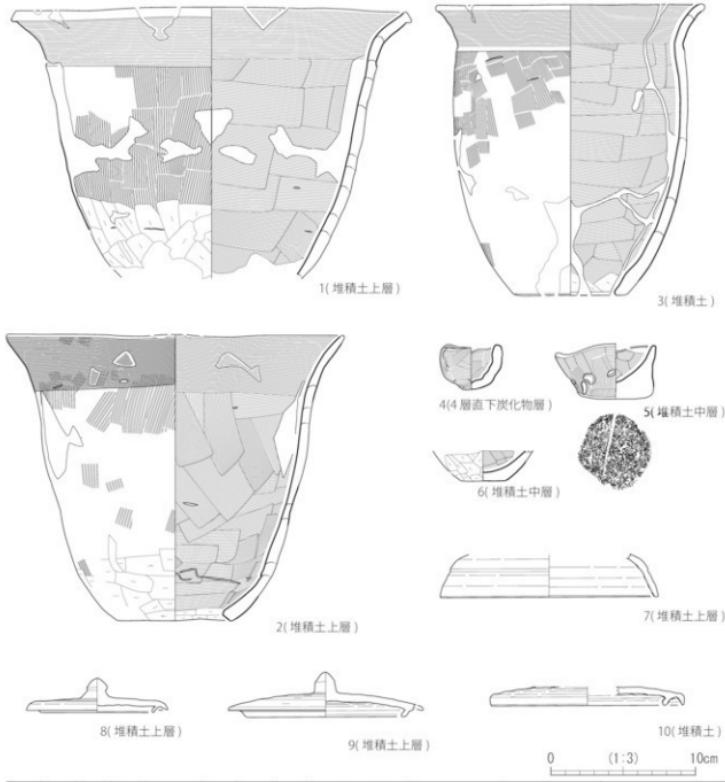
图版 番号	登錄 番号	調査区	示上地	層位	種別	器種	部位	法量(tm)	外底調整	内底調整	編号	写真 回数
1	C-345	17街区	SD61	3層下部 炭化物層	土師胎	甕	底	-	(16.1) 領:32°, 脚:八分之一脚 領:半脚, 脚:二分之一脚	領:32°, 脚:八分之一脚 領:半脚, 脚:二分之一脚	90	
2	C-229	V14 下層	SD61	堆積土上層	土師胎	甕	底	-	(18.0) 領:32°, 脚:八分之一脚 領:半脚, 脚:二分之一脚	領:32°, 脚:八分之一脚 領:半脚, 脚:二分之一脚	90	
3	C-228	V1区 上層	SD61	堆積土上層	土師胎	甕	底	7.2	(19.3) 領:32°, 脚:八分之一脚 下層:六分之一脚, 脚:二分之一脚	領:32°, 脚:八分之一脚 下層:六分之一脚, 脚:二分之一脚	90	
4	C-347	17街区	SD61	3層下部 炭化物層	土師胎	甕	底	1.184 (15.0)	(21.8) 領:32°, 脚:八分之一脚 領:半脚, 脚:二分之一脚	領:32°, 脚:八分之一脚 領:半脚, 脚:二分之一脚	90	

第224図 SD61溝跡出土遺物(7)



第225圖 SD 61溝跡出土遺物(8)

圖版 編號	發現 器物	調查區	田地	部位	種別	部樣	部位	厚度(mm)			外面調整	內部調整	備考	寫真 圖版
								上界	底界	測量				
1	C-224	V區 下層	SD61	堆積土上層	上耕層	黑	略變形	19.8	-	(26.8)	上層：23.7， 側：23.9~25.3， 底：23.4~25.7 側下：24.4~25.7	-		91
2	C-349	17面K	SD61	4層下部 炭化物層	上耕層	黑	脹~收	-	7.4	(18.7)	側：低凹狀 底：凸狀	-		91
3	C-230	V區 下層	SD61	堆積土中層	上耕層	黑	略變形	11.4	4.5	15.0	上層：12.7， 側下：12.4~13.3 底：12.7	外面補修跡		91
4	C-219	V區 下層	SD61	堆積土上層	上耕層	黑	脹~收	1.04	(19.2)	- (11.9)	側：23.9~25.3， 底：23.7	-		91



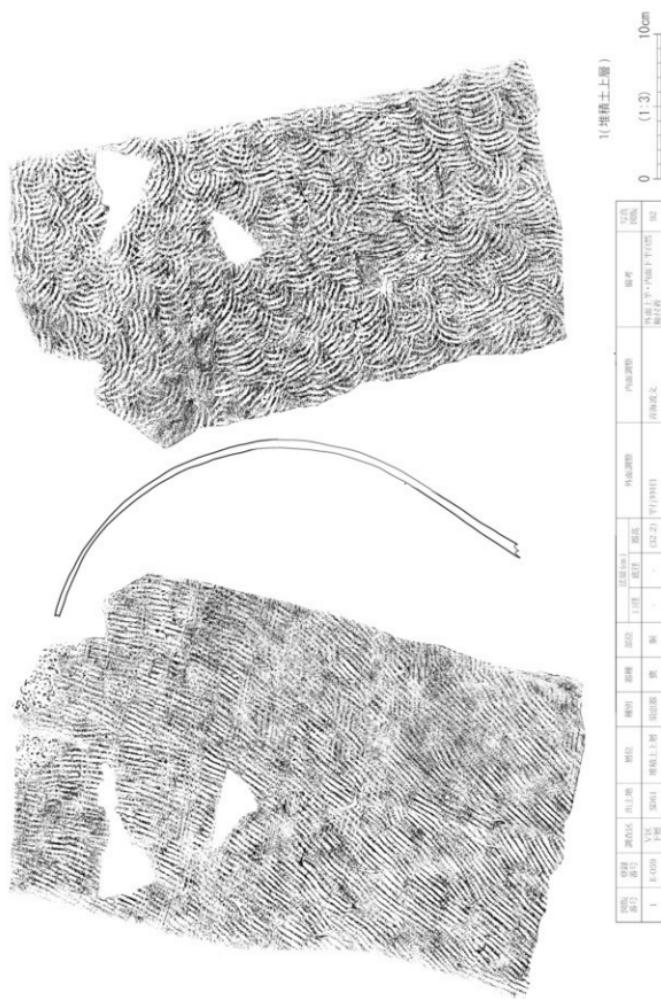
第226図 SD61溝跡出土遺物(9)

器物 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	断面	部位	法長(m)			外周測定	内面調整	備考	写真 番号
								(1坪)	(2坪)	(3坪)				
1	C-218	V14 下層	SD61	堆積土上層	土師器	盤	1.04 一孔	(27.2)	-	(18.7)	1.04×2.04m、 幅:3.04×0.93m	1.04×2.04m、 幅:3.04×0.93m	平底、外曲面熱瓦片	91
2	C-179	V1区 最上	SD61	堆積土上	土師器	盤	1.04 一孔	(23.4)	8.0	19.7	1.04×2.04×0.27m、 幅:3.04×0.93m	1.04×2.04×0.27m、 幅:3.04×0.93m	外曲面	91
3	C-344	17街K	SD61	堆積土上層	土師器	盤	1.04 一孔	(18.6)	(7.8)	20.1	1.04×2.04、幅:0.94m	1.04×2.04、幅:0.94m	平底、外曲面熱	91
4	C-379	17街K	SD61	4層下 炭化物質	土師器	口付 深形	4.1	-	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	92
5	C-380	17街K	SD61	堆積土中層	土師器	口付	1.04 一孔	7.0	5.1	3.8	1.04×1.04×0.27m、 幅:3.04×0.93m	1.04×1.04×0.27m、 幅:3.04×0.93m	外曲面工具による側面削 込み	92
6	C-381	17街K	SD61	堆積土中層	土師器	口付 深形	1.04 一孔	-	(3.0)	(2.1)	0.93×1.2	0.93×1.2	0.93×1.2	92
7	E-057	V1区 下層	SD61	堆積土上層	須恵器	盤	天井一 孔	(15.0)	-	(3.0)	0.95調整	0.95調整	外曲面自然灰瓦片	92
8	E-055	V1区 下層	SD61	堆積土上層	須恵器	盤	1.04 一孔	9.8	-	2.3	0.95調整、 天井:1.04×0.93m	0.95調整、 天井:1.04×0.93m	赤みあり、腹宝珠	92
9	E-056	V1区 下層	SD61	堆積土上層	須恵器	盤	2.04 二孔	(3.4)	-	3.1	0.95調整、 天井:1.04×0.93m	0.95調整、 天井:1.04×0.93m	外曲面自然灰瓦片	92
10	E-031	V1区 西半	SD61	堆積土上層	須恵器	盤	1.04 一孔	(13.2)	(1.3)	0.95調整	0.95調整	0.95調整	外曲面自然灰瓦片	92

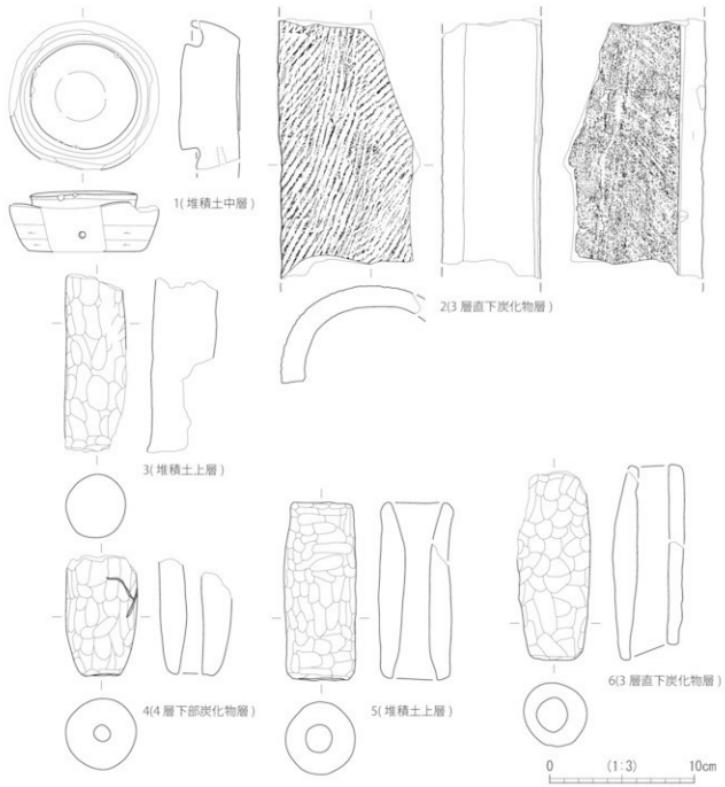


回数 番号	段落 高さ(m)	調査区	土地上	層位	種別	都種	部位	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
								上縁	底径	周長				
1	E-095	17段(4)	SD61	4層下部 炭化物層	須志器	杯	口縁 一級	9.3	6.2	4.4	口縁調整、底下平大外方、 底内方付	口縁調整		92
2	E-108	17段(5)	SD61	3層下部 炭化物層	須志器	杯	略突形	9.1	7.8	6.0	口縁調整	口縁調整		92
3	E-028	V段 西半	SD61	堆積土	須志器	杯	略突形	14.1	4.8	3.5	口縁調整、 底内方付	口縁調整		92
4	E-029	V段 西半	SD61	堆積土	須志器	杯	口縁 底	(17.3)	(13.7)	3.3	口縁調整、 底内方付	口縁調整	底部外側自然粘付着	92
5	E-030	V段 西半	SD61	堆積土	須志器	杯	口縁 底	(15.4)	(12.9)	4.0	口縁調整→高台付	口縁調整		92
6	E-096	17段(6)	SD61	堆積土中層	須志器	盤	口縁 一級	(28.0)	(26.6)	(2.8)	口縁調整、 底内方付	口縁調整、 底内方付	体:青海波文	92
7	E-061	V段 東半	SD61	堆積土	須志器	盤	略突形	(12.2)	-	15.4	口縁~底:口縁調整 底内方付	口縁~底:口縁調整 底内方付	注:口縫径13.5cm	92
8	E-032	V段 東半	SD61	堆積土	須志器	碗	口縁 一級	(19.0)	-	(8.4)	平行口縫→口縫調整	口縫調整	内面自然粘付着	92
9	E-033	V段 東半	SD61	3層	須志器	碗	口縁 一級	(15.6)	-	(10.0)	口縫調整→口縫付	口縫調整	内外面自然粘付着	92
10	E-058	V段 東半	SD61	堆積土中層	須志器	盤	口縫 一級	-	-	(6.8)	平行口縫→口縫調整	口縫調整	體:青海波文	92
11	E-097	17段(5)	SD61	堆積土中層	須志器	盤	口縫 一級	(19.1)	-	(7.5)	口縫調整、 底内方付	口縫調整、 底内方付	体:青海波文→M1	92

第227図 SD61溝跡出土遺物(10)

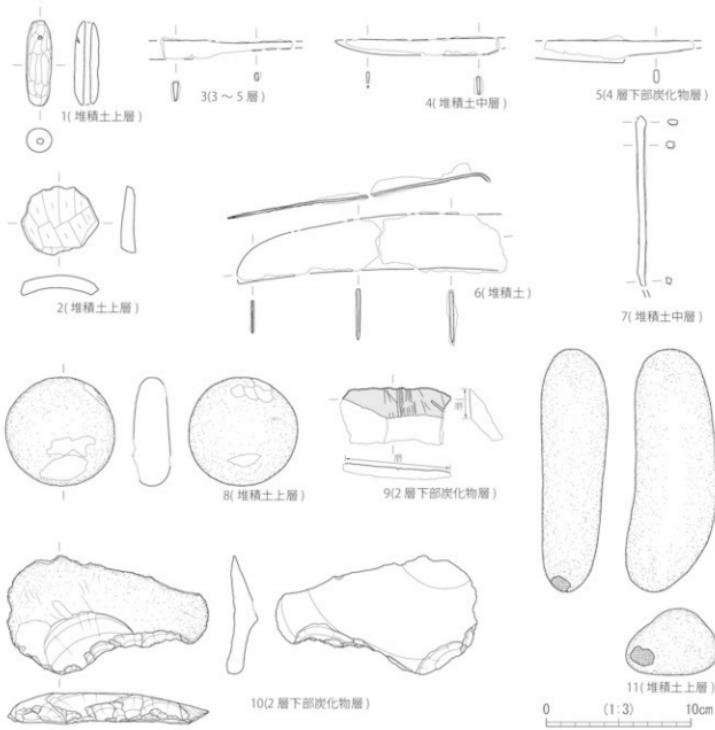


第228図 SD61溝跡出土遺物(11)



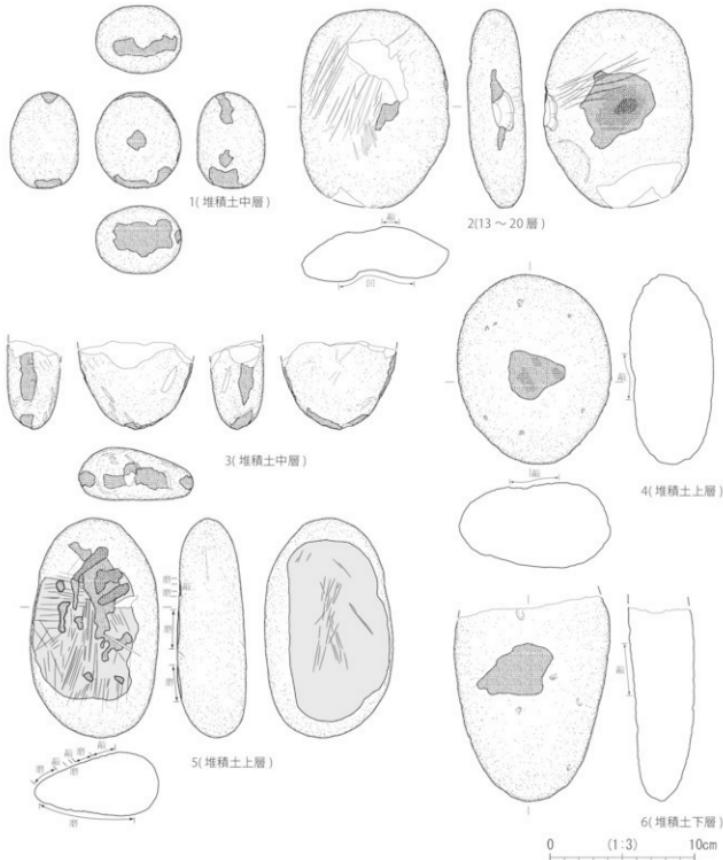
回数 番号	登録 番号	調査区 名	出土地 名	層位	種別	面種	部位	法面 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 回数
								C径	B径	幅				
1	E-060	V区	SD61	堆積土中層 下層	泥炭層	泥炭 中空 凹面	把手付 円筒	(10.3)	7.9	4.2	前面の側面 底付の側面 底付の側面	-	内面凹空、外面把手付側 面付孔付(孔径0.5cm)	93
2	F-003	17街区	SD61	3層下部 上層 灰	灰瓦	(17.4)	φ0.8	1.5	範囲目	斜切口縫→布目縫→斜切口 側縫△P91				93
回数 番号	登録 番号	調査区 名	出土地 名	層位	種別	面種	部位	法面 (cm)			凸面調整	凹面調整	備考	写真 回数
3	P-034	17街区	SD61	堆積土上層 上層	土製品	支脚	(11.9)	4.3	4.3	210.4	↑↑ 被熱焼			93
4	P-036	17街区	SD61	4層下部 炭化物層	土製品	土脚	φ0.31	4.9	4.9	(213.7)	↑↑ 孔径1.1cm、背仄、側面に工具痕			93
5	P-021	17街区	SD61	堆積土上層 上層	土製品	土脚	12.3	5.0	5.0	298.2	↑↑ 孔径2.0cm、背仄			93
6	P-035	17街区	SD61	3層下部 炭化物層	土製品	土脚	(13.0)	5.0	4.4	(247.8)	↑↑ 背仄、被熱、隔壁使用による凹みあり			93

第229図 SD61満跡出土遺物(12)



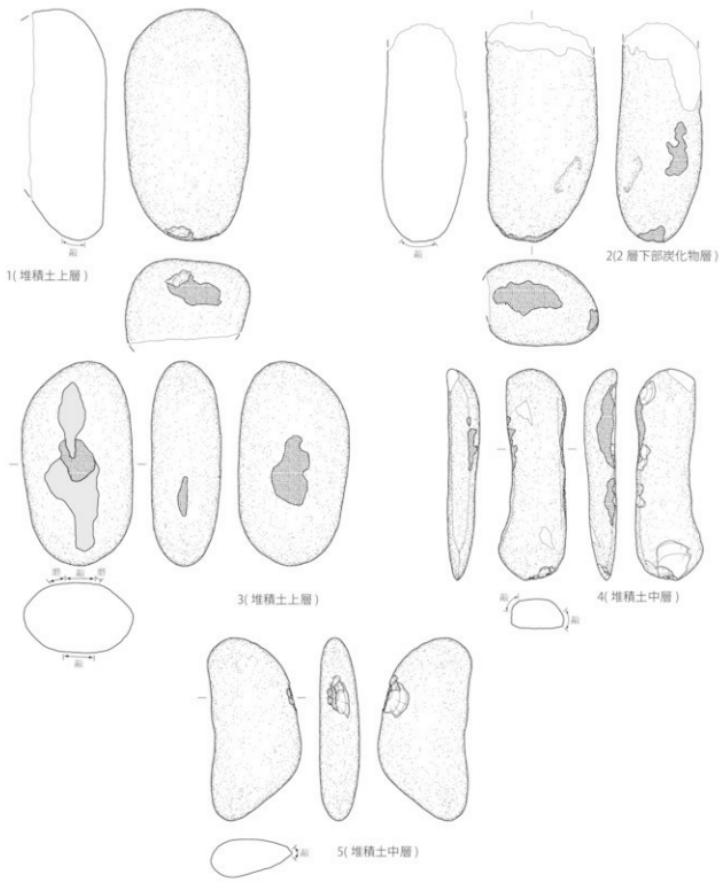
回数 番号	鉱物 名	調査区 名	出土地 名	層位	種別	部種	測量(cm)			重量(g)	特徴・備考	写真 回数
							全長	幅	厚			
1	F-022	V区 下層	SD61	堆積土上層	土製品	土器	5.8	1.7	1.6	18.1	刃、孔径0.4cm側面に孔径0.2cmの孔が通孔。完全	93
2	P-037	17面区	SD61	堆積土上層	土製品	土器	4.7	5.3	1.0	-	上端削尖の体部、鋸歯状素面、外側へ狭く、内側へ広げ	93
<hr/>												
回数 番号	鉱物 名	調査区 名	出土地 名	層位	種別	部種	測量(cm)			重量(g)	特徴・備考	写真 回数
							全長	幅	厚			
3	N-010	V区 上層	SD61	3-5層	金属製品	刀子	(9.1)	(1.5)	(0.6)	(7.8)	-	93
4	N-020	17面区	SD61	堆積土上層	金属製品	刀子	(10.5)	1.3	0.6	(11.2)	-	93
5	N-022	17面区	SD61	4層下部炭化物層	金属製品	刀子	(10.2)	0.9	0.35	(12.6)	柄部に木質残存	93
6	N-008	V区 中段	SD61	堆積土上層	金属製品	鍔	(18.6)	(3.8)	1.1	(78.3)	-	93
7	N-021	17面区	SD61	堆積土上層	金属製品	鍔	(11.75)	0.7	0.6	(11.4)	-	93
<hr/>												
回数 番号	鉱物 名	調査区 名	出土地 名	層位	種別	部種	測量(cm)			石材	備考	写真 回数
							全長	幅	厚			
8	Kd-019	V区 下層	SD61	堆積土上層	礫石類	その他	7.5	7.6	2.7	127.81	石美安山岩質礫石 円錐、刃物痕あり	93
9	Kd-012	17面区	SD61	2層下部 炭化物層	石製品	砾石	(7.7)	(3.9)	(2.3)	(25.60)	石美安山岩質礫石 平面上面、溝状痕あり、縦条痕あり、尖削跡	93
10	Kd-016	17面区	SD61	2層下部 炭化物層	石製品	不明石製品	13.9	8.3	2.2	106.53	石美安山岩質礫石 側面に二次加工あり、縦条痕あり、刃物痕あり	93
11	Kc-049	V区 下層	SD61	堆積土上層	礫石類	砾石	16.7	6.4	4.7	679.60	尖削跡、縦(横)面粗面	93

第230図 SD61満跡出土遺物(13)



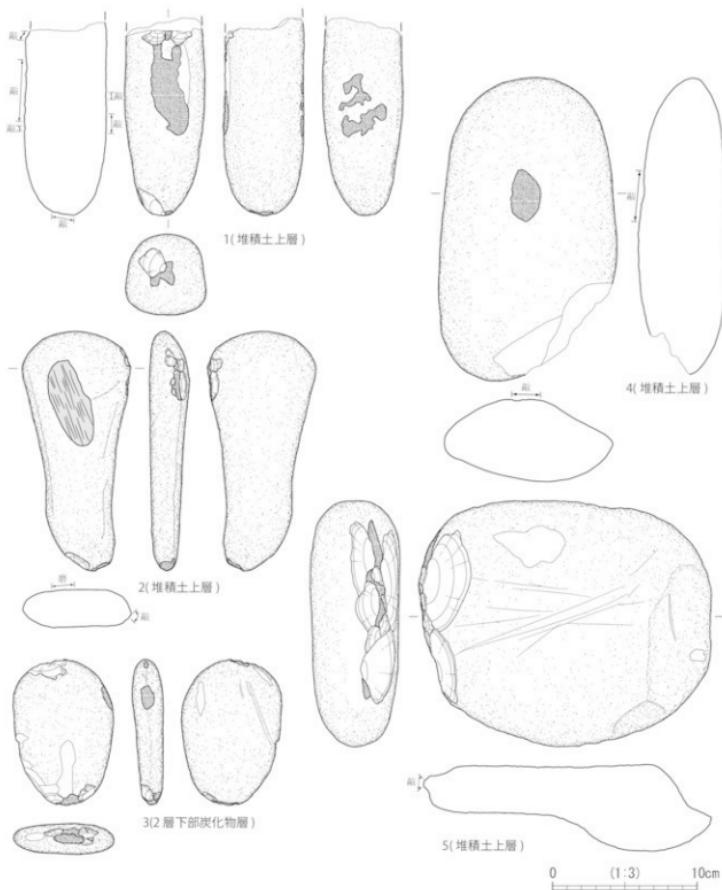
图版 编号	器物 番号	调查区	出土地	部位	种类	器形	量具 (cm)	重量 g	厚度 mm	石材	参考	写真 图版	
1	Kc-007	V区 下层	SD61	堆积土中层	砾石器	砾石	6.7	5.9	4.7	安山岩	内壁, 壁(4箇所)程度強	93	
2	Kc-028	V区 下层	SD61	13~20层	砾石器	砾石	(3.7)	10.3	4.0	421.27	石英安山岩質砾灰石 内壁, 壁(1箇所)程度深, 壁(2箇所)程度 強, 破片形少, 片物強少, 丸頭形少	93	
3	Kc-032	17面V 下层	SD61	堆积土中层	砾石器	砾石	(6.1)	(7.9)	(3.7)	(127.93)	石英安山岩質砾灰石 内壁, 壁(3箇所)程度強, 片物強少, 丸頭形 少	93	
4	Kc-025	V区 下层	SD61	堆积土上层	砾石器	砾石	13.1	10.6	5.9	660.39	砾灰石	内壁, 壁(1箇所)程度強	93
5	Kc-006	V区 下层	SD61	堆积土上层	砾石器	砾石	15.1	8.9	4.8	805.40	安山岩	砾灰砾, 砂(2箇所)程度強, 破片形少	94
6	Kc-011	V区 下层	SD61	堆积土下层	砾石器	砾石	(14.1)	10.8	4.7	(556.30)	石英安山岩質砾灰石 内壁, 壁(1箇所)程度強, 片物強少, 丸頭形 少	94	

第231図 SD61溝跡出土遺物(14)



第232図 SD61満跡出土遺物(15)

固形 番号	骨器 番号	調査 年	出土地 名	種類	種別	遺構	法長(cm)	重量 g	石材	備考	写真 番号		
1	Kr-029	VSK下層	SD61	堆積土上層	磚石器	礫石	16.0	8.7	(5.3)	(1264.22)	柳原遺跡(1箇所)程度弱	94	
2	Kr-030	17面E	SD61	堆積土上層	磚石器	礫石	(15.1)	7.7	6.0	(697.48)	瀬戸川	柳原遺跡(2箇所)程度強、火加熱力	94
3	Kr-047	VSK下層	SD61	堆積土上層	磚石器	骨+繩	14.1	7.7	4.8	287.52	安山河	柳原遺跡(2箇所)程度強、火加熱力	94
4	Kr-002	17面E	SD61	堆積土中層	磚石器	礫石	14.5	4.7	2.3	165.51	瀬戸川	柳原遺跡(4箇所)程度強、火加熱力	94
5	Kr-051	17面E	SD61	堆積土中層	磚石器	礫石	12.7	6.5	2.8	319.28	安山河	不燃玉器、葛(白面所)程度強	94



第233図 SD61溝跡出土遺物(16)

回数 番号	發現 場所	調査区	出土地	層位	種別	基種	寸法(cm)			重量(g)	石材	備考	写真 箇所
							全長	幅	厚				
1 Ke-023	V15 下層	SD61	堆積土上層	磚石類	磁石	(12.6)	5.6	5.6	(532.91)	磁石	等(1塊, 磁(5個所)程度強, 斷面少)	94	
2 Ke-026	V15 下層	SD61	堆積土上層	磚石類	磁+鐵	16.6	7.5	2.8	449.98	矽岩	等(1塊, 磁(1個所), 鐵(1個所)程度強, 線条痕少)	94	
3 Ke-020 17街4	SD61	2層下部 炭化物層	磚石類	磁石	10.0	7.0	2.1	192.37	石英斑岩	等(1塊, 磁(1個所)程度強, 線條痕少, 力物 組成少)	94		
4 Ke-035	V15 下層	SD61	堆積土上層	磚石類	台石	(20.9)	12.4	6	(2224.45)	石英斑岩	等(1塊, 磁(1個所)程度強, 斜裂隙少)	94	
5 Ke-042 17街4	SD61	堆積土上層	磚石類	台石	29.2	17.0	6.2	1629.75	石英安山岩質凝灰岩	円形扁平塊, 磁(1箇所)程度強, 斷面少	94		



第234図 SD61溝跡出土遺物(17)

SD74 溝跡(第235図)

17街区東半、Z-8グリッドに位置する。SI 108・112、SD 61と重複関係にあり、SI 112より新しく、SI 108、SD 61より古い。検出した規模は、全長235cm、上端幅38~40cm、下端幅15~30cm、深さ9cmを測る。N-25°-Eの方向に延び、北側はSD 61により失われている。断面形状は逆台形を呈し、底面は平坦である。SD 75・76と並走する。

堆積土中から土師器の破片が少量出土しているが、図化できる遺物はなかった。

SD75 溝跡(第235図)

17街区東半、Z-8グリッドに位置する。SI 107・117、SD 61、Pit 27・38・52と重複関係にあり、SI 117より新しく、SI 107、SD 61、Pit 27・38・52より古い。検出した規模は、全長735cm、上端幅35~42cm、下端幅26~35cm、深さ6cmを測る。N-26°-Eの方向に延び、北側はSI 107、SD 61により失われている。断面形状は逆台形を呈し、底面はやや起伏する。SD 74・76と並走する。

堆積土中から出土した金属製品1点を掲載した(第235図)。

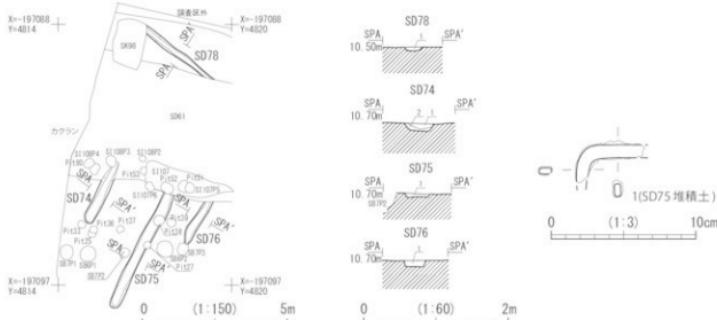
SD76 溝跡(第235図)

17街区東半、Z-8グリッドに位置する。SI 116、SB 7、SD 61と重複関係にあり、SI 116より新しく、SB 7、SD 61より古い。検出した規模は、全長170cm、上端幅27~34cm、下端幅16~25cm、深さ9cmを測る。N-30°-Eの方向に延び、北側はSD 61により失われている。断面形状は逆台形を呈し、底面は平坦である。SD 74・75と並走する。

堆積土中から土師器・須恵器の破片が少量出土しているが、図化できる遺物はなかった。

SD78 溝跡(第235図)

17街区東半、Z-7グリッドに位置する。SD 61、SK 98、SM 1と重複関係にあり、いずれより古い。検出した規模は、



道標名	調査区	グリッド	方向	規模(cm)			部位	土色	土性	備考	
				上端	下端幅	深さ					
SD74	17街区	Z-8	N-25°-E	235	38~40	15~30	9	1	10Y8A/3	辺: 黒褐色 シルト	辺: 10cmの古層ブロック、底: 化物和多量、地: 土を微量含む。
							2	10Y8A/2	灰褐色	シルト	辺: 5cmの古層ブロック、底: 10cm黒褐色和上: ブロックを少量含む。
SD75	17街区	Z-8	N-26°-E	(435)	35~42	26~35	6	1	10Y8A/3	辺: 黑褐色	シルト 辺: 5~10cmの古層ブロック、底: 化物和量を微量含む。
SD76	17街区	Z-8	N-30°-E	(170)	27~34	16~25	9	1	10Y8A/3	辺: 黑褐色	シルト 辺: 5~10cmの古層ブロック、底: 化物和量を微量含む。
SD78	17街区	Z-7	N-51°-W	(280)	18~25	12~16	6	1	10Y8C/4	辺: 黑褐色 シルト	地: 化物和多量、地: 土+1.化物和を微量含む。

回数	路号	緯度	経度	調査区	出土地	部位	種別	基盤	法面(m)	幅(m)	厚(m)	重量(t)	特徴・備考	写真
1	N-023	17街区	SD75	堆積土	古層物	縫隙	1	(4.7)	(1.2)	0.6	(11.36)			95

第235図 SD74 ~ 76・78溝跡・SD75出土遺物

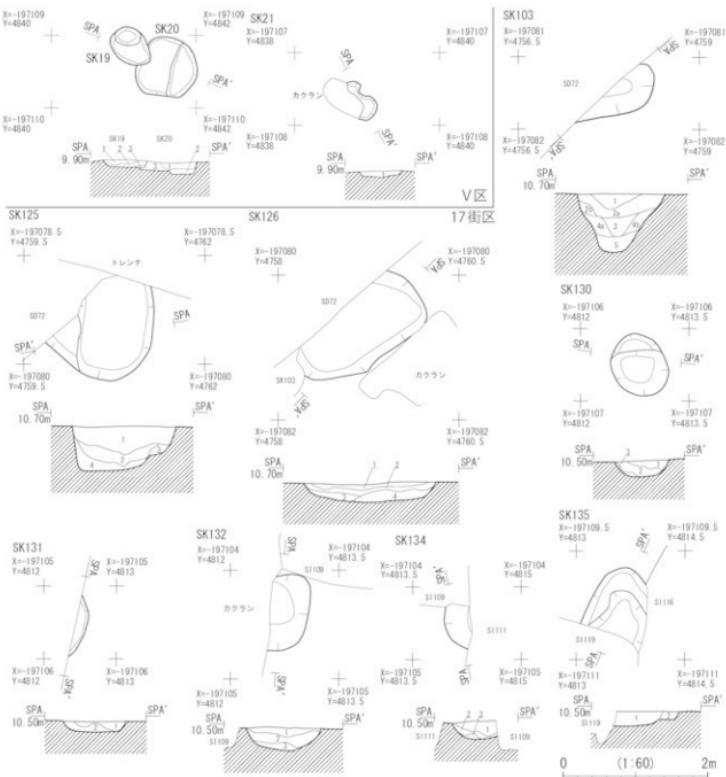
全長280cm、上端幅18～25cm、下端幅12～16cm、深さ6cmを測る。N-51°Wの方向に延び、北側はSK 95、南側はSD 61により失われている。断面形状は逆台形を呈し、底面は平坦である。遺物は出土していない。

(4) 土坑(第236・237図)

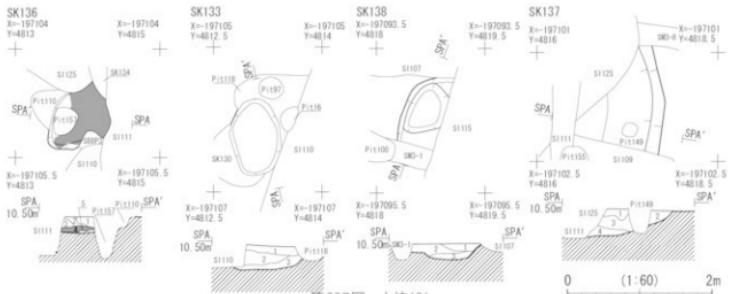
V区下層調査IV層から3基、17街区から12基検出した。V区下層調査では調査区中央に分布し、17街区では調査区西半と東半にそれぞれまとまりをもって分布する。これらの土坑は、平面形状は重複が激しく形状が判るものは少ないが、円形ないし橢円形が基調とするものが多くみられる。断面形状は、概ね逆台形・「U」字形を呈する。

堆積土は、V区下層調査検出のSK 19～21にはよい黄褐色粘土質シルトを主体とし、明黄褐色シルトブロックを含む。17街区で検出したものは、黒褐色・灰褐色粘土質シルトを主体とし、大半の土坑はIV層ブロックを含む。

遺物は、17街区で検出した土坑からは土器師・須恵器が少量出土しているが、図化できるような遺物はなかった。



第236図 土坑(1)



V面 土坑断面

道構名	調査区	グリッド	平面形	断面(m)		位相	土色	土性	備考	重複	
				長軸	深さ						
SK19	V区下層	B-8	円形	63	45	12	1 10YR5/3 2 10YR4/1 3 10YR0/4	にしい黄褐色 灰褐色 にらしい黄褐色	粘土質シルト シルト 粘土質シルト	径100mmの赤褐色シルトブロックをわずかに含む。 明褐色シルトブロックをわずかに含む。	SK20より新しい。
SK20	V区下層	B-8	円形	84	81	18	1 10YR4/2 2 10YR1/1 3 10YR5/3	灰褐色 灰褐色 にらしい黄褐色	シルト シルト シルト	径50～100mmの赤褐色シルトブロックを多量に含む。 径50～200mmのにらしい黄褐色シルトブロックをわずかに含む。	SK19より古い。
SK21	V区上層	B-8 不規則形	(81)	45	9	1 10YR5/3	にらしい黄褐色	粘土質シルト	径100mmのにらしい黄褐色シルトブロックを微量含む。		

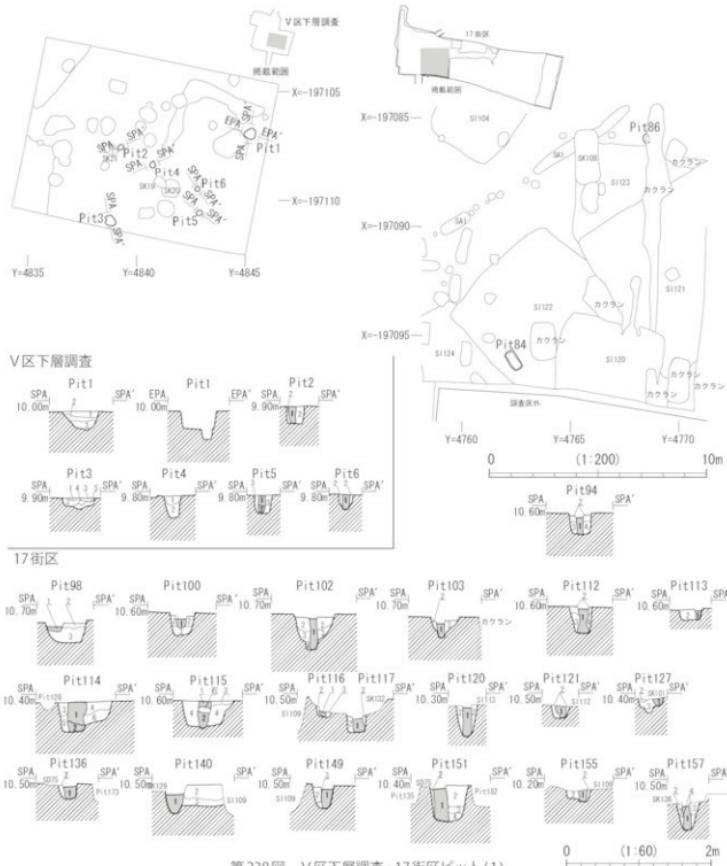
I面 土坑断面

道構名	調査区	グリッド	平面形	断面(m)		位相	土色	土性	備考	重複	
				長軸	深さ						
SK103	17面区	V-7+8	円形	(84)	60	81	1 10YR4/1 2a 10YR4/1 2b 10YR4/1 3 10YR2/3 4 10YR1/1 4b 10YR4/2 5 10YR2/3	灰褐色 灰褐色 灰褐色 黑褐色 黑褐色 灰褐色 灰褐色	シルト シルト シルト シルト シルト シルト 粘土質シルト	径5～10mmの赤褐色シルトブロックを多量に含む。 径1～3mmの赤褐色シルトブロックを多量に含む。 径5～30mmの赤褐色シルトブロックを多量に含む。 径1～5mmの赤褐色シルトブロックを多量に含む。	SD72より新しい。
SK123	17面区	V-7	円形	147	141	60	1 10YR4/2 2 10YR1/1 3 10YR4/2 4 10YR2/3 5 10YR2/2	灰褐色 灰褐色 灰褐色 灰褐色 灰褐色	シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	径5～10mmの赤褐色シルトブロックを多量に含む。 径10～50mmの赤褐色シルトブロックを多量に含む。 径10～30mmの赤褐色シルトブロックを多量に含む。	SD72より古い。
SK126	17面区	V-7	圓角方形	192	93	24	3 10YR5/3 4 10YR4/4 5 10YR4/2	にらしい黄褐色 灰褐色 にらしい黄褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	径10～50mmの赤褐色シルトブロックを多量に含む。 径10～30mmの赤褐色シルトブロックを多量に含む。 径10～30mmの赤褐色シルトブロックを多量に含む。	SD72+SK103より古い。
SK130	17面区	Z-8	円形	90	72	21	1 10YR4/3 2 10YR4/2 3 10YR5/3 4 10YR5/6	にらしい黄褐色 灰褐色 灰褐色 黑褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	径10～30mmの赤褐色シルトブロックを多量に含む。	SK133より新しい。
SK131	17面区	Z-8	不明	90	(21)	15	1 10YR2/3 2 10YR5/6	黑褐色 灰褐色	シルト 粘土質シルト	径10mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。	
SK132	17面区	Z-8	方形	108	(54)	30	1 20YR4/4 3 10YR3/4	灰褐色 灰褐色	粘土質シルト 粘土質シルト	径10～20mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。	SH128, PH116+117より新しい。
SK133	17面区	Z-8	圓形	105	99	36	1 10YR2/3 2 10YR5/3 3 10YR5/1	黑褐色 黑褐色 黑褐色	シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	径10～20mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。 径5mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。	SH110より新しい。 SK130, PH118より古い。
SK134	17面区	Z-8	円形	(90)	(36)	24	1 10YR2/2 2 10YR3/3 3 10YR4/3 4 7.5YR4/1	黑褐色 灰褐色 灰褐色 灰褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	径10mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。 径5～10mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。 径5～10mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。 径5～10mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。	SH125+SH111+112より新しい。
SK135	17面区	Z-9	不明	(96)	(90)	21	1 10YR4/3 2 10YR4/2 3 10YR5/4 4 10YR4/4	にらしい黄褐色 灰褐色 灰褐色 灰褐色	シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	径5mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。 径5～10mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。	SH116+119より古い。
SK136	17面区	Z-8	不規形	(99)	(78)	21	1 10YR5/3 2 10YR4/3 3 10YR4/1 4 7.5YR4/1	灰褐色 灰褐色 灰褐色 灰褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	径10mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。 径5～10mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。	SH110+111+125, SH88, PH110+157より新しい。
SK137	17面区	Z-8	不明	(150)	(123)	36	1 10YR4/2 2 10YR4/3 3 10YR4/3 4 10YR4/2	にらしい黄褐色 灰褐色 灰褐色 灰褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	径5～10mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。 径5～10mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。 径5～10mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。	SH109+111+125, SH149+150, SM3より新しい。
SK138	17面区	Z-8	圓角方形	(102)	(57)	24	1 10YR4/3 2 10YR4/4 3 10YR4/1	灰褐色 灰褐色 灰褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	径5～10mmの灰褐色シルトブロックを多量に含む。	SH107+115, SM3より新しい。

(5) ピット(第238・239図)

V区下層調査IV層で6基、17街区で61基検出した。V区では調査区中央に分布し、他遺構との重複はみられない。17街区では、西半に3基、東半に52基が分布し、明瞭な偏りがみられる。柱痕跡は、17街区東半の20基で確認された。17街区東半で検出したピットの多くは、整穴住居跡、溝跡、小溝状遺構群と重複し、これらの遺構より新しいものと古いものの両方がみられる。平面形状は、円形ないし梢円形を呈するものを基調とする。

遺物は、17街区の33基から、少量の土器師・須恵器の破片が出土しているが、図化できる遺物はなかった。





第239図 17街区検出ピット(2)

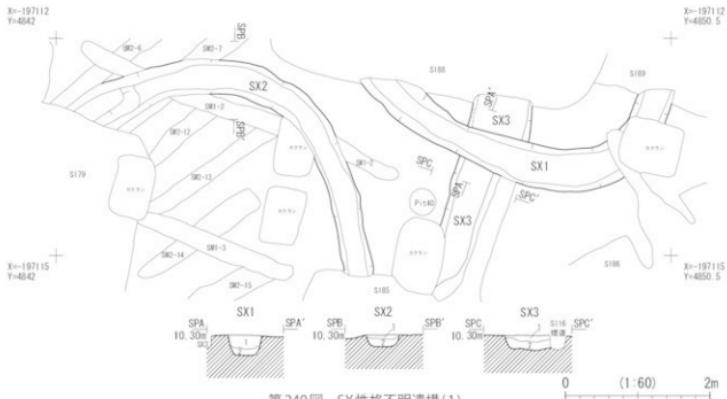
道床	調査区	グリッド	平面形	規格(km)		贈位	土色	土性	備考	重複
				目幅×	知幅					
Pt111	-	-	-	-	-	-	-	-	灰帶	
Pt112	17面区	Z-8	楕円形	40×30	37	1 2 3a 3b	褐色 褐色 褐色/4 褐色/2	シルト シルト 粘土質シルト シルト	カモフラックを多量含む。(柱頭跡) カモフラックを多量含む。 カモフラックを多量含む。 カモフラックを少量含む。	SII17より新しい。
Pt113	17面区	Z-8	円形	32×32	14	1 2	褐色/1 褐色/6	シルト シルト	カモフラックを少量含む。(柱頭跡) 黒土とシルトを多量に含む。	SII19より古い。
Pt114	17面区	Z-8	楕円形	99×65	41	1a 1b 2a 2b 3a 3b	褐色 褐色/3 褐色/2 褐色/4 褐色 褐色/1	シルト 粘土質シルト シルト シルト シルト シルト	径20～50mmの白腐プロックを多量、下部に炭化物を厚5mm含む。 黒土とシルトを多量に含む。 カモフラックを多量含む。 カモフラックを多量含む。 カモフラックを少量含む。 は30mmの層プロックを多量含む。	SII17より新しい。 SII19、Pt105より古い。
Pt115	17面区	Z-8	不整 楕円形	80×68	38	1a 1b 2 2a 2b 3	褐色/2 褐色/2 褐色/2 褐色/4 褐色 褐色/3	シルト シルト シルト 粘土質シルト シルト シルト	カモフラックを多量含む。(柱頭跡) カモフラックを多量含む。 は30～40mmの層プロックを多量含む。 黒土とシルトを多量含む。 カモフラックを少量含む。(柱頭跡) は30mmの層プロックを多量含む。	SII17より新しい。
Pt116	17面区	Z-8	円形	24×23	15	1 2a 2b	褐色 褐色/4 褐色/1	シルト シルト シルト	は30mmの層プロックを多量含む。 は10mmの層プロックを多量含む。 は10mmの層プロックを多量含む。	SII13より古い。
Pt117	17面区	Z-8	円形	30×20	26	1 2 2a 2b 3	褐色/4 褐色 褐色/6 褐色/4 褐色/3	シルト シルト シルト シルト シルト	黒土とシルトを多量含む。炭化物を微量に含む。(柱頭跡) 黒土とシルトを多量含む。	SII13より古い。
Pt118	17面区	Z-8	楕円形	(50)× 50	20	1 2 3	褐色/2 褐色/3 褐色/2	シルト シルト シルト	は30mmの層プロックを多量含む。 は10mmの層プロックを多量含む。 は10mmの層プロックを多量含む。	SII18、SK133より古い。
Pt119	17面区	Z-8	不明	48× (37)	24	2 2a 2b 3	褐色/1 褐色/1 褐色/2 褐色/3	シルト シルト シルト シルト	は2～10mmの各層プロックを多量、碳化物を微量に含む。	SII19より古い。
Pt120	17面区	Z-8	円形	30×30	44	1 1 2 2a 2b 3	褐色/6 褐色/4 褐色/4 褐色/3 褐色/2 褐色/1	シルト シルト シルト シルト シルト シルト	黒土とシルトを多量含む。他の色のカモフラックを微量に含む。	SII13+25.2より古い。
Pt121	17面区	Z-8	楕円形	30×22	17	1 2 2a 2b	褐色/3 褐色/3 褐色/2 褐色/2	シルト シルト シルト シルト	は10mmの色のカモフラックを少量含む。 カモフラックを少量含む。炭化物を微量に含む。(柱頭跡)	SII12より古い。
Pt122	17面区	Z-8	円形	26×25	29	1 2 2a 2b 3	褐色/4 褐色/2 褐色/1 褐色/1 褐色/1	シルト シルト シルト シルト シルト	は2～10mmの各層プロックを多量、炭化物を微量に含む。	SII12より古い。
Pt124	17面区	Z-8	円形	28×25	14	1 2 2a 2b 3 3a 3b	褐色/4 褐色/4 褐色/1 褐色/1 褐色/1 褐色/3 褐色/2	シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト	カモフラックを多量含む。 カモフラックを少量含む。炭化物を微量に含む。	SII12より古い。
Pt125	17面区	Z-8	不整円形	(33)× 33	16	1 2 2a 2b 3	褐色/3 褐色/1 褐色/1 褐色/1 褐色/3	シルト シルト シルト シルト シルト	は2～10mmの各層プロックを多量含む。 下部に直径5～10mmの層プロックを含む。 カモフラックを少量含む。炭化物を微量に含む。	SII17より新しい。
Pt126	17面区	Z-8	楕円形	(28)× 29	15	1 1 1 2 2a 2b 3	褐色/2 褐色/2 褐色/2 褐色/2 褐色/1 褐色/1 褐色/1	シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト	は20～200mmの色のカモフラックを多量、炭化物を少量含む。	SII12より新しい。 Pt101より古い。
Pt127	17面区	Z-8	不整面	35×34	19	1 2 3	褐色/3 褐色/3 褐色/3	シルト シルト シルト	は2～10mmの層プロックを多量含む。 カモフラックを少量含む。碳化物を微量に含む。	SII13+17.2より古い。 SK101.39より古い。
Pt128	17面区	Z-8	楕円形	29×25	8	1	褐色/3	シルト	カモフラックを少量含む。炭化物を微量に含む。	SII17より新しい。 Pt102より古い。
Pt129	17面区	Z-9	円形	25×24	15	1 1 1 1 2 2a 2b 3	褐色/3 褐色/3 褐色/3 褐色/3 褐色/1 褐色/1 褐色/1 褐色/1	シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト	カモフラックを少量含む。径5～10mmの白色粘土プロックを微量に含む。	SII13+117.2より古い。
Pt130	17面区	Z-8	楕丸形	34×33	16	2 2 3	褐色/3 褐色/3 褐色/4	シルト シルト シルト	カモフラックを少量含む。径5～10mmの層プロックを多量に含む。	SII13、SD75より新しい。
Pt131	17面区	Z-8	円形	28×26	12	1 1 1 2 2a 2b 3	褐色/3 褐色/3 褐色/1 褐色/1 褐色/1 褐色/1 褐色/1	シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト	は10mmの層プロックを多量に含む。(柱頭跡)	SII13、SD75より新しい。
Pt133	17面区	Z-8	楕円形	47×36	35	2 3	褐色/1 褐色/1	シルト シルト	は2～10mmの層プロックを少量含む。 カモフラックを少量含む。碳化物を微量に含む。	SD75より古い。
Pt136	17面区	Z-8	円形	25×25	22	1 1 1 2 2a 2b 3	褐色/1 褐色/1 褐色/1 褐色/1 褐色/1 褐色/1 褐色/1	シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト	は2～10mmの層プロックを少量含む。(柱頭跡)	SD75より古い。
Pt137	17面区	Z-8	楕円形	59×43	56	1 2 2 3	褐色/2 褐色/2 褐色/2 褐色/2	シルト シルト シルト シルト	カモフラックを少量含む。炭化物を微量に含む。	Pt99より古い。
Pt138	17面区	Z-8	楕丸形	90× (90)	34	1 2 3	褐色/4 褐色/2 褐色/2	シルト シルト シルト	は2～10mmの層プロックを少量含む。	SII13より新しい。 Pt102より古い。
Pt139	17面区	Z-8	楕円形	50×44	32	1 2 3 4 5 6	褐色/3 褐色/3 褐色/3 褐色/3 褐色/2 褐色/2	シルト シルト シルト シルト シルト シルト	は2～10mmの層プロックを多量に含む。径5～10mmの白色粘土プロックを多量に含む。	SII18、SM3より新しい。
Pt140	17面区	Z-8	不明	(85)× (62)	29	1 2 3	褐色/2 褐色/2 褐色/3	シルト シルト シルト	カモフラックを少量含む。は2～10mmの層プロックを多量に含む。径5～10mmの白色粘土プロックを多量に含む。	SII13+125.2より古い。 SK101+113.2より古い。
Pt141	17面区	Z-8	不整 楕円形	73×48	17	1 2 3	褐色/1 褐色/2 褐色/2	シルト シルト シルト	は2～10mmの層プロックを少量含む。径5～10mmの白色粘土プロックを多量に含む。は2～10mmの層プロックを少量含む。	SII13+125.2より古い。
Pt142	17面区	Z-8	楕円形	45×37	21	1	褐色/4	シルト	は2～10mmの層プロックを多量に含む。径5～10mmの層プロックを少量含む。は3mmの黒褐色シルトブ	SII13、SK101より新しい。
Pt143	17面区	Z-8+9	楕円形	45×36	26	1	褐色/2	シルト	は3mmの層プロックを多量に含む。	SII62より古い。

17街区(シート範囲)(1)

道幅名	調査区	グリッド	平面形	規格(km)		被覆	土色	土壤	備考	重複	
				面積	深さ						
Pt144	17街区	Z-7-B	楕円形	160.0 × (43)	41	1. 1 2. 2.5Y5/2 3. 2.5Y6/3	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	緑葉黃褐色 緑葉黃褐色 緑葉黃褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	緑葉黃褐色 緑葉黃褐色 緑葉黃褐色	S112より新しく、 SD61より古い。
Pt145	17街区	Z-7	不明	67 × 39	54	1. 1 2. 1 3. 1	JOYRA-2 JOYRA-6 JOYRA-2	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	緑葉黃褐色 緑葉黃褐色 緑葉黃褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	Pt146より新しく、 SD61より古い。
Pt146	17街区	Z-7	不明	54 × (29)	23	1. 1 2. 2 3. 3	JOYRA-2 JOYRA-1 JOYRA-2	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	緑葉黃褐色 緑葉黃褐色 緑葉黃褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	SD61, Pt145より 古い。
Pt147	17街区	Z-7-B	楕円形	(63) × (35)	47	1. 1 2. 2	2.5Y5/2 2.5Y4/1	粘土質シルト 粘土質シルト	緑葉黃褐色 緑葉黃褐色	粘土質シルト 粘土質シルト	SD61より古い。
Pt148	17街区	Z-9	扇形	45 × 34	24	1. 1 2. 2 3. 3	JOYRA-3 JOYRA-1 JOYRA-2	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	緑葉黃褐色 緑葉黃褐色 緑葉黃褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	S110より古い。
Pt149	17街区	Z-8	円形	35 × 30	32	1. 2 2. 2 3. 3	JOYRA-3 JOYRA-3 JOYRA-3	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	緑葉黃褐色 緑葉黃褐色 緑葉黃褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	S137より新しく、 SD61より古い。
Pt150	17街区	Z-8	楕円形	70 × 40	18	1. 1 2. 2 3. 1 4. 1	JOYRA-2 JOYRA-2 JOYRA-1 JOYRA-1	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	緑葉黃褐色 緑葉黃褐色 黑褐色 黑褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	SD61より古い。
Pt151	17街区	Z-8	円形	690.0 × 56	50	1. 2 2. 3 3. 4 4. 4	JOYRA-3 JOYRA-3 JOYRA-4 JOYRA-4	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	緑葉黃褐色 緑葉黃褐色 灰白 灰白	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	S075, Pt99より古い。
Pt152	17街区	Z-8	楕円形	(37) × 33	30	1. 1	10YR4/3	粘土質シルト	緑葉黃褐色	粘土質シルト	Pt99より古い。
Pt153	17街区	Z-8	楕円形	32 × 28	37	1. 1	10YR4/4	粘土質シルト	緑葉黃褐色	粘土質シルト	SD3より古い。
Pt154	17街区	Z-8	不明	(25) × 25	26	1. 1	10YR4/2	粘土質シルト	緑葉黃褐色	粘土質シルト	SD3より古く、 Pt138より古い。
Pt155	17街区	Z-8	円形	39 × 35	15	1. 1 2. 2 3. 1 4. 1	10YR4/2 10YR4/2 10YR4/3 10YR4/1	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	緑葉黃褐色 緑葉黃褐色 緑葉黃褐色 黑褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	S109より新しく、 Pt138より古い。
Pt156	17街区	Z-9	円形	(38) × 37	16	1. 1 2. 2 3. 3 4. 1	10YR4/1 10YR4/1 10YR4/1 10YR4/1	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	緑葉黃褐色 緑葉黃褐色 緑葉黃褐色 黑褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	S110より古い。
Pt157	17街区	Z-8	楕円形	38 × 33	37	1. 1 2. 2 3. 3 4. 4	10YR4/1 10YR4/1 10YR4/2 10YR3/1	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	黒褐色 黒褐色 黒褐色 黒褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	S112B, SK136, Pt110より古い。

(6)性格不明遺構(第240・241図)

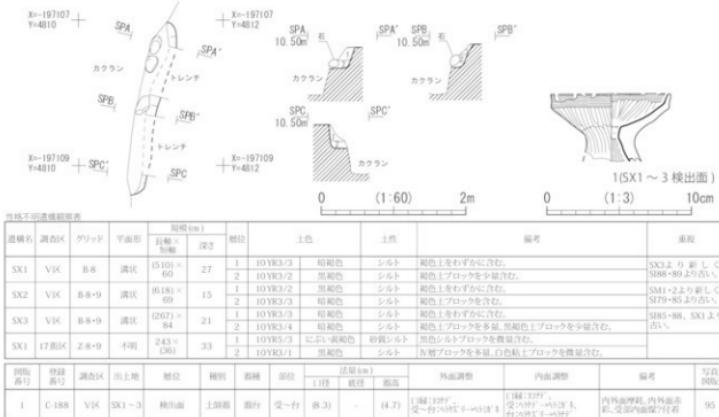
V区から3基、17街区から1基検出した。V区で検出したSX1～3は隣接し、SX1と3は重複関係にあり、SX1が新しい。平面形状はいずれも溝状で、断面形状は逆台形を呈する。SX1は北側、SX2は南側に向かって弧状をなす。17街区で検出したSX1は、大半が粗乱により失われており、平面形状は不明である。底面からわずかに浮いた状態で、自然礫が3点検出された。



第240図 SX性格不明遺構(1)

遺物は、V区で検出したSX 1～3の検出面から土師器台(第241図)が出土した。受け部は、緩やかに外傾する体部から屈曲して外傾する口縁部にいたり、台部は外傾ないし外反して開くと推定される。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面と台部外面へラミガキ、台部内面へラナデが施される。

伴う土器はないが、V区SX 1・3は、4b期(7世紀初頭～前葉)～5a期(7世紀中葉～後葉)の土器を伴うSI88より古く、SX 2は4a期以降と考えられるSI 79・85より古い。このことからV区SX 1～3の時期は、4a～5a期以前と考えられる。17街区SX 1は、時期の判る遺構との重複もないため、時期は不明である。



第241図 SX性格不明遺構(2)・出土遺物

(7) 小溝状遺構群(第242・243図)

V区で2群、17街区で1群検出した。

V区1群

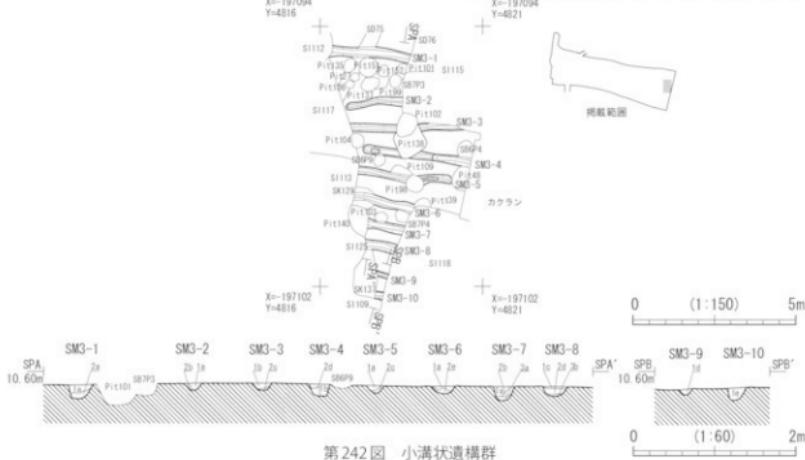
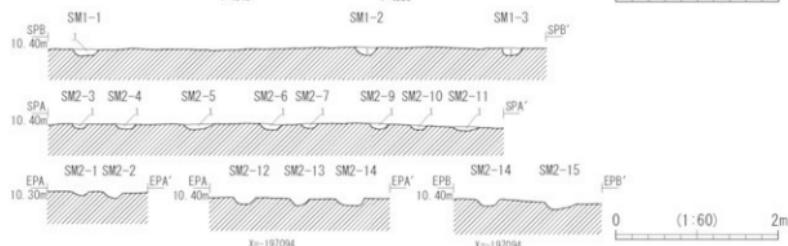
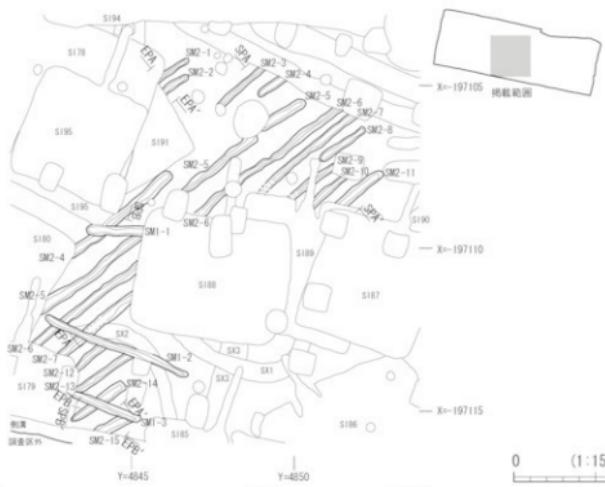
調査区中央、B-8・9グリッドに位置する。東西方向に延びるSM 1-1～3の3条で構成される。方向はN-67～87°-Wである。検出した規模は、長さ210～474cm、幅18～33cm、深さ6～9cmを測る。断面形状は、逆台形ないし皿状を呈する。V区2群を除く重複遺構より古く、2群より新しい。堆積土は、褐色シルトを主体とし、IV層小ブロックを含む。

V区2群

調査区中央、B-C-8・9グリッドに位置する。北東から南西方向に延びるSM 2-1～15の15条で構成される。方向はN-47～60°-Eである。検出した規模は、長さ168～1182cm、幅15～42cm、深さ6～9cmを測る。断面形状は、「U」字形ないし逆台形を呈する。重複する全ての遺構より古い。堆積土は、褐色シルトを主体とし、IV層小ブロックを含む。

17街区3群

調査区東半、Z-8グリッドに位置する。東西方向に延びるSM 3-1～10の10条で構成される。方向はN-75～93°-Wである。検出した規模は、長さ24～293cm、幅18～33cm、深さ6～18cmを測る。断面形状は、「U」字形ないし逆台形を呈する。重複する全ての遺構より古い。堆積土は、大別3層、細別11層に分層された。主体となる堆積土



第242図 小溝状遺構群

3. 遺構外出土遺物(第244～248図)

古墳時代から中世までの、遺構・遺物の残存状況および記録保存を目的としたV区・17街区における基本層1層からIV層上面までの調査では、擾乱や汚染土壤のすきとり作業等の影響が大きいものの、遺構検出作業時や調査区内の擾乱等から、遺構に帰属し得ない遺物が多く出土している。

それらの遺構外から出土した遺物の大部分は、本遺跡の主要時期の一つである古墳時代後期から奈良時代(本書の時期区分4～5期)の時期幅に収まる土師器・須恵器である。

以下、本項では、V区・17街区の遺構外から出土した遺物と、1998年に行った区画道路を対象とした遺構範囲確認調査のうち、今次報告のV区にかかる第9・12トレンチから出土した遺物の中から、第244～248図に掲載した48点(土師器23点、須恵器17点、土製品2点、石製品2点、剥片石器1点、礫石器3点)について、種別ごとに報告する。

(1) 土師器(第244～245図)

环12点、高环4点、鉢1点、甕4点、瓶1点、ミニチュア1点を掲載した。

环(第244図-1～12)のうち、1は、北武藏型土師器(清水型圓束系土器)の特徴を有する。底部は丸底と推定され、半球形の体部から「S」字状に緩やかに外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜を持つ。調整は、口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内面ヘラナデが施される。2は、底部は丸底で、半球形に内湾する体部から短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、内外面とも段、稜を持たない。調整は、体部外面ヘラケズリのち口縁部～体部上半ヘラミガキ、内面ヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。3～8は、底部は丸底と推定され、扁平に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。このうち7の口縁部は、外反する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜を持つ。調整は、3・4・8は口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施され、6・7は内外面ヘラミガキが施される。5は、口縁部外面ヘラミガキ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施される。このうち、3～6・8の内面は黒色処理される。9～11は、底部は平底状の丸底で、扁平に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は、外面に9・10は段を持ち、11は段を持たない。9は内面に稜を持つ。調整は、9・10は口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、11は内外面ヘラミガキが施される。10の内面は、黒色処理される。12は、体部は扁平に内湾し、体部上半は屈曲してほぼ直立し、口縁部は屈曲して強く外傾する器形を呈する。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、体部内面ヘラナデが施される。

高环(第244図-13～16)のうち、13の环部は、わずかに内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と体部の境は外面に段、内面に稜を持つ。脚部は柱状と推定され、透かし1窓が残存する。調整は、环部外面ヘラミガキ、脚部外面ヘラケズリが施され、环部内面は黒色処理される。14～16は、脚部は外傾しない外反し、裾部はラバ状に開く。15は二等辺三角形の透かしを3窓持つ。調整は、裾部外面ヨコナデ、脚部外面ヘラケズリ、脚部内面ヘラナデないしヘラケズリが施される。いずれも、环部内面は黒色処理される。

鉢(第244図-17)は、底部は平底で、半球形に内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胎土は緻密で、成形・調整は精緻である。調整は、内外面ヘラミガキが施され、内外面とも黒色処理される。

甕(第245図-1～4)は、1は球胴、2～4は長胴である。口縁部は、いずれも外傾する。口縁部と胴部の境は、2・4は段、3は不明瞭な段を持ち、1は段・稜を持たない。調整は、口縁部外面ヨコナデ、胴部内面ヘラナデは共通で、胴部外面は、1はハケメのちヘラナデとヘラミガキが部分的に施される。2はヘラナデ、3・4はヘラケズリが施される。

瓶(第245図-5)は、底部は単孔式で、内湾する胴部から短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部と胴部の境は、段・稜を持たない。調整は、口縁部外面・胴部ヘラミガキ、胴部下半ヘラケズリ、口縁部内面ヨコナデ、胴部

内面へラナデ、胴部下半・孔周辺へラケズリが施される。口縁部～胴部内面の上半には、ヘラミガキが施される。

ミニチュア(第245図-6)は、高环形の透かしを持つ脚部である。

(2)須恵器(第246～247図)

蓋1点・环5点・盤1点・壺3点・鉢2点・甕5点を掲載した。

蓋(第246図-1)は、大型の器形で、天井部から口縁部に緩やかに内湾する器形を呈し、口唇部は斜め下方を向く。环(第246図-2～6)のうち、2・3は扁平に内湾する体部から2は外傾、3は内傾する口縁部にいたる器形を呈する。2の体部下半から底部は手持ちへラケズリが施される。3の底部切り離し技法は回転へラ切りで、その後手持ちへラケズリが施される。4・5は、底部は平底で、屈曲して外傾する体部から口縁部にいたる器形を呈する。底部切り離し技法は、回転へラ切りが施される。6は、4・5と同様の器形で、底部は回転へラケズリのち高台が貼り付けられる。

盤(第246図-7)は、体部と口縁部の境は屈曲し、外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口唇部は、面を持つ。

壺(第246図-8～10)のうち、8は長頸壺の口縁部、9は長頸壺の体部である。8は、口縁部はラバ状に開き、口縁端部は肥厚する。9は肩部と体部の境は屈曲し、肩部は膨らみを持つ。体部に3条の沈線が施される。10は、底部は平底で、体部はわずかに内湾する。

鉢(第246図-11・12)のうち、11は、緩やかに内湾してほぼ直立する体部から内傾する口縁部にいたる器形を呈する。12は、直線的に外傾する口縁部で、端部は肥厚する。

甕(第246図-13・14、第247図-1～3)は、いずれも球胴の胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。第246図-13・14、第247図-1の口唇部は、下方ないし斜め下方に垂下する。第246図-14の頸部外面には、櫛描き波状文が施される。第247図-2の口縁端部は肥厚し、外面に沈線が施される。第247図-3の口縁端部は水平に近い角度に屈曲し、口縁部内面は受け口状になる。調整は、ロクロ調整を基調とし、第246図-13は胴部外面カキ目、第246図-14は頸部内面へラナデ、第247図-1は胴部外面へラナデが施される。第247図-2は、外面平行タタキ目のち口縁部ロクロ調整、頸部内面へラケズリ、胴部内面青海波文が施される。第247図-3は、胴部外面格子タタキ目、胴部内面青海波文が施される。

(3)土製品(第247図)

土製品(第247図-4・5)は、いずれも管状の土錘である。

(4)石製品(第247図)

石製品(第247図-6・7)は素材の縁辺に剥離を施した不明石製品である。6の裏面には線条痕を作らう面が確認される。

(5)剥片石器(第247図)

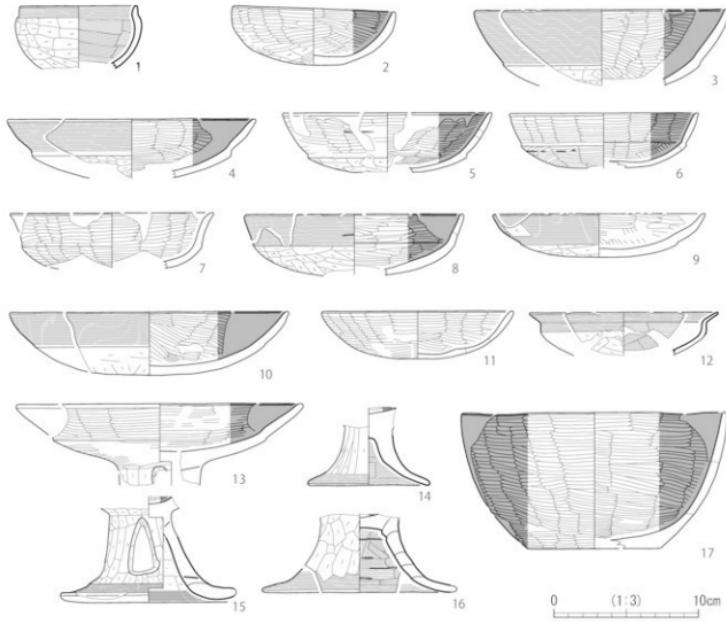
剥片石器(第247図-8)は、二次加工剥片である。表裏両面に剥離が施されており、裏面に素材面が確認される。

左側面は折れ面になっている。

(6)礫石器(第248図)

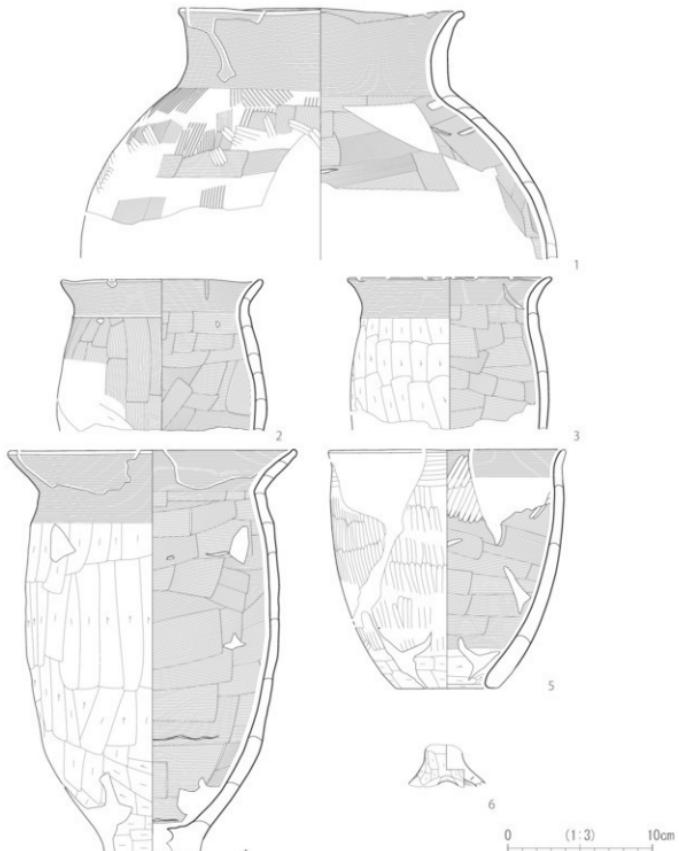
礫石器(第248図-1～3)は、1・2は礫を素材にした敲石である。3は敲打及び凹痕が確認される礫石器である。

凹痕は表裏両面に確認される。上半部は欠損する。



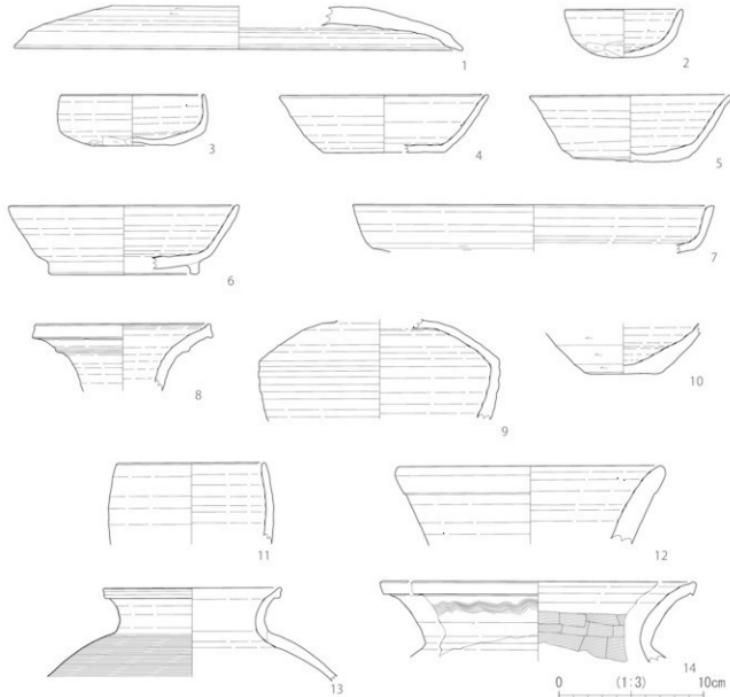
回数 番号	存置 高さ	調査区	出土地	種類	種別	部位	法量(km)	外周調整	内面調整	備考	写真 図版
1	C-360	17番区	遺構 構造面	-	土器部	环 一部	(8.1)	-	(4.3)	口縁-227mm→一部233mm 底-150mm	95
2	C-362	17番区	遺構 構造面	-	土器部	环	11.3	-	4.1	口縁-227mm→一部233mm 底-150mm→一部233mm	95
3	C-191	V区	-	遺構	土器部	环 一部	(17.6)	-	(5.2)	口縁-227mm 底-150mm	95
4	C-373	V区	トレンチ	-	土器部	环 一部	(17.3)	-	(4.1)	口縁-227mm→一部233mm 底-150mm	95
5	C-368	第12 トレンチ	-	遺構	土器部	环 一部	0.45	-	4.1	口縁-227mm→一部233mm 底-150mm	95
6	C-363	17番区	遺構 構造面	-	土器部	环 一部	0.30	-	(3.3)	口縁-227mm→一部233mm 底-150mm	95
7	C-361	17番区	遺構 構造面	-	土器部	环 一部	(14.0)	-	(3.8)	口縁-227mm→一部233mm 底-150mm	95
8	C-190	V区	-	遺構	土器部	环 一部	(15.1)	-	(4.2)	口縁-227mm 底-150mm	95
9	C-192	V区	-	N縁上面	土器部	环 一部	(14.7)	-	3.0	口縁-227mm→一部233mm 底-150mm	95
10	C-193	V区	-	遺構	土器部	环 一部	(19.2)	-	(4.4)	口縁-227mm 底-150mm	95
11	C-367	第9-12 トレンチ	-	-	土器部	环 一部	(3.3)	-	(3.3)	口縁-227mm→一部233mm 底-150mm→一部233mm	95
12	C-189	V区	-	遺構	土器部	环 一部	03.0	-	(2.9)	口縁-227mm 底-150mm	95
13	C-369	第9 トレンチ	-	遺構	高H-一部	(19.8)	-	(5.6)	口縁-227mm 底-150mm	95	
14	C-194	V区	遺構 構造面	遺構	土器部	高H 一部	(8.4)	(5.5)	口縁-227mm 底-150mm	95	
15	C-370	第12 トレンチ	-	遺構	土器部	高H 一部	-	12.1	(7.3)	口縁-227mm 底-150mm	95
16	C-195	V区	遺構 構造面	-	土器部	高H 一部	(13.4)	(5.4)	口縁-227mm→一部233mm 底-150mm	95	
17	C-371	第9 トレンチ	-	遺構	环	11.84 一部	(18.2)	(9.0)	7.4 (1.8)~底-150mm 底-150mm	95	

第244図 遺構外出土遺物(1)



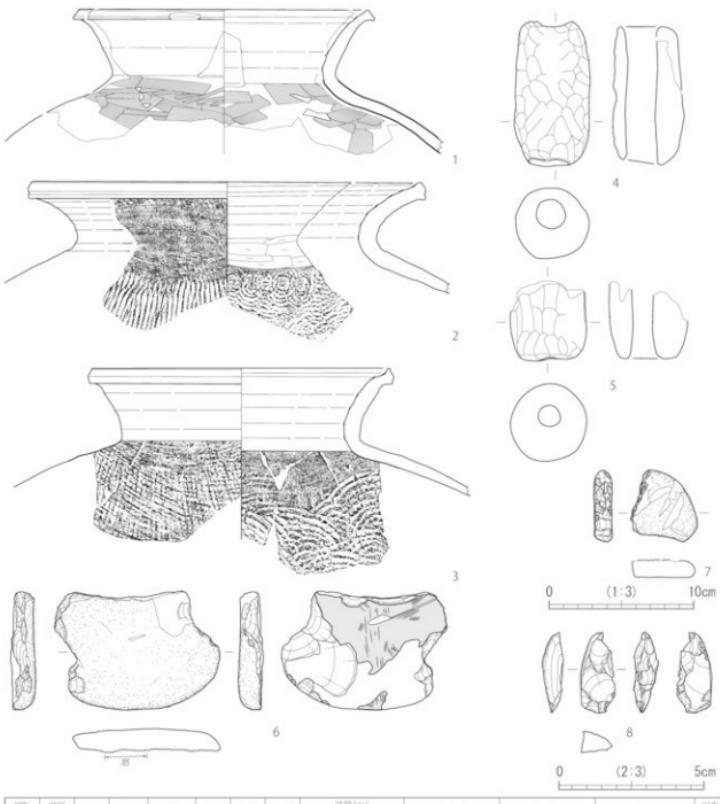
回収 番号	登録 番号	調査区	出土地	標位	種別	部種	部位	法量(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 図版			
1	C-196	V区	遺構 樹山面	-	土器部	瓶	口縁 ~瓶	19.7	-	(17.2)	1.3mm(3.0mm), 側面(3.0mm)→(2.0mm), 底面(2.0mm)→(1.5mm)	1.3mm(3.0mm), 側面(3.0mm)→(2.0mm), 底面(2.0mm)→(1.5mm)	外面摩耗	95	
2	C-364	17面区	遺構 樹山面	-	土器部	瓶	口縁 ~瓶	22.0	(14.0)	-	(10.4)	1.3mm(3.0mm), 側面(3.0mm)→(2.0mm), 底面(2.0mm)→(1.5mm)	1.3mm(3.0mm), 側面(3.0mm)→(2.0mm), 底面(2.0mm)→(1.5mm)	外面削除熱摩耗	96
3	C-372	第9、10面 遺構 樹山面	土器部	瓶	口縁 ~瓶	(14.1)	-	(10.5)	1.3mm(3.0mm), 側面(3.0mm)	1.3mm(3.0mm), 側面(3.0mm)	外面摩耗	96			
4	C-366	17面区	-	瓶底	土器部	瓶	口縁 ~瓶	(20.0)	(6.4)	28.1	1.3mm(3.0mm), 側面(3.0mm)→(2.0mm), 底面(2.0mm)→(1.5mm)	1.3mm(3.0mm), 側面(3.0mm)→(2.0mm), 底面(2.0mm)→(1.5mm)	外面削除熱摩耗	96	
5	C-365	17面区	遺構 樹山面	-	土器部	瓶	口縁 ~瓶	(6.4)	(7.2)	(6.5)	1.3mm(3.0mm), 側面(3.0mm)→(2.0mm), 底面(2.0mm)→(1.5mm)	1.3mm(3.0mm), 側面(3.0mm)→(2.0mm), 底面(2.0mm)→(1.5mm)	單孔, 孔周辺(2.0mm)	96	
6	C-382	17面区	-	土器部	口縫	瓶	-	-	(3.0)	(3.0)	2.0mm	高环形,透し3窓	96		

第245図 遺構外出土遺物(2)



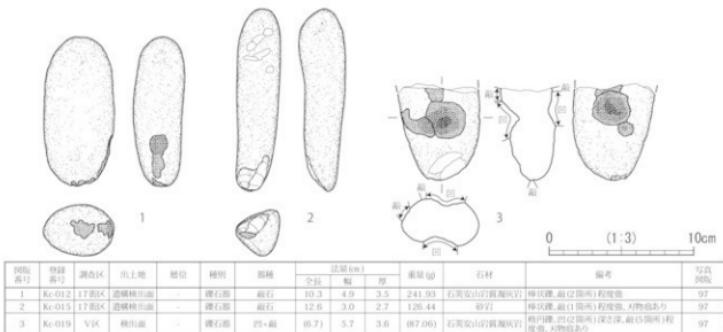
図版 (番号)	種類 (骨行)	調査ID	出土地	層位	種別	部種	測定	法算(㎝)	寸目	直径	高さ	外面調整	内面調整	備考	写真 (%)
1	E-107	第9 トレンチ 樹木面	-	須磨部	蓋	円筒	(31.1)	-	(2.0)	内面調 底付木板付	外加調 天月付	内面天月部に重ね突き出	96		
2	E-044	VJK	N層上面	須磨部	杯	一底	(1.94)	(8.2)	-	3.3	内面調 底付木板付	外加調 天月付	96		
3	E-101	第9 17西区	-	須磨部	杯	口縁	(9.8)	(5.4)	3.5	内面調 底付木板付	外加調 天月付	内面底面中央にスカスカ	96		
4	E-105	第9 トレンチ 樹木面	-	須磨部	杯	口縁	(14.4)	(8.4)	4.0	内面調 底付木板付	外加調 天月付	内外面供に塑付着	96		
5	E-099	17西区 樹木面	-	須磨部	杯	口縁	14.1	8.0	4.6	内面調 底付木板付	外加調 天月付	96			
6	E-045	VJK	第9 樹木面	-	須磨部	杯	(15.8)	(9.8)	4.8	内面調 底付木板付	外加調 天月付	96			
7	E-106	第9 トレンチ 樹木面	-	須磨部	盤	一底	(25.0)	-	(3.2)	内面調 底付木板付	外加調 天月付	96			
8	E-102	第9 トレンチ 樹木面	-	須磨部	蓋	口縁	(12.2)	-	(4.6)	内面調 底付木板付	外加調 天月付	内外面自然貼付着	96		
9	E-049	VJK	第9 樹木面	須磨部	蓋	体	-	-	(7.0)	内面調 底付木板付	外加調 天月付	外表面自然貼付着	96		
10	E-103	VJK	山壁側溝	須磨部	蓋	体一底	-	(4.6)	(3.5)	内面調 底付木板付	外加調 天月付	内面自然貼付着	96		
11	E-048	VJK	第9 樹木面	-	須磨部	鉢	口縁	(10.3)	-	(5.6)	内面調 底付木板付	外加調 天月付	96		
12	E-051	VJK	第9 樹木面	-	須磨部	鉢	(1.94)	(18.6)	(5.4)	内面調 底付木板付	外加調 天月付	96			
13	E-052	VJK	第9 樹木面	-	須磨部	蓋	二底	(12.4)	-	(6.5)	内面調 底付木板付	外加調 天月付	96		
14	E-104	VJK	第9 樹木面	須磨部	蓋	二底	(21.8)	-	(5.5)	内面調 底付木板付	外加調 天月付	96			

第246図 遺構出土遺物(3)



回数 番号	分類 器形	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	口径 幅 厚	底径 幅 厚	法量 (cm)	外面調整	内面調整	参考	写真 図版
1 E-054	VTK	遺構	植木面	-	須磨部	縦	口縁 ~斜	(20.8)	9.0	144.30±調整 目立加厚部~凹付	目立加厚部~凹付	目立加厚部~凹付	鉢或あるいは、外外面厚付	96
2 E-100	17面K	遺構	植木面	-	須磨部	縦	口縁 ~斜	(26.9)	(7.6)	144.27±調整~吹き口1系 加厚部、縫合六次元化 目立加厚部~凹付	加厚部、縫合六次元化 目立加厚部~凹付	加厚部、縫合六次元化 目立加厚部~凹付	96	
3 E-053	VTK	遺構	植木面	-	須磨部	縦	口縁 ~斜	(21.2)	(8.8)	144~145±調整 鉢或は吹き口調整	144~145±調整 鉢或は吹き口調整	144~145±調整 鉢或は吹き口調整	96	
回数 番号	分類 器形	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	口径 幅 厚	底径 幅 厚	法量 (cm)	重量(g)	特徴・参考	写真 図版	
4 P-005	VTK	遺構種付面	-	土敷部	上縁	9.8	5.1	4.8	28.9	9	145.23±重付 鉢或は2.3cm厚付	鉢或は2.3cm厚付	97	
5 P-039	17面K	遺構種付面	-	土敷部	上縁	(5.5)	5.2	5.3	(13.7)	11	145.15±重付 鉢或は1.5cm厚付	鉢或は1.5cm厚付	97	
回数 番号	分類 器形	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	全長 幅 厚	底径 幅 厚	法量 (cm)	重量(g)	石材	参考	写真 図版
6 Kd-018	VTK	-	-	須磨	石製品	不明石製品	8.2	11.5	1.8	127.51	石製品(1.5cm厚 底付)	石製品(1.5cm厚 底付)	一次加工あり、壁1面、複数底 底付	97
7 Kd-005	VTK	遺構種付面	-	須磨	不明石製品	5.0	4.6	1.4	23.96	7.40	石製品(1.5cm厚 底付)	石製品(1.5cm厚 底付)	一次加工あり、底付	97
8 Ka-002	VTK	遺構種付面	-	鉢片石面	不明石器	2.8	1.2	0.8	2.28	0.00	表面高さから加工、左側面~右前面	表面高さから加工、左側面~右前面	表面高さから加工、左側面~右前面	97

第247図 遺構外出土遺物(4)



第248図 遺構外出土遺物(5)

第4節 縄文時代～弥生時代の遺構と遺物：IV層～XIV層の調査(第249～251図)

V区・17街区では、基本層IV層上面での調査終了後、擾乱等の影響が少なく、古墳時代以降の遺構検出面としたIV層以下が良好に残存していると考えられた範囲に下層調査区を設定し、弥生時代以前の遺構・遺物の確認・記録を目的とした調査(下層調査)を実施した(第249～251図)。なお、V区においては、IV層上面で一部が検出されている区画施設と考えられるSD 61の調査を合わせて行うため、北側に調査区を抵抗している。調査は両調査区とも基本層IV層からその下層へと層位的に掘り下げ、各層面にて遺構や遺物の残存状況を確認し、遺構が検出された場合は各遺構の精査に着手した。各基本層中から出土した遺物は層位毎の一括取り上げを基本とし、遺物の出土状況に応じて出土地点と標高を記録した。

その結果、V区においてはVla'層上面で水田跡、17街区ではVla'層で水田跡とVla層で炭化物範囲を5ヶ所、Xb層で土坑を3基検出した。また、V区下層調査のVIIa層・VIIb層・X層、17街区下層調査のVla層・Xb層から少量の遺物が出土した。このほか、古墳時代以降の遺構堆積土や遺構検出面からも少量の遺物が出土している。これらの遺物の出土地および内訳は、299ページの表に示したとおりである。

出土した遺物は、縄文時代後期～晚期に位置付けられる土器と、弥生時代中期に位置付けられる土器である。これらの土器は、Vla層からは弥生土器、VIIa・b層からは縄文土器と弥生土器が混在し、Xb層からは縄文土器がそれぞれ出土している。このような出土層位の傾向は、第3次調査の下層調査でも確認されており、縄文土器と弥生土器が混在するV層を境とし、VII層より上位の層が弥生時代、VII層より下位の層が縄文時代の遺物包含層と大別される。

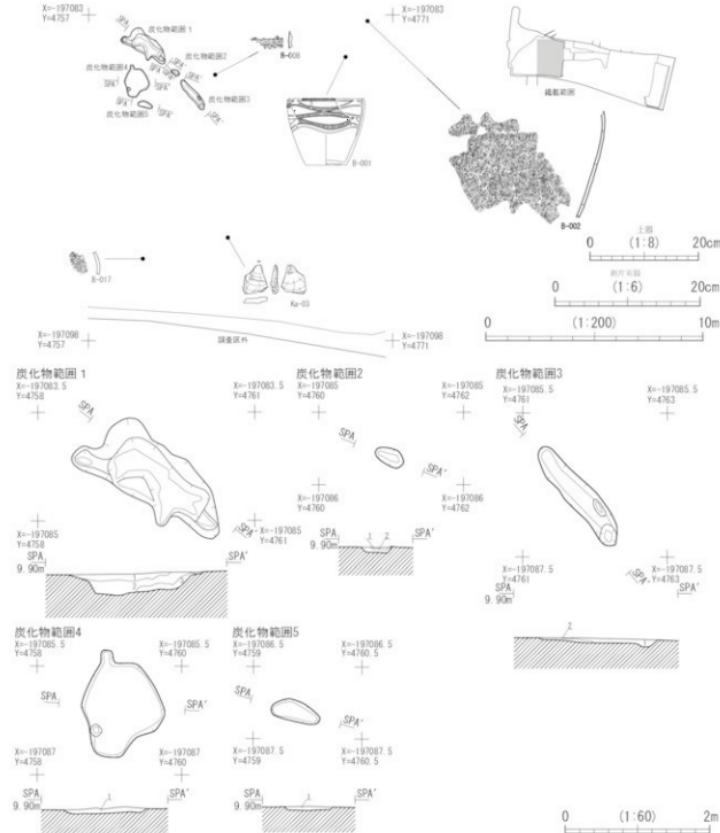
以下、今次下層調査で確認された遺構と、各基本層から出土した遺物のうち、図化可能であったVla・VIIa・VIIb・Xb層と古墳時代以降の遺構堆積土や遺構検出面から出土した遺物のうち、器形や文様等に特徴がみられる土器や、石器について報告する。なお、遺構番号については古墳時代以降の遺構と区別し、第3次調査からの通し番号付している。

1. 植出遺構(第249～251図)

(1) Vla層上面検出遺構(第249・250図)

V区下層調査・17街区下層調査東半において水田跡(Vla'層)、17街区下層調査西半で炭化物の抜き(以下、炭化物範囲)を5ヶ所検出した。

水田跡は、V区下層調査では水田区画を3区画、南北方向の駐畔を1条、東西方向の駐畔を2条検出した。17街区下層調査では水田区画を3区画、南北方向の駐畔を1条、東西方向の駐畔を1条検出した。検出した水田区画およ



道幅名	調査区	グリッド	平面形	寸法(cm)		層位	土色	土性	参考	備考
				長軸	短軸					
炭化物範囲1	17街区	V-8	不正形	228 ^x 92	30	1	10YR5/4	にごい黄褐色	シルト	炭化物少、径5~10mmの白色シルトブロックを微量に含む。
						2	10YR5/4	にごい黄褐色	粘土質シルト	炭化物・材を少量含む。下部に黒褐色粘土ブロックを伴する。
						3	2.5Y9/2	灰褐色	粘土	炭化物少、炭化鉄を微量に含む。
炭化物範囲2	17街区	V-8	楕円形	42 ^x 24	9	1	10YR5/4	にごい黄褐色	シルト	(径5mmの白色シルトブロック) 植上物を少量含む。
						2	10YR5/4	にごい黄褐色	粘土質シルト	(径5mmの白色シルトブロック) 植上物を微量含む。
炭化物範囲3	17街区	V-8	丸 ^x 長方形	138 ^x 36	12	1	10YR5/4	にごい黄褐色	シルト	炭化物少、炭化鉄を微量に含む。
						2	2.5Y7/2	灰黄色	粘土	炭化物少、炭化鉄を微量に含む。
炭化物範囲4	17街区	V-8	不正形	150 ^x 114	9	1	10YR6/4	にごい黄褐色	粘土	上部に炭化物・材を多量、径10mmの灰白色粘土を少量含む。
						2	10YR6/3	にごい黄褐色	粘土	上部に炭化物を多量、炭化鉄を少量含む。
炭化物範囲5	17街区	V-8	楕円形	69 ^x 35	5	1	10YR6/3	にごい黄褐色	粘土	上部に炭化物を多量、炭化鉄を少量含む。

第250図 17街区Vi a層炭化物範囲

(2) Xb層上面検出遺構(第251図)

17街区下層調査西半で、土坑を3基検出した。SK 19は、平面形状は円形で、断面形状は上部が皿状、下部は筒形を呈する。堆積土は、オリーブ灰色砂質シルト・粘土質シルト、灰色粘土質シルトを主体とする。SK 20・21は、平面形状は円形、断面形状は「U」字形を呈する。堆積土は、黒色粘土を主体とする。

遺物は、出土していないが、基本層Xb層から縄文時代後期末葉～晚期前葉の土器が出土していることから、本土坑の時期も同時期に属すると考えられる。

2.出土遺物(第252～255図)

(1) VIIa層出土遺物(第252図)

17街区VIIa層から、総数40点(約1130.0g)の遺物が出土した(出土遺物一覧表参照)。このうち、弥生土器鉢2点・甕3点、剥片石器1点を掲載した(第252図)。

弥生土器鉢(第252図-1・2)は、1は弥生時代中期前葉～中葉に位置付けられる浅鉢、2は同時期の鉢の体部資料である。1は、底部は平底で、緩やかに内湾する体部からわずかに内傾する口縁部にいたる器形を呈する。最大径は、体部上端に持つ。装飾文様は、断面形状が「V」字ないし「U」字状を呈する幅2mmの沈線により、体部上半から口縁部に施文される。文様意匠は、横位直線文と連弧文の組み合わせが用いられる。並行する沈線内には、LR縄文が充填される。2は、横位直線文と山形文が施され、並行する沈線内にはLR縄文が回転施文される。

弥生土器甕(第252図-3～5)は、3は弥生時代中期と思われる口縁部、4・5は弥生時代中期に位置付けられる体部資料である。3は、緩やかに内湾する体部から短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。調整は、口縁部内外面と体部内面はミガキが施され、体部外面はR格条体が施される。4の体部は内湾し、LR縄文が回転施文されたのち、上半に右から左方向の押し引き状の列点刺突文が施される。5の体部は直線的に外傾し肩部から緩やかに内湾する器形を呈する。体部外面には、R燃糸文が施される。

剥片石器(第252図-6)は、微細割離痕を持つ剥片である。左側縁の鋭利な縁辺に微細割離が確認される。右側面は折れ面になっている。石材は流紋岩である。

(2) VII層出土遺物(第252～254図)

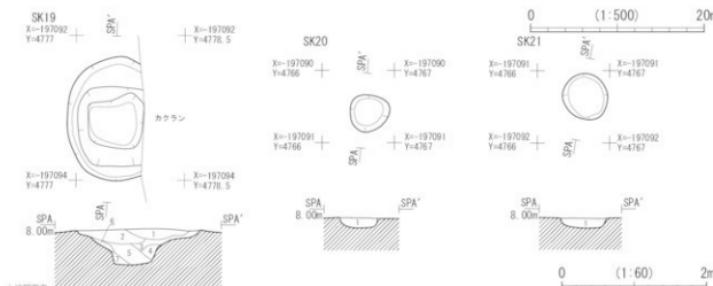
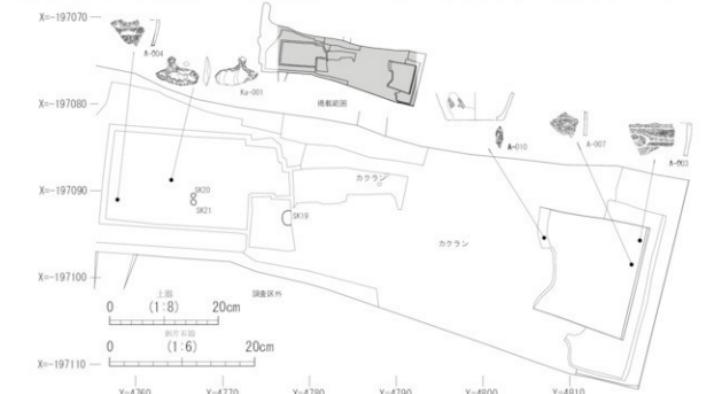
V区下層調査から、総数15点(約2941.3g)の遺物が出土した(出土遺物一覧表参照)。遺物は、VIIa層とVIIb層から出土しており、このうち、VIIa層から縄文土器深鉢1点、弥生土器甕1点、VIIb層から縄文土器浅鉢1点・深鉢5点・鉢1点・弥生土器壺1点・鉢2点、石製品1点を掲載した(第252～254図)。ここでは、VIIa層・VIIb層出土遺物を合わせて報告する。

縄文土器浅鉢(第252図-10)は、縄文時代晚期後葉～末葉に位置付けられ、内湾する体部から直立する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部には山形突起を有し、口唇部には沈線が施される。口縁部外面は、工字文が施され、体部はLR縄文が回転施文される。口縁部内面は、横位隆帯が貼り付けられ、隆帯の直上に横位直線文が施される。

縄文土器深鉢(第252図-7・9、第253図-1～4、第254図-3)は、第252図-9は、縄文時代晚期後葉～末葉に位置付けられ、口縁部はほぼ直立し、口唇部には突起、口縁端部には隆状突起を有し、沈線が施される。口縁部外面から体部上半には工字文とミガキが施され、内面は横位直線文とヒナゲシが施される。第252図-7は、縄文時代後期～晩期に位置付けられ、口縁部は直線的に外傾し、内面に横位隆帯が貼り付けられる。外面は、LR縄文が回転施文される。第254図-3は、縄文時代後期～晩期に位置付けられ、内湾する体部からわずかに内傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部外面はヨコナデ、体部外面はLR縄文が回転施文され、口縁部内面には、横位隆帯が貼り付けられる。第253図-1は、縄文時代晩期に位置付けられ、砲弾形に内湾する体部から内傾する口縁部にいたる器形を呈

する。口縁部および体部外面には、撚糸文が回転施文される。第253図-2～4は、同一個体と考えられる口縁部および体部資料である。2・3は内渦する体部からわざかに内傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部は、波状を呈する。口縁部と体部の境は、横位直線文が施され、体部外面はLR縞文が回転施文される。3の体部外面には縄文押圧がみられる。時期は、縄文時代晚期と思われる。

弥生土器壺(第253図-5)は、球形の体部から短く直立する口縁部にいたる器形を呈する。体部の最大径は、上位に持つ。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、肩部内外面ミガキが施される。時期は、弥生時代中期と思われる。



遺構名	調査区	グリッド	平面形	埋深(m)	長幅×短幅	層位	土色	土性	備考	重複
SK19 17街区	W-W	W-E	楕円形	171 × 105	48	1	10YRS/1	灰褐色	粘土質シルト	上部に径30～50mmの黒褐色粘土ブロックを少額。白色・灰褐色物質を多量。焼成物を少額。目10～20mmの黒褐色粘土ブロックを数個。下部に白色物質を微量に含む。
						2	10YRS/1	褐灰色	粘土	
						3	2.5GYR/1	オリーブ灰褐色	シルト	
						4	5GYR/1	オリーブ灰褐色	粘土質シルト	
						5	10YR/1	灰褐色	粘土質シルト	
						6	5GYR/1	オリーブ灰褐色	砂質シルト	
						7	2.5GYR/1	オリーブ灰褐色	粘土質シルト	
SK20 17街区	W-W	W-E	楕円形	51 × 54	13	1	N2/0	黑色	粘土	上部に径30～50mmの黒褐色粘土ブロックを少額。白色・灰褐色物質を多量。焼成物を少額。目10～20mmの黒褐色粘土ブロックを数個。下部に白色物質を微量に含む。
SK21 17街区	W-W	W-E	円形	66 × 59	12	1	N2/0	黑色	粘土	オリーブ灰褐色物質を少額含む。

第251図 17街区X b層上面検出遺構・出土遺物

弥生土器鉢2点(第254図・1・2)は、内湾する体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。装饰文様は、断面形状が「U」字状を有する幅2mmの沈線により、横位直線文が施される。時期は、弥生時代中期中葉と思われる。

弥生土器甕(第252図・8)は、直線的に内傾する体部資料である。体部外面にはLR繩文が回転施文される。時期は、弥生時代中期前葉～中葉と思われる。

石製品(第254図・4)は、大型の剥片を素材とする不明石製品である。剥片の縁辺に背面から剥離が施されている。右側面は折れ面となっている。腹面の自然面には素材作出時についたと考えられる加撃痕が確認される。石材は軟質な石英安山岩質凝灰岩を使用している。

(3) X層出土遺物(第254図)

V区下層調査から総数1点(約121.9g)、17街区下層調査から総数24点(約535.1g)の遺物が出土した(出土遺物一覧表参照)。遺物は、V区下層調査X層と17街区下層調査Xb層から出土しており、このうち、V区下層調査から繩文土器深鉢1点、17街区下層調査から繩文土器深鉢4点、剥片石器1点を掲載した(第254図)。ここでは、X層・Xb層出土遺物を合わせて報告する。

繩文土器深鉢5点(第254図・5～9)は、6・7は口縁部、8は体部、5・9は底部資料である。6・7は、繩文時代晚期前葉に位置付けられ、緩やかに内湾する体部からわずかに外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部は、波状を呈する。6の口縁部～体部上半には、横位直線文で区画された内部にLR繩文の回転施文と沈線を用いた磨消繩文手法による三叉文が施される。7も同様に、沈線区画内部に三叉文が施される。8は、体部はわずかに外傾し、LR繩文が回転施文され、横位直線文が施される。時期は、繩文時代晚期と思われる。5・9は、繩文時代後期末葉～晩期に位置付けられ、底部は平底で、直線的に外傾する体部にいたる器形を呈する。5の体部外面はミガキが施され、9の体部外面はLR繩文が回転施文される。5・9とも底部には、網代痕がみられる。

剥片石器(第252図・10)は、横長の石匙である。刃部は腹面側からの剥離で作出され、つまみ部などは両面からの剥離で作出されている。両面に素材面を残し、素材剥片は横置きで用いられている。石材は頁岩である。

(4) 層位不明出土遺物(第255図)

V区から総数21点(約296.2g)、17街区から総数14点(約96.5g)の遺物が出土した(出土遺物一覧表参照)。このうち、V区から繩文土器深鉢2点、弥生土器深鉢2点・鉢2点・甕2点、17街区から弥生土器壺1点・鉢1点を掲載した(第255図)。

繩文土器深鉢(第255図・1・2)は、1は繩文時代晩期に位置付けられ、口縁部はほぼ直立する。口縁端部には突起が貼り付けられ、口縁部は横位直線文が施され、LR繩文が回転施文される。2は、繩文時代後期～晩期に位置付けられ、底部は平底で直線的に外傾する体部にいたる器形を呈する。体部外面はLR繩文が回転施文され、底部には網代痕がみられる。

弥生土器甕(第255図・3)は、弥生時代中期前葉～中葉に位置付けられる、緩やかに外反する体部である。外面には、連弧文と横位直線文が施される。

弥生土器深鉢(第255図・4・5)は、4は外傾する口縁部から端部はわずかに内湾する器形を呈する。調整は口縁部内外面ヨコナデが施され、外面には横位直線文が2条施され、下半に明瞭な段を持つ。時期は、弥生時代中期前葉～中葉と思われる。5は、弥生時代中期中葉に位置付けられ、体部は緩やかに内湾し、頸部はわずかに外傾する。外面には、横位直線文と沈線区画が施され、沈線内には赤彩が残る。

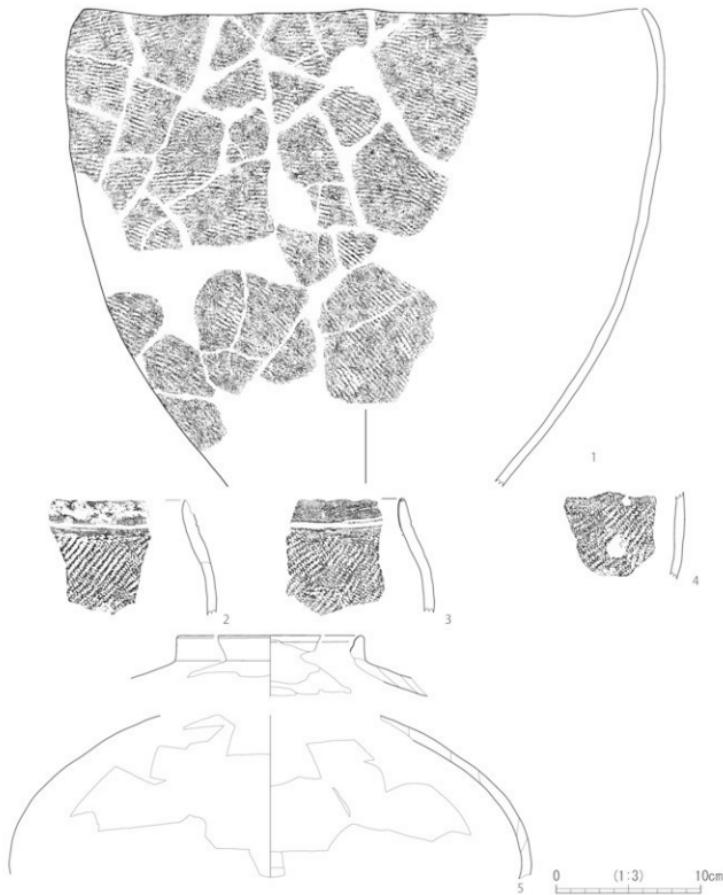
弥生土器鉢(第255図・6～8)は、いずれも弥生時代中期前葉～中葉に位置付けられ、6はほぼ直立する口縁部である。口縁部には沈線区画と横位直線文が施され、区画内と口唇部には植物茎回転文が施文される。7は、直線的に外傾する体部で、外面に横位直線文と連弧文が施され、区画内にLR繩文が回転施文される。8は、ほぼ直立する口縁部である。口縁部外面には横位直線文が施される。

弥生土器甕(第255図・9・10)は、弥生時代中期に位置付けられる頸部資料である。9・10とも右から左方向の押しきぎ状の列点刺突文が施され、LR繩文が回転施文される。



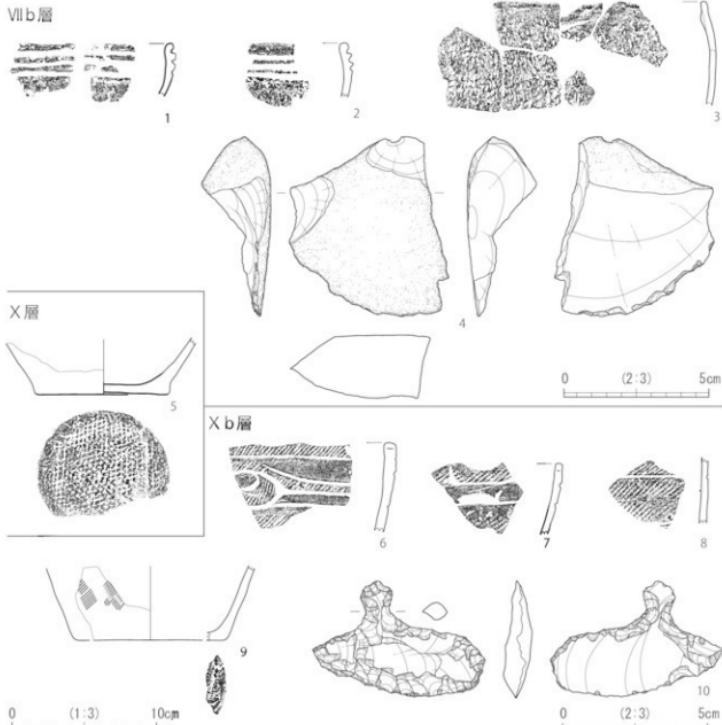
图版号	件号	调查区	出土地	类别	特征	部位	外盒调整 (文编)	内盒调整 (文编)	参考	写真 页数
1	B-001	17面K	Mla层	陶生土胎	钵	口深腹浅，腹部有三个凹槽，底略平。	17件(1件)	17件(1件)	1件(13.9), 银代7.5, 青高2.3cm	97
2	B-016	17面K	Mla层	陶生土胎	钵	体	椭圆直腹盆，腹部有三个凹槽。	2件(1件)	1件(1件), 银代3.2cm	97
3	B-010	17面K	-	Mla层	陶生土胎	钵	口深腹浅，腹部有三个凹槽。	1件(1件)	1件(1件), 银代4.3cm	97
4	B-017	17面K	-	Mla层	陶生土胎	钵	圆一休	1件(1件)	1件(1件), 银代4.0cm	97
5	B-002	17面K	Mla层	陶生土胎	钵	天然形状。	1件(1件)	1件(1件), 银代19.5cm	97	
7	A-008	V1K下层	V1a层	陶文土胎	深钵	口深腹浅，腹部有三个凹槽。	1件(1件)	1件(1件)	1件(1件), 银代14.2cm	97
8	B-020	V1K下层	-	Mla层	陶生土胎	钵	口深腹浅，腹部有三个凹槽。	1件(1件)	1件(1件), 银代7.2cm	97
9	A-012	V1K下层	-	V1b层	陶文土胎	深钵	口深腹浅，腹部有三个凹槽。	1件(1件)	1件(1件), 银代4.7cm	97
10	A-006	V1K下层	-	V1b层	陶文土胎	浅钵	口深腹浅，腹部有三个凹槽。	1件(1件)	1件(1件), 银代7.0cm	97
							1件(1件), 银代11.9cm			
图版号	件号	调查区	出土地	类别	特征	部位	法线(m)	重箱 件数	石材	参考
6	Ka-003	17面K	-	Mla层	陶生土胎	袋足 腹部有三个凹槽。	6.0	5.1	1.6	34.18
									透灰石	右侧斜面-微锯齿痕底部, 左侧面-折右面
										97

第252图 VIa层·VIIa层出土遗物·VIIb层出土遗物(1)



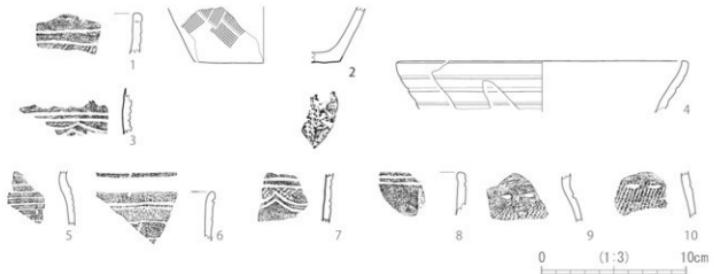
第253図 VIIb層出土遺物(2)

圖版 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内部調整 (文様)	備考	写真 位置
1	A-001	VIIK F層	-	VIIb層	碗文	口縁	口縁	一様	無文	口縁 (1件)	1件(29.0), 瓢形、高さ33.3cm 98
2	A-013	VIIK下層	-	VIIb層	碗文	深鉢	口縁	口縁(1件)、底(1件) 無文(1件)	無文	口縁 (1件)、底 (1件)、高さ37.9cm 97	
3	A-014	VIIK下層	-	VIIb層	碗文	深鉢	口縁	口縁(1件)、底(1件) 無文(1件)	無文	口縁 (1件)、底 (1件)、高さ37.8cm 97	
4	A-015	VIIK下層	-	VIIb層	碗文	深鉢	体	LR 織文無(1件)	無文 (1件)	口縁 (1件)、底 (1件)、高さ30.0cm 98	
5	B-003	VIIK F層	-	VIIb層	碗文	口縁	口縁	口縁(1件)、底(1件) 無文(1件)	口縁 (1件)、底 (1件)、高さ32.0cm 97		



图号 器号	器种	调查区	出土地	层位	辨别	器形	部位	外齿调整 (文理)	内齿调整 (文理)	参考	写真 图版
1 B-006	V区下层	-	VIIb层	生土层	蹄	1脚	浅刻→浅刻(横位)或浅文	浅	1脚、浅刻、蹄高(3.6cm) B-007之伴(1脚)	98	
2 B-007	V区下层	-	VIIb层	生土层	蹄	1脚	浅刻→浅刻(横位)或浅文	浅	1脚、浅刻、蹄高(3.7cm) B-006之伴(1脚)	98	
3 A-002	V区下层	-	VIIb层	生土层	蹄	1脚 (木)	浅刻→浅刻(横位)或浅文	浅	1脚、横位带蹄足 (木)至浅刻(横位)或浅文	98	
5 A-011	V区下层	-	X层	陶文层	蹄	1脚	浅刻→浅刻(横位)或浅文	浅	1脚、浅刻8.9、蹄高(3.9)cm	98	
6 A-003	17街区	-	Xb层	陶文层	蹄	1脚	浅刻→浅刻(横位)或浅文	浅	1脚、浅刻7.7cm 或浅刻(横位)或浅文	98	
7 A-004	17街区	-	Xb层	陶文层	蹄	1脚	浅刻→浅刻(横位)或浅文 (木)	浅	1脚、浅刻14.9cm 或浅刻(横位)或浅文	98	
8 A-007	17街区	-	Xb层	陶文层	蹄	1脚	浅刻→浅刻(横位)或浅文	浅	1脚、浅刻14.5cm (木)或浅刻(横位)或浅文	98	
9 A-010	17街区	-	Xb层	陶文层	蹄	体	体上部横位凹刻、浅刻带凹 (木)或浅刻(横位)或浅文	浅	1脚、浅刻10.6、蹄高(4.7)cm	98	
图号 器号	器种	调查区	出土地	层位	辨别	器形	法量(cm)	重量(g)	石材	参考	写真 图版
4 Ka-017	V区下层	-	VIIb层	石质品	不明石质品	12.4 4.0	11.0 6.0	4.7 1.0	380.36 石英安山岩质砾石	蹄边(二次加工)或 石质且5.9cm, 断面为V型加工。	98
10 Ka-001	17街区	-	Xb层	石质	石质	4.0	6.0	1.0	石质	双人形: 断面为V型加工, 两端有素面残存。	98

第254図 VII b層・X層・X b層出土遺物



图号 番号	朝代 時代	调查区 区	出土地 地點	地层 層位	標明 標記	器種 器種	部位 部位	外觀形態 (文樣)	內部形態 (文樣)	備考	写真 寫真
1 A-005	VIC	道縣 橫山面	-	西汉 西漢	深鉢	口沿	深鉢	弦紋(口沿, 深鉢)-一淺多條LR橫紋 (深鉢)-一深-二F(腹)-橫直波紋 (深鉢的直波紋)	3'±1(腹)	口徑-底徑、鄧高(2.8cm 底1.8cm)	98
2 A-009	VIC	道縣 橫山面	-	西汉 西漢	深鉢	底	口沿	LR橫文橫向圈形-底-側面直 線	3'±1	口徑-底徑(10.6), 鄧高(3.9cm)	98
3 B-008	17朝区	SH112	堆积土上 堆积土上	帝王 帝王	体	浅腹	口沿	弦紋-口沿-深腹文字-橫位直波紋 (深腹的直波紋)	3'±1(腹)	口徑-底徑、鄧高(3.1cm)	98
4 B-004	VIC	道縣 橫山面	-	帝王 帝王	深鉢	口沿	口沿(口沿)-深腹直直 (橫直波紋)	3'±1	口徑(21.0cm), 鄧徑-鄧高(3.5cm)	98	
5 B-014	VIC	道縣 橫山面	-	帝王 帝王	深鉢	腹	深腹	口沿-1'1(腹)-一次腹部凸起 (橫直波紋)-次腹部凸起 (橫直波紋)-次腹部凸起	3'±1(腹)	口徑-底徑、鄧高(3.8cm)	98
6 B-009	VIC	道縣 橫山面	哲智	帝王 帝王	鉢	口沿	口沿	口沿-深腹文字-橫直波紋 (深腹的直波紋)-次腹部凸起 (橫直波紋)-次腹部凸起	3'±1	口徑-底徑、鄧高(3.5cm)	98
7 B-015	17朝区	SH120	堆积土上 堆积土上	帝王 帝王	鉢	底	口沿	LR橫文深腹直直-深腹-二F(腹) (深腹的直波紋)	3'±1(腹)	口徑-底徑、鄧高(3.4cm)	98
8 B-013	VIC	道縣 橫山面	-	帝王 帝王	鉢	口沿	口沿	口沿-1'1(腹)的直波紋	3'±1	口徑-底徑、鄧高(2.8cm)	98
9 B-018	VIC	道縣 橫山面	-	帝王 帝王	鉢	底	深腹	口沿-1'1(腹)-深腹-2次腹部凸起 (深腹的直波紋)-次腹部凸起 (深腹的直波紋)-次腹部凸起 (深腹的直波紋)	3'±1(腹)	口徑-底徑、鄧高(3.4cm)	98
10 B-019	VIC	道縣 橫山面	-	帝王 帝王	鉢	底	深腹	口沿(口沿)-深腹直直-深腹-2次 (深腹的直波紋)-次腹部凸起 (深腹的直波紋)-次腹部凸起 (深腹的直波紋)	3'±1(腹)	口徑-底徑、鄧高(3.1cm)	98

第255図 層位不明出土遺物

第6章 総括

仙台市あすと長町土地区画整理事業に伴う発掘調査は、主に都市計画道路部分を対象に平成10年度(1998)から開始した。これまでに、西台畠遺跡では平成10～13・17・19・24年度(1998～2001・2005・2007・2012)、本遺跡の東に隣接する郡山遺跡では平成13・16～18・20～22年度(2001・2004～2006・2005・2007)、南西に隣接する長町駅東遺跡では平成13～22年度(2001～2010)に発掘調査が行われている。

西台畠遺跡の調査では、これまで総数200軒程の竪穴住居跡が確認されている。平成10年度に行われた第1次調査において、郡山Ⅱ期官衙外郭大溝のさらに外側に配置された溝(郡山Ⅱ期官衙外溝)が初めて確認された。また、その周辺からは郡山官衙衛と同時期あるいは前後する時期の竪穴住居跡が多数確認され、郡山官衙造営時を含めて官衙域西側の様相を検討するうえでの良好な資料となっている。このほか、弥生時代中期の遺物包含層や墓域に加え、今回報告する第5次・第7次調査では水田跡が確認された。また、縄文時代後期～晩期の遺物包含層も確認されるなど、昭和32(1957)年の遺跡発見から半世紀以上が過ぎ、遺跡の内容について新たな知見が得られている(仙台市教委2010b・2011)。

郡山遺跡の調査では、平成13年度(2001)に行われた第144次調査において、Ⅰ期官衙に関連すると考えられる溝跡が確認されている(仙台市教委2010a)ほか、平成16・17年度(2004・2005)に行われた第167次調査では、Ⅱ期官衙外溝の北西コーナー部および北辺が検出され、同時に国庫補助により行われた第166次調査で検出された東辺とともに、これまで南辺と西辺(本遺跡SD 31溝跡)で確認されていた外溝は、官衙の四辺に存在していることが明らかになっている(仙台市教委2005ほか)。

長町駅東遺跡の調査では、300軒以上もの竪穴住居跡を始め、集落を区画する大規模な溝跡や材木列、これに先行して造られた一本柱列のほか、弥生時代中期中葉に形成された居住域(竪穴住居跡)・生産域(水田跡)・墓域(土器棺墓・土塙墓)がセットで確認されている(仙台市教委2007・2008a・2008c・2009)。

調査開始から15年が経過した現在、郡山遺跡Ⅰ期官衙・Ⅱ期官衙・弥生時代の遺構・遺物をはじめとし、縄文時代から近世に至るまでの遺構・遺物が多数確認されており、その膨大な量の資料とともに重要な成果が蓄積されてきていく状況にある。今後は、その資料を用いた遺跡単位での検討はもちろんのこと、郡山低地東側を含む広瀬川および名取川下流域、ならびに仙台平野を対象とした広域的かつ通史的な様相について検討していく必要がある。

このような現状を踏まえ、本章では、西台畠遺跡V区および17街区から出土した遺物を基に本次調査区における通史的な時期区分を行ったのち、その時期区分に沿って検出遺構を整理し、まとめとした。

第1節 出土遺物(第256～266図)

本次調査では、縄文時代後期から古代・近世の遺物が出土している。遺物の時期は、仙台平野における土器編年やこれまでの先行研究(一迫町教育委員会1985・1998、國立館大学考古学会編2009、小林2008、仙台市教委1994・2005・2010c、仙台市史編さん委員会1995、須藤1998、石川2005、斎野2008、長島2009、福田2010a・b、藤沼・閔根2008、宮城県教委1981、山内1979ほか)と、第3次調査の報告を基本とし、今回新たに確認された古墳時代前期を含めると、大別8期、細別18期に区分される。このうち、6～8期の遺物は、本次調査では図化できない小片が数点出土したのみである。

以下、本節では、まとまって遺物が出土した1～5期の遺物について報告する。

西台遺跡第4・5・7次調査 時期区分						上器型式 産地	土地利用 (自然堤防)	西台埋 第1・2次 (第359集)	西台埋 第3次 (第388集)
大別	細別	時代・時期		後期					
1期	a	i	縄文時代	中葉	宝ヶ峯式	包含地	変更なし	-	-
		ii		後葉	金剛寺式(瘤付上器)				
		i		初頭～前葉	大洞B1、B2、B-C式				
		ii		中葉	大洞C1、C2式				
	b	iii		後葉	大洞A1、A2式				
		iv		末葉	大洞A式				
2期	a	-	弥生時代	前葉	寺下四式並行	生産域 (水田跡)	-	-	-
	b	-		中期	中葉(古段階) 桧形式				
	c	-		中期	中葉(中段階) 中在家南式				
3期	-	-	古墳時代	前期	後葉	居住域	3a期	3b期	3期
	a	-		後期	-				
	b	-		終末期	-				
	a	-		終末期	-				
5期	b	i		終末期	-	官衙の区画施設 居住域	2期	4a期	4期
		ii	奈良時代	国分寺下層式	-				
6期	-	-	平安時代	表杉ノ入式	居住域	5期	6期	5期	6期
7期	-	-	中世	常滑・白石窯(系) 他					
8期	-	-	近世	磁・大瓶相馬 他	散布地	7期	7期	7期	7期

1.1期：縄文時代晚期の遺物(第256図)

基本層IV・VII・X層から出土した土器のうち、型式学的特徴から縄文時代後期～晚期に位置付けられるものを第256図に示した。出土した遺物は、数量的に少なく、大半が破片資料のため、細別できないものも多いが、概ね晚期(1b期)に位置付けられると考えられる。1b期の中でさらに細別が可能な遺物も少量ではあるが出土しており、以下では細別可能なものは細別時期ごとに報告し、そのほかについては1b期としてまとめて報告する。

(1)1b i 期：縄文時代晚期初頭～前葉

17街区下層調査Xb層から出土した深鉢2点(A-003・004)がある。ともに深鉢の口縁部～体部上半資料である。緩やかに内湾する体部からわずかに外傾する口縁部にいたる器形を呈し、口縁部は波状を呈する。装飾文様は、三叉文が施される。

このような特徴から、これらは大洞B1～B2式に位置付けられる。

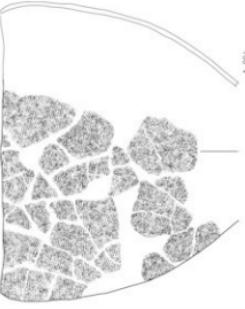
(2)1b iv期：縄文時代晚期末葉

V区下層調査VIIb層から出土した浅鉢(A-006)と深鉢(A-012)がある。A-006は口唇部に山形突起、A-012は口唇部に突起、口縁端部に隆状突起を有する。外面には、工字文が施され、内面にはA-006は横位隆帯と横位直線文、A-012は横位直線文が施される。

このような特徴から、これらは大洞A式に位置付けられる。

(3)1b期：縄文時代晩期

いずれも深鉢で、V区下層調査VIIa・b層から6点、17街区下層調査Xb層から3点、出土層位不明が2点である。A-001を除き破片資料のため細別時期は明確ではないが、A-002・008～010は後期～晩期、A-011は後期末葉～晩期、A-005・007・013～015は晩期に位置付けられる。このうち、全体の器形が復元できるA-001は、砲弾形に内湾する体部から内傾する口縁部にいたる器形を呈し、外面は撚糸文が回転施文される。

浅林	VII層	X層	層位不明
深林			
	 <p>A-001</p>	 <p>A-003</p>	
	 <p>A-012</p>	 <p>A-004</p>	
	 <p>A-008</p>	 <p>A-007</p>	
	 <p>A-011</p>	 <p>A-010</p>	
		 <p>A-014</p>	
		 <p>A-015</p>	
		 <p>A-016</p>	
		 <p>A-017</p>	
		 <p>A-018</p>	
		 <p>A-019</p>	

第256図 下層調査区縄文土器集成

0 (1:6) 20cm

	Ⅳ層	浅耕 B-01	深耕 B-02	鉢 B-03	壺 B-04	壺 B-05	壺 B-06	壺 B-07	浅耕 B-08	浅耕 B-09	浅耕 B-10	浅耕 B-11	浅耕 B-12	浅耕 B-13
	VI層													
	VII層													
	層位不明													

第257図 下層調査区弥生土器集成

(4)石器

基本層IV層・Vla層・VII層・X層から出土した石器のうち縄文時代に属すると考えられる石器はXb層から出土した石匙(Ka-001)1点のみである。その他、流紋岩や頁岩を使用した剥片が出土したが、帰属時期は不明である。

2.2期：弥生時代中期の遺物(第257図)

基本層IV層・Vla層・VII層から出土した土器のうち型式学的特徴から弥生時代中期に位置付けられるものを第257図に示した。出土した土器のうち全体の器形がわかるものは浅鉢(B-001)1点のみで、他は全て破片資料であり、細別時期に分類できるものはB-001を含め数点しかなく、多くは細別が不可能である。ここでは、2期(弥生時代中期)の土器としてまとめて報告する。

(1)2期：弥生時代中期の土器

上記の通り全体の器形がわかるものは、17街区下層調査Vla層から出土した浅鉢(B-001)のみである。B-001は、底部は平底で、緩やかに内湾する体部からわずかに内傾する口縁部にいたる器形を呈する。最大径は体部上半に持ち、体部上半から口縁部に横位直線文と連弧文が施され、並行する沈線内にはLR縄文が充填される。時期は、弥生時代中期前葉～中葉に位置付けられる。同時期に比定されるものとして、同じく17街区Vla層から出土した鉢(B-016)、IV層遺構堆積土・検出面から出土した壺(B-008)、深鉢(B-004)、鉢(B-009・013・015)がある。このうち、B-016は外面に横位直線文・連続山形文、B-008・015は外面に横位直線文・連弧文が施される。B-009は、外面に沈線区画と横位直線文が施され、区画内には磨消縄文手法が用いられ、口唇部には植物茎回転文が施される。B-004は、外面ヨコナデのち横位直線文が施され、頸部下半に明瞭な段を持つ。

鉢(B-006・007)は、内湾する体部から内傾する口縁部にいたる器形を呈し、口縁部外面に横位直線文が施される。

深鉢(B-014)は、頸部に横位直線文と沈線区画が施され、沈線内には赤彩が残る。B-006・007は弥生時代中期前葉、B-014は弥生時代中期中葉に位置付けられる。

このほかの、壺(B-003)、甕(B-002・010・017～020)に関しては、出土層位やB-017～019には列点刺突文が施されるなどの特徴などから弥生時代中期に位置付けられる。

(2)石器

基本層IV層・Vla層・VII層から出土した石器のうち、弥生時代に属すると判断しうる遺物は出土していない。

3.3期：古墳時代前期の土器(第258図)

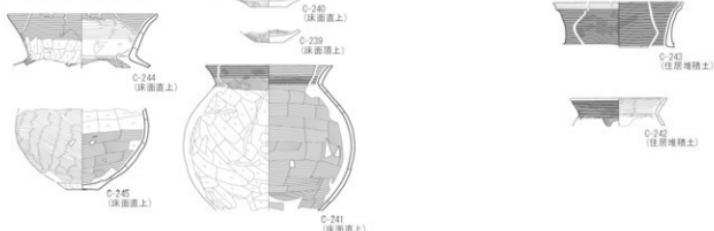
17街区IV層上面から古墳時代前期と考えられる竪穴住居跡を3軒(SI 105・122・124)検出した。本項では、竪穴住居跡出土遺物について概要を報告する。対象となる遺物は、高杯1点・器台1点・壺7点・鉢1点・甕5点で、このうち床面直上および床面施設底面からは壺5点・甕3点が出土している。

高杯は、环部は欠損しており、脚部は直線的に外傾する。器台は、受け部・台部とも緩やかに内湾して開き、口径と底径がほぼ等しい器形を呈する。壺の口縁部は、C-244は外傾し、端部は緩やかに内湾する。C-243は、頸部は緩やかに外傾し、口縁端部は屈曲し受け口状となる。C-309は、二重口縁で口縁部は大きく外反し内面に赤彩が残る。C-245・316の体部は球形を呈し、最大径は中位に持つ。調整は、口縁部はヨコナデないしヘラミガキ、体部外面はヘラミガキが施される。鉢は、球形の体部から短く外傾する口縁部にいたる器形を呈する。底部は突出し、底部外面に

3期

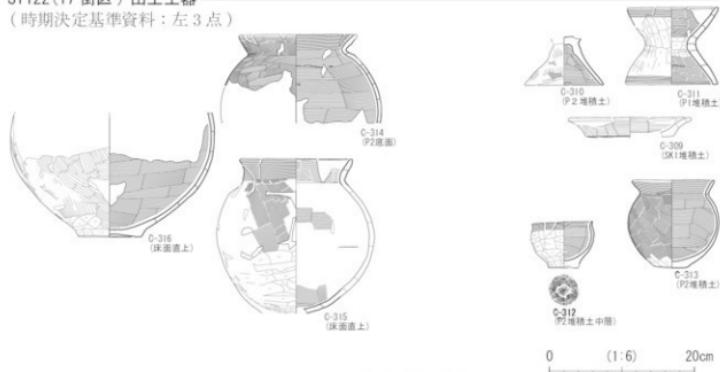
SI105(17街区)出土土器

(時期決定基準資料: 左5点)



SI122(17街区)出土土器

(時期決定基準資料: 左3点)



0 (1:6) 20cm

第258図 3期竪穴住居跡土器集成

は周縁に粘土が貼り付けられる。表は、球形の胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する。胴部の最大径は、いずれも中位に持つ。調整は、口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、胴部内面ヘラナデを基調とし、胴部外面はハケメのち全面ヘラケズリ(C-241)、下半ヘラケズリ(C-313・315)、一部ヘラナデ(C-314)が施される。

これらの出土遺物は、器形や調整等の特徴から古墳時代前期後葉に位置付けられると考えられる。

4.4～5期：古墳時代後期～奈良時代の土器(第259～266図)

基本層IV層上面にて検出した竪穴住居跡から出土した遺物の中には、床面直上およびカマド構築土や床面施設から出土した、竪穴住居跡に伴うと考えられる土器類や須恵器がある。これらの土器は、その器形や調整等の特徴から、住社式期(新段階)の土器群、栗団式期の土器群、栗団式期に後続し国分寺下層式期に先行する土器群、国分寺下層式期の土器群に区別される。

本書では、第3次調査の時期区分を基本とし、今回新たに確認した古墳時代前期の土器群を3期として追加した。それに伴い、住社式期(新段階)から栗圓式期を4期、栗圓式期に後続して国分寺下層式期に先行する時期と国分寺下層式期を5期とした。

4期・5期の細別については第3次調査を踏襲し、4期は住社式期新段階(4a期)と栗圓式期(4b期)に細別し、5期は郡山Ⅰ期官衙期(5a期)と郡山Ⅱ期官衙期(5bⅠ期)、国分寺下層式期(5bⅡ期)に細別した。

4期・5期における時期区分および年代の対応関係は、次のようになる。第1・2次、第3次調査時期区分との対応は309ページの時期区分表を参照されたい。

4a期：住社式期(新段階).....	古墳時代後期(6世紀末葉)
4b期：栗圓式期	古墳時代終末期(7世紀初頭～前葉)
5a期：郡山Ⅰ期官衙期	古墳時代終末期(7世紀中葉～後葉)
5bⅠ期：郡山Ⅱ期官衙期	古墳時代終末期(7世紀末葉～8世紀初頭)
5bⅡ期：国分寺下層式期.....	奈良時代(8世紀前葉)

なお、「栗圓式期」の時期、4～5期の時代名称、「関東系土器」の名称については、第3次調査の報告に準じている(仙台市史編さん委員会1995、仙台市教委2010b・2011)。

(1)4a期：住社式期新段階の土器(第259～261図)

SI 73堅穴住居跡、SI 81堅穴住居跡の床面直上およびカマド構築土、床面施設から出土した土器を基準資料とする。この時期は、鬼高系土器(南小泉型関東系土器)の特徴を有する环を伴い、住社式の特徴を有する土器環はわずかに共存する程度である。土器環は、胴部の最大形を中位に持つ長胴と大型の球胴がみられ、口縁部と胴部の境は段を持たないものと、弱い段を持つものが認められる。土器環は、一定量伴う。須恵器については、SI 81住居堆積土から瓶類の体部が出土しているが、住居に伴うものはない。

床面直上およびカマド構築土から出土した土器環は5点で、そのうちのC-020(SI 73堅穴住居跡)は、鬼高系土器(南小泉型関東系土器)の特徴を有する。このほかには、扁平な体部から内傾する口縁部にいたるC-092(SI 81堅穴住居跡)、半球形の体部から直立する口縁部にいたるC-089(SI 81堅穴住居跡)や、扁平な体部から外反する口縁部にいたるC-023(SI 73堅穴住居跡)、内湾する体部から内傾する口縁部にいたるC-095(SI 81堅穴住居跡)がみられる。これらの口縁部と体部の境は、外面に段、内面に棱を持ち、C-092は内面、C-095は外外面が黒色処理される。

土器器高环は、C-024(SI 73堅穴住居跡)、C-101・102(SI 81堅穴住居跡)の3点が出土している。いずれも脚部資料で、環部の形状は不明である。脚部は柱状中空、柱状半中空で、根部は大きく外反・外傾すると推定される。

土器器鉢は、C-026(SI 73堅穴住居跡)が1点出土している。内湾する胴部から外傾する口縁部にいたる器形を呈し、口縁部と胴部の境は段を持つ。胴部の最大径は上位に持つ。

土器器皿は、球胴と長胴があり、球胴のものはいずれも大型である。球胴・長胴とも胴部の膨らみは大きく、最大径は中位に持つを基本とし、長胴のものにはC-035(SI 73堅穴住居跡)のように上位に持つものもみられる。口縁部は外傾するものを基調とし、C-029(SI 73堅穴住居跡)のように傾きが小さいものもみられる。口縁部と胴部の境は、球胴では弱い段・棱を持ち、長胴では段を持たないものと弱い段を持つものがある。外面調整は、ヘラケズリを基調とする。

土器器皿は、C-034(SI 73堅穴住居跡)が1点出土している。底部は単孔式で、胴部は内湾して立ち上がり、最大径は中位に持つ。調整は、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデの一部にヘラミガキが施される。

このほかにSI 121からも、上述した特徴を有する土師器裏と帯が出土している。しかしながら、土師器環を伴わないことから細別時期は明確ではなく、時期幅を持たせて4a～4b期とした。

(2) 4b期：栗田式期の土器

今次調査では、明確にこの時期に帰属する竪穴住居跡は検出されていない。SI 121が該当する可能性があるが、指標となる土師器環を伴わないので4a～4b期としている。

(3) 5a期：郡山Ⅰ期官衙期の土器(第261～264図)

SI 76竪穴住居跡、SI 78竪穴住居跡、SI 80竪穴住居跡、SI 84竪穴住居跡、SI 86竪穴住居跡、SI 90竪穴住居跡、SI 111竪穴住居跡、SI 113竪穴住居跡、SI 120竪穴住居跡の床面直上、カマド構築土および床面施設から出土した土器を基準資料とする。この時期は、栗田式に後続する土師器が主体となり、これに須恵器が少量共存する点を特徴とする。しかしながら、今次調査で竪穴住居跡に伴って出土した須恵器はSI 80床面直上から出土した須恵器1点のみであり全体の傾向については不明な点が多い。また、北武蔵型土師器(清水型関東系土器)を少量作成するもこの時期の特徴であるが、今次調査では時期決定の基準資料となるような、竪穴住居跡の床面直上ないし床面施設からの出土は認められなかった。

土師器環は、底部の形態が平底状の丸底を呈するようになる。体部は、扁平のものが多くなり、C-076(SI 80竪穴住居跡)・C-131(SI 86竪穴住居跡)・C-297(SI 120竪穴住居跡)のように見込みの深い器形が一定量みられる。口縁部は、外傾するものがほとんどで、C-130(SI 86竪穴住居跡)のみ外反する。口縁部と体部の境は、外面は段を持つが不明瞭になり、内面は段・稜を持つない器形が増加する。また、小型のC-069(SI 78竪穴住居跡)、大型のC-131のように法量の分化がみられるようになる。

土師器環は、C-050(SI 76竪穴住居跡)・C-276(SI 113竪穴住居跡)の2点が床面直上から出土している。环部は、口縁部と体部の境は棱を持ち、口縁部は外傾する。脚部は中空で、脚高はやや低く、強く外傾して開く。C-050は長方形の透かしを2窓持つ。

土師器壺は、C-155(SI 90竪穴住居跡)が1点出土している。球形の体部から外傾する口縁部にいたる器形を呈する小型の土師器壺である。口径と体部的最大径はほぼ等しく、体部的最大径は中位に持つ。

土師器鉢は、4a期と同様なC-085(SI 80竪穴住居跡)・C-134(SI 86竪穴住居跡)の器形に加え、C-054(SI 76竪穴住居跡)・C-077(SI 80竪穴住居跡)のような半球形の体部を持つ器形がみられるようになる。C-054・077は器厚が薄く、他の器形の鉢に比べ非常に軽量である。調整は、体部外面へラケズリ、内面へラミガキが施され、内面は黒色処理される。

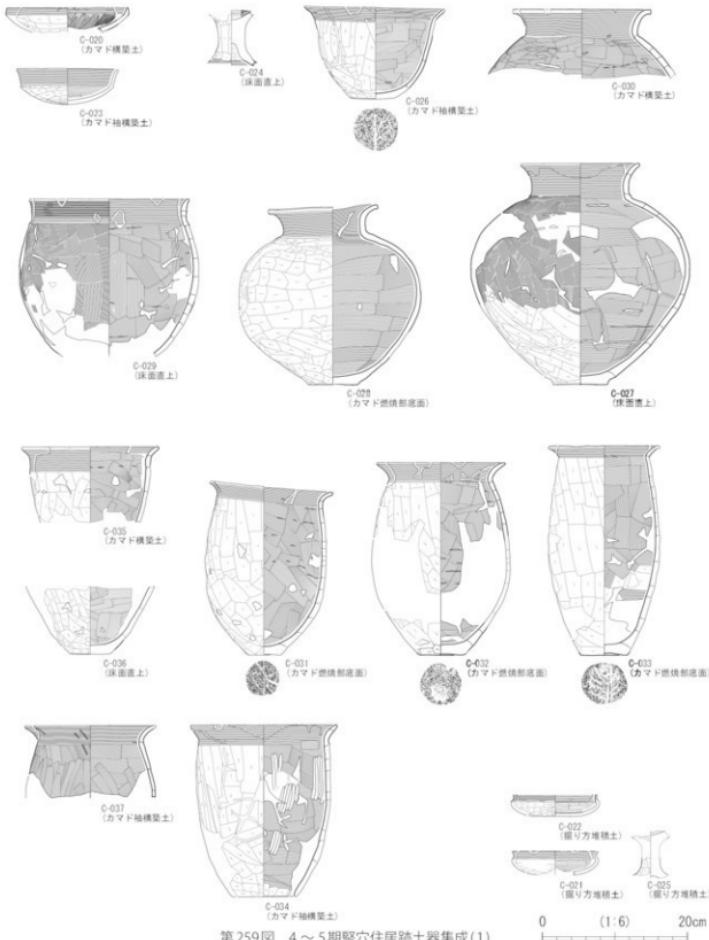
土師器甕は、球胴と長胴があり、ともに小型の器形が増える。胴部の最大径は中位に持つものが大半だが、胴部の膨らみは4a期に比べて小さくなる。口縁部と胴部の境は、不明瞭な段ないし棱を持ち、口縁部はC-124(SI 84竪穴住居跡)のように短く外傾・外反する器形が増える。外面調整は、ハケメないしヘラナデのち下半へラケズリのものと全面へラケズリが施されるものがある。

土師器帯は、C-135(SI 86竪穴住居跡)が1点出土している。底部は単孔式で、胴部は直線的に外傾して開く器形を呈する。調整は、胴部外面へラケズリ、内面へラナデが施される。

須恵器は、大型の甕の胴部～底部のE-010(SI 80竪穴住居跡)が出土している。底部は丸底で、胴部は球形と推定される。調整は、外面平行タタキ目、内面青海波文が観察される。

4a 期

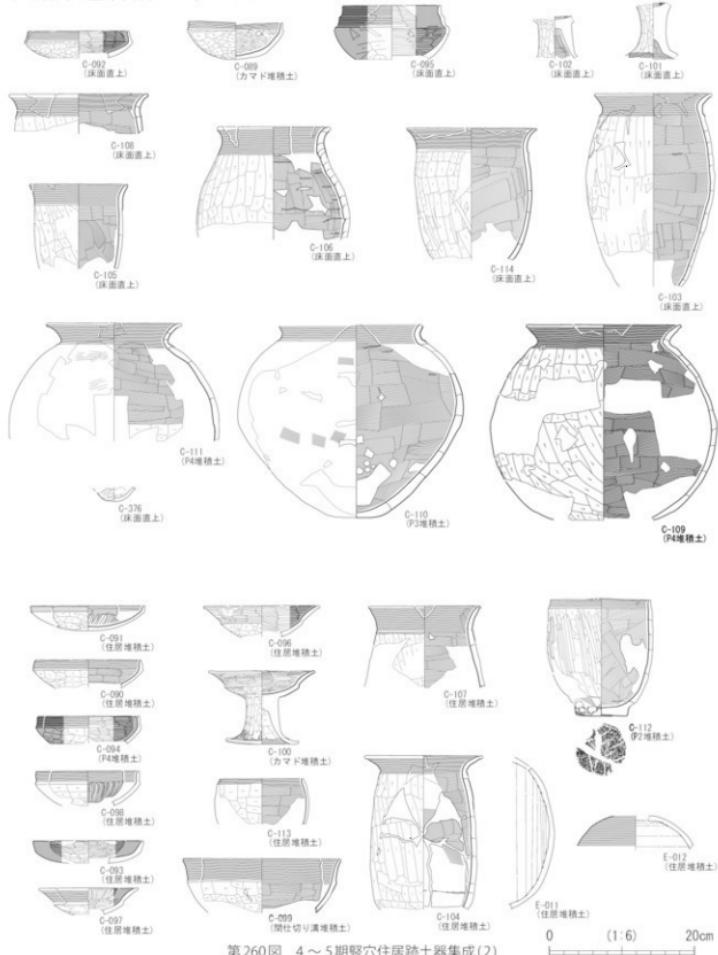
S173(V区)出土土器
(時期決定基準資料: 上半 15 点)



第259図 4~5期竪穴住居跡土器集成(1)

4a 期

SI81(V区) 出土土器
(時期決定基準資料: 上半 14 点)

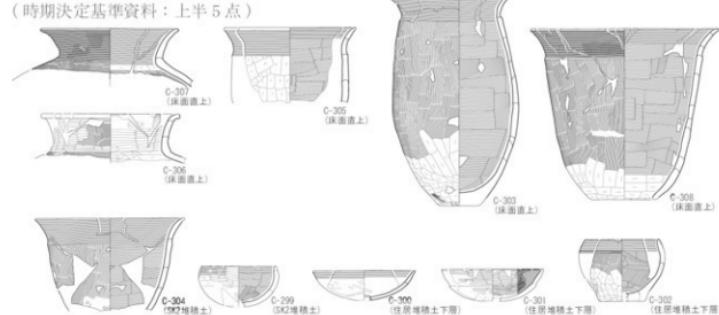


第260図 4～5期竪穴住居跡土器集成(2)

4a ~ b 期

SI121(17街区)出土土器

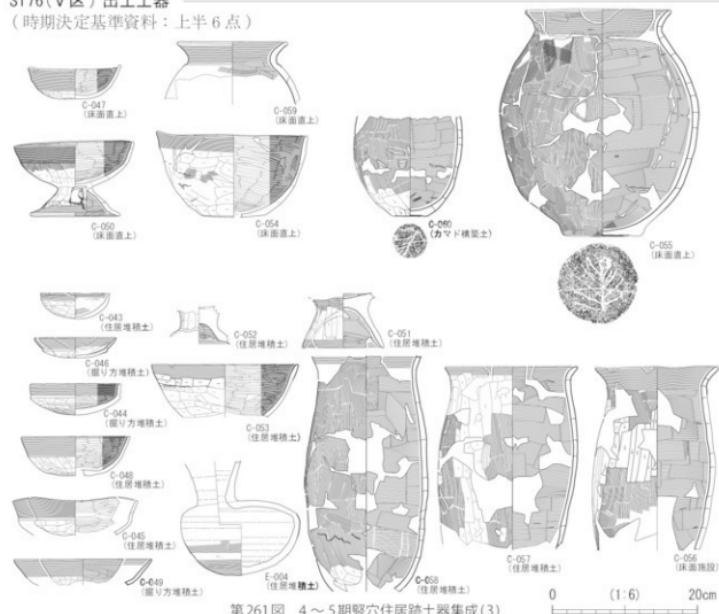
(時期決定基準資料: 上半 5 点)



5a 期

SI176(V区)出土土器

(時期決定基準資料: 上半 6 点)



第261図 4~5期竪穴住居跡土器集成(3)

0 (1:6) 20cm

5a期

S178(V区)出土土器

(時期決定基準資料: 左3点)



S180(V区)出土土器

(時期決定基準資料: 上半5点)



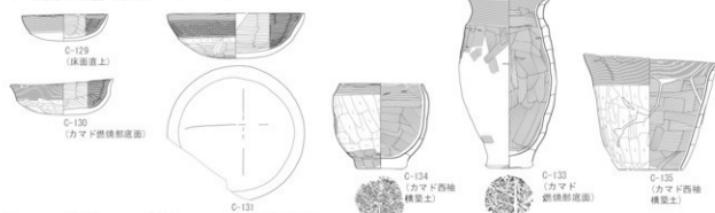
S184(V区)出土土器

(時期決定基準資料: 左2点)



S186(V区)出土土器

(時期決定基準資料:すべて)



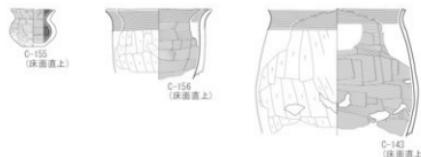
0 (1:6) 20cm

第262図 4～5期竪穴住居跡土器集成(4)

5a 期

SI90(V区) 出土土器

(時期決定基準資料: すべて)



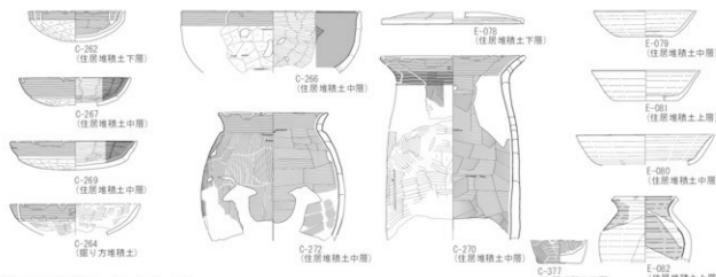
SI111(17街区) 出土土器

(時期決定基準資料: 上半 6 点)



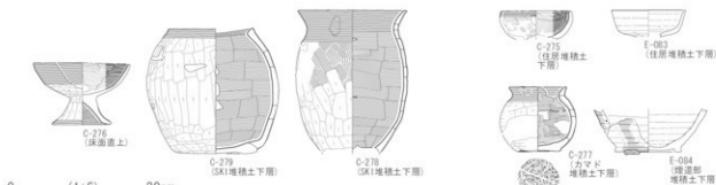
SI113(17街区) 出土土器

(時期決定基準資料: 左 3 点)



SI113(17街区) 出土土器

(時期決定基準資料: 左 3 点)



0 (1:6) 20cm

第263図 4~5期竪穴住居跡土器集成(5)

5a 期

SI120(17 街区) 出土土器

(時期決定基準資料: 左 2 点)



5b 期

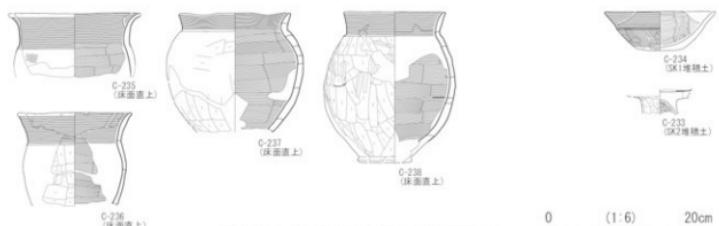
SI187(V 区) 出土土器 (5b i 期)

(時期決定基準資料: 左 8 点)



SI104(17 街区) 出土土器 (5b i 期)

(時期決定基準資料: 左 4 点)



第 264 図 4 ~ 5 期竪穴住居跡土器集成(6)



5b 期

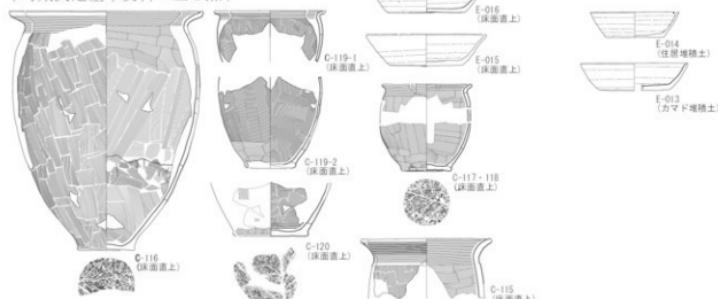
SI75(V区) 出土土器 (5b ii 期)

(時期決定基準資料: 左 2 点)



SI82(V区) 出土土器 (5b ii 期)

(時期決定基準資料: 左 8 点)



SI102(17街区) 出土土器 (5b ii 期)

(時期決定基準資料: すべて)



SI110(17街区) 出土土器 (5b ii 期)

(時期決定基準資料: 左 4 点)

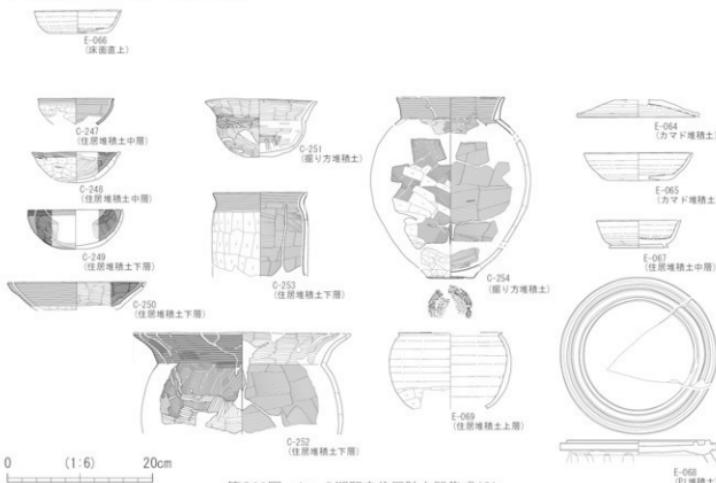


第265図 4～5期竪穴住跡土器集成(7)

5b 期

SI109(17街区)出土土器(5b ii 期) —

(時期決定基準資料: 上半1点)



第266図 4～5期竪穴住居跡器集成(8)

(4) 5b期：郡山Ⅰ期官衙期の土器(第264～266図)

5bⅠ期はSI87竪穴住居跡、SI104竪穴住居跡、5bⅡ期はSI75竪穴住居跡、SI82竪穴住居跡、SI102竪穴住居跡、SI110竪穴住居跡、SI109竪穴住居跡の床面直上、カマド構築上およびカマド燃焼部底面から出土した土器を基準資料とする。この時期は、土師器杯は出土量が少なく明確ではないが、土師器甕は法量の分化が前段階から引き続認められ、5a期に比べて須恵器の出土量および共伴率が増加することを特徴とする。

土師器甕は、床面直上から出土したものは少ないが、C-136・139(SI87竪穴住居跡)のような底部が平底状の丸底で、器高に対して口径が大きい器形や、C-231(SI102竪穴住居跡)・C-259(SI110竪穴住居跡)のように明瞭な平底を呈する器形がみられるようになる。前者は5bⅠ期、後者は5bⅡ期の特徴を示す。

土師器甕は、5a期から続ぎ球胴と長胴がある。球胴は中型が主体となり、大型はみられなくなる。長胴は、法量の分化がより明確になり、大型(C-116・SI82竪穴住居跡、C-140・SI87竪穴住居跡)、中型(C-115・SI82竪穴住居跡)、小型(C-117・118・SI82竪穴住居跡)のものが一定量みられるようになる。胴部的最大径は、上位に持つものが増える。口縁部と胴部の境は、段を持つものが減少し、段・棱を持たないものが増加する。口縁部は、C-237・238(SI104竪穴住居跡)のように短く外傾・外反するものと、C-116・119(SI82竪穴住居跡)・C-140(SI87竪穴住居跡)のように頸部で強く屈曲し、水平に近い角度に外傾するものがみられる。外面調整は、ハケメないしヘラケズリを基調とし、下半にヘラケズリ・ヘラナデが施されるものもある。

土師器櫛は、C-145(SI 87 穴穴住居跡)が1点出土している。底部は單孔式で、胴部は内湾して立ち上がり、最大径は上位に持つ。調整は、胴部外面へラケズリのちヘラミガキ、内面へラナデが施される。

須恵器は、SI 82 穴穴住居跡、SI 87 穴穴住居跡、SI 109 穴穴住居跡、SI 110 穴穴住居跡の床面直上およびカマド燃焼部底面から総数9点出土している。器種はいずれも壺で、口縁部と体部の境に段を持ち口縁部は外傾するE-070(SI 110 穴穴住居跡)と高台付环のE-024(SI 87 穴穴住居跡)を除き、平底の底部から直線的に外傾して口縁部にいたる器形を呈する。底部切り離し技法は、いずれも回転ヘラ切りである。なお、E-020(SI 87 穴穴住居跡堆積土出土)は、今次調査で確認された唯一底部切り離し技法が静止糸切りの個体である。

また、住居に伴うものではないが、本時期の穴穴住居跡堆積土からは、蓋・壺・瓶・鉢・円面鏡などの多様な器種が出土している。

第2節 検出遺構(第267～270図)

本節では、今次調査で検出された遺構群について、前節に記載した出土遺物による時期区分に沿って記載する。

1.1～2期：縄文時代後期～弥生時代中期

17街区下層調査Xb層から検出した土坑3基とV区下層調査・17街区下層調査VIa'層から検出した水田跡が該当する。

土坑は、上端径51～171cm、深さ12～48cmを測る。遺物は出土していないが、基本層Xb層からは1aⅡ期～1bⅠ期(縄文時代後期末葉～晚期前葉)の土器が出土していることから本土坑も同時期に属すると考えられる。

水田跡は、V区下層調査と17街区下層調査を合わせて、水田区画を6区画、畦畔を5条検出した。水田区画、畦畔とも調査区外へかかり完結するものはないが、検出した範囲の規模は、最大で水田区画は長さ909cm、畦畔は長さ13.7m、上端幅176cm、下端幅248cm、高さ8cmを測る。水田耕作土の厚層は6～10cmを測り、下面は起伏する。遺物は、耕作土中から土器の破片が極少量出土しているのみで時期は不明だが、17街区下層調査西半の非耕作域であるVIa'層から2a期～2b期(弥生時代中期前葉～中葉)の土器が出土しており、水田跡も同時期に属すると考えられる。

また、17街区下層調査西半のVIa'層上面で炭化物範囲を5ヶ所検出した。平面形状は不整形・楕円形を呈し、規模は長さ44～228cm、幅24～94cm、深さ4～29cmを測る。堆積土中には、炭化物粒・炭化材・燒土を含む。遺物は出土していないが、水田跡と同時期と考えられる。

2.3期：古墳時代前期

17街区IV層上面でSI105、SI122、SI124の3軒を検出した。SI105・122は床面直上出土遺物から、SI124は重複関係から時期を判断している。平面形状は方形ないし長方形と推定され、軸方向は西に振れるSI122・124と東に振れるSI105に分かれる。このうち、SI122では地床炉を検出している。また、17街区東半のSI125は、遺物は出土していないが、4a期と考えられるSI113より古く、地床炉の可能性のある被熱範囲を検出していることから古墳時代前期に遡る可能性がある。

これら古墳時代前期の穴穴住居跡は、検出した軒数が3軒と少なく、個々の住居は重複遺構や擾乱により失われている範囲が多く、平面形状や規模などから規則性を窺うことは出来ないが、西台遺跡において古墳時代前期の居住域が形成されていたことが初めて確認された。

3.4～5期：古墳時代後期～奈良時代

この時期の遺構は、VI区基本層IV層上面で検出した竪穴住居跡26軒、溝跡1条、性格不明遺構3基、小溝状遺構群2群、VI区下層調査IVd層上面で検出した溝跡1条、土坑3基、ピット6基、17街区IV層上面で検出した竪穴住居跡26軒、材木列1条、溝跡5条、土坑12基、ピット61基、性格不明遺構1基、小溝状遺構群1群が該当する。

このうち、SD 61溝跡は、V区・V区下層調査・17街区で検出しており、検出した規模は、総長46.5m、上端幅260～450cm、深さ120～159cmを測る大規模な溝跡である。その規模から区画施設としての機能を考えられるが、方向はN 3°-Eで、既存の区画施設(SD 17・31)の方向とは異なっており、関連性は不明である。時期については、5a期以降と考えられるSI 112より新しいことから、SD 61の時期は5a期以降と考えられる。出土遺物は、底面から出土した土器はないが、堆積土中より4a期以降の土師器・須恵器が多数出土しており、9世紀代と考えられるロクロ調整の土師器環も出土している。また、堆積土上層には十和田火山灰の堆積が認められることから、埋没時期は10世紀前半以降と考えられる。また、17街区西半で検出されたSA 1材木列は、区画施設と考えられるが、土器はいずれも堆積土中からの出土であり、また時期の判る遺構との重複関係がなく時期は不明である。

これら遺構群は、いずれも伴う遺物の特徴や遺構の重複関係等から、郡山遺跡に造営された官衙が機能した前後階の時期幅(6世紀末葉～8世紀前葉)に収まる。竪穴住居跡を含む多数の遺構が検出されたことから、第1・2次および第3次調査で確認された居住域が遺跡中央部西側に拡がることが確認された。以下では、今次調査で確認された居住域を形成する主要な遺構である竪穴住居跡について確認していく。

(1)竪穴住居跡について(第267～270図)

V区・17街区で検出された竪穴住居跡52軒について、属性を一覧表にまとめたほか、第267～270図には、重複関係模式図、変遷図、規模、床面標高を個別に示した。なお、一覧表には、掘り方のみを検出した竪穴住居跡の属性も示している。

ここでは、これらの図を基に、竪穴住居跡の分布、主軸方位、平面形状や規模(床面標高を含む)、カマドの構造、その他の施設について、第1・2次、第3次調査の成果も踏まえて報告する。

1)分布(第267・268図)

V区・17街区で検出された竪穴住居跡のうち、伴う遺物等から細別時期が特定できるのは22軒(4a期:2軒、4a～4b期:2軒、5a期:11軒、5bⅠ期:2軒、5bⅡ期:5軒)である。4期に属する竪穴住居跡は4軒であるのに対し、郡山官衙が造営される5期になると18軒に増加する。5a期では、5a期以前と推定される竪穴住居跡を含めると4期以上の変遷が認められ、軒数の増加に伴い重複も激しくなり、5期になると集落が拡大していく状況がみてとれる。このような状況は、第1・2次、第3次調査でも確認されており、今次調査でも同様な傾向が確認された。

時期毎の分布については、第268図に示したように4a期に属する2軒は、V区西半と東半に重複せず点在する。4a～4b期に属する2軒は、17街区西半に重複して分布する。このことから、4期の竪穴住居跡は、まとめて分布するのではなく、散在していた状況が覗える。5期になると、V区のほぼ全域と17街区の中央～東半に、重複して当該期の竪穴住居跡が構築されるようになる。17街区西半には、竪穴住居跡が重複することなく点在する。このことから、竪穴住居跡の分布範囲は、4期と5期では重なるが、5期になると分布密度が増す傾向が覗われ、第3次調査で確認されていた5期にみられる居住域の拡がりが遺跡範囲中央部西側にもおよぶことが確認された。

西台標準地V区・17街区 補丁付階層の属性一覧表(1)

構造 番号	クリアード	平面形・高さ 形状(幅×奥行) 高さ(m)	床面 寸法	算出 位置	付設 位置	燃熱部 位置	袖渠端材 中(はぎ材)	ガマド		煙道部 寸法	その他の 施設	脚柱 位置	備考		
								平面	床面						
SIT0	C-D B-9	方形 409	9.88	N-10° E	カマド	北壁	内	土	-	-	-	土坑1基 5a期 以降			
SIT1	D-B	方形 328	9.92	N-51° W	カマド	北壁	内	土	-	平則	-	土坑1基 5a期 以降			
SIT2	D-B	平明 (468) × 444	9.82	N-4° W	カマド	北壁	内	土	162	平則	-	土坑1基 5a期 以降	複数の住戸跡が 残る		
SIT3	C-D-B	方形 588	9.82	N-48° W	カマド1 壁渠端 付	北壁	内	土 (土盤端材・壁・渠)	111(1) 117(2)	上がる(1) 起伏(2)	軽便の底 ビット状(2)	-	4a期 あり	カマドの透け替え	
SIT4	C-D-B	方形 470 × 462	9.78	N-80° E	カマド	西壁	-	-	-	(108)	平則	ビット状	-	5a期	
SIT5	D-B	(自立) 530	9.73	N-50° W	カマド	北壁	内	土 (土盤端材)	-	-	-	-	5a期		
SIT6	C-B	横丸方 578 × 558	10.00	N-1° E	カマド	北壁 (内)	内	土	135	下がる	ビット状	-	5a期		
SIT7	C-B-9	方形 662 × 648	9.92	N-13° W	カマド	北壁	外	土 (窓)	197	上がる	ビット状	土坑1基	5a期		
SIT8	B-B	W-B (495) × (495)	10.00	N-64° W	カマド	西壁	内	土	(138)	下がる	-	-	5a期		
SIT9	B-B-9 (方形容) (229)	459 × 9.94	N-15° E	カマド	北壁	外	土	141	下がる	ビット状	土坑2基 5a期				
SIB0	S-B-9	方形 828	9.99	N-23° E	カマド	北壁	内	土 (窓・切口)	171	下がる	ビット状	土坑2基 5a期	複数の底の内 壁渠端材を残す		
SIB1	A+B-B	方形 479	9.97	N-48° W	カマド	北壁	内	土 (自然縫)	149	上がる	ビット状	-	4a期		
SIB2	A-B	(方形) (460) × (460)	10.07	N-10° E	カマド	北壁	内	土	-	-	ビット状	土坑1基 5a期	煙道部が、剥離し たものと見られる		
SIB3	A-B	(531) × 366	-	N-2° W	内壁	-	-	-	-	-	-	-	5a期	剥離のみの残存	
SIB4	A-B	方形 459	9.84	N-17° E	カマド	北壁	-	-	-	-	ビット状	-	5a期		
SIB5	B-C S-B-9	(方形) (137)	10.07	N-18° E	カマド	北壁	外	土 (自然縫)	177	下がる	ビット状	-	5a期		
SIB6	B-C S-B-9	方形 477	9.85	N-29° W	カマド	北壁	内	土 (土盤端材・壁・渠)	123	平則	-	-	5a期		
SIB7	B-C-B	方形 378	9.91	N-1° E	カマド	北壁	外	土	(108)	平則	-	土坑1基	5b-1期		
SIB8	B-B	楕丸方 477 × 386	9.97	N-7° E	カマド	北壁	-	-	-	-	ビット状	土坑1基	4b- 5a期		
SIB9	B-C-B	方形 438	9.96	N-9° E	カマド	北壁	内	土	126	下がる	ビット状	-	5a期		
SIB9	C-B	(方形) (420)	0.89	N-55° E	北壁	-	-	-	-	-	-	-	5a期		
SIB11	B-B	平明 (427)	10.10	N-28° W	東壁	-	-	-	-	-	-	土坑3基	5a期		
SIB2	A-B	平明 (261)	10.08	N-4° E	東壁	-	-	-	-	-	-	-	5a期	5a期 以降	
SIB3	A-B-9 (方形容)	(640) × (408)	10.00	N-58° W	カマド	西壁	内	土	-	-	-	土坑1基	5a期		
SIB4	B-B	方形 459	10.07	N-5° E	西壁	-	-	-	-	-	-	-	5a期 以降		
SIB5	B-B	(方形) (336) (327)	10.01	N-19° E	カマド	北壁	内	土	204	起伏あり	ビット状	-	5a期 以降		
SIB10	X-T-8	方形 (135)	10.29	N-44° W	カマド	北壁	内	土 (自然縫)	-	-	-	-	不規		
SIB12	X-T-8 (方形容)	(132)	10.38	N-76° W	南壁	-	-	-	-	-	-	-	5b-1期		
SIB13	X-B	(方形) (198)	10.47	N-71° E	南壁	-	-	-	-	-	-	-	5a期 以降		
SIB14	V-B	(方形) (420)	10.53	N-53° W	カマド	北壁	-	-	-	-	-	土坑2基	5b-1期	カマドは剥離の ものと見られる	
SIB15	X-T-8 (方形容)	(450)	10.30	N-18° E	東壁	-	-	-	-	-	-	-	開性欠陥	3期	
SIB16	V-B	平明 (257)	-	N-85° E	南壁	-	-	-	-	-	-	-	不規	剥離の方のみ残存	
SIB17	Z-B	方形 (419)	10.17	N-104° E	カマド	東壁	内	土 (盛土・南極・基 本耐候性剖面を直接使用)	132	上がる	-	-	5b-1期	壁穴穴あけ	
SIB110	Z-B-9	方形 306	10.20	N-109° E	カマド	東壁	外	土 (盛土)	(129)	上がる	ビット状	土坑3基	5b-1期		
SIB111	Z-B	方形 364	9.89	N-3° E	カマド	北壁	内	土	174	下がる	-	-	5a期	壁穴穴あけ	
SIB112	Z-T-8	(261) (252)	10.56	N-171° E	南壁	外	-	-	-	-	-	-	5a期 以降		
SIB113	Z-B	(方形) (179)	10.26	N-8° E	カマド	北壁	外	土	102	上がる	-	土坑1基	5a期		
SIB114	Z-B-9	(方形) (189)	10.22	N-80° W	南壁	-	-	-	-	-	-	土坑1基	5b-1期 以降		
SIB115	Z-T-8	(372) (231)	10.11	N-11° E	西壁	-	-	-	-	-	-	土坑1基 不規	-		
SIB116	Z-B	平明 (231)	10.36	N-20° E	西壁	-	-	-	-	-	-	土坑1基	5a期 以降		
SIB117	Z-B	(方形) (416)	10.30	N-17° W	東壁	-	-	-	-	-	-	-	5a期 以降		
SIB118	Z-B	(方形) (222)	10.09	N-18° E	西壁	-	-	-	-	-	-	土坑2基	5a期 以降	壁穴穴に傾斜付いた 可能性あり	
SIB119	Z-B	(方形) (100)	10.12	N-13° E	カマド	東壁	外	土	168	下がる	-	土坑2基	5b-1期 以降		

西台住跡跡V区・17街区、竪穴住居跡の属性一覧表(2)

番号 基準	グリッド	平面形・規模 形状	長軸 幅(幅× 長軸(m))	床面 高さ(m)	方位	算出 基準	カマド		煙道部	その他の 施設	周辺 状況	備考	
							位置	位置					
SI120	W-8	(方形)	480 × (35.5)	10.49	N67°E	カマドI 煙道部	北壁	カマドI: カマドII:	土壌	222	平野	西に伸び 土坑5基	5a期 カマド煙道部を2 基露出
SI121	W-8	方形	782 × 738	10.48	N33°W	カマドF	北壁	-	土壌	-	-	土坑3基、 窓(?)遺 地床0.1基	4a 4b期 壁根穴あり
SI122	V+R-8	方形	642 × (59.4)	10.37	N43°W	西壁	-	-	-	-	-	-	3期
SI123	W-8	不明	(43.8) × (35.5)	-	N4°E	西壁	-	-	-	-	-	-	4a 4b期 壁根穴あり
SI124	V+R- 8-9	(方形) (9.7) (5.9)	(414) × (336)	10.61	N60°E	北壁	-	-	-	-	-	-	3期
SI125	Z-8	方形	570 × (47.4)	10.14	N49°W	北壁	-	-	-	-	-	地床0.1基 土坑1基	5a期 3期に想る可能性
SI126	Z-8	不明	(67) (16.5)	10.07	N69°W	カマドF	西壁	-	北壁/易子窓を複数 使用、南(?)塗	-	-	-	5a期 以前
SI127	Z-9	不明	(288) (18.3)	-	N13°E	カマドF 煙道部	北壁	-	-	162	平野	ピット4基 土坑1基	5a期 以前 カマドは煙道部 と繋り方を複数
SI128	Z-8	方形 (47.4)	(34.2)	9.96	N83°W	北壁	-	-	-	-	-	-	14.80 (12.6)

※V区-S70～95、17街区 SI01～128(SI07～108は中空)

*中空部までの面積は、概定。

*中空部付近の面積は、実測値。

*床面標高は、平均標高における最も低い床面標高。

*カマド煙道部底面は、壁面の内側に構築されるものと「内」壁面の外側に全体の1/2未満が張り出すものを「や外」、1/2以上張り出すものを「外」と表記した。

*カマド煙道部底面「下がらる上がらる」の表記は、壁出し部方向を指す。

2) 主軸方位(第270図)

V区・17街区で検出された竪穴住居跡52軒の重複関係模式図(第267図)には、遺構番号の下に主軸方位を矢印で示している。この中で、カマド煙道部もしくはカマドを基準とした32軒(SI70～82・84～89・93・95・101・104・109～111・113・119～121・126・127)の主軸方位は、黒塗りの矢印で示してある。この32軒のうち、伴う遺物や重複関係から細別時期が特定されたのは、4a～4b期が3軒(SI73・81・121)、5a期が10軒(SI74・76～78・80・84・86・111・113・120)、5b i 期が2軒(SI87・104)、5b ii 期が4軒(SI75・82・109・110)の総数19軒である。これら19軒の主軸方位をみると、4a～4b期では西(30°～50°前後、3軒)に振れる。5a期になると、4期と同様に西(30°～60°前後、2軒)に振れる1群に加え、東(2°～25°前後、6軒)に振れる1群がみられるようになる。この中でSI74はほぼ真西(86°)に振れる。5b i ～ 5b ii 期になると、西(50°前後、2軒)に振れる1群、東(10°～20°前後、2軒)に振れる1群に加え、東(100°～110°前後、2軒)に振れる1群が加わる。

このことから、V区・17街区では、4期から5a期、5b期にかけて、異なる主軸方向に主軸方位が変遷する第1・2次調査、継続的に北方向を指向する竪穴住居跡が主体的に構築される第3次調査とは、異なる様相を示す。

3) 平面形状・規模(第269・270図)

V区・17街区で検出された竪穴住居跡の多くは、重複遺構と擅乱により遺構の一部は失われており、全体が検出された竪穴住居跡は少ない。そのため、規模については不明な竪穴住居跡が多く、平面形状を確認もしくは推定できる竪穴住居跡の大半は、方形ないし長方形を呈する。このことから、規模については、一辺のみが残存する竪穴住居跡は方形基準と見做し、時期毎の規模を示した第269図では推定される規模を破線で図化している。

各時期の軒数にはばらつきがあるため、時期毎の特徴は見出し難いが、全体として一辺4.5～6m前後を測る竪穴住居跡が最も多く、一辺7～9mを測る大型、一辺4m未満の小型の竪穴住居跡が少数構築されるという傾向が覗む

れる。

第270図に示した床面標高についても、時期毎の大きな特徴はみられず、17街区で検出された竪穴住居跡の大半が標高10・1m以上なのに対し、V区で検出された竪穴住居跡は10・1m以下の標高値を示し、地形的な影響が覗える。

4)カマド

V区・17街区では33軒の竪穴住居跡からカマドが検出された(煙道部のみが検出されたSI 74・84・127、カマド掘り方のみを検出したSI 104を含む)。このうちSI 73・120ではカマドの造り替えが確認され、SI 73では煙道部を2基、SI 120では燃焼部を2基検出している。カマドが付設される壁面は、北壁が26基(SI 70～73・75～77・79～82・84～89・95・101・104・111・113・119～121・127)、東壁が2基(SI 109・110)、西壁が4基(SI 74・78・93・126)、南壁が1基(SI 112)である。これらの大半は壁面の中央に付設されるが、SI 75・77・80・82・85・86・104・110・120は、中央からわずかに偏する。

袖は、残存している27基のうち、25基が盛土によって構築されている。残る2軒(SI 109・126)は、片袖は盛土によって構築され、もう一方は基本層IV層を直接使用している。盛土による25基のうち8基には、芯材として土師器や須恵器のほか、自然礫や砂岩の切石が使用されていることが確認された。なお、SI 80の東袖構築土底面からは、径5cmほどの円礫がまとめて検出されており、これら礫群もカマド袖の構築にかかわるものと考えられる。

燃焼部は、確認できる27基(造り替えにより2基検出されたSI 120を含む)のうち、18基が壁面の内側に、7基が壁面からわずかに張り出す形で設けられている。SI 79と、SI 120で2基検出されたうちの古い段階(カマド2)の燃焼部は、壁面から大きく張り出す。

煙道部は、部分的に残存しているものを含め23軒から検出された。このうち、SI 73は造り替えにより2基検出している。底面は、9基がほぼ平坦、6基が煙出し部に向かって上がり、9基が煙出し部に向かって下がる。煙出し部は、15基がピット状に窪み、10基は煙道部がそのまま収束する。

これら、上記した各要素の組み合わせはさまざまで、特定の要素の組み合わせや、時期別の偏りなどは認められない。

5)その他の施設

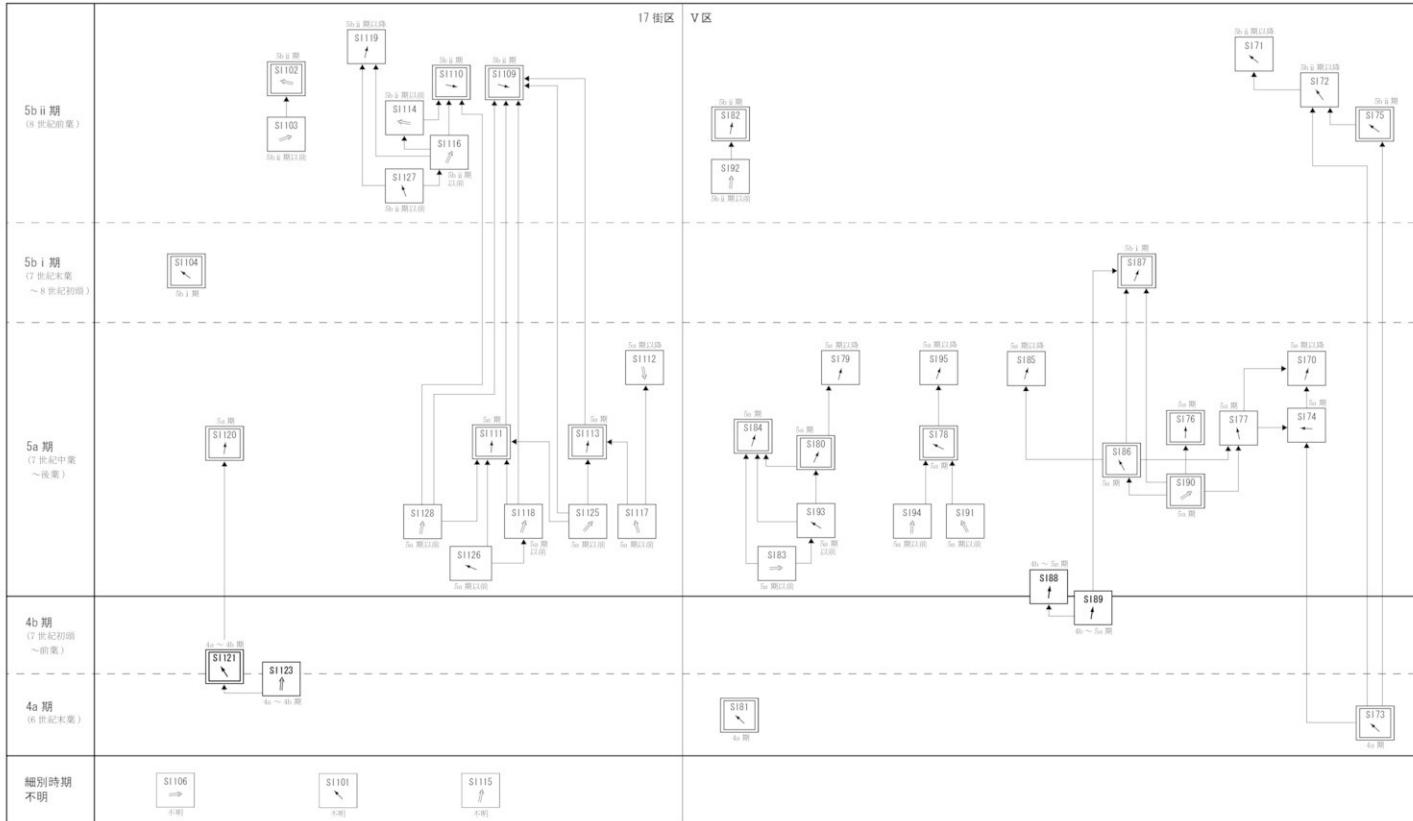
竪穴住居跡に伴うカマド以外の施設としては、土坑状の掘り込みやピット状の小穴、周溝、間仕切り溝がある。これらの中には、柱痕跡を伴うものや、規模や位置関係から柱穴に相当すると考えられるものがあるが、残存状況が良好ない竪穴住居跡が多く、柱穴配置については明確ではない。しかしながら、SI 109・111・121では壁柱穴、SI 118では壁柱穴と補助柱穴の可能性が考えられる柱穴・小ピットが検出された。これ以外にも、貯蔵穴やカマドに関連する施設の可能性が考えられる堆積土に焼土・炭化物粒を含む土坑が22軒の竪穴住居跡から検出されている。

周溝は、検出された範囲だけでも、断続して周り、全周するものはない。また、周溝は、いずれもカマドの手前で収束しており、カマドと周溝が重複する竪穴住居跡はない。

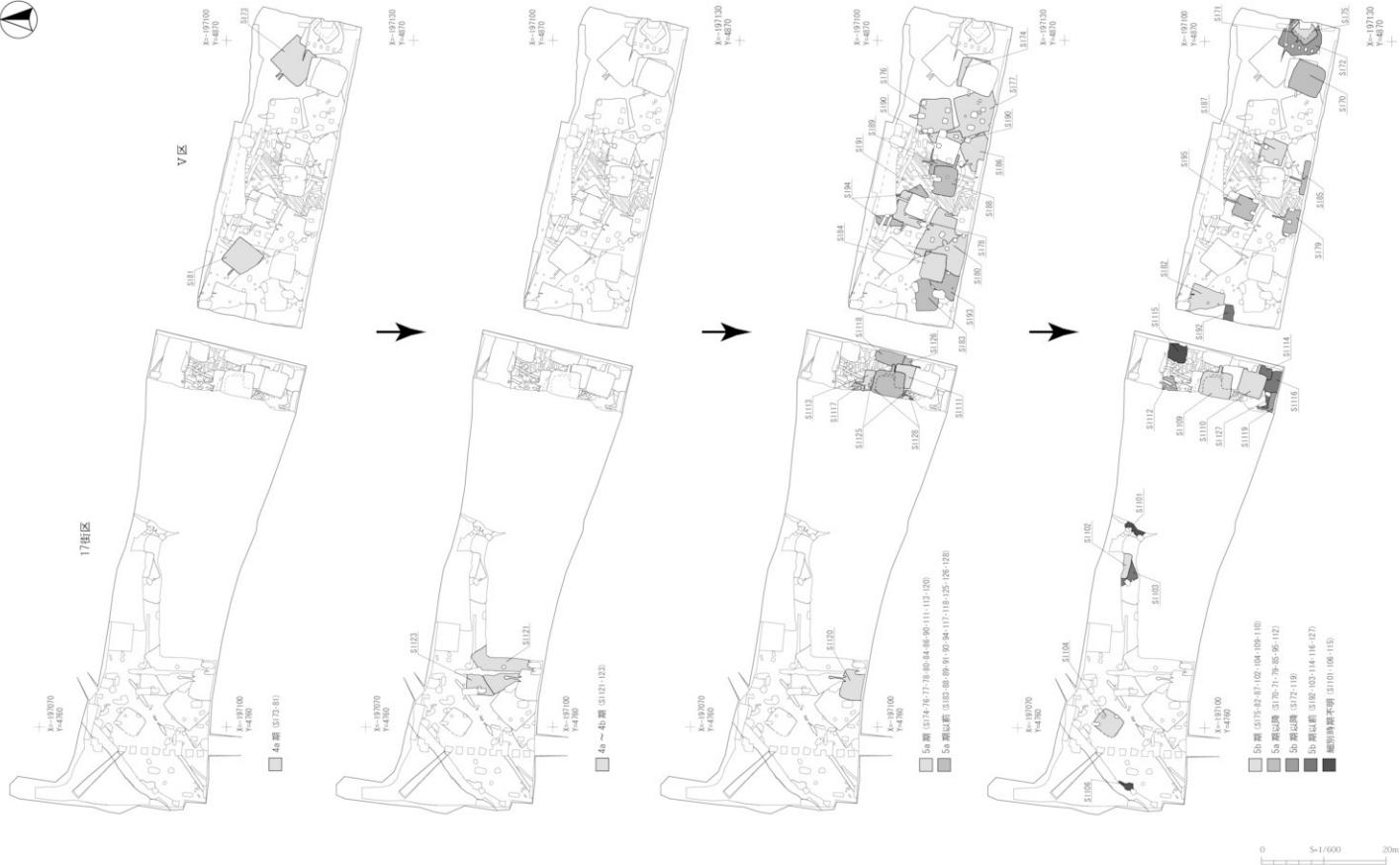
間仕切り溝は、SI 81・105・121から検出されており、いずれも壁面に対して直交する。

4.6～7期：平安時代～中世

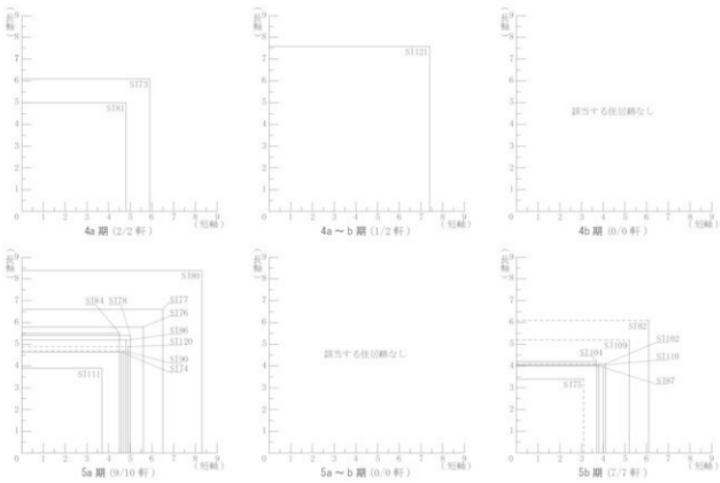
V区・17街区から検出された竪穴遺構2軒、掘立柱建物跡5棟、溝跡8条、井戸跡2基、土坑38基、ピット140



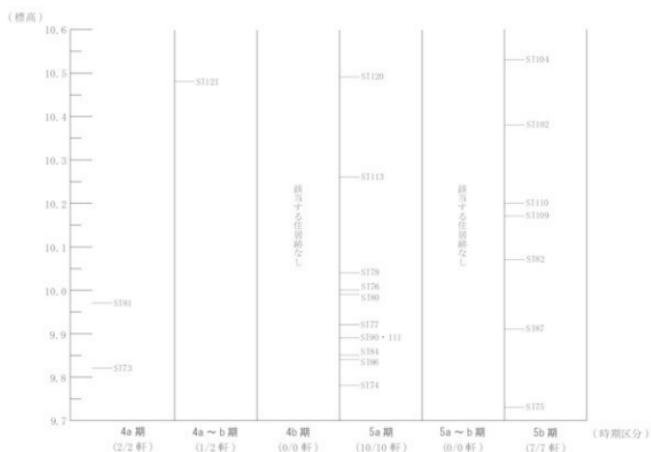
第267図 4～5期竪穴住居跡の重複関係模式図



第268図 4～5期堅穴住跡変遷図



第269図 4～5期竪穴住居跡の規模



第270図 4～5期竪穴住居跡の床面標高

基、性格不明遺構2基、小溝状遺構群2群、河川跡1条が該当する。遺構底面から出土した遺物は認められないが、他遺構との重複関係から新しい段階に属する遺構群と考えられる。このうち、堅穴遺構2軒と掘立柱建物跡3軒は、17街区東半にまとめて分布する。残る2軒の掘立柱建物跡は、V区西半と17街区西半に単独で分布する。17街区西半で検出された河川跡は、堆積上下層に灰白色火山灰の堆積が認められ、10世紀前半には河川が形成されていたことが確認された。

5.区画施設について

西台畠遺跡の集落や官衙との関係については、第1・2次調査報告書でも述べているが、ここでは改めて、郡山遺跡官衙や集落の区画施設となる可能性がある遺構とその変遷について概観する(第271図)。

官衙に関連する遺構としては、外溝とSD 17溝跡がある。外溝の存在が初めて考えられたのは、平成10年(1998)に、IV区で確認されたSD 31溝跡の調査による。方四町II期官衙外郭大溝の西側約50mの位置にあり、同じ年に郡山遺跡の南側で行われた第124次調査でも同様の遺構が確認され、出土遺物や堆積土の状況から、官衙の西と南側では外郭大溝の外側に新たな区画溝が存在することが明らかになった。その後の調査で、この溝が官衙の全域を囲んでいる「外溝」であることが明らかになり、官衙の構造や設計基準について、藤原京との関連性が考えられている(仙台市教委2009)。

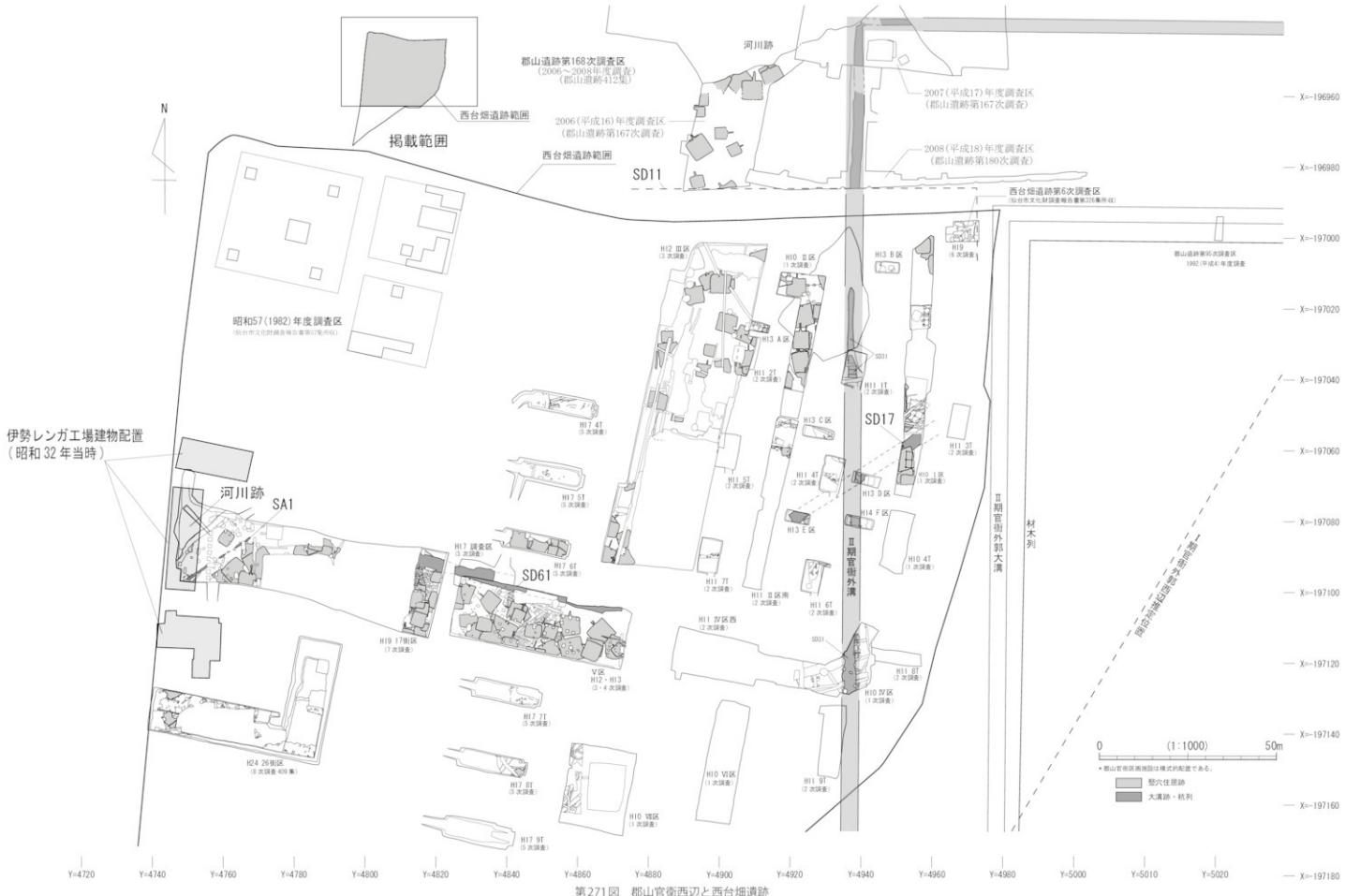
しかし、区画整理事業に伴う西台畠遺跡や郡山遺跡の調査では、外郭大溝と外溝の間に官衙期を中心とする時期の遺構群の変遷があることが明らかになっている。また、当時近接していたであろう広瀬川の存在を考えると、官衙北西部の土地利用や外溝北辺の形態について今後検討する必要がある。

また、I区で確認されたSD 17溝跡は、上端幅約370cm、下端幅約160cm、深さ110cmを測る大規模な溝跡である。掘り直しの痕跡が認められ、a・bの2時期の変遷が考えられる。N-55°-Eの方向に延びており、平成13年の個人住宅調査では、外溝との重複部分(D区)や溝跡の先端と考えられる部分(E区)を確認した。出土遺物の検討から、a期はI期官衙以前、b期はI期官衙期の遺構と考えられる。仮にE区の遺構が溝跡の先端となると、この周辺が開口部となる可能性が考えられる。しかし、延長方向にあるV区では想定される位置を含めて溝跡が確認されていないことや、方向が真北から東へ60°近く傾いている点など、集落や官衙との関係を含めその性格については検討を要する。

集落に伴う遺構として西台畠遺跡では、長町駅東遺跡のような区画施設の変遷は確認されていないが、区画施設の可能性が考えられる遺構としては、集落北側の郡山遺跡調査で確認されたSD 11溝跡や、V区で確認されたSD 61溝跡、第7次調査で確認されたSA 1木材列がある。

SD 11溝跡は、平成16年に西台畠遺跡北側で行われた郡山遺跡第167次調査で、ほぼ真東西方向に伸びる溝跡を確認し、その後の調査でII期官衙外溝との重複部分を確認した。この部分での溝跡の規模は、上端幅110～140cm、下端幅20～50cm、深さ60～100cmを測り、断面形状は逆台形を呈している。方向は、N-88°-Wである。平成19年の西台畠遺跡第6次調査でこの溝跡の東辺を確認したことにより、この溝跡はII期官衙外郭大溝北西コーナー部の西5m程の位置でほぼ直角に南に曲がることが想定される。時期については、郡山遺跡167次・180次調査の成果から、II期官衙に先行すると考えられる。

V区で確認されたSD 61溝跡は、上端幅約260～450cm、下端幅約40～100cm、深さ160cmを測り、断面形状は逆台形を呈している。方向は、N-3°-Eである。堆積土の上層に灰白色火山灰を含み、掘り直しの痕跡が認められる。構築時期については、II期官衙後半期以降と考えられる。西側の7次調査区では、V区と隣接する部分では確認したものの、西側の延長方向では確認されなかったことから、南または北に曲がることが想定されるが、擾乱により詳細は不明である。



第271図 郡山官衙西邊と西台烟遺跡

第7次調査で確認されたSA1材木列は、上端幅40cm前後の溝状の掘り方に直径10cmほどの柱痕跡が確認された。柱を抜き取った痕跡ではなく、N 56° E の方向に延びているが、これは材木列の西側約7mに位置する河川跡の方向とほぼ同方向であり、この周辺が集落の西端となっている可能性も考えられる。河川跡と小規模な材木列が並走する様の状況は、長町駅東遺跡集落の南端部の調査でも確認されている。

しかしこれらの遺構については、いざれも部分的な確認であることや、時期的にも連続する遺構ではないことなど詳細は不明である。長町駅東遺跡では、集落の初期の段階から区画施設が造られており、造り替えられる際にもその位置や方向が踏襲されていることや、区画施設が集落の立地する自然地形に合わせて造られたことが考えられる。一方、西台烟遺跡では、集落の初期の段階から区画施設が造られた可能性を含めて、これまでに確認されている遺構の性格についてなお検討を要する。

6.西台烟遺跡出土の陶硯について(第272図)

陶硯の使用は、文書行政の始まりを示すものであり、これまでの調査成果により郡山官衙と密接な関係を持つと考えられる本遺跡においても少量の陶硯が出土している。本稿では、西台烟遺跡において出土した、各陶硯について述べる。また、特記遺物として今次調査において検出し、規模と形状から区画施設と考えられる大溝(SD 61)から出土した把手付中空円面硯(第229図)について述べる。

西台烟遺跡の第1・2次調査(仙台市教委2010b)では、円面硯2点、第3次調査(仙台市教委2011)では、転用硯1点、本報告の第5次調査では、把手付中空円面硯1点、第7次調査では、円面硯1点、計5点の陶硯が出土している。

第1・2次調査のIV区で出土した円面硯(第272図-1)は、壊乱からの出土で、残存状況は全体の2/3程度しか残存していないものの、脚部には凸帯が巡り、その上部に十字状と長方形状の透かしが推定3単位あることが確認されている。VII区で出土した円面硯(第272図-2)も壊乱からの出土で、脚部の一部のみの出土であるため、全体の詳細は不明であるが、脚部に凸帯が巡ることが確認されている。

第3次調査のIII区では転用硯(第272図-3)がSI 48堅穴住居跡の床面直上から出土している。この転用硯は、出土した須恵器の内面の青海波文が磨滅し、広範囲に光沢が確認されたため、硯として使用されたものと考えられている。

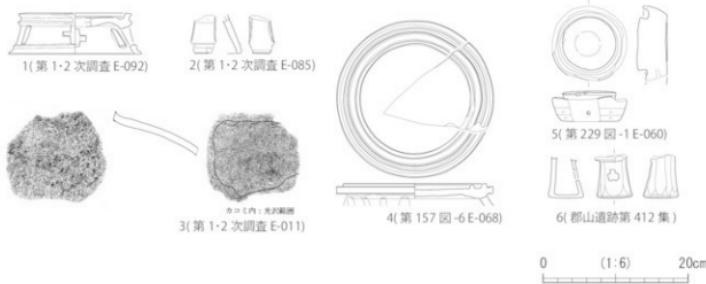
第5次調査では、区画施設と考えられる大溝(SD 61)の堆積土中層から把手付の円面硯(第272図-5)が出土している。この把手付の円面硯は、硯体に把手が剥離した痕跡と、剥離面の中央部には径5mmの斜め上方からの穿孔がみとめられ、硯体内は中空状であることが確認された。これらのことから、この円面硯は、硯体中空部に水を入れて持ち運び、手に持ったまま墨を擦る際に硯体内の水を使用したと考えられる中空円面硯であり、硯体に把手の剥離痕跡が確認できることから、把手付中空円面硯に分類される。この形状は7世紀前半～8世紀前半にかけて特徴的に見られるものである(菊井2011)。また、西台烟遺跡の北側に位置する郡山遺跡の今年度刊行の郡山遺跡第167次調査(第412集)において、把手部分のみではあるが、上面に穿孔があり、内部が中空状であることから、把手付中空円面硯と考えられる須恵器が出土しており、参考資料として本報告書に掲載している(第272図-6)。

第7次調査で出土した円面硯(第272図-6)は、堅穴住居跡(SI 109)の床面施設(P 1)の堆積土から出土している。硯部の1/5程度の残存で、脚部は欠損しているが硯部との接合面に四窓が残存していることが確認された。

以上のように、西台烟遺跡では計5点の陶硯が出土しており、出土位置と出土状況はそれぞれ異なるが、各陶硯の使用時の状況を考えた場合、転用硯(第272図-3)と円面硯(第272図-1・2・4)は置いて使用するのに対し、把手付中空円面硯(第272図-5)は上記で述べたように持ち運んだ先で手に持ったまま使用したことが考えられ、他の陶硯とは使用時の状況が異なる。この使用例が異なる状況の実例として、菊井氏は、滋賀県の西河原遺跡群では中空円面硯

が他の定形窯や転用窯が多く出土する地点と異なる地点で見つかることが考察されていることと、静岡県の遠野国引佐郡の郡津と指摘されている井通遺跡において、圓脚窯や転用窯、朱墨土器が管理施設の立つ南施設で出土するのに対し、中空円面窯は収納施設が展開する北側区画と中央区画を隔てる溝から出土し、他の窯と異なる地点で出土することを例にあげ、中空円面窯は、官衙の中でも文書作成が活発で、行政事務を中心的に行う部署ではなく、港での積み下ろし倉の出納など、現場での荷の管理に用いられた窯であると考察している(菊井2011)。

西台烟遺跡においては、陶窯の出土量が5点しかなく、上記のような出土位置からの考察は困難であるが、この、区画施設と考えられる大溝(SD 61)より出土した把手付中空円面窯(第272図-5)が正倉での出納などの現場で用いられた窯であると考えた場合、今後の西台烟遺跡を検討するうえで、郡山官衙を中心とした西台烟遺跡が担っていた役割と機能がよりいっそう明確になるものと考えられる。



第272図 西台烟遺跡出土の陶窯

第3節まとめ

西台烟遺跡は、仙台市太白区郡山二丁目に所在し、標高11mの自然堤防上に立地する。「仙台市あすと長町土地区画整理事業」に伴う今次発掘調査の結果、縄文時代後期から中世にかけての遺構や遺物が検出された。これらは、出土遺物の特徴および第1・2次、第3次調査の成果から、1期：縄文時代後期～晩期、2期：弥生時代中期、3期：古墳時代前期、4期：古墳時代後期、5期：古墳時代終末期～奈良時代、6期：平安時代、7期：中世、8期：近世に区分される。このうち、3期は今次調査で初めて竪穴住居跡が検出されたことにより、新たに追加した時期区分である。

各時期における調査成果の概要是、以下の通りである。なお、細別時期区分は、第3次調査に基づいている。そのため、今次調査では遺構・遺物が検出されていない細別時期もある。

1～2期

基本層VI層～X層から、縄文時代後期～弥生時代中期中葉の遺物が少量出土した。出土した遺物は、17街区VIa層から出土した弥生土器浅鉢(B-001)を除き破片資料で、いずれも基本層中からの出土で遺構に伴って出土した遺物はない。

1期の土器はいずれも破片での出土だが、器種は、浅鉢と深鉢が認められる。このうち、細別時期がわかる土器は、1bⅠ期(縄文時代晚期初頭～前葉：大洞B1、B2、B-C式)と1bⅡ期(縄文時代晚期後葉～末葉：大洞A式期)に細別される。遺構は、17街区Xb層から土坑3基が検出された。遺物を伴わないことから細別時期は不明である。

2期に属する土器は、基本層VI層とVII層から少量出土した。器種には、壺、甕、浅鉢、深鉢が認められる。このうち細別時期がわかる土器は、2a期～2b期(弥生時代中期前葉：寺下圓式並行～中葉古段階：楕形式)に細別される。遺構は、V区下層調査および17街区のVI'a層から水田跡、17街区VIa層から炭化物範囲が検出された。水田跡は、第3次調査で報告されたプラントオバール分析で、稲作の可能性が指摘されていたが、今次調査で初めて検出された。

3期

17街区から竪穴住居跡3軒を検出した。伴う土器の特徴から古墳時代前期(埴釜式)の後葉に位置付けられる。西台畠遺跡において、古墳時代前期の段階で規模は不明ながら居住域が形成されていたことが確認された。

4～5期

V区から竪穴住居跡26軒、溝跡1条、性格不明遺構3基、小溝状遺構群2群、V区下層調査IVd層上面から溝跡1条、土坑3基、ピット6基、17街区から竪穴住居跡25軒、木材列1条、溝跡4条、土坑12基、ピット62基、性格不明遺構1基、小溝状遺構群1群を検出した。竪穴住居跡に伴う土器の特徴から、4期は4a期(住社式新段階)と4b期(栗圓式)に、5期は5a期(郡山I期官衙期)と5b期(郡山II期官衙期～奈良時代)に細別され、連續性を有する居住域が遺跡範囲西側に拡がることが確認された。

V区、V区下層調査、17街区で検出した区画施設と考えられるSD61溝跡は、堆積土中から把手付中空円面鏡を含む多量の土器が出土している。SD61は、他の区画施設とは方向が異なっており、性格については検討が必要である。

竪穴住居跡については、4期は少數の竪穴住居跡が点在していたのに対し、5期になるとV区・17街区のほぼ全域に分布するようになり、第1・2次、第3次調査と同様な変遷が認められた。今回の調査で確認された居住域は、第1・2次、第3次調査で確認された居住域と一連のものと考えられ、居住域がさらに西側に拡がることが確認された。

遺物は、土師器を主体として、須恵器・土製品・石製品・石器が出土した。竪穴住居跡に伴うものは少ないが、鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)が一定量、北武藏型土師器(清水型関東系土器)が少量出土している。

6～7期

V区・17街区から竪穴遺構2軒、掘立柱建物跡5棟、溝跡8条、井戸跡2基、土坑30基、ピット140基、小溝状遺構群2群、河川跡1条を検出した。遺構底面から出土した遺物は認められないが、他遺構との重複関係から新しい段階に属する遺構群と考えられる。17街区東半では、竪穴遺構と掘立柱建物跡がまとまって分布する様相が確認された。また、17街区西半で検出された河川跡は、堆積土下層に灰白色火山灰の堆積が認められ、10世紀前半には河川が形成されていたことが確認された。

8期

この時期の遺構は検出されておらず、遺物も18世紀後半～19世紀中頃の陶器片が極少量出土しているのみである。

引用・参考文献

- 石川日出志 2005 「仙台平野における弥生中期土器編年」『関東・東北弥生土器と北海道縄文土器の広域編年』(課題番号14320189)、平成14年度～平成16年度科学研究費補助金(基盤研究B(2))研究成果報告書
- 石野博信他 編 1998 『古墳時代の研究6 土師器と須恵器』(山陽)
- 一迫町教育委員会 1985 『山王廻遺跡調査記録』
- 1996 『國史跡 山王廻遺跡 発掘調査報告書I』
- 1997 『國史跡 山王廻遺跡 発掘調査報告書II』
- 1998 『國史跡 山王廻遺跡 発掘調査報告書III』
- 伊藤玄三 1958 「仙台市西台廻出土の弥生式土器」『考古学雑誌』第44巻第1号 日本考古学会
- 1961 「東日本における弥生時代の葬制」『文化』第25号第3巻
- 1993 「仙台市西台廻出土の弥生時代の再検討」『法政考古学』第20集記念論文集 法政考古学会
- 伊東信雄 1955 「東北」『日本考古学講座』4 弥生文化 河出書房
- 1957 「解説 三 弥生時代」『宮城県史34史料集V 考古資料』
- 氏家和典 1988 「東北古代史の基礎的研究」東北プリント
- 菊井佳介 2011 「勝立空円筒小器」『植田啓一先生喜寿記念献呈論文集』植田啓一先生喜寿記念献呈論文集作成委員会
- 工藤信一郎 2008 「長町駅東遺跡・西台廻遺跡の調査から」『第34回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』古代城柵官衙遺跡検討会
- 小林圭一 2008 「縄文土器」『縄文 縄文土器』小林圭一編
- 国土资源大考古学会編 2009 「古代社会と地域間交流 -土師器からみた関東と東北の様相-」六一書房
- 斎野裕彦 2008 「量、弥生時代」『宮城考古学』第10号宮城県考古学会
- 佐藤敏幸 2006 「東北における7世紀から8世紀前半の土器研究史」『宮城考古学』第8号宮城県考古学会
- 須藤 隆 1998 「東日本先史時代文化変化・社会変動の研究 -縄文から弥生へ-」鶴堂
- 芹沢長介 1979 「仙台・北海道鹿田郡七飯町杵下廻文時代遺跡出土資料」考古学資料集 別冊2 東北大文学部考古学研究会
- 仙台市教育委員会 1979 「要遺跡発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第14集
- 1983b 「3. 西台廻遺跡」『年報4.仙台市文化財調査報告書』第57集
- 1990 「南小泉遺跡」仙台市文化財調査報告書第140集
- 1992a 「仙台平野の遺跡群X I -平成3年度発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第162集
- 1992b 「土手内・土手内遺跡・土手内窪跡・土手内横穴B地点発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第165集
- 1993 「仙台平野の遺跡群X II -平成4年度発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第170集
- 1994 「南小泉遺跡 -第22次・23次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第192集
- 1996 「中在家南遺跡他」仙台市文化財調査報告書第213集
- 2000 「高田B遺跡」仙台市文化財調査報告書第242集
- 2005 「郡山遺跡発掘調査報告書 -継括編-」仙台市文化財調査報告書第283集
- 2007 「長町駅東遺跡第4次調査」仙台市文化財調査報告書第315集
- 2008a 「長町駅東遺跡第1・2次調査」仙台市文化財調査報告書第324集
- 2008b 「X 西台廻遺跡第6次発掘調査報告書」『南小泉遺跡か発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第326集
- 2009 「長町駅東遺跡第3次調査」仙台市文化財調査報告書第340集
- 2010a 「郡山遺跡第144次調査」仙台市文化財調査報告書第358集
- 2010b 「西台廻遺跡第1・2次調査」仙台市文化財調査報告書第359集
- 2011 「西台廻遺跡第3次調査」仙台市文化財調査報告書第388集
- 2010c 「向道跡第4～34次調査」仙台市文化財調査報告書第360集

- 仙台市史編さん委員会 1995 「仙台市史」特別編2 考古資料
- 1999 「仙台市史」通史編1 原始(改訂版)
- 2000 「仙台市史」通史編2 古代中世
- 田村 昭 1968 「仙台竹雀抄」宝文堂
- 東国土器研究会編 1989 「東国土器研究」第2号 特集 黒色土器・出現と背景
- 1990 「東国土器研究」第3号 特集 黒色土器・層相と埋葬
- 1995 「東国土器研究」第4号 特集 東国における律令制成立期までの土器相とその歴史的動向
- 東北歴史資料館 1984 「里浜貝塚Ⅲ・宮城県成瀬町宮ノ島里浜貝塚西端地点の調査・研究Ⅲ」東北歴史資料館資料集9
- 東北古代土器研究会 2005 「東北古代土器集成・古墳後期～奈良・集落編・<宮城>」研究報告2
- 2008 「東北古代土器集成・須恵器・窓跡編・<陸奥>」研究報告3
- 長島榮一 2009 「原道路」日本の遺跡35 同成社
- 中村 浩・望月幹夫編 2001 「土師器と須恵器」普及版季刊考古学 雄山閣
- 名取市教育委員会 1999 「原道路」名取市文化財調査報告書第41集
- 2000a 「原道路」名取市文化財調査報告書第43集
- 2000b 「原道路」名取市文化財調査報告書第44集
- 2001 「原道路」名取市文化財調査報告書第46集
- 2002 「原道路」名取市文化財調査報告書第49集
- 浜松市教育委員会 2012 「宮竹野原遺跡6次」(財)浜松市文化財振興財団
- 早川由紀夫・小山真人 1998 「日本海をはさんで10世紀に相次いで起った二つの大噴火の年月日・十和田湖と白神山」「火山」43
- 平間吉輔・齋藤義彦 2008 「郡山遺跡の遺構変遷」『第34回古代城柵官道跡検討会資料集』古代城柵官道跡検討会
- 福田健司・前川雅夫 2002 「落川・一の宮遺跡 Ⅱ(延喜式編)・落川・一の宮遺跡(日野3・2・7号線)調査会
- 福田健司 2010a 「南武藏の考古学 増補版」六一書房
- 2010b 「南武藏の考古学 増補版」六一書房
- 藤沼邦彦 2008 「工字文難考」『井沢長介先生追悼 考古・民族・歴史論叢』井沢長介先生追悼論文集刊行会編 六一書房
- 藤沼邦彦・間根達人 2008 「亀ヶ岡式土器(亀ヶ岡式系土器群)」『總覽圖文土器』小林達雄編
- 馬日順・阿部義平・1987 「8 東北地方の弥生土器」「弥生文化の研究4 弥生土器Ⅱ」金闇 恕・佐原 真編 雄山閣
- 佐原 真 1989 「いわゆる“比企型B”的再検討」『東京考古』7 東京考古談話会
- 宮城県教育委員会 1981 「(1) 清水遺跡」東北新幹線関係遺跡発掘調査報告書・V.「宮城県文化財調査報告書第77集」
- 1994 「高田B遺跡-第二次・三次調査」宮城県文化財調査報告書第164集
- 1999 「一里塚遺跡-第44・47次発掘調査報告書」宮城県文化財調査報告書第179集
- 2003 「嘉倉貝塚」宮城県文化財調査報告書第192集
- 村田晃一 2000 「飛鳥・奈良時代の陸奥北辺・移民の時代」『宮城考古学』第2号 宮城県考古学会
- 2002 「7世紀集落研究の視点(1)」『宮城考古学』第4号 宮城県考古学会
- 山内清男 1979 「日本先史土器の構文」先史考古学会
- JR東日本仙台駅 1987 「仙台駅百年史」

